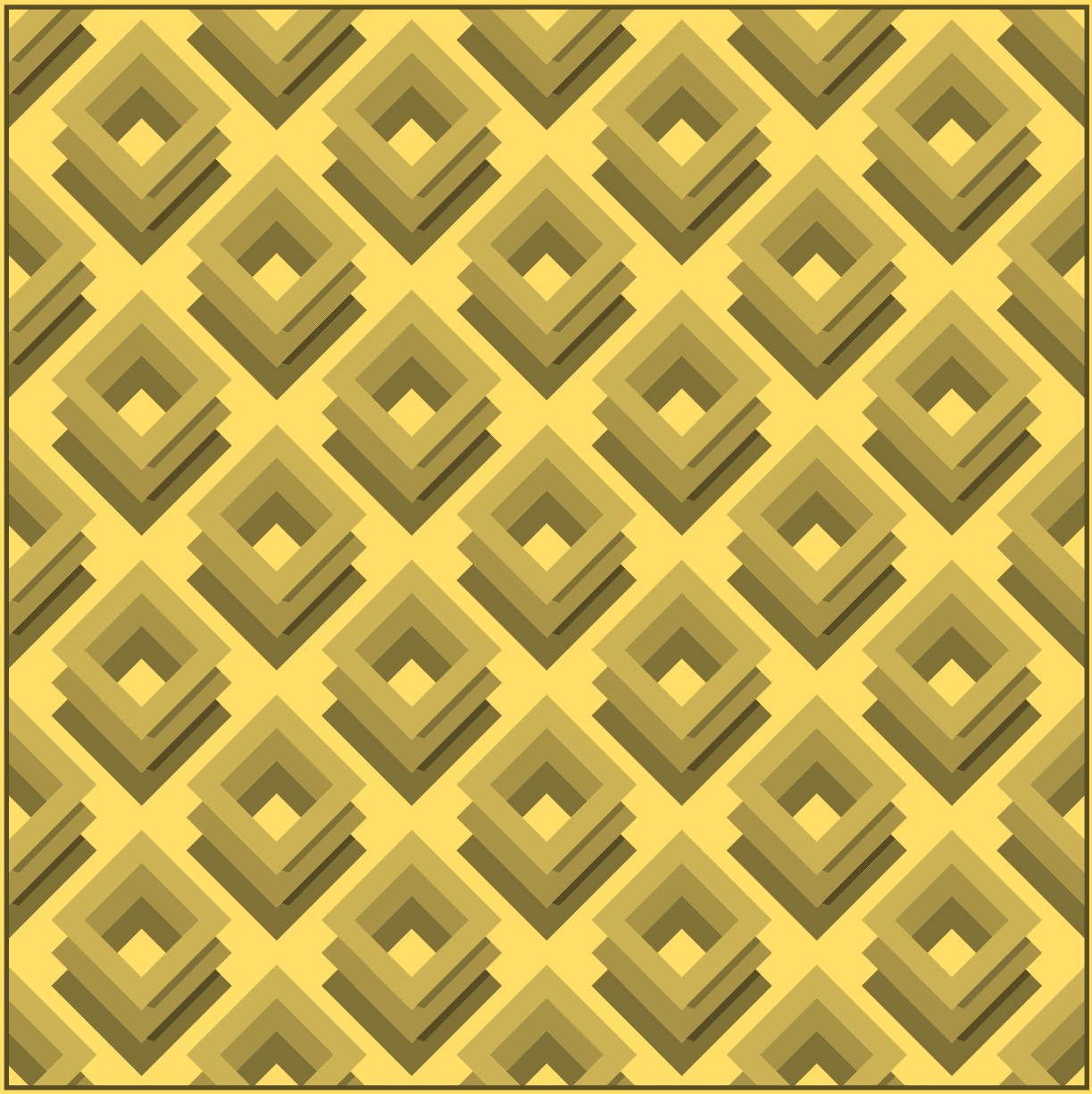
2015年度

シラバス

言語文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にある**インデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。**

目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	経： 経済学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科		済： 経済学科	律： 法律学科
英： 英語学科		営： 経営学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科		環： 国際環境経済学科	総： 総合政策学科
交： 交流文化学科	全：言語文化学科以外の全学部学科		

2. シラバスページの見方（右図参照）

①適用学生

13年度以降：2013年度以降入学者対象科目

12年度以前：2007年度～2012年度入学者対象科目

※2006年度以前の入学者は全て履修できません。

②科目名

入学年度に対応した科目名が記載されています。

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献が記載されています。

⑥評価方法について記載されています。

⑦原則としてページ上段は春学期科目、下段は秋学期科目です。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』で確認した上で、履修登録をしてください。

②定員

経済学部の科目は、学習環境および防災上などの観点から、「全学共通授業科目」と同様に定員を設けています。

各科目の定員は、『授業時間割表』を参照してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目（2013年度以降入学者用）

目　次

学科基盤科目

「学科基盤科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	基礎演習	各担当教員	木4	2	1	全	1
秋	言語文化論	二宮　哲	月4	2	1	全	1
春	哲学Ⅰ	松丸　壽雄	金4	2	1	全	2
	哲学Ⅱ	2016年度以降開講予定		2	4	全	

「外国語科目基盤科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	英語Ⅰ（IE）	各担当教員		1	1	全	4
春	英語Ⅰ（S）	各担当教員		1	1	全	5
春	英語Ⅰ（W）	各担当教員		1	1	全	6
秋	英語Ⅱ（IE）	各担当教員		1	1	全	4
秋	英語Ⅱ（S）	各担当教員		1	1	全	5
秋	英語Ⅱ（W）	各担当教員		1	1	全	6
春	英語Ⅲ（IE）	各担当教員		1	2	全	7
春	英語Ⅲ（W）	各担当教員		1	2	全	8
秋	英語Ⅳ（IE）	各担当教員		1	2	全	7
秋	英語Ⅳ（W）	各担当教員		1	2	全	8
春	スペイン語Ⅰ（総合1）	各担当教員		1	1	全	10
春	スペイン語Ⅰ（総合2）	各担当教員		1	1	全	11
春	スペイン語Ⅰ（入門）	各担当教員		1	1	全	12
春	スペイン語Ⅰ（会話）	各担当教員		1	1	全	13
秋	スペイン語Ⅱ（総合1）	各担当教員		1	1	全	10
秋	スペイン語Ⅱ（総合2）	各担当教員		1	1	全	11
秋	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	各担当教員		1	1	全	12
秋	スペイン語Ⅱ（会話）	各担当教員		1	1	全	13
春	スペイン語Ⅲ（総合）	各担当教員		1	2	全	14
春	スペイン語Ⅲ（講読）	各担当教員		1	2	全	15
春	スペイン語Ⅲ（会話1）	各担当教員		1	2	全	16
春	スペイン語Ⅲ（会話2）	各担当教員		1	2	全	17
秋	スペイン語Ⅳ（総合）	各担当教員		1	2	全	14
秋	スペイン語Ⅳ（講読）	各担当教員		1	2	全	15
秋	スペイン語Ⅳ（会話1）	各担当教員		1	2	全	16
秋	スペイン語Ⅳ（会話2）	各担当教員		1	2	全	17
春	中国語Ⅰ（総合1）	各担当教員		1	1	全	19
春	中国語Ⅰ（総合2）	各担当教員		1	1	全	20
春	中国語Ⅰ（入門）	各担当教員		1	1	全	21
春	中国語Ⅰ（会話）	各担当教員		1	1	全	22
秋	中国語Ⅱ（総合1）	各担当教員		1	1	全	19
秋	中国語Ⅱ（総合2）	各担当教員		1	1	全	20
秋	中国語Ⅱ（基礎表現）	各担当教員		1	1	全	21
秋	中国語Ⅱ（会話）	各担当教員		1	1	全	22
春	中国語Ⅲ（総合）	各担当教員		1	2	全	23
春	中国語Ⅲ（講読）	各担当教員		1	2	全	24
春	中国語Ⅲ（会話1）	各担当教員		1	2	全	25
春	中国語Ⅲ（会話2）	各担当教員		1	2	全	26
秋	中国語Ⅳ（総合）	各担当教員		1	2	全	23
秋	中国語Ⅳ（講読）	各担当教員		1	2	全	24
秋	中国語Ⅳ（会話1）	各担当教員		1	2	全	25
秋	中国語Ⅳ（会話2）	各担当教員		1	2	全	26

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	韓国語Ⅰ（文法・読解1）	各担当教員		1	1	全	28
春	韓国語Ⅰ（文法・読解2）	各担当教員		1	1	全	29
春	韓国語Ⅰ（コミュニケーション1）	各担当教員		1	1	全	30
春	韓国語Ⅰ（コミュニケーション2）	各担当教員		1	1	全	31
秋	韓国語Ⅱ（文法・読解1）	各担当教員		1	1	全	28
秋	韓国語Ⅱ（文法・読解2）	各担当教員		1	1	全	29
秋	韓国語Ⅱ（コミュニケーション1）	各担当教員		1	1	全	30
秋	韓国語Ⅱ（コミュニケーション2）	各担当教員		1	1	全	31
春	韓国語Ⅲ（文法・読解1）	各担当教員		1	2	全	32
春	韓国語Ⅲ（文法・読解2）	各担当教員		1	2	全	33
春	韓国語Ⅲ（コミュニケーション1）	各担当教員		1	2	全	34
春	韓国語Ⅲ（コミュニケーション2）	各担当教員		1	2	全	35
秋	韓国語Ⅳ（文法・読解1）	各担当教員		1	2	全	32
秋	韓国語Ⅳ（文法・読解2）	各担当教員		1	2	全	33
秋	韓国語Ⅳ（コミュニケーション1）	各担当教員		1	2	全	34
秋	韓国語Ⅳ（コミュニケーション2）	各担当教員		1	2	全	35

「外国語科目進展科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	英語上級	J. ハント	月3	2	3	全	37
春	英語上級	K. A. クラウン	火3	2	3	全	38
春	英語上級	K. A. クラウン	金1	2	3	全	39
春	英語上級	M. ハルデイン	火3	2	3	全	40
春	英語上級	M. ハルデイン	金1	2	3	全	41
春	英語上級	S. K. エリス	月3	2	3	全	42
春	英語上級	是澤　克哉	金1	2	3	全	43
春	英語上級	奥平　文子	月3	2	3	全	44
春	英語上級	J. ワインバーグ	火3	2	3	全	45
春	英語上級	関戸　冬彦	金1	2	3	全	46
春	英語上級	山本　英政	月3	2	3	全	47
秋	英語上級	J. ハント	月3	2	3	全	37
秋	英語上級	K. A. クラウン	火3	2	3	全	38
秋	英語上級	K. A. クラウン	金1	2	3	全	39
秋	英語上級	M. ハルデイン	火3	2	3	全	40
秋	英語上級	M. ハルデイン	金1	2	3	全	41
秋	英語上級	S. K. エリス	月3	2	3	全	42
秋	英語上級	是澤　克哉	金1	2	3	全	43
秋	英語上級	奥平　文子	月3	2	3	全	44
秋	英語上級	J. ワインバーグ	火3	2	3	全	45
秋	英語上級	関戸　冬彦	金1	2	3	全	46
秋	英語上級	山本　英政	月3	2	3	全	47
秋	英語上級(再履修)	奥平　文子	月4	2	3	全	48
春	英語演習Ⅰ	是澤　克哉	火3	2	2	全	49
春	英語演習Ⅰ	木村　正美	木3	2	2	全	50
春	英語演習Ⅰ	小島　章子	木3	2	2	全	51
春	英語演習Ⅰ	小瀬　百合子	水4	2	2	全	52
秋	英語演習Ⅰ	是澤　克哉	火3	2	2	全	49
秋	英語演習Ⅰ	木村　正美	木3	2	2	全	50
秋	英語演習Ⅰ	小島　章子	木3	2	2	全	51
秋	英語演習Ⅰ	小瀬　百合子	水4	2	2	全	52
春	英語演習Ⅱ	J. ハント	月5	2	3	全	53
春	英語演習Ⅱ	未定		2	3	全	54
春	英語演習Ⅱ	S. K. エリス	月4	2	3	全	55
春	英語演習Ⅱ	奥平　文子	月2	2	3	全	56
春	英語演習Ⅱ	齋藤　雪絵	金3	2	3	全	57
春	英語演習Ⅱ	関戸　冬彦	木3	2	3	全	58
秋	英語演習Ⅱ	J. ハント	月5	2	3	全	53
秋	英語演習Ⅱ	未定		2	3	全	54
秋	英語演習Ⅱ	S. K. エリス	月4	2	3	全	55
秋	英語演習Ⅱ	奥平　文子	月2	2	3	全	56
秋	英語演習Ⅱ	齋藤　雪絵	金3	2	3	全	57
秋	英語演習Ⅱ	関戸　冬彦	木3	2	3	全	58

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	翻訳通訳論・英語	中島　直美	火1	2	3		59
秋	翻訳通訳実習・英語	中島　直美	火1	2	3		59
春	スペイン語上級	各担当教員		2	3	全	60
秋	スペイン語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	60
春	スペイン語演習	J. マルティネス	火1	2	3	全※1	61
春	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	62
秋	スペイン語演習	J. マルティネス	火1	2	3	全※1	61
秋	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	62
秋	スペイン語演習	M. サンチェス	水3	2	3	全※1	63
秋	スペイン語演習	落合　佐枝	月1	2	3	全※1	64
秋	スペイン語演習	二宮　哲	金3	2	3	全※1	65
春	翻訳通訳論・スペイン語	柴田　バネッサ	火3	2	3		66
秋	翻訳通訳実習・スペイン語	柴田　バネッサ	火3	2	3		66
春	中国語上級	各担当教員		2	3	全	67
秋	中国語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	67
春	中国語演習	武信　彰	月2	2	3	全※1	68
春	中国語演習	吉田　桂子	金3	2	3	全※1	69
秋	中国語演習	武信　彰	月2	2	3	全※1	68
秋	中国語演習	吉田　桂子	金3	2	3	全※1	69
秋	中国語演習	加納　希美	火2	2	3	全※1	70
秋	中国語演習	永田　小絵	水2	2	3	全※1	71
秋	中国語演習	劉　岸麗	木3	2	3	全※1	72
春	翻訳通訳論・中国語	永田　小絵	火3	2	3		73
秋	翻訳通訳実習・中国語	永田　小絵	火3	2	3		73
春	韓国語上級	各担当教員		2	3	全	74
秋	韓国語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	74
春	韓国語演習	各担当教員		2	3	全※1	36
秋	韓国語演習	各担当教員		2	3	全※1	36
春	翻訳通訳論・韓国語	柳　蓮淑	月3	2	3		75
秋	翻訳通訳実習・韓国語	柳　蓮淑	月3	2	3		75

※1:交流文化学科は除く

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	スペイン研究概論	二宮　哲	月5	2	1	全	79
秋	ラテンアメリカ研究概論	佐藤　勘治	月5	2	1	全	79
春	スペインの言語と歴史・文化	二宮　哲	月2	2	2		80
秋	スペイン語研究	二宮　哲	月2	2	2		80
秋	スペイン語圏の文学	中井　博康	月3	2	2		81
春	ラテンアメリカの歴史と文化	佐藤　勘治	木4	2	2		82
春	ラテンアメリカの政治と社会	笛田　千容	月2	2	2		83
春	ラテンアメリカの経済と社会	今井　圭子	月3	2	2		84
秋	ラテンアメリカ近現代史	佐藤　勘治	木4	2	2		82
秋	ラテンアメリカの国際関係	笛田　千容	月2	2	2		83
春	ブラジル研究	E. ウラノ	火2	2	2	全	85
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（ラテンアメリカ経済発展論）	今井　圭子	月3	2	2		84
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a）	P. ラゴ	月3	2	2		86
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b）	P. ラゴ	月3	2	2		86
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	倉田　量介	火5	2	2	全	87
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	兒島　峰	火5	2	2	全	87
	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（カリブ海域研究）	2015年度不開講		2	2	全	
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(専門講読)	佐藤　勘治	木3	2	2		85
	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(英西語学演習)	2015年度不開講		2	2		

「中国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	中国研究概論	松岡　格	火4	2	1		88
秋	中国言語文化論	武信　彰	月4	2	2		89
秋	中国社会論	松岡　格	火4	2	2		88
秋	中国地域論	松岡　格	木3	2	2		90
春	現代中国論Ⅰ	松岡　格	金4	2	2	法	91
秋	現代中国論Ⅱ	松岡　格	金4	2	2	法	91
春	中国史Ⅰ	張　士陽	木4	2	2	全	92
秋	中国史Ⅱ	張　士陽	木4	2	2	全	92
春	中国特殊研究（日中比較文化研究a）	大澤　昇	水3	2	2		93
秋	中国特殊研究（日中比較文化研究b）	大澤　昇	水3	2	2		93
春	中国特殊研究（中国文学研究a）	近藤　光雄	水1	2	2		94
秋	中国特殊研究（中国文学研究b）	近藤　光雄	水1	2	2		94
春	中国特殊研究（日中交流史）	武信　彰	月4	2	2		89
春	中国特殊研究（専門講読）	松岡　格	木3	2	2		90

「韓国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	韓国研究概論	平田　由紀江	水2	2	1	全	96
春	韓国社会論Ⅰ	平田　由紀江	火3	2	2	全	97
秋	韓国社会論Ⅱ	平田　由紀江	水2	2	2	全	97
秋	韓国経済論	全　載旭	火2	2	2	全	96
春	韓国史	佐藤　厚	金3	2	2	全	98
秋	日韓比較文化論	金　熙淑	火4	2	2	全	98
	日韓比較教育論	2015年度不開講		2	2	全	
秋	日韓交流史	金　熙淑	月3	2	2	全	99
秋	韓国研究情報収集法	金　熙淑	月4	2	2	全	100
春	韓国特殊研究（韓国政治論）	呉　吉煥	金1	2	2	全	100
春	韓国特殊研究（韓国前近代史）	佐藤　厚	木1	2	2	全	101
秋	韓国特殊研究（韓国の宗教）	佐藤　厚	金3	2	2	全	101
秋	韓国特殊研究（韓国の言語文化）	金　泰植	月3	2	2	全	102
春	韓国特殊研究（韓国文学史）	沈　元燮	水2	2	2	全	102
春	韓国特殊研究（韓国小説の世界）	沈　元燮	火4	2	2		103
秋	韓国特殊研究（韓国詩の世界）	沈　元燮	火4	2	2		103
秋	韓国特殊研究（専門講読）	金　泰植	火3	2	3	全	104

「日本研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	日本研究概論Ⅰ	宇津木　言行	火3	2	1	全	105
秋	日本研究概論Ⅱ	浅山　佳郎	木1	2	1	全	105
春	日本文学論・古代Ⅰ	福沢　健	月2	2	1	全	106
秋	日本文学論・古代Ⅱ	福沢　健	月2	2	1	全	106
春	日本文学論・中世Ⅰ	宇津木　言行	火4	2	1	全	107
秋	日本文学論・中世Ⅱ	林　英一	火1	2	1	全	107
春	日本文学論・近現代Ⅰ	佐藤　毅	木1	2	1	全	108
秋	日本文学論・近現代Ⅱ	佐藤　毅	木1	2	1	全	108
春	民俗学	林　英一	木1	2	1	全	109
春	日本史Ⅰ	守田　逸人	火3	2	1	全	110
秋	日本史Ⅱ	守田　逸人	火3	2	1	全	110
春	日本思想史Ⅰ	矢森　小映子	木2	2	2	全	111
秋	日本思想史Ⅱ	小田　真裕	木2	2	2	全	111
春	日本特殊研究（日本文学作品研究a）	宇津木　言行	木3	2	2	全	112
秋	日本特殊研究（日本文学作品研究b）	林　英一	火2	2	2	全	112
秋	日本特殊研究（日本文学作品研究c）	宇津木　言行	火3	2	2	全	113
春	日本特殊研究（日本文学作品研究d）	宇津木　言行	木4	2	2	全	113
秋	日本特殊研究（日本文学作品研究e）	宇津木　言行	木3	2	2	全	114
春	日本特殊研究（日本文化研究a）	林　英一	火2	2	2	全	115
秋	日本特殊研究（日本文化研究b）	宇津木　言行	木4	2	2	全	115
秋	日本特殊研究（日本文化研究c）	林　英一	木1	2	2	全	116
春	日本特殊研究（日本文化研究d）	林　英一	火1	2	2	全	116
春	日本特殊研究（日本史研究a）	丸浜　昭	水1	2	2	全	117
秋	日本特殊研究（日本史研究b）	丸浜　昭	水1	2	2	全	117

「言語教育研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	言語学概論	安間　一雄	火3	2	1	全	120
秋	英語学概論	安間　一雄	火3	2	1	全	121
春	日本語教育概論	石塚　京子	月3	2	1	全	122
秋	応用言語学Ⅰ	臼井　芳子	水1	2	2	全	123
秋	応用言語学Ⅱ	臼井　芳子	木2	2	2	全	124
春	英語圏の文学Ⅰ	大熊　昭信	金2	2	1	全	125
秋	英語圏の文学Ⅱ	大熊　昭信	金2	2	1	全	125
春	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ	原　成吉	火1	2	2	全	127
秋	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ	児嶋　一男	月3	2	2	全	127
秋	英語圏の文学・文化・批評Ⅰ	上野　直子	水2	2	2	全	126
秋	国際語としての英語	臼井　芳子	火4	2	2		128
春	日本語教授法Ⅰa	野原　ゆかり	木2	2	3		129
秋	日本語教授法Ⅰb	野原　ゆかり	木2	2	3		129
	日本語教授法Ⅱ	2016年度以降開講予定		2	4		
春	日本語音声学	磯村　一弘	水5	2	2		128
春	日本語文法論Ⅰ	武田　明子	火2	2	1	全※2	133
秋	日本語文法論Ⅱ	武田　明子	火2	2	1	全※2	133
秋	日本語コミュニケーション論	宇津木　言行	火4	2	1	全	122
春	英語教育特殊研究（専門講読a）	関戸　冬彦	木1	2	2		134
秋	英語教育特殊研究（専門講読b）	関戸　冬彦	木1	2	2		134
	英語教育特殊研究（授業分析と実践a）	2015年度不開講		2	3		
秋	英語教育特殊研究（授業分析と実践b）	臼井　芳子	火2	2	3		135
秋	英語教育特殊研究（早期外国語教育）	居村　啓子	月4	2	3		136
秋	英語教育特殊研究　（英西語学演習）	2015年度不開講		2	2		
春/秋	日本語教育特殊研究（教育実習）	2016年度以降開講予定		2	4		
春	日本語教育特殊研究（教育教材論）	小山　慎治	木4	2	2		137
春	日本語教育特殊研究（意味論）	浅山　佳郎	月1	2	2	全	138
秋	日本語教育特殊研究（談話論）	浅山　佳郎	月1	2	2	全	138
	日本語教育特殊研究（対照言語学・誤用分析）	2015年度不開講		2	2		
	日本語教育特殊研究（専門講読）	2015年度不開講		2	2		

※2:14年度以降入学者は除く

「グローバル社会研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	異文化間コミュニケーションⅠ	2015年度不開講		2	1		
秋	異文化間コミュニケーションⅡ	山本　英政	月4	2	1	全	139
春	多文化共生研究Ⅰ	佐藤　唯行	火3	2	2		140
秋	多文化共生研究Ⅱ	佐藤　唯行	火3	2	2		140
	比較文化論	2015年度不開講		2	2		
春	大衆文化論	木本　玲一	月5	2	2	全	141
秋	ローカル・メディア論	岡村　圭子	火2	2	2	全	141
春	英語圏の文化	山本　英政	木2	2	2	全	142
秋	英語圏事情	山本　英政	木2	2	2	全	142
春	国際関係論	中島　晶子	月2	2	1	全	143
	国際協力論	2015年度不開講		2	1		
秋	南北問題	金　雄熙	月3	2	1		143
秋	NGO論	清水　俊弘	水2	2	1	全	144
春	国際政治論Ⅰ	岡垣　知子	水1	2	2	全	145
秋	国際政治論Ⅱ	岡垣　知子	水1	2	2	全	145
春	国際経済論Ⅰ	益山　光央	火2	2	2	全	146
秋	国際経済論Ⅱ	益山　光央	火2	2	2	全	146
春	日本政治外交史Ⅰ	福永　文夫	金3	2	2	全	147
秋	日本政治外交史Ⅱ	福永　文夫	金3	2	2	全	147
春	国際機構と法Ⅰ	鈴木　淳一	月1	2	3	全	148
秋	国際機構と法Ⅱ	鈴木　淳一	月3	2	3	全	148
春	地域研究論	金　雄熙	月3	2	2		144

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
秋	グローバル社会特殊研究（滞日外国人研究）	田房　由起子	土2	2	2	法	149
春	グローバル社会特殊研究（在外日本人研究）	山本　英政	月4	2	2	全	149
春	グローバル社会特殊研究（アメリカ合衆国のラティーノ社会）	佐藤　勘治	水2	2	2		150
春	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合a）	高安　健一	金1	2	2	全	151
秋	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合b）	高安　健一	金1	2	2	全	151
春	グローバル社会特殊研究（東南アジアの開発と社会）	江藤　双恵	火1	2	2	全	152
春	グローバル社会特殊研究（地球環境と法a）	一之瀬　高博	木2	2	3	全	153
秋	グローバル社会特殊研究（地球環境と法b）	一之瀬　高博	木2	2	3	全	153
秋	グローバル社会特殊研究（ポストコロニアル研究）	平田　由紀江	火3	2	2	全	152

「人間発達科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	教育学概論Ⅰ（教職論）	桑原　憲一	月3	2	1	全	154
秋	教育学概論Ⅰ（教職論）	桑原　憲一	月4	2	1	全	154
春	教育学概論Ⅰ（教職論）	三浦　智子	金5	2	1	全	154
秋	教育学概論Ⅱ（教育の原理）	川村　肇	木3	2	1	全	155
春	教育学概論Ⅱ（教育の原理）	三浦　智子	金4	2	1	全	155
秋	教育学概論Ⅱ（教育の原理）	未定	金4	2	1	全	155
秋	教育学概論Ⅱ（教育の原理）	未定	金5	2	1	全	155
春	心理学概論Ⅰ（こころの世界）	田口　雅徳	木2	2	1	全	156
秋	心理学概論Ⅱ（心理検査法と自己理解）	田口　雅徳	木4	2	2	全	156
春	スポーツ・レクリエーション概論	和田　智	金4	2	1	全	157
春	スポーツ科学概論	依田　珠江	水1	2	1	全	158
	教育の歴史Ⅰ	2015年度不開講		2	2	全	
	教育の歴史Ⅱ	2015年度不開講		2	2	全	
春	比較教育制度論	桑原　憲一	月4	2	2	全	159
秋	比較教育制度論	桑原　憲一	火5	2	2	全	159
春	比較教育制度論	桑原　憲一	火3	2	2	全	159
春	教育課程論	桑原　憲一	火4	2	2	全	160
春	教育課程論	安井　一郎	水2	2	2	全	160
秋	教育課程論	桑原　憲一	火4	2	2	全	160
春	教育心理学	白砂　佐和子	火4	2	1	全	161
秋	教育心理学	田口　雅徳	金1	2	1	全	161
春	教育心理学	田口　雅徳	金1	2	1	全	161
秋	教育心理学	白砂　佐和子	火4	2	1	全	161
春	カウンセリング論	瀧本　孝雄	木3	2	2	全	162
秋	パーソナリティ理論	瀧本　孝雄	木3	2	2	全	162
春	学校カウンセリング	瀧本　孝雄	木2	2	2	全	163
秋	学校カウンセリング	瀧本　孝雄	木2	2	2	全	163
秋	学校カウンセリング	鈴木　乙史	木4	2	2	全	163
秋	人間発達科学特殊研究（子ども論a）	小島　優生	金4	2	2	全	158
	人間発達科学特殊研究（子ども論b）	2015年度不開講		2	2	全	
秋	人間発達科学特殊研究（教師と語る）	川村　肇	金3	2	1	全	164
春	人間発達科学特殊研究（認知科学）	田口　雅徳	水2	2	2	全	165
秋	人間発達科学特殊研究（認知科学）	田口　雅徳	木2	2	2	全	165
春	人間発達科学特殊研究（社会心理学a）	樋口　匡貴	金2	2	2	外	166
秋	人間発達科学特殊研究（社会心理学b）	樋口　匡貴	金2	2	2	外	166
春	人間発達科学特殊研究（スポーツ科学実習）	依田　珠江	木2	2	2	全	167
秋	人間発達科学特殊研究（スポーツ指導実習）	松原　裕	木3	2	2	全	167
春	人間発達科学特殊研究（リーダーシップ論）	和田　智	金2	2	2	全	164
春	人間発達科学特殊研究（スポーツマネージメント）	川北　準人	月3	2	2	全	168
秋	人間発達科学特殊研究（ボランティア論）	山口　友佑	金2	2	2	全	168

「総合科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	社会学Ⅰ	木本　玲一	月4	2	1	全	169
秋	社会学Ⅱ	岡村　圭子	土1	2	1	全	169
春	文化人類学Ⅰ	松岡　格	金2	2	1	全	170
秋	文化人類学Ⅱ	松岡　格	金2	2	1	全	170
春	倫理学Ⅰ	川口　茂雄	金4	2	1	全	171
秋	倫理学Ⅱ	川口　茂雄	金4	2	1	全	171
春	文化史入門	古川　堅治	木2	2	1	全	172
春	東洋思想史Ⅰ	松丸　壽雄	水2	2	1	全	173
秋	東洋思想史Ⅱ	松丸　壽雄	水2	2	1	全	173
春	文明史研究Ⅰ	櫻井　悠美	月2	2	1	全	174
秋	文明史研究Ⅱ	櫻井　悠美	月2	2	1	全	174
春	比較宗教史	松丸　壽雄	木3	2	1	全	175
春	科学史Ⅰ	野澤　聡	金4	2	1	全	176
秋	科学史Ⅱ	野澤　聡	金4	2	1	全	176
春	科学技術基礎論Ⅰ	野澤　聡	木2	2	1	全	177
秋	科学技術基礎論Ⅱ	野澤　聡	木2	2	1	全	177
春	数学Ⅰ	東　孝博	月2	2	1	全	178
秋	数学Ⅱ	東　孝博	月2	2	1	全	178
春	物理学Ⅰ	東　孝博	月4	2	1	全	179
秋	物理学Ⅱ	東　孝博	月4	2	1	全	179
春	天文学Ⅰ	内田　俊郎	木4	2	1	全	180
秋	天文学Ⅱ	内田　俊郎	木4	2	1	全	180
春	生物学Ⅰ	飯泉　恭一	月3	2	1	全	181
秋	生物学Ⅱ	飯泉　恭一	月3	2	1	全	181
春	生理学Ⅰ	依田　珠江	木4	2	1	全	182
秋	生理学Ⅱ	依田　珠江	木4	2	1	全	182
春	地球環境論Ⅰ	北﨑　幸之助	金4	2	1	全	183
秋	地球環境論Ⅱ	北﨑　幸之助	金4	2	1	全	183
春	コンピュータと言語	呉　浩東	月2	2	1	全	184
秋	情報科学各論Ⅰ	松山　恵美子	水2	2	1	全	185
春	情報科学各論Ⅰ	金子　憲一	木3	2	1	全	185
秋	情報科学各論Ⅰ	田中　雅英	火4	2	1	全	185
春	情報科学各論Ⅰ	松山　恵美子	水2	2	1	全	185
秋	情報科学各論Ⅱ	金子　憲一	月3	2	1	全	186
秋	情報科学各論Ⅱ	金子　憲一	木4	2	1	全	186
春	情報科学各論Ⅱ	金子　憲一	木4	2	1	全	186
秋	情報科学各論Ⅱ	田中　雅英	火3	2	1	全	186
春	データ構造とアルゴリズム論	黄　海湘	水2	2	2	全	187
秋	データベース論	黄　海湘	水4	2	2		187
春	社会調査法	田端　章明	火5	2	2	全	188
秋	統計と調査法	安間　一雄	水2	2	2	全	188

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
秋	総合科学特殊研究（世界の宗教と文化－－神教と多神教）	古川　堅治	木2	2	2		189
秋	総合科学特殊研究（思想と文化）	松丸　壽雄	金4	2	2		190
春	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化a）	櫻井　悠美	水2	2	2		191
秋	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化b）	櫻井　悠美	水2	2	2		191
春	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術a）	師岡　カリーマ　エルサムニー	月2	2	2	全	192
秋	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術b）	師岡　カリーマ　エルサムニー	月2	2	2	全	192
	総合科学特殊研究（科学技術と社会a）	2015年度不開講		2	1	全	
秋	総合科学特殊研究（科学技術と社会b）	野澤　聡	水1	2	1	全	193
春	総合科学特殊研究（宇宙論a）	東　孝博	火1	2	1	全	194
秋	総合科学特殊研究（宇宙論b）	東　孝博	火1	2	1	全	194
春	総合科学特殊研究（自然観察a）	飯泉　恭一	月2	2	2	全	195
秋	総合科学特殊研究（自然観察b）	飯泉　恭一	月2	2	2	全	195
	総合科学特殊研究（観察と実験生物学a）	2015年度不開講		2	2	全	
	総合科学特殊研究（観察と実験生物学b）	2015年度不開講		2	2	全	
秋	総合科学特殊研究（生理学実習）	依田　珠江	水3	2	2	全	196
春	総合科学特殊研究（サイエンスライティングa）	東　孝博	木4	2	2	全	197
秋	総合科学特殊研究（サイエンスライティングb）	東　孝博	木4	2	2	全	197
春	総合科学特殊研究（情報検索演習）	黄　海湘	水4	2	2	全	196
春	総合科学特殊研究（自然言語処理a）	呉　浩東	木1	2	2		198
秋	総合科学特殊研究（自然言語処理b）	呉　浩東	木1	2	2		198
春	総合科学特殊研究（プログラミング論a）	呉　浩東	月4	2	2		199
秋	総合科学特殊研究（プログラミング論b）	呉　浩東	月5	2	2		199
春	総合科学特殊研究（マルチメディア論）	田中　雅英	火4	2	2	全	200
秋	総合科学特殊研究（コンピュータ構造論）	呉　浩東	月2	2	2	全	200
春	総合科学特殊研究（科学の方法と実験a）	内田　正夫	木3	2	2	全	201
秋	総合科学特殊研究（科学の方法と実験b）	内田　正夫	木3	2	2	全	201

「卒業研究」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春/秋	卒業研究	2016年度以降開講予定		2	4	全	－

全学総合科目
「スポーツ・レクリエーション部門」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	各担当教員		1	1	全	204

「日本語科目」（外国人学生・帰国学生専用）

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
秋	日本語1	各担当教員		1	1	全	205
春/秋	日本語2	各担当教員		1	1	全	206
春/秋	日本語3	各担当教員		1	1	全	207
春/秋	専門日本語	各担当教員		1	1	全	208

国際教養学部言語文化学科授業科目（2012年度以前入学者用）

目　次

必須教養科目群

「学科基礎」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	基礎演習a	2015年度不開講 ※		2	1	全	
	基礎演習b	2015年度不開講 ※		2	1	全	
秋	言語文化論	二宮　哲	月4	2	1	全	1
春	哲学Ⅰ	松丸　壽雄	金4	2	1	全	2
	現代世界論	2015年度不開講 ※		2	1	全	
春	哲学Ⅱ	松丸　壽雄	金3	2	4	全	3
秋	哲学Ⅱ	松丸　壽雄	金3	2	4	全	3

「外国語」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	英語Ⅰ（IE）	2015年度不開講 ※		1	1	全	
春	英語Ⅰ（S）	2015年度不開講 ※		1	1	全	
春	英語Ⅰ（W）	2015年度不開講 ※		1	1	全	
秋	英語Ⅱ（IE）	2015年度不開講 ※		1	1	全	
秋	英語Ⅱ（S）	2015年度不開講 ※		1	1	全	
秋	英語Ⅱ（W）	2015年度不開講 ※		1	1	全	
春	英語Ⅲ（IE）	2015年度不開講 ※		1	2	全	
春	英語Ⅲ（S）	2015年度不開講 ※		1	2	全	
春	英語Ⅲ（W）	2015年度不開講 ※		1	2	全	
秋	英語Ⅳ（IE）	2015年度不開講 ※		1	2	全	
秋	英語Ⅳ（S）	2015年度不開講 ※		1	2	全	
秋	英語Ⅳ（W）	2015年度不開講 ※		1	2	全	
春	英語Ⅴ（AE）	2015年度不開講 ※		1	3	全	
秋	英語Ⅵ（AE）	2015年度不開講 ※		1	3	全	
春	英語Ⅴ（AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	9
秋	英語Ⅴ（AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	9
春	英語Ⅵ（AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	9
秋	英語Ⅵ（AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	9
春	スペイン語Ⅰ（総合1）	各担当教員		1	1	全	10
春	スペイン語Ⅰ（総合2）	各担当教員		1	1	全	11
春	スペイン語Ⅰ（入門）	各担当教員		1	1	全	12
春	スペイン語Ⅰ（会話）	各担当教員		1	1	全	13
秋	スペイン語Ⅱ（総合1）	各担当教員		1	1	全	10
秋	スペイン語Ⅱ（総合2）	各担当教員		1	1	全	11
秋	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	各担当教員		1	1	全	12
秋	スペイン語Ⅱ（会話）	各担当教員		1	1	全	13
春	スペイン語Ⅲ（総合）	各担当教員		1	2	全	14
春	スペイン語Ⅲ（講読）	各担当教員		1	2	全	15
春	スペイン語Ⅲ（会話1）	各担当教員		1	2	全	16
春	スペイン語Ⅲ（会話2）	各担当教員		1	2	全	17
秋	スペイン語Ⅳ（総合）	各担当教員		1	2	全	14
秋	スペイン語Ⅳ（講読）	各担当教員		1	2	全	15
秋	スペイン語Ⅳ（会話1）	各担当教員		1	2	全	16
秋	スペイン語Ⅳ（会話2）	各担当教員		1	2	全	17
	スペイン語Ⅴ（応用1）	2015年度不開講 ※		1	3	全	
	スペイン語Ⅴ（応用2）	2015年度不開講 ※		1	3	全	
	スペイン語Ⅵ（応用1）	2015年度不開講 ※		1	3	全	
	スペイン語Ⅵ（応用2）	2015年度不開講 ※		1	3	全	
春/秋	スペイン語Ⅴ（応用1）再履修	各担当教員		1	3	全	18
春/秋	スペイン語Ⅴ（応用2）再履修	各担当教員		1	3	全	18
春/秋	スペイン語Ⅵ（応用1）再履修	各担当教員		1	3	全	18
春/秋	スペイン語Ⅵ（応用2）再履修	各担当教員		1	3	全	18

※必修科目で2015年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください(整理券必要)。

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	19
春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	20
春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	21
春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	22
秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	19
秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	20
秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	21
秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	22
春	中国語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	23
春	中国語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	24
春	中国語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	25
春	中国語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	26
秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	23
秋	中国語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	24
秋	中国語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	25
秋	中国語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	26
	中国語Ⅴ(応用1)	2015年度不開講 ※		1	3	全	
	中国語Ⅴ(応用2)	2015年度不開講 ※		1	3	全	
	中国語Ⅵ(応用1)	2015年度不開講 ※		1	3	全	
	中国語Ⅵ(応用2)	2015年度不開講 ※		1	3	全	
春/秋	中国語Ⅴ(応用1)再履修	各担当教員		1	3	全	27
春/秋	中国語Ⅴ(応用2)再履修	各担当教員		1	3	全	27
春/秋	中国語Ⅵ(応用1)再履修	各担当教員		1	3	全	27
春/秋	中国語Ⅵ(応用2)再履修	各担当教員		1	3	全	27
春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	28
春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	29
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	30
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	31
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	28
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	29
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	30
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	31
春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	32
春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	33
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	34
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	35
秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	32
秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	33
秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	34
秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	35
	韓国語Ⅴ(応用1)	2015年度不開講 ※		1	3	全	
	韓国語Ⅴ(応用2)	2015年度不開講 ※		1	3	全	
	韓国語Ⅵ(応用1)	2015年度不開講 ※		1	3	全	
	韓国語Ⅵ(応用2)	2015年度不開講 ※		1	3	全	
春	韓国語Ⅴ(応用1)再履修(韓国語演習Ⅰ)	各担当教員		1	3	全	36
秋	韓国語Ⅴ(応用1)再履修(韓国語演習Ⅱ)	各担当教員		1	3	全	36
春	韓国語Ⅴ(応用2)再履修(韓国語演習Ⅰ)	各担当教員		1	3	全	36
秋	韓国語Ⅴ(応用2)再履修(韓国語演習Ⅱ)	各担当教員		1	3	全	36
春	韓国語Ⅵ(応用1)再履修(韓国語演習Ⅰ)	各担当教員		1	3	全	36
秋	韓国語Ⅵ(応用1)再履修(韓国語演習Ⅱ)	各担当教員		1	3	全	36
春	韓国語Ⅵ(応用2)再履修(韓国語演習Ⅰ)	各担当教員		1	3	全	36
秋	韓国語Ⅵ(応用2)再履修(韓国語演習Ⅱ)	各担当教員		1	3	全	36

※必修科目で2015年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください(整理券必要)。

選択教養科目群

「外国語演習科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	英語演習I	J. ハント	月4	2	3	全	76
春	英語演習I	中込　知子	水3	2	3	全	77
春	英語演習I	中島　直美	火2	2	3	全	78
秋	英語演習Ⅱ	J. ハント	月4	2	3	全	76
秋	英語演習Ⅱ	中込　知子	水3	2	3	全	77
秋	英語演習Ⅱ	中島　直美	火2	2	3	全	78
春	スペイン語演習Ⅰ	J. マルティネス	火1	2	3	全※1	61
春	スペイン語演習Ⅰ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	62
秋	スペイン語演習Ⅱ	J. マルティネス	火1	2	3	全※1	61
秋	スペイン語演習Ⅱ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	62
秋	スペイン語演習Ⅱ	M. サンチェス	水3	2	3	全※1	63
秋	スペイン語演習Ⅱ	落合　佐枝	月1	2	3	全※1	64
秋	スペイン語演習Ⅱ	二宮　哲	金3	2	3	全※1	65
春	中国語演習Ⅰ	武信　彰	月2	2	3	全※1	68
春	中国語演習Ⅰ	吉田　桂子	金3	2	3	全※1	69
秋	中国語演習Ⅱ	武信　彰	月2	2	3	全※1	68
秋	中国語演習Ⅱ	吉田　桂子	金3	2	3	全※1	69
秋	中国語演習Ⅱ	加納　希美	火2	2	3	全※1	70
秋	中国語演習Ⅱ	永田　小絵	水2	2	3	全※1	71
秋	中国語演習Ⅱ	劉　岸麗	木3	2	3	全※1	72
春	韓国語演習Ⅰ	各担当教員		2	3	全※1	36
秋	韓国語演習Ⅱ	各担当教員		2	3	全※1	36

※1：交流文化学科は除く

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン）	二宮　哲	月5	2	1	全	79
秋	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）	佐藤　勘治	月5	2	1	全	79
春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ（ラテンアメリカの歴史と社会）	佐藤　勘治	木4	2	2		82
春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ（ラテンアメリカの政治と社会）	笛田　千容	月2	2	2		83
春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ（ラテンアメリカの経済と社会）	今井　圭子	月3	2	2		84
春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ（スペイン語圏の言語文化）	二宮　哲	月2	2	2		80
秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ（ラテンアメリカ近現代史）	佐藤　勘治	木4	2	2		82
秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ（ラテンアメリカ国際関係論）	笛田　千容	月2	2	2		83
秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ（ラテンアメリカ経済発展論）	今井　圭子	月3	2	2		84
秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ（スペイン語学）	二宮　哲	月2	2	2		80
春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ（ブラジル研究）	E. ウラノ	火2	2	2	全	85
秋	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	2015年度不開講		2	2	全	
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a）	P. ラゴ	月3	2	2		86
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b）	P. ラゴ	月3	2	2		86
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	倉田　量介	火5	2	2	全	87
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ（スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	兒島　峰	火5	2	2	全	87

「中国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	中国研究入門	松岡　格	火4	2	1		88
秋	中国研究Ⅰ（中国社会論）	松岡　格	火4	2	2		88
春	中国研究Ⅱ（中国の思想・文学）	永田　小絵	水1	2	2		95
春	中国研究Ⅲ（中国史a）	張　士陽	木4	2	2	全	92
秋	中国研究Ⅳ（中国史b）	張　士陽	木4	2	2	全	92
春	中国研究各論Ⅰ（現代中国論a）	松岡　格	金4	2	2	法	91
秋	中国研究各論Ⅱ（現代中国論b）	松岡　格	金4	2	2	法	91
春	中国研究各論Ⅲ（日中交流史）	武信　彰	月4	2	2		89
秋	中国研究各論Ⅳ（中国の芸能・芸術）	永田　小絵	水1	2	2		95
秋	中国研究各論Ⅴ（言語文化論）	武信　彰	月4	2	2		89
春	中国特殊研究Ⅰ（日中比較文化論a）	大澤　昇	水3	2	2		93
秋	中国特殊研究Ⅱ（日中比較文化論b）	大澤　昇	水3	2	2		93
春	中国特殊研究Ⅲ（中国文学研究古典）	近藤　光雄	水1	2	2		94
秋	中国特殊研究Ⅳ（中国文学研究現代）	近藤　光雄	水1	2	2		94

※必修科目で2015年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください(整理券必要)。

「韓国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	韓国研究入門	平田　由紀江	水2	2	1	全	96
春	韓国研究Ⅰ（韓国史）	佐藤　厚	金3	2	2	全	98
秋	韓国研究Ⅱ（韓国社会論）	平田　由紀江	水2	2	2	全	97
秋	韓国研究Ⅲ（韓国の言語文化）	金　泰植	月3	2	2	全	102
春	韓国研究各論Ⅰ（韓国社会各論a）	平田　由紀江	火3	2	2	全	97
秋	韓国研究各論Ⅱ（韓国社会各論b）	全　載旭	火2	2	2	全	96
秋	韓国研究各論Ⅲ（日韓交流史）	金　熙淑	月3	2	2	全	99
春	韓国研究各論Ⅳ（韓国文化各論a）	呉　吉煥	金1	2	2	全	100
秋	韓国研究各論Ⅴ（韓国文化各論b）	佐藤　厚	金3	2	2	全	101
春	韓国研究各論Ⅵ（韓国文化各論c）	佐藤　厚	木1	2	2	全	101
秋	韓国研究情報収集法	金　熙淑	月4	2	2	全	100
秋	韓国特殊研究Ⅰ（日韓比較文化論a）	金　熙淑	火4	2	2	全	98
	韓国特殊研究Ⅱ（日韓比較文化論b）	2015年度不開講		2	2	全	
秋	韓国特殊研究Ⅲ（文献読解）	金　泰植	火3	2	2	全	104

「日本研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	日本研究Ⅰ（日本文学古典）	福沢　健	月2	2	1	全	106
秋	日本研究Ⅱ（日本文学現代）	佐藤　毅	木1	2	1	全	108
春	日本研究Ⅲ（日本史a）	丸浜　昭	水1	2	1	全	117
秋	日本研究Ⅳ（日本史b）	丸浜　昭	水1	2	1	全	117
春	日本研究Ⅴ（日本経済論a）	須藤　時仁	木5	2	1	全	118
秋	日本研究Ⅵ（日本経済論b）	須藤　時仁	木5	2	1	全	118
春	日本研究Ⅶ（日本文化論）	宇津木　言行	火3	2	1	全	105
春	日本研究各論Ⅰ（民俗芸能）	林　英一	火2	2	2	全	115
春	日本研究各論Ⅱ（企業経営）	黒川　文子	火3	2	2	全	119
秋	日本研究各論Ⅲ（地域文化）	林　英一	木1	2	2	全	116
春	日本研究各論Ⅳ（古典芸能）	宇津木　言行	木3	2	2	全	112
春	日本特殊研究Ⅰ（民俗学）	林　英一	木1	2	2	全	109
秋	日本特殊研究Ⅱ（文献読解）	宇津木　言行	火3	2	2	全	113
春	日本特殊研究Ⅲ（写本を読む）	宇津木　言行	木4	2	2	全	113
秋	日本特殊研究Ⅳ（碑文を読む）	林　英一	火2	2	2	全	112

「多言語間交流研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	多言語間交流研究Ⅰ（言語学a）	安間　一雄	火3	2	1	全	120
秋	多言語間交流研究Ⅱ（言語学b）	安間　一雄	金2	2	1	全	120
秋	多言語間交流研究Ⅲ（英語学a）	安間　一雄	火3	2	1	全	121
春	多言語間交流研究Ⅳ（英語学b）	安間　一雄	金2	2	1	全	121
秋	多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	大熊　昭信	金2	2	1	全	125
春	多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	大熊　昭信	金2	2	1	全	125
秋	多言語間交流研究各論Ⅰ（応用言語学）	臼井　芳子	水1	2	2	全	123
秋	多言語間交流研究各論Ⅱ（第二言語習得）	臼井　芳子	木2	2	2	全	124
	多言語間交流研究各論Ⅳ（英語圏の小説b）	2015年度不開講		2	2	全	
秋	多言語間交流研究各論Ⅳ（英語圏の小説a）	上野　直子	水2	2	2	全	126
春	多言語間交流研究各論Ⅴ（英語圏の詩a）	原　成吉	火1	2	2	全	127
	多言語間交流研究各論Ⅵ（英語圏の詩b）	2015年度不開講		2	2	全	
	多言語間交流研究各論Ⅶ（英語圏の演劇a）	2015年度不開講		2	2	全	
秋	多言語間交流研究各論Ⅷ（英語圏の演劇b）	児嶋　一男	月3	2	2	全	127
秋	多言語間交流研究各論Ⅸ（国際語としての英語）	臼井　芳子	火4	2	2	全	128
	多言語間交流研究各論Ⅹ（多言語環境と英語）	2015年度不開講		2	2	全	
春	多言語間交流研究各論ⅩⅠ（英語圏の文化）	山本　英政	木2	2	2	全	142
秋	多言語間交流研究各論ⅩⅡ（英語圏事情）	山本　英政	木2	2	2	全	142
春	多言語間交流特殊研究Ⅰ（翻訳通訳論・英語）	中島　直美	火1	2	2		59
春	多言語間交流特殊研究Ⅱ（翻訳通訳論・中国語）	永田　小絵	火3	2	2		73
春	多言語間交流特殊研究Ⅲ（翻訳通訳論・スペイン語）	柴田　バネッサ	火3	2	2		66
秋	多言語間交流特殊研究Ⅳ（翻訳通訳実習・英語）	中島　直美	火1	2	2		59
秋	多言語間交流特殊研究Ⅴ（翻訳通訳実習・中国語）	永田　小絵	火3	2	2		73
秋	多言語間交流特殊研究Ⅵ（翻訳通訳実習・スペイン語）	柴田　バネッサ	火3	2	2		66

※必修科目で2015年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください(整理券必要)。

「多文化共生研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	多文化共生研究Ⅰ（文化人類学a）	松岡　格	金2	2	1	全	170
秋	多文化共生研究Ⅱ（文化人類学b）	松岡　格	金2	2	1	全	170
春	多文化共生研究Ⅲ（社会学a）	木本　玲一	月4	2	1	全	169
秋	多文化共生研究Ⅳ（社会学b）	岡村　圭子	土1	2	1	全	169
	多文化共生研究Ⅴ（異文化間コミュニケーションa）	2015年度不開講		2	1	全	
秋	多文化共生研究Ⅵ（異文化間コミュニケーションb）	山本　英政	月4	2	1	全	139
春	多文化共生研究各論Ⅰ（アメリカの多文化共生a）	佐藤　唯行	火3	2	2		140
秋	多文化共生研究各論Ⅱ（アメリカの多文化共生b）	佐藤　唯行	火3	2	2		140
	多文化共生研究各論Ⅲ（異文化社会の認識と世界観a）	2015年度不開講		2	2	全	
	多文化共生研究各論Ⅳ（異文化社会の認識と世界観b）	2015年度不開講		2	2	全	
	多文化共生研究各論Ⅴ（比較社会論）	2015年度不開講		2	2	全	
	多文化共生研究各論Ⅵ（比較文化論）	2015年度不開講		2	2		
春	多文化共生研究各論Ⅶ（大衆文化論）	木本　玲一	月5	2	2	全	141
秋	多文化共生研究各論Ⅷ（地域メディア論）	岡村　圭子	火2	2	2	全	141
秋	多文化共生特殊研究Ⅰ（滞日外国人研究）	田房　由起子	土2	2	2	法	149
春	多文化共生特殊研究Ⅱ（アメリカ合衆国のラティーノ社会）	佐藤　勘治	水2	2	2		150
	多文化共生特殊研究Ⅲ（カリブ海域社会の民族関係）	2015年度不開講		2	2		

「国際交流研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	国際交流研究Ⅰ（国際関係論）	中島　晶子	月2	2	1	全	143
	国際交流研究Ⅱ（国際協力論）	2015年度不開講		2	1		
春	国際交流研究Ⅲ（国際機構論）	鈴木　淳一	月1	2	1	全	148
秋	国際交流研究Ⅳ（NGO論）	清水　俊弘	水2	2	1	全	144
秋	国際交流研究Ⅴ（南北問題）	金　雄熙	月3	2	1		143
	国際交流研究Ⅵ（情報とメディア）	2015年度不開講		2	1		
春	国際交流研究各論Ⅰ（国際政治論a）	岡垣　知子	水1	2	2	全	145
秋	国際交流研究各論Ⅱ（国際政治論b）	岡垣　知子	水1	2	2	全	149
春	国際交流研究各論Ⅲ（国際経済論a）	益山　光央	火2	2	2	全	146
秋	国際交流研究各論Ⅳ（国際経済論b）	益山　光央	火2	2	2	全	146
春	国際交流特殊研究Ⅰ（日本政治外交史a）	福永　文夫	金3	2	2	全	147
秋	国際交流特殊研究Ⅱ（日本政治外交史b）	福永　文夫	金3	2	2	全	147
春	国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流a）	高安　健一	金1	2	2	全	151
秋	国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流b）	高安　健一	金1	2	2	全	151
春	国際交流特殊研究Ⅴ（グローバル・ガバナンスa）	一之瀬　高博	木2	2	2	全	153
秋	国際交流特殊研究Ⅵ（グローバル・ガバナンスb）	一之瀬　高博	木2	2	2	全	153

「宗教・文化・歴史研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	宗教・文化・歴史研究Ⅰ（文化史入門）	古川　堅治	木2	2	1	全	172
春	宗教・文化・歴史研究Ⅱ（東洋思想史a）	松丸　壽雄	水2	2	1	全	173
秋	宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史b）	松丸　壽雄	水2	2	1	全	173
春	宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究a）	櫻井　悠美	月2	2	1	全	174
秋	宗教・文化・歴史研究Ⅴ（文明史研究b）	櫻井　悠美	月2	2	1	全	174
春	宗教・文化・歴史研究Ⅵ（倫理学a）	川口　茂雄	金4	2	1	全	171
秋	宗教・文化・歴史研究Ⅶ（倫理学b）	川口　茂雄	金4	2	1	全	171
春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ（地中海世界の宗教と文化a）	櫻井　悠美	水2	2	2		191
秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ（地中海世界の宗教と文化b）	櫻井　悠美	水2	2	2		191
春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ（比較宗教史）	松丸　壽雄	木3	2	2	全	175
春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ（日本思想史1）	矢森　小映子	木2	2	2	全	111
秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ（日本思想史2）	小田　真裕	木2	2	2	全	111
春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ（アラブ文化・芸術a）	師岡　カリーマ　エルサムニー	月2	2	2	全	192
秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ（アラブ文化・芸術b）	師岡　カリーマ　エルサムニー	月2	2	2	全	192
秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ（世界の宗教と文化ーー神教と多神教）	古川　堅治	木2	2	2		189
秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ（思想と文化）	松丸　壽雄	金4	2	2		190

※必修科目で2015年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください(整理券必要)。

「日本語教育研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	日本語教育研究Ⅰ（日本語教育概説）	石塚　京子	月3	2	1	全	122
秋	日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	宇津木　言行	火4	2	1	全	122
春	日本語教育研究各論Ⅰ（日本語教授法1a）	野原　ゆかり	木2	2	2		129
秋	日本語教育研究各論Ⅱ（日本語教授法1b）	野原　ゆかり	木2	2	2		129
春	日本語教育研究各論Ⅲ（日本語音声学）	磯村　一弘	水5	2	2		128
春	日本語教育研究各論Ⅳ（日本語文法形態論）	武田　明子	火2	2	2	全※1	133
秋	日本語教育研究各論Ⅴ（日本語文法統語論）	武田　明子	火2	2	2	全※1	133
秋	日本語教育研究各論Ⅵ（日本語談話論）	浅山　佳郎	月1	2	2	全※2	138
春	日本語教育研究各論Ⅶ（日本語意味論・語用論）	浅山　佳郎	月1	2	2		138
	日本語教育特殊研究Ⅰ（対照言語学・誤用分析a）	2015年度不開講		2	2		
	日本語教育特殊研究Ⅱ（対照言語学・誤用分析b）	2015年度不開講		2	2		
	日本語教育特殊研究Ⅲ（文献読解a）	2015年度不開講		2	2		
	日本語教育特殊研究Ⅳ（文献読解b）	2015年度不開講		2	2		
春	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法2）	野原　ゆかり	金2	2	4		130
春	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法2）	浅山　佳郎	木1	2	4		131
春	日本語教育特殊研究Ⅵ（日本語教育教材論）	小山　慎治	木4	2	2	全※2	137
春/秋	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	各担当教員	その他	2	4		132

※1：07年度入学者は除く、※2：08年度以降入学者は除く

「教育科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
秋	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	未定	金4	2	1	全	155
秋	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	未定	金5	2	1	全	155
秋	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	川村　肇	木3	2	1	全	155
春	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	三浦　智子	金4	2	1	全	155
	教育科学研究Ⅱ（教育の歴史1）	2015年度不開講		2	1	全	
	教育科学研究Ⅲ（教育の歴史2）	2015年度不開講		2	1	全	
春	教育科学研究Ⅳ（教職論）	三浦　智子	金5	2	1	全	154
秋	教育科学研究Ⅳ（教職論）	桑原　憲一	月4	2	1	全	154
春	教育科学研究Ⅳ（教職論）	桑原　憲一	月3	2	1	全	154
	教育科学研究Ⅳ（教職論）	2015年度不開講		2	1	全	
春	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	白砂　佐和子	火4	2	1	全	161
秋	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	白砂　佐和子	火4	2	1	全	161
秋	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	田口　雅徳	金1	2	1	全	161
春	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	田口　雅徳	金1	2	1	全	161
春	教育科学研究Ⅵ（こころの世界）	田口　雅徳	木2	2	1	全	156
春	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	桑原　憲一	火3	2	2	全	159
秋	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	桑原　憲一	火5	2	2	全	159
春	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	桑原　憲一	月4	2	2	全	159
春	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	安井　一郎	水2	2	2	全	160
春	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	桑原　憲一	火4	2	2	全	160
秋	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	桑原　憲一	火4	2	2	全	160
春	教育科学研究各論Ⅲ（カウンセリング論）	瀧本　孝雄	木3	2	2	全	162
秋	教育科学研究各論Ⅳ（パーソナリティ理論）	瀧本　孝雄	木3	2	2	全	162
秋	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	瀧本　孝雄	木2	2	2	全	163
秋	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	鈴木　乙史	木4	2	2	全	163
春	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	瀧本　孝雄	木2	2	2	全	163
秋	教育科学研究各論Ⅵ（こども論）	小島　優生	金4	2	2	全	158
春	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	田口　雅徳	水2	2	2	全	165
秋	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	田口　雅徳	木2	2	2	全	165
	教育科学特殊研究Ⅰ（異文化理解教育）	2015年度不開講		2	2	全	
秋	教育科学特殊研究Ⅱ（教師と語る）	川村　肇	金3	2	2	全	164
秋	教育科学特殊研究Ⅲ（心理検査法と自己理解）	田口　雅徳	木4	2	2	全	156
春	教育科学特殊研究Ⅳ（スポーツコーチ学a）	依田　珠江	木2	2	2	全	167
秋	教育科学特殊研究Ⅴ（スポーツコーチ学b）	松原　裕	木3	2	2	全	167
春	教育科学特殊研究Ⅵ（リーダーシップ論）	和田　智	金2	2	2	全	164
春	教育科学特殊研究Ⅶ（体育経営スポーツマネージメント）	川北　準人	月3	2	2	全	168
秋	教育科学特殊研究Ⅷ（ボランティア論）	山口　友佑	金2	2	2	全	168

※必修科目で2015年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください（整理券必要）。

「自然・環境研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	自然・環境研究Ⅰ（科学史a）	野澤　聡	金4	2	1	全	176
秋	自然・環境研究Ⅱ（科学史b）	野澤　聡	金4	2	1	全	176
春	自然・環境研究Ⅲ（数学a）	東　孝博	月2	2	1	全	178
秋	自然・環境研究Ⅳ（数学b）	東　孝博	月2	2	1	全	178
春	自然・環境研究Ⅴ（宇宙論a）	東　孝博	火1	2	1	全	194
秋	自然・環境研究Ⅵ（宇宙論b）	東　孝博	火1	2	1	全	194
春	自然・環境研究Ⅶ（天文学a）	内田　俊郎	木4	2	1	全	180
秋	自然・環境研究Ⅷ（天文学b）	内田　俊郎	木4	2	1	全	180
春	自然・環境研究各論Ⅰ（地球環境論a）	北﨑　幸之助	金4	2	2	全	183
秋	自然・環境研究各論Ⅱ（地球環境論b）	北﨑　幸之助	金4	2	2	全	183
	自然・環境研究各論Ⅲ（科学技術交流史研究a）	2015年度不開講		2	2	全	
	自然・環境研究各論Ⅳ（科学技術交流史研究b）	2015年度不開講		2	2	全	
春	自然・環境特殊研究Ⅰ（自然観察a）	飯泉　恭一	月2	2	2	全	195
秋	自然・環境特殊研究Ⅱ（自然観察b）	飯泉　恭一	月2	2	2	全	195
春	自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学a）	内田　正夫	木3	2	2	全	201
秋	自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学b）	内田　正夫	木3	2	2	全	201

「多言語情報処理研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	多言語情報処理研究Ⅰ（コンピュータと言語）	呉　浩東	月2	2	1	全	184
春	多言語情報処理研究各論Ⅰ（表計算とプレゼンテーション）	松山　恵美子	水2	2	2	全	185
秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ（表計算とプレゼンテーション）	松山　恵美子	水2	2	2	全	185
秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ（表計算とプレゼンテーション）	田中　雅英	火4	2	2	全	185
春	多言語情報処理研究各論Ⅰ（表計算とプレゼンテーション）	金子　憲一	木3	2	2	全	185
春	多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	黄　海湘	水4	2	2	全	196
春	多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	金子　憲一	木4	2	2	全	186
秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	金子　憲一	木4	2	2	全	186
秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	金子　憲一	月3	2	2	全	186
秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	田中　雅英	火3	2	2	全	186
秋	多言語情報処理研究各論Ⅳ（データベース）	黄　海湘	水4	2	2		187
秋	多言語情報処理研究各論Ⅴ（統計と調査法）	安間　一雄	水2	2	2	全	188
秋	多言語情報処理研究各論Ⅵ（コーパス言語学）	呉　浩東	木4	2	2		202
春	多言語情報処理特殊研究Ⅰ（自然言語処理a）	呉　浩東	木1	2	2		198
秋	多言語情報処理特殊研究Ⅱ（自然言語処理b）	呉　浩東	木1	2	2		198
春	多言語情報処理特殊研究Ⅲ（プログラミング論a）	呉　浩東	月4	2	2		199
秋	多言語情報処理特殊研究Ⅳ（プログラミング論b）	呉　浩東	月5	2	2		199
秋	多言語情報処理特殊研究Ⅴ（コンピュータ構造論）	呉　浩東	月2	2	2	全	200
春	多言語情報処理特殊研究Ⅵ（マルチメディア論）	田中　雅英	火4	2	2	全	200

「卒業研究」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春/秋	卒業研究	各担当教員		2	4	全	203

「日本語科目」（外国人学生・帰国学生専用）

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
秋	初級日本語	各担当教員		1	1	全	205
春/秋	中級日本語	各担当教員		1	1	全	206
春/秋	上級日本語Ⅰ	各担当教員		1	1	全	207
春/秋	上級日本語Ⅱ	各担当教員		1	1	全	208

※必修科目で2015年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください（整理券必要）。

13年度以降	基礎演習	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「基礎演習」の目的は、今後４年間の大学における学び、とりわけ２年次以降の専門教育（演習）に対応できる力を準備することにある。 そのために、図書館・ＰＣの利活用を含む『読む・書く・聞く・話す』の基礎力を高めていくことを主な課題とする。	１．クラス別オリエンテーション ２．～１３． 図書館実習（１回） 図書館の利用、図書検索の仕方 観察学習（１回） 大学外の施設における学習 読む・書く・聞く・話すなどの基礎力養成（10回） 文章を読む、要約をする、ノートをとる、講義を受ける、ディスカッション、プレゼンテーション、ＰＣスキルなどの学習 （各クラスによって学習順序は異なる） １４．２年生以降の「演習」に向けて １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員によって提示される。その他、指定の課題図書を購入する必要がある。	レポート課題および授業での発表内容などに基づいて総合的に評価する。

13年度以降 12年度以前	言語文化論 言語文化論	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」が、全体としてどのようなものであるかを認識するための授業である。学科が設置している各研究科目群がおおまかにどういう分野であり、それぞれの担当教員がどのような演習を開講しているかを把握し、学生諸君自身による今後の履修のための「設計図」をえがくことを目的とする。 講義概要 講義内容としては、各研究科目群についての概説、２年次以降の演習担当教員による内容紹介、「言語」と「文化」をキイワードとして複数の教員によって展開される議論の３種類で構成される。第１の概説はこの科目の担当者による、第２、第３の内容は、毎回学科の専任教員をゲストにむかえておこなう。授業中の学生からの質問を、つよく要求する。	第1回　イントロダクション－「言語」と「文化」を学ぶ意味 第2回　国際教養学部のカリキュラムについて 第3回　スペイン・ラテンアメリカ研究科目群 第4回　中国研究科目群 第5回　韓国研究科目群 第6回　日本研究科目群 第7回　言語教育研究科目群 第8回　グローバル社会研究科目群 第9回　人間発達科学研究科目群 第10回 総合科学研究科目群 第11回 演習選択について 第12回 特別トピックに関する研究討論(1) 第13回 特別トピックに関する研究討論(2) 第14回 特別トピックに関する研究討論(3) 第15回 2年生になるに当たって－「学ぶ」ということの意味 なお、この予定は、各研究科目群担当教員の状況により、前後する場合がある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
言語文化学科『演習の手引き』	平常点（50%）、レポート（50%）による総合評価

13 年度以降 12 年度以前	哲学 I 哲学 I	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
現代社会は、様々な難問に見舞われている。これらの問題を正視し、我々は正面から取り組み、現代社会に生きる方策を見出していかなければならない。そのための一つの方法として、哲学的思想をこれらの問題の解決への第一歩として設定することもできる。それを実践的に行うために、いくつかの現代社会の問題と取り組む。 下記の課題について、概要説明と問題への取り組み方、およびその例が示される。この課題ごとに、グループ分けし、それぞれが興味ある課題と取り組む。さらに後半に時間配分される課題研究発表に向けて、前半部各グループは研究調査および討議により適切な解答を考える。後半には各グループが発表を行い、最後に教師をも含めて、他の学生と共に全体討議を行うことを目指す。 その課題とは、大震災と人間の有り方、人間と世界との関係、愛とは、諸文化の交流の意義、他者の意味、幸福と倫理、などである。詳しくは、授業始めに、課題の一覧表を配る予定である。	１．課題説明とグループ分け ２．各グループごとの調査研究 ３．各グループごとの調査研究 ４．各グループごとの調査研究 ５．第一、第二グループの発表と討論 ６．第三、第四グループの発表と討論 ７．第五、第六グループの発表と討論 ８．第七、第八グループの発表と討論 ９．第九、第十グループの発表と討論 １０．第十一、第十二グループの発表と討論 １１．第十三、第十四グループの発表と討論 １２．第十五、第十六グループの発表と討論 １３．第十七、第十八グループの発表と討論 １４．授業の総まとめ １５．授業の総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に適宜指示	発表とディスカッションの貢献度（40%）と、それに基づく個人のレポート評価（60%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

12 年度以前	哲学Ⅱ	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
現代世界において直面せざるを得ない諸問題の基礎となる課題について、簡単な概要説明といくつかの問題への取り組み方がまず示される。この課題ごとに、グループ分けした各班がそれぞれに興味を抱いた課題を、春学期の間取り組むことになる。 各グループは研究調査およびディスカッションにより、自分たちならばどのような見解と解決を与えるのが最適と考えるかを探り、発表を行い、今度は教師をも含めて、他の学生との全体討議を行う。学生による発表は英語でなされる。討論も原則的に英語でなされる。 なお、このグループ内で、研究調査計画、および担当分担、研究発表の手順担当者、および質疑応答の準備等を自主的に決めたうえで、発表に臨むこと。レポートも英語で書くこと。	1. 現代世界の我々を取り巻く思想的状況の哲学的説明。 2. 各グループの研究調査、発表準備。 3. 各グループの研究調査、発表準備。 4. 各グループの研究調査、発表準備。 5. 第 1、第 2 グループの発表とディスカッション 6. 第 3、第 4 グループの発表とディスカッション 7. 第 5、第 6 グループの発表とディスカッション 8. 第 7、第 8 グループの発表とディスカッション 9. 第 9、第 10 グループの発表とディスカッション 10. 第 11、第 12 グループの発表とディスカッション 11. 第 13、第 14 グループの発表とディスカッション 12. 第 15、第 16 グループの発表とディスカッション 13. 第 17、第 18 グループの発表とディスカッション 14. 第 19、第 20 グループの発表とディスカッション 15. 授業の総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内に適宜指示	発表とディスカッションの貢献度（40%）と、それに基づく個人のレポート評価（英語）（60%）

12 年度以前	哲学Ⅱ	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
現代世界において直面せざるを得ない諸問題の基礎となる課題について、簡単な概要説明といくつかの問題への取り組み方がまず示される。この課題ごとに、グループ分けした各班がそれぞれに興味を抱いた課題を、春学期の間取り組むことになる。 各グループは研究調査およびディスカッションにより、自分たちならばどのような見解と解決を与えるのが最適と考えるかを探り、発表を行い、今度は教師をも含めて、他の学生との全体討議を行う。学生による発表は英語でなされる。討論も原則的に英語でなされる。 なお、このグループ内で、研究調査計画、および担当分担、研究発表の手順担当者、および質疑応答の準備等を自主的に決めたうえで、発表に臨むこと。レポートも英語で書くこと。	1. 現代世界の我々を取り巻く思想的状況の哲学的説明。 2. 各グループの研究調査、発表準備。 3. 各グループの研究調査、発表準備。 4. 各グループの研究調査、発表準備。 5. 第 1、第 2 グループの発表とディスカッション 6. 第 3、第 4 グループの発表とディスカッション 7. 第 5、第 6 グループの発表とディスカッション 8. 第 7、第 8 グループの発表とディスカッション 9. 第 9、第 10 グループの発表とディスカッション 10. 第 11、第 12 グループの発表とディスカッション 11. 第 13、第 14 グループの発表とディスカッション 12. 第 15、第 16 グループの発表とディスカッション 13. 全体ディスカッション 14. 授業の総まとめ 15. 授業の総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内に適宜指示	発表とディスカッションの貢献度（40%）と、それに基づく個人のレポート評価（英語）（60%）

13 年度以降	英語 I (IE)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで，テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーを学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約（英語）ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ，リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはクラスによって異なります。 (Class A):New Directions (Cambridge UP). (Classes B, C, D, E, F, G, H): *Pathways 2* (Heinle Cengage Learning)	課題（20%），多読関連（20%），語彙テスト（20%），期末テスト（40%） 出席: 出席を大前提とする。８回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度以降	英語 II (IE)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで，テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約（英語）ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ，リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期(英語 I)と同じ	春学期(英語 I)と同じ

13 年度以降	英語 I (S)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う．ここでは，音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習や発音練習をする．また，プレゼンテーションスキルを学び，身近なテーマに関するプレゼンテーションの練習をする．受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる． 授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	・各担当教員が初回の授業で指示する．
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはクラスにより異なる． ・*Present Yourself, Level 2, 2nd ed.* (Cambridge UP, 2014; ISBN 978-1107435780) ・ その他	参加態度・予習・努力等（10%），口頭発表（30%），期末ペアインタビュー（30%），課題到達度（30%）

13 年度以降	英語 II (S)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語 I (S)」に示した内容と目標を継承し，さらに発展的な学習を行う．定型言語形式の使用練習においては，自発的な発話場面においても，適切に使用できることを目標とする．また，プレゼンテーションスキルを学び，アカデミックなテーマに関するプレゼンテーションの練習をする．受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる． 授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	・各担当教員が初回の授業で指示する． ・与えられたテーマによるプレゼンテーションのコンテスト Presentation Championship がクラスを超えた規模で行われる．
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ．	春学期に同じ．

13 年度以降	英語 I (W)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
エッセイライティングの基礎を学ぶ．パラグラフ内の論理構成の技術をもとに，記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う．実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される．すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで，このためにブレーンストーミング，アウトラインプロセシング，資料の利用法といった新しい技法を学ぶ．このほか随時正書法上の重要事項を学習する．授業の主要な使用言語は英語とする．また，課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする．受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる． 授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	・各担当教員が初回の授業で指示する．
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはクラスにより異なる． ・Chin, Koizumi, Reid, Wray, Yamazaki, *Academic Writing Skills 1* (Cambridge UP; ISBN 9781107636	テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%)，期末作文課題 (20%)，授業参加態度 (20%)，ポートフォリオ (10%)

13 年度以降	英語 II (W)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
エッセイライティングの基礎を学ぶ．「英語 I (W)」に示した内容と目標を継承し，さらに発展的な学習を行う．パラグラフ内の論理構成の技術をもとに，記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う．実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される．すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで，このためにブレーンストーミング，アウトラインプロセシング，資料の利用法といった新しい技法を学ぶ．このほか随時正書法上の重要事項を学習する．授業の主要な使用言語は英語とする．また，課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする．受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる． 授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	・各担当教員が初回の授業で指示する．
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ．	春学期に同じ．

13 年度以降	英語Ⅲ(IE)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語Ⅱ（IE)」に引き続き、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはクラスによって異なります。 (Class A): New Directions (Cambridge UP) (Classes B, C, D, E, F, G, H) : *Pathways 3* (Heinle Cengage Learning)	課題（20%), 多読関連（20%），語彙テスト（20%），期末テスト（40%） 出席: 出席を大前提とする。8 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度以降	英語Ⅳ(IE)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語Ⅲ（IE)」に引き続き、同じ授業形態の許で、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期(英語Ⅲ)と同じ	春学期(英語Ⅲ)と同じ

13 年度以降	英語Ⅲ(W)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
実質的なエッセイライティングを学ぶ．1パラグラフ内の論理構成の技術をもとに，複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う．実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される．すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで，このためにブレーンストーミング，アウトラインプロセシング，資料の利用法といった新しい技法を学ぶ．このほか随時正書法上の重要事項を学習する．授業の主要な使用言語は英語とする．また，課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする．受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる．　授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	・各担当教員が初回の授業で指示する． ・英文エッセイをオンラインで添削・評価するシステムを利用する機会が設けられる．
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはクラスにより異なる． ・*Sourcework* (Cengage) (Class A)　・*Basic Steps to Writing Research Papers* (Cengage) (Class B-H)	テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%)，期末作文課題 (20%)，授業参加態度 (20%)，ポートフォリオ (10%)

13 年度以降	英語Ⅳ(W)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語Ⅲ (W)」に引き続き，実質的なエッセイライティングを学ぶ．1 パラグラフ内の論理構成の技術をもとに，複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための練習を行うが，いずれもより高度な内容を含み，より安定したスキルの証明が求められる．教科書に基づいたフォーマルな課題の練習の他，受講者各自の知識・関心・経験に関連する課題作文の練習を行う．このほか随時正書法上の重要事項を学習する．授業の主要な使用言語は英語とする．また，課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする．受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる． 授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	・各担当教員が初回の授業で指示する．
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ．	春学期に同じ．

12 年度以前	英語Ⅴ（AE)_再履修(American Comic Book Culture) 英語Ⅵ（AE)_再履修(American Comic Book Culture)	担当者	Ｓ．Ｋ．エリス

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	1. Introduction and course overview/ A Brief History of American Comic Books 2. Japanese Manga vs. American Comic Books/ Opinion paper 3. The Ten Cent Plague: Censorship and Comics/Mini-research presentations 4. Cultural Origins of Superman /Opinion paper due 5. Batman, vigilantism and Post 9/11 America /Finalize topics & thesis Statement 6. Vigilantism and Post 9/11 America / Preliminary outline 7. Wonder Woman and the Women's Movement /Final outline due 8. Wonder Woman cont/ First draft of research paper due 9. Superpowers as LGBT Metaphor /Mini-conferences 10. Graphic Novels vs. Comic Books / Preliminary second draft & peer review 11. Comic Books in Film/ Second draft due 12. Mainstreaming Comic Book Culture / Presentation preparation 13. Course Overview/ Abstract writing 14. Begin final presentations/ Review for final draft 15. Final Paper due and finish presentations. *The instructor may amend the syllabus.*
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Kluge & Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers.* (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 Readings, links, and audio visual materials will be provided by the instructor.	評価基準：準備・参加（10%），課題 (15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表 (20%) 出席: 出席を大前提とし、8 回以上欠席した場合は不合格とする。

12 年度以前	英語Ⅴ（AE)_再履修(Imagining the Future) 英語Ⅵ（AE)_再履修(Imagining the Future)	担当者	Ｓ．Ｋ．エリス

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	1. Introduction and course overview/ Imagined futures, from past to present. 2. Utopias, Dystopias and Human Rights/ Opinion paper 3. Utopias, Dystopias and Human Rights/ Mini-research presentations 4. Finish Utopias, Dystopias and Human Rights /Opinion paper due 5. Environmental futures /Finalize topics & thesis Statement 6. Environmental futures/ Preliminary outline 7. Finish Environmental Futures /Final outline due 8. Apocalypse in popular culture/ First draft of research paper due 9. Apocalypse in popular culture /Mini-conferences 10. A.I. and Transhumanism / Preliminary second draft & peer review 11. World Building Activity-Your Ideal Future / Second draft due 12. Begin course overview / Presentation preparation 13. Course overview continued/ Abstract writing 14. Begin final presentations/ Review for final draft 15. Final Paper due and finish presentations.
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ. Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 Readings, links, and audio visual materials will be provided by the instructor.	春学期に同じ.

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（総合 1） スペイン語Ⅰ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （総合）は、スペイン語Ⅰの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。 なお、この授業はスペイン語 Ⅰ（総合 2）とのペア授業である。	① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（総合 1） スペイン語Ⅱ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅱ（総合 1）は、スペイン語Ⅰ（総合 1, 2）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （総合）は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語Ⅱ（総合 2）とのペア授業である。	① 春学期の復習 ② 動詞の活用 --- 再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑨ 点過去と線過去の違い ⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑪ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑫ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑭ 命令表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（総合 2） スペイン語Ⅰ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（総合 2）はスペイン語Ⅰ（総合 1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅰ（総合 1）と同（総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語Ⅰ（総合１）に同じ。
	評価方法
スペイン語Ⅰ（総合 1）に同じ。	基本的にスペイン語Ⅰ（総合 1）と同じ評価基準である。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（総合 2） スペイン語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（総合 2）の継続の授業である。 スペイン語Ⅱ（総合 2）はスペイン語Ⅱ（総合 1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅱ（総合 1）と同（総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語Ⅱ（総合 1）に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
スペイン語Ⅱ（総合 1）に同じ。	基本的にスペイン語Ⅱ（総合 1）と同じ評価基準である。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（入門） スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合 1, 2）の項目と同じであるが、（入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合 1, 2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（基礎表現） スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（入門）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （基礎表現）では、（総合1, 2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合 1, 2）の項目と同じであるが、（基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合 1, 2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（会話） スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （会話）では、スペイン語Ⅰ（総合 1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合 1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合 1, 2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（会話） スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（会話）の継続の授業である。 接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （会話）では、スペイン語Ⅱ（総合 1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合 1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合 1, 2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅲ（総合） スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（総合）の授業では、初級文法のうち、1 年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅳ（総合） スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（総合）の継続の授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1 年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅲ（講読） スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅳ（講読） スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（講読）の継続の授業である。 （講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅲ（会話 1） スペイン語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅳ（会話 1） スペイン語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（会話 1）の継続である。 （会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅲ（会話 2） スペイン語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（会話 1）を参照。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅳ（会話 2） スペイン語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅳ（会話 1）を参照。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

12 年度以前	スペイン語Ⅴ,Ⅵ（応用 1, 2）（再履修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 また、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練も可能な限り行う。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	授業への参加度、定期試験によって評価する。

12 年度以前	スペイン語Ⅴ,Ⅵ（応用 1, 2）（再履修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅰ（総合 1） 中国語Ⅰ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。	1〜3 発音・ピンイン 4　基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不” 5　反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾 6　形容詞述語文、選択疑問文 7　中間試験 8　復習 9　二重目的文、量詞 10　連動文、年月日・曜日の言い方 11　有／没有、几／多少、方位詞、数詞 12　在、金額の表現 13　助動詞、語気助詞“了” 14　動態助詞“了”、禁止の表現、反語の表現 　　時量・回数と時点、時間量の言い方 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語一年目の教科書　ユニバーサル・ユース』（好文出版）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅱ（総合 1） 中国語Ⅱ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。	1　主述述語文、程度補語、離合詞 2　進行相、動詞の重ね型 3　方向補語、結果補語 4　持続相、可能補語 5　経験相、将然相、時刻の表現 6　存現文 7　中間試験 8　復習 9　“把”字文、定着表現、到達表現 10　比較の表現 11　受身文 12　様態補語 13　使役文、後置修飾 14　“（是）…的”構文 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語一年目の教科書　ユニバーサル・ユース』（好文出版）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅰ（総合 2） 中国語Ⅰ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，構文・作文力の基礎を養成する。	1〜3　発音 4〜6　第１課　姓名の表現 第２課　判断の表現 7　中間試験 8〜10　第３課　程度の表現（Ⅰ） 第４課　行為の表現 11〜14　第５課　時間の表現 第６課　所有の表現 第７課　存在の表現（Ⅰ） 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『新表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅱ（総合 2） 中国語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，構文・作文力の基礎を養成する。	1〜3　第８課　生活習慣の表現 第９課　行為完了の表現 第 10 課　可能と許可の表現（Ⅰ） 4〜6　第 11 課　願望と感情の表現 第 12 課　条件と選択の表現 第 13 課　状態の持続と経験の表現 7　中間試験 8〜10　第 14 課　程度の表現（Ⅱ） 第 15 課　比較の表現（Ⅰ） 11〜14　第 16 課　動作の時間的な量と回数の表現 第 17 課　動作の結果の表現（Ⅰ） 第 18 課　可能の表現（Ⅱ） 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『新表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，発音指導を中心に，簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。	1〜3　発音 4〜6　第１課 第２課 第３課 7　中間試験 8　復習 9〜12　第４課 第５課 第６課 13　第７課 14　第８課 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『新版例解中国語入門　你问我答〔第２版〕』（白帝社）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅱ（基礎表現） 中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。	1〜3　第９課 第 10 課 第 11 課 4〜6　第 12 課 第 13 課 第 14 課 7　中間試験 8〜11　第 15 課 第 16 課 第 17 課 12〜14　第 18 課 第 19 課 第 20 課 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『新版例解中国語入門　你问我答〔第２版〕』（白帝社）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅰ（会話） 中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）	1〜3　発音 4〜6　第１課　姓名の表現 第２課　判断の表現 7　中間試験 8〜10　第３課　程度の表現（Ⅰ） 第４課　行為の表現 11〜14　第５課　時間の表現 第６課　所有の表現 第７課　存在の表現（Ⅰ） 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅱ（会話） 中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）	1〜3　第８課　生活習慣の表現 第９課　行為完了の表現 第 10 課　可能と許可の表現（Ⅰ） 4〜6　第 11 課　願望と感情の表現 第 12 課　条件と選択の表現 第 13 課　状態の持続と経験の表現 7　中間試験 8　復習 9〜10　第 14 課　程度の表現（Ⅱ） 第 15 課　比較の表現（Ⅰ） 第 16 課　動作の時間的な量と回数の表現 11〜14　第 17 課　動作の結果の表現（Ⅰ） 第 18 課　可能の表現（Ⅱ） 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅲ（総合） 中国語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，作文のための基本文法を整理し，併せて虚詞（機能語）・文型を学んで，文の組み立てをしっかりつかませる。	1　第１課 2　第２課 3　第３課 4　第４課 5　第５課 6　第６課 7　中間試験 8　復習 9　第７課 10　第８課 11　第９課 12　第 10 課 13　第 11 課 14　第 12 課 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『作文ルール６６　―　日中翻訳技法　―　』（朝日出版社）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅳ（総合） 中国語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下，作文のための基本文法を整理し，併せて虚詞（機能語）・文型を学んで，文の組み立てをしっかりつかませる。	1　第 13 課 2　第 14 課 3　第 15 課 4　第 16 課 5　第 17 課 6　第 18 課 7　中間試験 8　復習 9　第 19 課 10　第 20 課 11　第 21 課 12　第 22 課 13　第 23 課 14　第 24 課 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『作文ルール６６　―　日中翻訳技法　―　』（朝日出版社）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅲ（講読） 中国語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。	1〜3　第 1 課 第 2 課 4〜6　第 3 課 第 4 課 7　中間試験 8　復習 9〜11　第 5 課 第 6 課 12〜14　第 7 課 読み物（プリント教材） 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『系統的に学ぼう　中国語 2　中級読解コース』（白帝社） ＋（各クラス担当者作成の）プリント教材	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅳ（講読） 中国語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下，一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。	1〜3　第 8 課 第 9 課 4〜6　第 10 課 第 11 課 7　中間試験 8　復習 9〜11　第 12 課 第 13 課 12〜14　第 14 課 読み物（プリント教材） 15　復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『系統的に学ぼう　中国語 2　中級読解コース』（白帝社） ＋（各クラス担当者作成の）プリント教材	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅲ(会話 1) 中国語Ⅲ(会話 1)	担当者	各担当教員（日本人教員）

講義目的、講義概要	授業計画
練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得することを目標とします。 スムーズな会話を成立させるためには、 １．相手の話した音声を正確にキャッチする ２．音声を語として理解する ３．語の意味を捉える ４．語の並び方（語法）によって文の意味と発言の意図を理解する ５．相手の発言を聴きながら自分の応対を考える ６．聞き終わったあとに自分の考えを音声化して発話するという一連の作業が必要になります。以上のプロセスを意識した会話の能力を養います。 ３課進むごとに復習テストを実施します。	単元１と２を学びます。 1.　授業方法に関するガイダンス 　ＰＣによる中国語の入力練習 　第１課　発音の復習 2.　第２課　新しい単語・第３課　お名前は？ 3.　復習テスト１　解答と解説 4.　第４課　何時に起きますか？ 5.　第５課　いつですか？ 6.　第６課　いくらですか？ 7.　復習テスト２　解答と解説 8.　第７課　新しい単語 9.　第８課　なにがありますか？ 10.　第９課　どこにありますか？ 11.　復習テスト３　解答と解説 12.　第 10 課　なにが好きですか？ 13.　第 11 課　何時間寝ましたか？ 14.　特別プログラム（映画観賞） 15.　学期のまとめ　１～11 課の総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『音で覚える中国語会話特訓』同学社	平常点・復習テスト・期末テストの点数の平均点で評価する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅳ(会話 1) 中国語Ⅳ(会話 1)	担当者	各担当教員（日本人教員）

講義目的、講義概要	授業計画
練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得することを目標とします。 スムーズな会話を成立させるためには、 １．相手の話した音声を正確にキャッチする ２．音声を語として理解する ３．語の意味を捉える ４．語の並び方（語法）によって文の意味と発言の意図を理解する ５．相手の発言を聴きながら自分の応対を考える ６．聞き終わったあとに自分の考えを音声化して発話するという一連の作業が必要になります。以上のプロセスを意識した会話の能力を養います。 ３課進むごとに復習テストを実施します。	単元３と４を学びます。 1.　春学期の講評と復習 2.　第 12 課　新しい単語 3.　第 13 課　誰に買ってあげますか？ 4.　第 14 課　どこで勉強しますか？ 5.　復習テスト１　解答と解説 6.　第 15 課　なにが盗まれましたか？ 7.　第 16 課　何をしていますか？ 8.　第 17 課　新しい単語 9.　復習テスト２　解答と解説 10.　第 18 課　見たことがありますか？ 11.　第 19 課　たばこを吸ってもいいですか？ 12.　第 20 課　これより安いですか? 13.　復習テスト３　解答と解説 14.　特別プログラム（映画観賞） 15.　学期のまとめ　12～20 課の総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『音で覚える中国語会話特訓』同学社	平常点・復習テスト・期末テストの点数の平均点で評価する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅲ（会話 2） 中国語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い，会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※　教科書の話題に沿って会話練習を行う。 会話練習の中で語彙や表現を補い，日中の習慣の違いも学ぶ。	1　第 1 課“打电话” 2　　同上の応用練習 3　第 2 課“接风” 4　　同上の応用練習 5　第 3 課“介绍” 6　　同上の応用練習 7　第 4 課“交通工具” 8　　同上の応用練習 9　第 5 課“换钱” 10　同上の応用練習 11　第 6 課“吃饭” 12　同上の応用練習 13　第 7 課“生病” 14　同上の応用練習 15　第 8 課“交通工具” ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『〔スリム版〕表現する中国語Ⅱ』（白帝社）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅳ（会話 2） 中国語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下，話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い，会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※　教科書の話題に沿って会話練習を行う。 会話練習の中で語彙や表現を補い，日中の習慣の違いも学ぶ。	1　第 8 課“交通工具”の応用練習 2　第 9 課“网上聊天儿 1” 3　　同上の応用練習 4　第 10 課“网上聊天儿 2” 5　　同上の応用練習 6　第 11 課“买东西” 7　　同上の応用練習 8　第 12 課“爱好” 9　　同上の応用練習 10　第 13 課“坐火车” 11　　同上の応用練習 12　第 14 課“观光（游外滩）” 13　　同上の応用練習 14　第 15 課“送行” 15　　同上の応用練習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『〔スリム版〕表現する中国語Ⅱ』（白帝社）	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

12 年度以前	中国語Ⅴ・Ⅵ(応用 1・2)_再履修	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
『情景漢語』（朋友書店）の「基本会話」を用いて以下の練習を行います。 ・ピンイン表記を漢字表記に書き直す ・中国語→日本語への訳出 ・リピーティングと発音矯正 ・シャドーイング ・質疑応答問題 授業の達成目標は以下の通りです。 ・関連単語を暗記し、語彙力をつける。 ・会話の内容を正しく解釈できるようにする。 ・漢字表記を見ながらなめらかに朗読できるようにする。 ・場面に応じた簡単な会話がスムーズに行える中国語力をつける。	1. ガイダンス 2. 電話、学校の食堂 3. 外での食事、ホームパーティー 4. 茶・たばこ・酒、映画を見る 5. 公演を見る、ダンス 6. 観光旅行、病気の治療 7. 天候と健康、体をきたえる 8. 中間試験、入国手続き 9. 申請書、あたらしい友だち 10. ひとを訪ねる、道をきく 11. 自転車、タクシー 12. 旅、宿泊 13. 銀行、買い物 14. 郵便、期末試験に関する説明 15. 全体のまとめと期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『情景漢語』　朋友書店	平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。

12 年度以前	中国語Ⅴ・Ⅵ(応用 1・2)_再履修	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「中国語Ⅴ・Ⅵ(応用1・2)」の再履修クラスとして開講します。 テキストは「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研　朝日出版社）を使用し、１・２年に学んだ基礎中国語の文法、文型を用いて日常会話、リスニングを練習し、より正確な表現力と即戦力を身に着けることを目指す。会話体と文章体の違いについても理解を深める。練習問題を通じて中国語の基礎を確かなものとするとともに、応用力をつける。	一週目　会话：自我介绍 二週目　文章：全家福 三週目　会话：五一节 四週目　文章：过生日 五週目　会话：约会 六週目　文章：我的一天 七週目　会话：问路 八週目　文章：十月北京 九週目　会话：体育运动 十週目　文章：给姐姐的信 十一週目　会话：谈爱好 十二週目　文章：民族音乐家 阿炳 十三・十四週目　復習 十五週目　学期のまとめと期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研　朝日出版社）	平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅰ（文法・読解 1） 韓国語Ⅰ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	１ハングルのしくみ① ２ハングルのしくみ② ３ハングルのしくみ③ ４あいさつ① ５あいさつ② ６名詞文 ７存在文 ８用言文 ９数詞① １０数詞② １１否定形 １２尊敬形 １３連用形 １４해요体 １５해요体の尊敬形
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	小テスト、中間テスト、期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅱ（文法・読解 1） 韓国語Ⅱ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国語Ⅰで学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	１基本事項の確認① ２基本事項の確認② ３過去形 ４連体形① ５連体形② ６未来意思形 ７ㄹ語幹 ８ㄷ変則用言 ９ㅅ変則用言 １０ㅂ変則用言 １１ㅎ変則用言 １２ㄹ変則用言 １３変則用言のまとめ １４－１５まとめと復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	小テスト、中間テスト、期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅰ（文法・読解 2） 韓国語Ⅰ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「韓国語Ⅰ（文法・読解１）」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。	１ハングルのしくみ① ２ハングルのしくみ② ３ハングルのしくみ③ ４あいさつ① ５あいさつ② ６名詞文 ７存在文 ８用言文 ９数詞① １０数詞② １１否定形 １２尊敬形 １３連用形 １４해요体 １５해요体の尊敬形
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	小テスト、中間テスト、期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅱ（文法・読解 2） 韓国語Ⅱ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国語Ⅱ（文法・読解１）で学んだ単語、文法を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。	１基本事項の確認① ２基本事項の確認② ３過去形 ４連体形① ５連体形② ６未来意思形 ７ㄹ語幹 ８ㄷ変則用言 ９ㅅ変則用言 １０ㅂ変則用言 １１ㅎ変則用言 １２ㄹ変則用言 １３変則用言のまとめ １４－１５まとめと復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	小テスト、中間テスト、期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅰ（コミュニケーション 1） 韓国語Ⅰ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。	1. 母音字（短母音、二重母音など） 2. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 3. バッチム 4. 第 1 課　基本文型 5. 第 3 課　自己紹介 6. 第 5 課　否定文 7. ハングル keyboard 練習 8. 第 7 課　時間の表現（曜日） 9. 第 9 課　過去時制 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第 11 課　電話の表現 12. 第 13 課　注文 13. 第 15 課　目的表現、指示表現 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ソウル大学言語教育院,『韓国語 1』Moonjin Media，2006	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅱ（コミュニケーション 1） 韓国語Ⅱ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。	1. 前期の復習 2. 第 17 課　家族・事実の確認 3. 第 19 課　誕生日・同時、接続表現 4. 第 21 課　購入・希望表現・可能表現 5. 第 23 課　薬局 6. 第 23 課　推測表現・連体形 7. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 8. 第 25 課　一日中の出来事 9. 第 25 課　要請・背景の表現 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第 27 課　故郷紹介 12. 第 27 課　進行形・条件 13. 第 29 課　両替・話題転換 14. 第 29 課　感嘆表現 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ソウル大学言語教育院,『韓国語 1』Moonjin Media，2006	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅰ（コミュニケーション 2） 韓国語Ⅰ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。	1. 母音字（短母音、二重母音など） 2. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 3. バッチム 4. 第 2 課　基本文型 5. 第 4 課　場所表現、敬語 6. 第 6 課　天気の表現 7. 第 8 課　位置と数字、ㅇ form) 8. 第 10 課　不規則動詞変化・漢数字 9. 中間テスト 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第 12 課　買い物 12. 第 14 課　交通手段 13. 第 16 課　招待不規則活用、時間表現 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ソウル大学言語教育院,『韓国語 1』Moonjin Media，2006	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅱ（コミュニケーション 2） 韓国語Ⅱ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。	1. 前期の復習 2. 第 18 課　趣味 3. 第 18 課　理由・提案・義務・お断り表現 4. 第 20 課　旅行 5. 第 20 課　連体形 6. 第 22 課　週末計画 7. 第 22 課　談話表現・未来時制 8. 中間テスト 9. 第 24 課　喫茶店 10. 第 24 課　お詫び表現 11. 第 26 課　喫茶店 12. 第 26 課　値段の比較・不規則活用 13. 第 28 課　本屋さん・比較表現 14. 第 30 課　週末・否定疑問文 15. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
ソウル大学言語教育院,『韓国語 1』Moonjin Media，2006	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅲ（文法・読解 1） 韓国語Ⅲ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。	１前年度の復習 ２ぞんざいな文末表現① ３ぞんざいな文末表現② ４昔話（１） ５未来連体形を使う表現 ６昔話（３） ７引用形① ８引用形② ９昔話（４） １０名詞化語尾① １１名詞化語尾② １２受身形 １３さまざまな慣用句 １４―１５使役形
テキスト、参考文献	**評価方法**
『ことばの架け橋中級表現編』生越直樹著 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著	課題提出、中間テスト、期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅳ（文法・読解 1） 韓国語Ⅳ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かしより実践的な韓国語能力の習得をめざす。上級へのステップアップとして、語彙、表現を増やしていく。	1　春学期の復習 2　第１課 3　第２課 4　第３課 5　第４課 6　第５課 7　第６課 8　中間テスト 9　第７課 10　第８課 11　第９課 12　第 10 課 13　第 11 課 14　第 12 課 15　第 13 課
テキスト、参考文献	**評価方法**
『総合韓国語４』油谷幸利ほか著（白帝社） 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著	課題提出、中間テスト、期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅲ（文法・読解 2） 韓国語Ⅲ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。	１前年度の復習 ２ぞんざいな文末表現 ３昔話（１） ４未来連体形を使う表現① ５未来連体形を使う表現② ６昔話（２） ７引用形 ８昔話（３） ９名詞化語尾 １０昔話（４） １１受身形① １２受身形② １３さまざまな慣用句 １４―１５書き言葉の表現
テキスト、参考文献	**評価方法**
『ことばの架け橋中級表現編』生越直樹著 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著	課題提出、中間テスト、期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅳ（文法・読解 2） 韓国語Ⅳ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かし、より実践的な韓国語能力の習得をめざす。上級へのステップアップとして、語彙、表現を増やしていく。	1　春学期の復習 2　第１課 3　第２課 4　第３課 5　第４課 6　第５課 7　第６課 8　中間テスト 9　第７課 10　第８課 11　第９課 12　第 10 課 13　第 11 課 14　第 12 課 15　期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『総合韓国語４』油谷幸利ほか著（白帝社） 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著	課題提出、中間テスト、期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 1） 韓国語Ⅲ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。	1. 第 1 課　新学期 2. 第 3 課　天気予報 3. 第 5 課　お部屋探し 4. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 5. 第 7 課　お引っ越し祝い 6. 第 9 課　銀行 7. 中間テスト 8. 第 11 課　約束 9. 第 13 課　お料理 10. 第 15 課　お引っ越し 11. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 12. 第 17 課　遊園地、 13. 第 19 課　ソンピョン 14. 第 21 課　なぞなぞ 15. 聞き取り練習・スピーキング練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media，2006	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 1） 韓国語Ⅳ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。	1. 復習 2. 第 23 課　テレビの故障中 3. 第 25 課　結婚 4. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 5. 第 27 課　書堂 6. 第 29 課　演劇 7. 5 分　speech(前半) 8. 第 29 課　演劇練習 9. 第 29 課　演劇発表会(グループ別) 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第 31 課　ハングル 12. 第 33 課　韓国の山 13. 5 分　speech(後半) 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media，2006	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 2） 韓国語Ⅲ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。	1. 第 2 課　終了式 2. 第 4 課　お見舞い 3. 第 6 課　下宿 4. 第 8 課　お住まい 5. 第 10 課　クリにーング屋さん 6. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 7. 3 分 speech（前半） 8. 第 12 課　案内放送 9. 第 14 課　ブルゴギ 10. 第 16 課　育児 11. 第 18 課　秋夕 12. 3 分 speech（後半） 13. 第 20 課　口論 14. 第 22 課　写真館 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media，2006	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 2） 韓国語Ⅳ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。	1. 復習 2. 第 24 課　テレビの修理 3. 第 26 課　友たちの結婚式 4. 第 28 課　宝くじの当たり 5. 中間テスト 6. 第 29 課　演劇グル―プ別練習 7. 第 29 課　演劇発表会(グループ別) 8. 第 30 課　旅行(1) 9. 第 30 課　旅行(2) 10. 第 32 課　記念日(1) 11. 第 32 課　記念日(2) 12. 第 34 課　韓国の童謡 13. 第 34 課　韓国の詩(1) 14. 第 34 課　韓国の詩(2) 15. まとめ・復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media，2006	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	韓国語演習 韓国語演習 I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は高度な韓国語読解力を習得するためのものである。授業はほぼすべて韓国語で行われる。 課題提出など積極的な授業参加が求められる。	1. ガイダンス 2. 韓国料理の特徴 3. 住宅事情 4. 誕生日と記念行事 5. キャンパスライフ 6. 余暇の過ごし方 7. スポーツ 8〜9. 映画鑑賞 10. 健康と美容 11. 秋夕とお正月 12. 伝統衣装の韓服 13. 韓国人の感情表現 14〜15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国文化を読む』朝日出版社	課題提出、期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国語演習 韓国語演習 II	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語上級までで学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。	1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現 I 5 Review 6 回想の表現 II 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞 I 13 依存名詞 II 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語－高級 I 』Kyung Hee University Press	中間テスト、期末テスト

13 年度	英語上級(AE) (Research Skills)	担当者	J．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	Week 1: Introduction and Objectives Week 2: Defining the Topic Week 3: Citations Week 4: Researching the Topic 1 Week 5: Researching the Topic 2 Week 6: Research Proposals Week 7: 1st draft Week 8: Editing Workshop 1 Week 9: Conferencing 1 Week 10: 2nd draft Week 11: Editing Workshop 2 Week 12: Conferencing 2 Week 13: Final draft.　Presentation Skills Week 14: Presentation Workshop Week 15: Final Presentations Class schedule may change due to academic calendar
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Kluge & Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers*. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・Additional text to be announced.	評価基準：準備・参加（10%），課題（15%），research paper（55%:outline, drafts, final product），口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級(AE) (Academic Research)	担当者	J．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	Week 1: Introduction and Objectives Week 2: Defining the Topic Week 3: Citations Week 4: Researching the Topic 1 Week 5: Researching the Topic 2 Week 6: Research Proposals Week 7: 1st draft Week 8: Editing Workshop 1 Week 9: Conferencing 1 Week 10: 2nd draft Week 11: Editing Workshop 2 Week 12: Conferencing 2 Week 13: Final draft.　Presentation Skills Week 14: Presentation Workshop Week 15: Final Presentations Class schedule may change due to academic calendar
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ. ・Additional text to be announced.	春学期に同じ.

13 年度	英語上級(AE) (Environmental Issues)_火 3	担当者	K．A．クラウン

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	1. Introduction to the course and themes 2. Shopping and Us: consumption patterns 3. Shopping and Us: Fair Trade and animal testing 4. Food and Us: Food safety 5. Review of prior units and Review Exam 6. Writing an Opinion Essay 7. Health and Us: chemicals in food and cosmetics 8. Energy and Us: energy sources 9. Transport and Us: cars vs. mass transit 10. Nature and Us: environmental destruction 11. Nature and Us: endangered wildlife 12. Travel: effects of tourism on local areas 13. Recreation: skiing and the environment 14. Review of prior units and Review Exam 15. Oral Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
・ *Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage: ISBN 978-4-902902-89-1)* ・*Looking Back,Moving Forward: Reading and Discussion*, Chris Summerville (Macmillan Languagehouse, 2006)	評価基準：準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%) 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級(AE) (Global Issues)_火 3	担当者	K．A．クラウン

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	1. Introduction to the course and themes 2. Information and misinformation 3. Saving tropical rainforests 4. Concerning happiness 5. Review of prior units and Review Exam 6. Writing an Opinion Essay 7. Gizmo addiction 8. Coping with noise 9. The whaling debate 10. Food: not just a commodity 11. Sweatshop labor 12. World Poverty 13. Japan's declining population 14. Review of prior units and Review Exam 15. Oral Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
・春学期に同じ. ・Confronting the Issues, David Peaty, (Kinseido, 2008)	春学期に同じ.

13 年度	英語上級(AE) (Environmental Issues)_金 1	担当者	K．A．クラウン

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	1. Introduction to the course and themes 2. Shopping and Us: consumption patterns 3. Shopping and Us: Fair Trade and animal testing 4. Food and Us: Food safety 5. Review of prior units and Review Exam 6. Writing an Opinion Essay 7. Health and Us: chemicals in food and cosmetics 8. Energy and Us: energy sources 9. Transport and Us: cars vs. mass transit 10. Nature and Us: environmental destruction 11. Nature and Us: endangered wildlife 12. Travel: effects of tourism on local areas 13. Recreation: skiing and the environment 14. Review of prior units and Review Exam 15. Oral Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
・ *Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage: ISBN 978-4-902902-89-1)* ・*Looking Back,Moving Forward: Reading and Discussion*, Chris Summerville (Macmillan Languagehouse, 2006)	評価基準：準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%) 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級(AE) (Global Issues)_金 1	担当者	K．A．クラウン

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	1. Introduction to the course and themes 2. Information and misinformation 3. Saving tropical rainforests 4. Concerning happiness 5. Review of prior units and Review Exam 6. Writing an Opinion Essay 7. Gizmo addiction 8. Coping with noise 9. The whaling debate 10. Food: not just a commodity 11. Sweatshop labor 12. World Poverty 13. Japan's declining population 14. Review of prior units and Review Exam 15. Oral Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
・春学期に同じ. ・Confronting the Issues, David Peaty, (Kinseido, 2008)	春学期に同じ.

13 年度	英語上級(AE) (Traditional Japan)_火 3	担当者	M．ハルデイン

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	1 Introduction: The Social System of Tokugawa Japan 2 Shinto and Buddhism 3 Farmers: Rice and Revolts 4 The Samurai: Myth and Reality 5 Women and the Yoshiwara 6 Individual Conferencing 7 Disease and Superstition 8 The Outcasts 9 Bunraku and Kabuki 10 The Ukiyo in Japanese Fiction 11 Education in Tokugawa Japan 12 Festivals and Everyday Life 13 Merchants: Mitsui Takatoshi 14 Presentations (1) 15 Presentations (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・The core text is Charles J. Dunn, *Everyday Life in Traditional Japan.* Tokyo; Rutland, Vermont: Tuttle, 1969. All materials will be supplied by the teacher.	評価基準：準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級(AE) (Japan through Westerners' Eyes)_火 3	担当者	M．ハルデイン

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	1 Introduction 2 Yoshimasa and *Highashiyama* Culture 3 The Samurai: Myth and Reality 4 Revenge: Chushingura 5 Japanese Film: Seppuku 6 Individual Conferencing 7 Tragic Heroes: The Nobility of Failure 8 Marriage, Women, and the Yoshiwara 9 Education and the Plate-Glass Window 10 Manga and 'Moratorium Man'; Anime in Translation 11 Construction Country 12 Saikaku and the Merchant Hero 13 The American Occupation and the Emperor 14 Presentations (1) 15 Presentations (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
・春学期に同じ. ・All materials will be supplied by the teacher. Students will be given extracts from around 40 academic texts.	春学期に同じ.

13 年度	英語上級(AE) (Traditional Japan)_金 1	担当者	M．ハルデイン

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	1 Introduction: The Social System of Tokugawa Japan 2 Shinto and Buddhism 3 Farmers: Rice and Revolts 4 The Samurai: Myth and Reality 5 Women and the Yoshiwara 6 Individual Conferencing 7 Disease and Superstition 8 The Outcasts 9 Bunraku and Kabuki 10 The Ukiyo in Japanese Fiction 11 Education in Tokugawa Japan 12 Festivals and Everyday Life 13 Merchants: Mitsui Takatoshi 14 Presentations (1) 15 Presentations (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・The core text is Charles J. Dunn, *Everyday Life in Traditional Japan.* Tokyo; Rutland, Vermont: Tuttle, 1969. All materials will be supplied by the teacher.	評価基準：準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級(AE) (Japan through Westerners' Eyes)_金 1	担当者	M．ハルデイン

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	1 Introduction 2 Yoshimasa and *Highashiyama* Culture 3 The Samurai: Myth and Reality 4 Revenge: Chushingura 5 Japanese Film: Seppuku 6 Individual Conferencing 7 Tragic Heroes: The Nobility of Failure 8 Marriage, Women, and the Yoshiwara 9 Education and the Plate-Glass Window 10 Manga and 'Moratorium Man'; Anime in Translation 11 Construction Country 12 Saikaku and the Merchant Hero 13 The American Occupation and the Emperor 14 Presentations (1) 15 Presentations (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
・春学期に同じ. ・All materials will be supplied by the teacher. Students will be given extracts from around 40 academic texts.	春学期に同じ.

13 年度	英語上級（AE)(Fantasy and Science Fiction)	担当者	Ｓ．Ｋ．エリス

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	1. Introduction and course overview/ Overview of Fantasy 2. Gender & Race in Disney / Debate 3. Gender and Race in Disney/Mini-research presentations 4. The Gothic: From Bram Stoker to Twilight / Research Plan 5. Gothic Continued/Finalize topics & thesis statement 6. Mary Shelley and Science Fiction / Preliminary outline 7. Mary Shelley cont/Final outline & sources and notes due 8. Dystopias and Apocalyptic Stories/ Writing the first draft 9. Dystopias and Apocalyptic Stories / First draft due and peer review 10. Alternate Worlds / Conferences 11. Alternate Worlds / Second draft & peer review 12. Conferences/ Oral presentation preparation 13. Presentation preparation/ Abstract writing 14. Begin oral presentations/ Preliminary final draft due 15. Final paper due and finish presentations. *The instructor may amend the syllabus.*
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 Other readings to be announced and provided by instructor.	評価基準：準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表（20%) 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級（AE)(American Comic Book Culture)	担当者	Ｓ．Ｋ．エリス

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	1. Introduction and course overview/ A Brief History of American Comic Books 2. Japanese Manga vs. American Comic Books/ Debate 3. The Ten Cent Plague: Censorship and Comics/Mini-research presentations 4. Cultural Origins of Superman /Research plan 5. Batman, vigilantism and Post 9/11 America /Finalize topics & thesis Statement 6. Vigilantism and Post 9/11 America / Preliminary outline 7. Wonder Woman and the Women's Movement /Final outline due with sources and notes 8. Wonder Woman cont/ First draft of research paper due 9. Superpowers as LGBT Metaphor /Mini-conferences 10. Graphic Novels vs. Comic Books / Preliminary second draft & peer review 11. Comic Books in Film/ Second draft due 12. Mainstreaming Comic Book Culture / Presentation preparation 13. Course Overview/ Abstract writing 14. Begin final presentations/ Review for final draft 15. Final paper due and finish presentations. *The instructor may amend the syllabus.*
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ. Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 Other readings to be announced and provided by instructor.	春学期に同じ.

13 年度	英語上級（AE）(Debate and Global Issues)	担当者	是澤 克哉

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	Week 1: Course Orientation Week 2: Information and Misinformation 1 Week 3: Information and Misinformation 2 Week 4: Saving Tropical Rainforests 1 Week 5: Saving Tropical Rainforests 2 Week 6: Concerning Happiness 1 Week 7: Concerning Happiness 2 Week 8: Gizmo Addiction 1 Week 9: Gizmo Addiction 2 Week 10: Coping with Noise 1 Week 11: Coping with Noise 2 Week 12: The Whaling Debate 1 Week 13: The Whaling Debate 2 Week 14: Oral Presentations 1 Week 15: Oral Presentations 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
• Kluge & Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers.* (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) • Peaty, D. (2009). *Confronting the Issues*. Kinseido. ISBN-10: 4764738864	評価基準：準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%) 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級（AE）(Debate and Global Issues)	担当者	是澤 克哉

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	Week 1: Course Orientation Week 2: Food: Not Just a Commodity 1 Week 3: Food: Not Just a Commodity 2 Week 4: Sweatshop Labor 1 Week 5: Sweatshop Labor 2 Week 6: Japan's Declining Population 1 Week 7: Japan's Declining Population 2 Week 8: Meeting the Millennium Development Goals 1 Week 9: Meeting the Millennium Development Goals 2 Week 10: Global Warming: Beyond Kyoto 1 Week 11: Global Warming: Beyond Kyoto 2 Week 12: Energy: Is Nuclear Power Part of the Solution? Week 13: Energy: Is Nuclear Power Part of the Solution? Week 14: Oral Presentations 1 Week 15: Oral Presentations 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ.	春学期に同じ.

13 年度	英語上級(AE) (Global Issues)	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	Week 1: Orientation / Academic skills 2: Patterns of organization (1) Reading (1) / Discussion and Facilitation (1) 3: Patterns of organization (2) Reading (2) / Discussion and Facilitation (2) 4: Patterns of organization (3) Reading (3) / Model conference 5: Patterns of organization (4) Reading (4) / Opinion paper 6: Patterns of organization (5) Reading (5) / Oral presentations (groups) 7-13 : Readings / Research paper -topics -sources –note taking -thesis statement and plan -abstract –outline -drafts –conferencing -final product 14-15: Power Point presentations (individual) Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
・ *Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1)* **Basic Steps to Writing Research Papers* （Kluge&Taylor, Cengage Learning） / Handouts *Reading materials: TBA	評価基準：準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級(AE) (Global Issues)	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	Week 1: Orientation / Academic skills 2: Patterns of organization (1) Reading (1) / Discussion and Facilitation (1) 3: Patterns of organization (2) Reading (2) / Discussion and Facilitation (2) 4: Patterns of organization (3) Reading (3) / Model conference 5: Patterns of organization (4) Reading (4) / Opinion paper 6: Patterns of organization (5) Reading (5) / Oral presentations (groups) 7-13 : Readings / Research paper -topics -sources –note taking -thesis statement and plan -abstract –outline -drafts –conferencing -final product 14-15: Power Point presentations (individual) Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
・春学期に同じ. *Basic Steps to Writing Research Papers （Kluge&Taylor, Cengage Learning） / Handouts *Reading materials: TBA	・春学期に同じ.

13 年度	英語上級 (AE) (Exploring Social Issues)	担当者	J．ワインバーグ

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	Week 1: Introduction to the course. Unit 1: The Sentence and the paragraph. Week 2: Continue Unit 1: The Sentence and the paragraph. Week 3: Unit 2: Descriptive paragraphs Week 4: Continue Descriptive paragraphs Week 5: Unit 3: Example paragraphs Week 6: Continue Unit 3: Example paragraphs Week 7: Unit 4: Process paragraphs Week 8: Continue Unit 4: Process paragraphs Week 9: Unit 5: Narrative paragraphs Week 10: Continue Unit 5: Narrative paragraphs Week 11: Unit 6: Opinion paragraphs Week 12: Continue Unit 6: Opinion paragraphs Week 13: Course review and catchup Week 14: Research paper presentations Week 15: Research paper presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Kluge & Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers.* (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・Savage & Shafiei, *Effective Academic Writing 1: The Paragraph.* ISBN 9780194323468	評価基準：準備・参加（10%），課題 (15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表 (20%) 出席: 出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級 (AE) (Exploring Social Issues)	担当者	J．ワインバーグ

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	Week 1: Introduction to the course. Unit 1: Descriptive language; basic paragraph structure Week 2: Continue Unit 1: Descriptive language; basic paragraph structure Week 3: Unit 2: Problem-solution paragraph structure Week 4: Continue Problem-solution paragraph structure Week 5: Unit 3: Main ideas and details; summarizing Week 6: Continue Unit 3: Main ideas and details; summarizing Week 7: Unit 4: Supporting opinions; topic sentences Week 8: Continue Unit 4: Supporting opinions; topic sentences Week 9: Unit 5: Analyzing a narrative; using hooks Week 10: Continue Unit 5: Analyzing a narrative; using hooks Week 11: Unit 7: Comparisons; sentence variety Week 12: Continue Unit 7: Comparisons; sentence variety Week 13: Course review and catchup Week 14: Research paper presentations Week 15: Research paper presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ. Arline Burgmeier and Rachel Lange. *Inside Writing: The Academic Word List in Context.* ISBN 9780194601160	春学期に同じ.

13 年度	英語上級(AE) (Daily Issues in Our Society)	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	1 Introduction & Guideline for the course 2 Topic 1-1 through Reading 3 Topic 1-2 with Discussion 4 Topic 2-1 through Reading 5 Topic 2-2 with Discussion 6 Gathering information & Sharing references 7 Mid-term Presentation 8 Topic 3-1 through Reading 9 Topic 3-2 with Discussion 10 Topic 4-1 through Reading 11 Topic 4-2 with Discussion 12 Gathering information & Sharing references 13 Final Presentation 1 14 Final Presentation 2 15 Review for the final paper
テキスト、参考文献	**評価方法**
・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1	評価基準 : 準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%) 出席: 出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級(AE) (Several Issues in the World)	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	1 Introduction & Guideline for the course 2 Topic 1-1 through Reading 3 Topic 1-2 with Discussion 4 Topic 2-1 through Reading 5 Topic 2-2 with Discussion 6 Gathering information & Sharing references 7 Mid-term Presentation 8 Topic 3-1 through Reading 9 Topic 3-2 with Discussion 10 Topic 4-1 through Reading 11 Topic 4-2 with Discussion 12 Gathering information & Sharing references 13 Final Presentation 1 14 Final Presentation 2 15 Review for the final paper
テキスト、参考文献	**評価方法**
・春学期に同じ. Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1	・春学期に同じ.

13 年度	英語上級(AE) (アメリカとヒロイズム)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	1 covering the theme 2 details of the story 3 detail of the story 4 watching film to discuss 5 // 6 opinion paper to discuss 7 choosing a topic to write 8 as to doing research 9 discussing how to approach the topic 10 examples of good research papers 11 presenting your approach to discuss 12 // 13 // 14 reviewing the story 15 reviewing your paper
テキスト、参考文献	**評価方法**
・ *Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1)* ・*Basic Steps to Writing Research Papers* *Copies*	評価基準：準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%) 出席: 出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度	英語上級(AE) (アメリカと正義)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners	1 covering the theme 2 details of the story 3 detail of the story 4 watching film to discuss 5 // 6 opinion paper to discuss 7 choosing a topic to write 8 as to doing research 9 discussing how to approach the topic 10 examples of good research papers 11 presenting your approach to discuss 12 // 13 // 14 reviewing the story 15 reviewing your paper
テキスト、参考文献	**評価方法**
・春学期に同じ. ・Basic Steps to Writing Research Papers Copies	春学期に同じ.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度	英語上級（AE)_再履修	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.	Week 1: Orientation / Academic skills 2: Patterns of organization (1) Reading (1) / Discussion and Facilitation (1) 3: Patterns of organization (2) Reading (2) / Discussion and Facilitation (2) 4: Patterns of organization (3) Reading (3) / Model conference 5: Patterns of organization (4) Reading (4) / Opinion paper 6: Patterns of organization (5) Reading (5) / Oral presentations (groups) 7-13 : Readings / Research paper -topics -sources –note taking –thesis statement and plan -abstract –outline -drafts –conferencing -final product 14-15: Power Point presentations (individual) Evaluation

テキスト、参考文献	評価方法
· Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) *Basic Steps to Writing Research Papers （Kluge&Taylor, Cengage Learning） / Handouts *Reading materials: TBA	評価基準：準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%) 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度以降	英語演習 I (Communication and Critical Inquiry) (2013 年度以降入学者用)	担当者	是澤　克哉

講義目的、講義概要	授業計画
The theme of the course focuses on acquiring basic public speaking skills. By the end of the course, students will become: 1) More competent communicators using knowledge, skill, and judgment. 2) More critical consumers and producers of ideas and information (using analytical reasoning skills in the reception, collection, and presentation). 3) Better background researchers to develop well-informed presentations. 4) More competent in communicating in small group discussions. 5) Better communicators in a democracy (demonstrating ethical communication, considering multiple perspectives on controversial issues)	1. Course Orientation, Assign Syllabus Contract 2. Definition, Apprehension, Self Concept 3. Critical Thinking 4. Topic Selection, Information Literacy 5. Supporting Your Ideas, Tests of Evidence 6. Organization, Introduction and Conclusion 7. Language, Delivery, Presentation Aids 8. Construct Arguments 9. Argumentation and Fallacies 10. Persuasive Speech Day 11. Persuasive Speech Day 12. Group Communication, Managing Conflict 13. Cultural Influences 1 14. Exam or Group Speech 15. Review, Follow-ups, and Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Simonds, C. J., Hunt, S. K., & Simonds, B. K. (2008). Presenting ideas: Becoming critical producers and consumers of messages. Needham Heights,	Activities (20 pts.), Portfolio and Quizzes (20 pts.) Persuasive Speech: (30pts.), Exam or Group Speech (30%)

13 年度以降	英語演習 I (Argumentation and Debate) (2013 年度以降入学者用)	担当者	是澤　克哉

講義目的、講義概要	授業計画
The theme of the course focuses on acquiring basic argumentation skills. By the end of the course, students will: 1) Learn basic concepts and knowledge of debate and argumentation 2) Develop research skills 3) Analyze social controversial issues critically 4) Construct and advocate arguments effectively. 5) Engage in small group discussion	1. Course Orientation 2. Argumentation as a Human Symbolic Activity 3. Types of Propositions, Debate Format 4. Research Methodologies 5. The Language of Argument, Types of Arguments 6. Building Arguments 7. Refuting Arguments 8. Evaluating Arguments 9. Matching, Preparation for the 1st Debate 10. Team Debate (Topic #1), Oral Critique 11. Team Debate (Topic #1), Oral Critique 12. Matching, Preparation for the 2nd Debate 13. Team Debate (Topic #2), Oral Critique 14. Team Debate (Topic #2), Oral Critique 15. Review, Follow-ups, and Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hollihan, T. A., & Baaske, K. T. (2005). Arguments and arguing: The products and process of human decision making. Illinois: Waveland Press, Inc.	Assignments (30 pts.), Quizzes (30 pts.), Policy Debate #1: (20 pts.), Policy Debate #2 (20 pts.)

13 年度以降	英語演習 I (U.S. History since 1865) (2013 年度以降入学者用)	担当者	木村　正美

講義目的、講義概要	授業計画
This course is the second half of a U.S. history survey from 1865, covering the period from Reconstruction to the end of the Cold War. We will chronologically follow and see intertwined key political, economic, and socio-cultural developments during the second half of American history through an examination of primary as well as secondary sources. Overall, you will see a tortuous course of American "liberalism" since the late nineteenth century. The objective of this English Seminar is not only to gain and deepen knowledge about American history from the 1860s to the 1980s. The course is designed also to improve your English writing, reading, listening, and speaking skills through various activities and to nurture your critical and analytical thinking abilities on historical issues.	1. Introduction 2. End of the Civil War/ Reconstruction 3. Westward Expansion and Indian Policy 4. Industrialization and the Gilded Age 5. Progressivism 6. U.S. Overseas Expansion 7. WWI 8. 1920s 9. New Deal 10. WWII 11. Beginning of the Cold War 12. 1950s 13. Civil Rights Movement 14. Vietnam War 15. Conclusion: 1970s-1980s
テキスト、参考文献	**評価方法**
James L. Roark et al., *The American Promise: A Compact History Volume II: From 1865* (Boston: Bedford/ St. Martin's, 2010), 4th ed., and others	Presentation 15%, Quizzes 20% (2% x 10), Reflection Papers 20% (5% x 4), Final Paper 20%, Participation 25%

13 年度以降	英語演習 I (The U.S. and the Vietnam War) (2013 年度以降入学者用)	担当者	木村　正美

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will learn about U.S. involvement in the Vietnam War, putting it in a large international context. This is mainly a political-diplomatic history course, but we will deal with a variety of related issues encompassing French colonialism in Vietnam, the rise of Vietnamese nationalism and independence movement, Vietnamese and American worldviews and mutual perceptions, the roles of the Soviet Union and the People's Republic of China (PRC) in war, military strategies, soldiers' experiences, America's antiwar movement, and the legacies and memories of the Vietnam War. The objective of this English Seminar is not only to know about key facts and events relating to the Vietnam War. The course is designed also to improve your English writing, reading, listening, and speaking skills through various activities and to nurture your critical and analytical thinking abilities on historical issues.	1. Introduction 2. Vietnam and the U.S. before 1945 3. End of WWII/ Beginning of the Cold War 4. Eisenhower Administration and the Demise of French Colonialism 5. Americans Replacing the French 6. Kennedy's Commitment to Vietnam 7. Johnson's "Americanization" of War 8. Evaluating Johnson's Decisions for War 9. On the War Front 10. Tet and Search for Peace 11. Nixon's Policy toward Vietnam 12. Antiwar Movement 13. U.S. Withdrawal and Peace Accords 14. Aftermath and Legacies of War 15. Conclusion: Evaluations of U.S. Involvement in the Vietnam War
テキスト、参考文献	**評価方法**
George C. Herring, *America's Longest War: The United States and Vietnam, 1950-1975* (New York: McGraw-Hill, 2013), 5th ed., and others	Presentation 15%, Quizzes 20% (2% x 10), Film Critiques 20% (10% x 2), Final Paper 20%, Participation 25%

13 年度以降	英語演習 I (World Englishes) (2013 年度以降入学者用)	担当者	小島　章子

講義目的、講義概要	授業計画
英語でコミュニケーションを行う相手は、もはやアメリカ人、イギリス人以外の人々になる状況のほうが多くなっています。それに伴い、発音や語彙の違いを含む世界の多様な英語についての知識と理解力の重要性が増しています。 この授業では、まず、英語圏の国々の歴史、社会、文化について英語で学びます。さらに、様々な英語の言語学的な特徴を分析します。オセアニア、アジア、アフリカで母語として話されている英語ほかに、アメリカ英語の中の方言、イギリス英語の中の方言についても生の音声を聞き、方言にまつわる背景についても議論します。 英語圏の国々についての理解を深めるだけでなく世界の共通語としての英語についての理解を深めることで、より円滑なコミュニケーション力の上達を目指します。	1. Introduction 2. English as a Lingua Franca 3. English in New Zealand 4. English in Australia 5. English in Bangladesh 6. English in Malaysia 7. English in the Philippines 8. English in Tanzania 9. English in South Africa 10. Review 11. New York City English 12. Black English 13. Scottish English 14. Review 15. Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Englishes of the World (2006 三修社)	Class participation : 70% Final Presentation: 30%

13 年度以降	英語演習 I (English in the World) (2013 年度以降入学者用)	担当者	小島　章子

講義目的、講義概要	授業計画
近年、英語圏以外の国々の人々の間で使われる共通語としての英語の重要性がますます高まっていますが、英語圏でない国々ではどのような英語教育がなされ、英語の役割はどのように理解されているのでしょうか。また、日本人、日本という国はどのように理解されているのでしょうか。 この授業では、英語圏でない国々の人々への生のインタビューを聞きながら、各国の歴史、社会、文化、英語学習の仕方などを英語で学びます。ヨーロッパ、アジア、中東、南アメリカ、アフリカにおける英語事情を理解するとともに、それぞれの母語との関わりや英語の言語学的特徴の分析も行います。これらを理解しつつ、世界の共通語としての英語のリスニング力と表現力の上達を目指します。	1. Introduction 2. American English vs. British English 3. English in Germany 4. English in France 5. English in Italy 6. English in Romania 7. English in Israel 8. Review 9. English in Myanmar 10. English in Thailand 11. English in Turkey 12. English in Peru 13. English in Tunisia 14. Review 15. Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Englishes of the World (2006 三修社)	Class participation : 70% Final Presentation: 30%

13 年度以降	英語演習 I (英語でディスカッション・プレゼンテーションⅠ) (2013 年度以降入学者用)	担当者	小瀬　百合子

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では、1年次のスピーキングで学習したディスカッションとプレゼンテーションの能力をさらに向上させることを目的とする。 ディスカッションのテーマは最初の数回は教員が提示するが、その後は学生が順にディスカッションリーダーを担当し、テーマを提示、他の学生への質問をする。そして、円滑で内容の濃いディスカッションが出来るように工夫する。この活動を通し、参加者全員にとって益となるディスカッションとはどのようなものかを学ぶ。 プレゼンテーションは、それぞれが他の学生に宣伝したいもの（商品、映画、小説、サークル、アルバイトなど）を準備し、その良さをアピールする。他の学生は、そのプレゼンを聞いてそれを買いたい（もしくは、見たい、読みたい、参加したい）と思ったかどうか票をとる。この活動を通して、聴衆を説得するプレゼンの要素について学ぶ。 スピーチ、映画、ドラマなどから１セクションを選び、それを真似、どれだけオリジナルに近いかを競う。この活動を通し、英語の音とイントネーションを身に付ける。	1. Overview, Self-introduction, Discussion 1 2. Discussion 2 3. Discussion 3 4. Discussion 4 5. Discussion 5 6. Presentation 1 7. Discussion 6 8. Discussion 7 9. Discussion 8 10. Discussion 9 11. Discussion 10 12. Presentation 2 13. Choosing a scene form a movie, Practice 14. Practice 15. In-class competition
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし。 プリントを配布する。	授業への参加度　40% ディスカッションリーダー　20% プレゼンテーション　20%　　アフレコ　20%

13 年度以降	英語演習 I (英語でディスカッション・プレゼンテーションⅡ) (2013 年度以降入学者用)	担当者	小瀬　百合子

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では、1年次のスピーキングで学習したディスカッションとプレゼンテーションの能力をさらに向上させることを目的とする。 ディスカッションのテーマは最初の数回は教員が提示するが、その後は学生が順にディスカッションリーダーを担当し、テーマを提示、他の学生への質問をする。そして、円滑で内容の濃いディスカッションが出来るように工夫する。この活動を通し、参加者全員にとって益となるディスカッションとはどのようなものかを学ぶ。 プレゼンテーションは、それぞれが他の学生に宣伝したいもの（商品、映画、小説、サークル、アルバイトなど）を準備し、その良さをアピールする。他の学生は、そのプレゼンを聞いてそれを買いたい（もしくは、見たい、読みたい、参加したい）と思ったかどうか票をとる。この活動を通して、聴衆を説得するプレゼンの要素について学ぶ。 スピーチ、映画、ドラマなどから１セクションを選び、それを真似、どれだけオリジナルに近いかを競う。この活動を通し、英語の音とイントネーションを身に付ける。 春学期履修した学生は、ディスカッション・プレゼン・アフレコは春学期とは別のテーマにしなくてはならない。	1. Overview, Self-introduction, Discussion 1 2. Discussion 2 3. Discussion 3 4. Discussion 4 5. Discussion 5 6. Presentation 1 7. Discussion 6 8. Discussion 7 9. Discussion 8 10. Discussion 9 11. Discussion 10 12. Presentation 2 13. Choosing a scene form a movie, Practice 14. Practice 15. In-class competition
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし。 プリントを配布する。	授業への参加度　40% ディスカッションリーダー　20% プレゼンテーション　20%　　アフレコ　20%

13 年度	英語演習Ⅱ（Planet Earth） （2013 年度以降入学者用）	担当者	J．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
This course will introduce students to the wonders of our planet. Reading, group discussion and practical task-based exercises will be used to build an understanding of the formation, history, and the processes that continue to shape our world. The goals of this course are to improve English ability, develop an understanding of the processes active on planet Earth and develop critical thinking skills. Students will complete weekly classroom activities, share ideas in groups and present their answers to the class. Most importantly we hope to have fun improving our understanding of the planet on which we live.	Week 1: Introduction and course outline Week 2: Origin of the Earth Week 3: Size & Shape of the Earth Week 4: The Earth in space Week 5: Review Test 1 Week 6: What can rocks tell us? Week 7: Inside the Earth Week 8: Earthquakes Week 9: Volcanoes Week 10: Review Test 2 Week 11: Comprehending Geological Time Week 12: The Age of the Earth Week 13: Geological History 1 Week 14: Geological History 2 Week 15: Review Test 3 The teacher may change the (order of) topics covered
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook to be announced. Students will need access to a computer.	Assessment will be based on participation, tests and completion of activities.

13 年度	英語演習Ⅱ（Life on Earth） （2013 年度以降入学者用）	担当者	J．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
This course will help students understand the origin and evolution of life on earth. The goals of this course are to improve English ability, and to develop an understanding of the evolution of life on planet Earth (and on other planets), through lectures, readings, group discussions and task-based exercises. This course aims to develop critical thinking skills. Students will complete weekly classroom activities, share ideas in groups and present their answers to the class. Most importantly we hope to have fun improving our understanding of the miracle of life.	Week 1: Introduction and course outline Week 2: What is “Life”? Week 3: The origin of Life on Earth Week 4: Understanding Time Week 5: The age of the Earth Week 6: Review Test 1 Week 7: Before Darwin Week 8: Charles Darwin Week 9: The Theory of Evolution Week 10: Review Test 2 Week 11: Evidence for Evolution 1 Week 12: Evidence for Evolution 2 Week 13: Amazing adaptations Week 14: Human evolution Week 15: Review Test 3 The teacher may change the (order of) topics covered
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook to be announced. Students will need access to a computer.	Assessment will be based on participation, review tests and completion of activities.

13 年度	英語演習 II (2013 年度以降入学者用)	担当者	未定

講義目的、講義概要	授業計画
Students will be familiarised with the content theme through reading, discussions, presentations, and writing research papers. They will also be trained in the extensive command of the English language involving advanced technical terminology and language uses specific to the theme. Class is taught and participated in English.	1. Background to the content theme 2. Basic readings in the theme (1) 3. Basic readings in the theme (2) 4. Individual research about the theme 5. Preparing presentation 6. Discussions about the theme 7. Summary and outlining research paper 8. Advanced readings in the theme (1) 9. Advanced readings in the theme (2) 10. Individual research about the theme 11. Preparing presentation 12. Discussions about the theme 13. Summary and outlining research paper 14. Editing & revising research papers 15. Summary & review
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業開始時までに指定する.	評価基準 : 準備・参加・課題 (30%), research paper (40%: outline, drafts, final product), 口頭発表 (30%)

13 年度	英語演習 II (2013 年度以降入学者用)	担当者	未定

講義目的、講義概要	授業計画
Students will be familiarised with the content theme through reading, discussions, presentations, and writing research papers. They will also be trained in the extensive command of the English language involving advanced technical terminology and language uses specific to the theme. A different theme will be chosen from the spting semester. Class is taught and participated in English.	1. Background to the content theme 2. Basic readings in the theme (1) 3. Basic readings in the theme (2) 4. Individual research about the theme 5. Preparing presentation 6. Discussions about the theme 7. Summary and outlining research paper 8. Advanced readings in the theme (1) 9. Advanced readings in the theme (2) 10. Individual research about the theme 11. Preparing presentation 12. Discussions about the theme 13. Summary and outlining research paper 14. Editing & revising research papers 15. Summary & review
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業開始時までに指定する.	春学期に同じ.

13 年度	英語演習 II (Language and Culture through Storytelling) (2013 年度以降入学者用)	担当者	S．K．エリス

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to improve student discussion, debate, and presentation skills by looking at current issues in American life. Each week we will visit a theme as it connects to a current event or issue. Students will be encouraged to discuss not only the topic, but connect the broader theme to their own lives through their own stories. In class, we will also listen to popular podcasts, news programs, and songs. Students are expected to prepare for each class by doing short readings and reflecting on them in a media journal. They will also use the journal to take notes on new vocabulary and to reflect on class discussions and presentations. In addition to the readings, students will watch and present on assigned programs outside of class. Short in-class assignments, interviews, and weekly quizzes will be given to assess comprehension.	1. Introduction and course overview 2. Gossip 3. Self-Improvement 4. Coincidences 5. Red States vs. Blue States 6. Small Towns 7. Urban Legends 8. Justice 9. Return to the Scene of the Crime 10. The Break Up 11. Childhood 12. Social Engineering 13. Scenes from a Recession 14. Course Review & Final Presentations 15. Final Presentations and Final Quiz *The instructor may amend the syllabus.*
テキスト、参考文献	**評価方法**
Readings, links & audio visual materials will be provided by the instructor.	Participation and Attitude 20% Worksheets and Quizzes 30% Media Journal 20% Informal Presentations and Interviews 10 % Final Presentations 20%

13 年度	英語演習 II (Around the Water Cooler: Discussing Movies and Television) (2013 年度以降入学者用)	担当者	S．K．エリス

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to improve student discussion, debating, and presentation skills by looking at important issues as seen through American cinema and television. Students will read about and discuss current issues, and view short excerpts from American films and television dramas for discussion. They will also study key scenes and do small group performances for the class. Students will not only learn vocabulary from the films, but also the academic vocabulary with which to critique a film. Students are expected to prepare for each class by doing short readings and reflecting on them in a media journal. They will also use the journal to take notes on new vocabulary and to reflect on class discussions and presentations. In addition to the readings, students will be required to watch and present on assigned films outside of class. Short in-class assignments, interviews, and quizzes will be given to assess comprehension.	Week 1: Course Introduction and Overview Week 2: Working Women Week 3: Working Women Week 4: The Changing Family Week 5: The Changing Family Week 6: Education Week 7: Education Week 8: Crime Week 9: Crime Week 10: The Wealth Gap Week 11: The Wealth Gap Week 12: Immigration Week 13: Immigration Week 14: Course Review & Begin Final Presentations Week 15: Final Presentations & Review Quiz *The instructor may amend the syllabus.*
テキスト、参考文献	**評価方法**
Readings, links & audio visual materials will be provided by the instructor.	Participation and Attitude 20% Worksheets and Quizzes 30% Media Journal 20% Informal Presentations and Interviews 10 % Final Presentations 20%

13 年度	英語演習Ⅱ(国際教育) (2013 年度以降入学者用)	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
■本講座の主目的は、英語を媒体とし、（１）国際理解の観点より、教育・人材育成に関わる多様な視点を培う（２）国際社会に必要なスキルの向上、の２点である。 ■授業は、教育・人材育成に関わるテーマ毎に、（１）導入・ウォームアップ（２）インプット（３）アウトプットの３段階構成とする。 ■インプットでは、クラス全体で英語の読み物や視覚教材等を幅広い観点から共有するとともに、リスニングやリーディング力の向上を図る。 ■アウトプットでは、「インプット」に自らの考えを加味し、毎時、ワークショップ形式のアクティビティー、ファシリテーション、ディスカッション、ペア/ グループワーク、プレゼンテーション等を実施し、英語による発信力を鍛える。 さらに、幅広い分野への応用可能な問題解決能力、企画・創造力等の資質の向上を目指す。	１．オリエンテーション/ 自己紹介 ２．国際理解・国際教育のフレームワーク ３～１２　国際教育に関わるテーマ学習 / スキル １３～１４．グループプロジェクト プレゼンテーション １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：随時プリント・資料を配布 参考文献：随時紹介	授業への参加度　２０％ クラス内外の課題　５０％ プレゼンテーション　３０％

13 年度	英語演習Ⅱ(国際教育) (2013 年度以降入学者用)	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
■本講座の主目的は、英語を媒体とし、（１）国際理解の観点より、教育・人材育成に関わる多様な視点を養う（２）国際社会に必要なスキルの向上、の２点である。 ■授業は、教育・人材育成に関わるテーマ毎に、（１）導入・ウォームアップ（２）インプット（３）アウトプットの３段階構成とする。 ■インプットでは、クラス全体で英語の読み物や視覚教材等を幅広い観点から共有するとともに、リスニングやリーディング力の向上を図る。 ■アウトプットでは、「インプット」に自らの考えを加味し、毎時、ワークショップ形式のアクティビティー、ファシリテーション、ディスカッション、ペア/ グループワーク、プレゼンテーション等を実施し、英語による発信力を鍛える。 さらに、幅広い分野への応用可能な問題解決能力、企画・創造力等の資質の向上を目指す。	１．オリエンテーション/ 自己紹介 ２．国際理解・国際教育のフレームワーク ３～１２　国際教育に関わるテーマ学習 / スキル １３～１４．グループプロジェクト プレゼンテーション １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：随時プリント・資料を配布 参考文献：随時紹介	授業への参加度　２０％ クラス内外の課題　５０％ プレゼンテーション　３０％

13 年度	英語演習 II (2013 年度以降入学者用)	担当者	齋藤　雪絵

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to improve students' English abilities (with particular focus on critical reading, discussion, and academic presentation skills) through learning issues related to English education. Active participation in classes is essential, and therefore, students who are absent more than three times without any particular reasons will not be able to pass this course. Students are expected to read supplementary materials critically prior to the class, reflect on their own experiences of learning (and teaching) English, report information they research outside, and conduct several individual/group projects related to the topics covered in the course. Students should have an interest in understanding issues relevant to English learning and teaching inside as well as outside of Japan.	1. Introduction (Course Orientation) 2. Individual differences: Attitudes & motivation 3. Reflecting on your own English learning trajectory (1) 4. Reflecting on your own English learning trajectory (2) 5. English education in Japan (1) 6. English education in Japan (2) 7. English education in Asia & Europe 8. Native-speakerism in Japan (1) 9. Native-speakerism in Japan (2) 10. Teaching English as an international language (1) 11. Teaching English as an international language (2) 12. L1 use in English classrooms (1) 13. L1 use in English classrooms (2) 14. Final project presentation preparation 15. Final project presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the instructor.	Homework assignment and in-class performance 70% Final Project 30%

13 年度	英語演習 II (2013 年度以降入学者用)	担当者	齋藤　雪絵

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to improve your English abilities (with particular focus on critical reading, discussion, and academic presentation skills) through learning broad issues related to language, culture, and identity. Active participation in classes is essential, and therefore, students who are absent more than three times without any particular reasons will not be able to pass this course. Students are expected to read supplementary materials critically prior to the class, reflect on their own experiences with English and different cultures, report information they research outside, and conduct several individual/group projects related to the topics covered in the course. Students should have an interest in understanding issues relevant to the status of English inside as well as outside of Japan. The fundamental policy for this course is the same as the course offered in the spring semester, but the contents are different.	1. Introduction (Course orientation) 2. Bilingualism 3. Language & identity (1) 4. Language & identity (2) 5. English in Japan (1) 6. English in Japan (2) 7. English skills and strategies for group work 8. Group work (1) English in other Asian countries 9. Group work (2) English in other Asian countries 10. Group presentation 11. English for international awareness (1) 12. English for international awareness (2) 13. Student-selected issues (discussion) 14. Final project presentation preparation 15. Final project presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the instructor.	Homework assignment and in-class performance 70% Final Project 30%

13 年度	英語演習 II (Deconstructing Tests with Exercises) (2013 年度以降入学者用)	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
この「英語演習」(Deconstructing Tests with Exercises) では様々な英語のテストを用い（解体し）ながら、そのテストのねらいや妥当性を検証しつつ、各自がすでに持つあらゆる英語能力を駆使し、さらなる総合的な英語力向上を図ることをねらいとします。テストを用いるといっても何がしかの特定のテスト対策講座ではありません。しかし、あるテストをよく知ることで結果としてそのテストに強くなった、ということはありえるでしょう。最初はこちらである程度、話題・素材提供をしますが、集まった学生諸君の興味・関心によってはいい意味で大いに逸脱する可能性もあります。いずれにせよ、積極的な参加、姿勢、情熱が必要で、受身的な姿勢では歓迎されません。なお、通常言語科目同様、欠席が特段の理由なく３回を越えてはいけません。予定している内容は、Critical reviews for various tests など。また、授業内では英語での参加・進行を基本とします。 The aim of this course is to improve your English skills through Deconstructing Tests with Exercises. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes.	1 Introduction 2 Deconstructing Tests with Exercises 1 3 Deconstructing Tests with Exercises 2 4 Deconstructing Tests with Exercises 3 5 Deconstructing Tests with Exercises 4 6 Deconstructing Tests with Exercises 5 7 Deconstructing Tests with Exercises 6 8 Deconstructing Tests with Exercises 7 9 Deconstructing Tests with Exercises 8 10 Deconstructing Tests with Exercises 9 11 Deconstructing Tests with Exercises 10 12 Deconstructing Tests with Exercises 11 13 Deconstructing Tests with Exercises 12 14 Deconstructing Tests with Exercises 13 15 Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced at the first lesson	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%

13 年度	英語演習 II (English Songs & Lyrics with Exercises & Performances) (2013 年度入学者用)	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
この「英語演習」(English Songs & Lyrics with Exercises & Performances)では英語で歌われている歌（音声的、パフォーマンス的側面）とその歌詞（読解&解釈、翻訳論的側面）などを用いながら、各自がすでに持つあらゆる英語能力を駆使し、さらなる総合的な英語力向上を図るのがねらいです。最初はこちらである程度、話題・素材提供をしますが、集まった学生諸君の興味・関心によってはいい意味で大いに逸脱する可能性もあります。いずれにせよ、積極的に参加、姿勢、情熱が必要で、受身的姿勢は歓迎されません。なお、通常の言語科目同様、欠席が特段の理由なく３回を越えてはいけません。予定している内容は、Critical & Practical studies through Songs & Lyrics (with performances)など。また春学期同様、授業内では英語での参加・進行を基本とします。 The aim of this course is to improve your English skills through English songs & lyrics (with performance). It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes. (In this term the fundamental policy for the class is the same as Spring semester, but the contents are totally different.)	1 Introduction 2 English Songs & Lyrics with Exercises 1 3 English Songs & Lyrics with Exercises 2 4 English Songs & Lyrics with Exercises 3 5 English Songs & Lyrics with Exercises 4 6 English Songs & Lyrics with Exercises 5 7 English Songs & Lyrics with Exercises 6 8 English Songs & Lyrics with Exercises 7 9 English Songs & Lyrics with Exercises 8 10 English Songs & Lyrics with Exercises 9 11 English Songs & Lyrics with Exercises 10 12 English Songs & Lyrics with Exercises 11 13 English Songs & Lyrics with Exercises 12 14 English Songs & Lyrics with Exercises 13 15 Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced at the first lesson	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳論・英語 多言語間交流特殊研究 I （翻訳通訳論・英語）	担当者	中島　直美

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では通訳に関する基礎的な理論を概観し、演習を通じて通訳の初歩的なスキルを学びます。 通訳の歴史、理論研究、通訳者になるための条件、通訳プロセスの基本的な枠組みなど、通訳行為に関する基礎的理論や知識を学ぶとともに、実際の通訳訓練も行い受講者の言語運用能力の向上を同時に目指します。 受講生によるプレゼンテーション及びペアワークが主体の授業になります。	1. オリエンテーション 2. 通訳とは 3. 通訳の種類と活躍の場 4. 通訳に求められるもの 5. 通訳の研究 6. 通訳のモデル 7. 通訳と翻訳 8. まとめ 9. 記憶とノートテーキング 10. 逐次通訳（1） 11. 逐次通訳（2） 12. 同時通訳（1） 13. 同時通訳（2） 14. 通訳とデリバリー 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：友野百枝・宮元友之・南津佳広著『通訳学 101』（大阪教育図書、2012 年）	プレゼンテーションの内容に基づき評価を行う。 なお出席は前提条件であり、出席が全授業の 2/3 に満たない場合、評価の対象外とする。

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳実習・英語 多言語間交流特殊研究Ⅳ（翻訳通訳実習・英語）	担当者	中島　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、翻訳の実技演習をおこなう。 翻訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的変化を起こさせることを狙う。 翻訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになる。英語の運用能力のみならず、日本語の運用能力、知識の増強なども行う予定である。	1 Newspaper Articles 2 Magazine Articles 3 Business Documents 4 Novels 5 Fashion Catalogs 6 Recipes 7 Children Books 8 Movie Subtitles 9 Business E-mails 10 Invitations 11 Signs and Directions 12 Travel Advertisements 13 Product Manuals 14 Visual Aids 15 Speeches
テキスト、参考文献	**評価方法**
田辺希久子・光藤京子『英日日英翻訳実践トレーニング』	課題により評価を行う。なお出席は前提条件であり、出席が全授業の 2/3 に満たない場合、評価の対象外とする。

13 年度	スペイン語上級	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
非ネイティブ講師の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 ネイティブ講師のクラスでは、「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。 この授業では特に予習が不可欠である。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度	スペイン語上級_再履修	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語上級の内容に従って、非ネイティブ講師の授業では購読を中心とした「読み」の訓練を、ネイティブ講師の授業では実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目指す。 スペイン語上級を参照のこと。	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 I	担当者	J．マルティネス

講義目的、講義概要	授業計画
El objetivo de esta asignatura es desarrollar la expresión oral de los estudiantes así como la confianza a la hora de expresarse e interactuar con hablantes nativos en situaciones de la vida diaria. Las clases se llevarán a cabo exclusivamente en español. Es FUNDAMENTAL la PARTICIPACIÓN ACTIVA en clase. Dependiendo del número de estudiantes y su nivel la clase se dividirá en tres partes: 1. Conversación (temas elegidos por los estudiantes). Discusión moderada por un estudiante. 2. Desarrollo de estrategias para la expresión oral, potenciando la fluidez por encima de la exactitud gramatical.. 3. Desarrollo de estrategias para realizar presentaciones de temas elegidos por los estudiantes ante una audiencia de habla hispana.	El contenido de la clase variará según el nivel de los estudiantes pero en principio intentaremos seguir el siguiente plan: 1. Presentación de la asignatura. 2. Expresar opiniones I. 3. Expresar opiniones II. 4. Contar algo, estructurar un relato. 5. Hacer generalizaciones y excepciones I. 6. Hacer generalizaciones y excepciones II. 7. Hacer conjeturas I. 8. Hacer conjeturas II. 9. Relatar experiencias. 10. Cómo hacer presentaciones I. 11. Cambiar de tema I. 12. Cambiar de tema II. 13. Hacer sugerencias. 14. Repaso y presentaciones II 15. Repasos y presentaciones II
テキスト、参考文献	**評価方法**
El profesor proporcionará el material necesario.	Participación: 40% Tareas: 30% Presentación: 30%

13 年度 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 II	担当者	J．マルティネス

講義目的、講義概要	授業計画
Continuando con los objetivos del primer semestre, desarrollaremos la capacidad de los estudiantes de expresar de forma independiente sus opiniones, argumentarlas y debatir con el resto de compañeros. Para ello deberán <u>moderar</u> discusiones sobre artículos de periódico de actualidad. Los estudiantes (dependiendo del número) tendrán que <u>realizar presentaciones</u> comparando aspectos económicos, políticos, educativos… entre Japón y un país de habla hispana de su elección. El objetivo es desarrollar la capacidad crítica y de evaluación de los estudiantes así como su capacidad de exponer argumentar y defender sus opiniones sobre un tema concreto.	El contenido de cada clase dependerá de cómo se haya completado el plan del primer semestre y del nivel de los estudiantes pudiéndose ampliar o reducir según sea este. 1. Presentación de la asignatura. 2. Expresiones coloquiales I. 3. El sistema educativo en España I. 4. El sistema educativo en España II. 5. Comparación de los sist. educ. español y japonés. 6. Expresiones coloquiales II. 7. El sistema político y electoral español I. 8. El sistema político y electoral español II. 9. Comparación sist. pol. y elect. español y japonés. 10. Expresiones coloquiales III. 11. El turismo en España I. 12. Comparación del turismo en España y Japón. 13. Expresiones coloquiales IV. 14. Repaso y presentaciones. 15. Repaso y presentaciones.
テキスト、参考文献	**評価方法**
El profesor suministrará el material adecuado	Participación: 40% Tareas: 30% Presentación: 30%

13 年度 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 I	担当者	N．ウエチ

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的•客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。スペインとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。	Plan de estudio sujeto a cambios. 1. Presentación del curso Argentina: información general 2. Literatura argentina: Parte I 3. Parte II 4. Parte III 5. Música argentina: folklore. Parte I 6. Presentación oral 7. Ecuador: Información general 8. Patrimonio de la Humanidad: Parte I 9. Parte II 10. Parte III 11. Colombia: información general 12. Literatura colombiana: Parte I 13. Parte II 14. Presentación oral 15. Resumen final.
テキスト、参考文献	**評価方法**
教室で配布	授業への参加態度、エッセイの結果という2つの要素から総合的に批判して付けます。50%を授業へ積極的な参加、残りの50%をエッセイと発表によって行う。

13 年度 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 II	担当者	N．ウエチ

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的•客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。スペインとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。	Plan de estudio sujeto a cambios. 1. México: información general 2. El Muralismo: grandes protagonistas. Parte I 3. El Muralismo: grandes protagonistas. Parte II 4. Frida Kahlo: obras representativas. Parte I 5. Parte II 6. Patrimonios de la Humanidad. Presentación oral 7. España: grandes protagonistas de la pintura. Parte I 8. España: grandes protagonistas de la pintura. Parte II 9. Parte III 10. Presentación oral sobre pintores españoles. 11. Cine hispanoamericano: grandes protagonistas. Parte I 12. Cine hispanoamericano: grandes protagonistas. Parte II 13. Análisis de una película. 14. Presentación oral 15. Resumen final.
テキスト、参考文献	**評価方法**
教室で配布	授業への参加態度,エッセイの結果という 2つの要素から総合的に批判して付けます。50%を授業へ積極的な参加、残りの 50%をエッセイと発表によって行う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 II	担当者	M. サンチェス

講義目的、講義概要	授業計画
En esta clase los estudiantes practicarán los cuatro destrezas (hablar, escuchar, escribir y leer) correspondientes a un nivel de lengua B1. Sin embargo, la clase se centrará en la expresión oral; hacer entrevistas, conversar en pequeños grupos, situaciones comunicativos, exposicion de temas, contar historias a partir de dibujos…	1. Presentación de la clase e introducción. 2. El cuerpo y la salud: Expresión oral. 3. El cuerpo y la salud: Comprensión lectora y expresión escrita. 4. El cuerpo y la salud: Comprensión auditiva, gramática y vocabulario. 5. Los viajes y la naturaleza: expresión oral. 6. Los viajes y la naturaleza: comprensión lectora y expresión escrita. 7. Los viajes y la naturaleza: comprensión auditiva, gramática y vocabulario. 8. La ciudad: expresión oral. 9. La ciudad: comprensión lectora y expresión escrita. 10. La ciudad: comprensión auditiva y gramática. 11. El tiempo libre: expresión oral. 12. El tiempo libre: comprensión lectora y expresión escrita. 13. El tiempo libre: comprensión auditiva y gramática. 14. Evaluación escrita de los contenidos del curso. 15. Evaluación de la expresión oral.

テキスト、参考文献	評価方法
Fotocopias	65% Examen escrito 10% Examen oral 25% Deberes, participación

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習Ⅱ	担当者	落合　佐枝

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語圏の映画を題材に、スペイン語を用いて「気持ちを表現する」「意見を述べる」ための演習を行う。母語とは異なる言語で自分の考えを伝えようとしたり、異なる文化背景の中に身を置いたりすることで、運用能力の向上とともに異文化能力を高めることがねらいである。具体的には、１）台本の講読、２）場面の再現、３）必要な表現の習得、４）内容についての意見の表明、の作業を行う。１）と２）については、グループで発表する。	映画を見て授業で扱う場面を全員で確認したあと、グループ分けを行い、それぞれのグループが好きな場面を選ぶ。各授業では、選んだ場面について担当グループが内容を説明したあと、全員で必要な表現を学び、スペイン語で簡単なコメントを書く練習をする。学期中に１度、台詞を再現する発表会を行う。最後に映画全体についてレポートを作成する。 １．授業説明、映画鑑賞１回目 ２．映画鑑賞２回目、グループ分け ３～１３．台本講読、表現練習、場面についてのコメント １４．選んだ場面を演じる １５．レポート提出、相互評価

テキスト、参考文献	評価方法
プリントを配布する。	毎回提出する授業レポート、授業への参加度などによる平常点４０％、場面の再現２０％、まとめのレポート４０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習Ⅱ	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 また、この演習では、DELE を意識した教材を使用し、DELE 取得を目指す学生の参考になるクラス構成をする。	以下のテーマの教材に沿って、購読、解説を行う。授業の様子により、進度やテーマの変更の可能性がある。 ① イントロダクション ② 文化（言語 1/2） ③ 文化（言語 2/2） ④ 文化（芸能：スペイン） ⑤ 時事（経済：スペイン） ⑥ 時事（政治：スペイン） ⑦ 時事（国際関係：スペイン） ⑧ 随想（スペインの作家） ⑨ 随想（ラテンアメリカの作家 1/2） ⑩ 随想（ラテンアメリカの作家 2/2） ⑪ 小説・物語（短編 1/4） ⑫ 小説・物語（短編 2/4） ⑬ 詩（1/2） ⑭ 詩（2/2） ⑮ 全体のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
随時プリント等配布。	授業への参加度、および定期試験によって評価する。

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳論・スペイン語 多言語間交流特殊研究Ⅲ（翻訳通訳論・スペイン語）	担当者	柴田　バネッサ

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳・通訳とは何か。実践例や演習を通じて、翻訳・通訳の概要を検討する。 翻訳では、文法の復習を兼て、接続法と表現に焦点を当てる。 また、スペインとラテンアメリカの歴史に焦点を当てながら翻訳者要請に有意義だとされているメモリーレッスンを試みる。伝達意図を即時につかみ、取りいれ、発表する練習を行う。通訳訓練の内容先取り訓練を兼ね行う。 通訳に関しては、通訳者の役割と訓練法の説明を行い、さらに通訳技術を応用した翻訳技法を用いて課題で演習を行う。日本語訳、スペイン語訳　２課題を提出する。 語彙のテストを１０回行う。	1. オリエンテーション　数字のＱＲ 2. 通訳と翻訳、相違点、ワーキングメモリーについて過去形を使う通訳演習　倫理問題 3. メモリーレッスン１　過去形を使う 4. メモリーレッスン２　5 センテンス通訳 5. メモリーレッスン３　5 センテンス通訳 6. メモリーレッスン４　摂続法を使う 7. メモリーレッスン５　接続法 8. メモリーレッスン６　未来形 9. 数字、接続法テスト　未来形 10. ノートテーキングとサマリー作成 11. ノートテーキングとサマリー作成 12. 長文音読と視訳 13. 長文音読と同時サイトラ 14. 実技試験 15. 予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布 テキストは初日に指示する。	口頭訳出演習への参加　30%　課題 30%　試験 20%　実技 20%　課題はＰＣ仕上げ

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳実習・スペイン語 多言語間交流特殊研究Ⅵ（翻訳通訳実習・スペイン語）	担当者	柴田　バネッサ

講義目的、講義概要	授業計画
SIM DEMO "Preparation" (featuring Perret senior): "España ha dejado de ser católica". https://www.youtube.com/watch?v=nnto66zeMik 数字ＱＲ　10 万以上の数字を聞いた瞬間にスペイン語で言えるように訓練します。 **Lourdes De Rioja** 会議通訳研究 原稿を音読、そして視訳、逐次通訳する。 以下の手順で本番に近い演習を目指す。 １．　音読、視訳 ２．　訳文検討、翻訳 ３．　ペアまたはグループによる逐次通訳演習 ４．　逐次通訳、ウィスパリング通訳 ５．　実技試験 ６．　同通の場合の削ぎ落しを検討する。 ７．　危機管理（パニック回避）	1. オリエンテーション、素材音読、　サマリー作成 2. 視訳（西-日）、サマリー作成、日本の事象（日-西） 3. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 4. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 5. 逐次通訳、ウィスパリング同通 6. 実技試験　課題訳文提出 7. 視訳（西-日）、サマリー作成、日本の事象（日-西） 8. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 9. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 10. 逐次通訳、ウィスパリング同通 11. 実技試験、素材音読、課題訳文提出 12. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 13. 視訳（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 14. 同通実技試験 15. 予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布	口頭訳出演習への参加　30%　課題 30%　試験 20%　実技 20%　課題はＰＣ仕上げ

13 年度	中国語上級	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
目的 これまでに学んだ中国語の基礎を固め、さらに応用力をやしなうことを目的とします。 ・読解力の向上を図る。 ・文法力を高める。 ・語彙力を増強する。 ・生の表現にふれ、語用について理解する。 ・中国の社会や文化について理解する。 概要 上記の目的を達成するために各担当教員が適切な教材を使用するので初回のガイダンスには必ず出席して説明を受け、詳しい資料を閲覧したうえで自分の興味とレベルにもっとも適切であると判断する授業を選択すること。	1.　ガイダンス 、資料配布 2.　～　各担当教員の授業計画による。 なお予定されている授業では下記の教材を用いる予定である。 蔡　『大学生のための現代中国１２話・Ⅱ』（中級程度） 加納　中国語連続ドラマ『浮沈』（上級） 虞　『新ブラッシュアップ中国語』（初中級程度） 永田　スピーチ集『在北大聴演講』（上級） 劉　『新ブラッシュアップ中国語』（初中級程度） 吉田　『大学生のための現代中国１２話・Ⅱ』（中級程度） 中国人教員は会話と作文の指導を主とし、日本人教員は内容理解と聞き取りの指導を主とする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは各担当教員が指定する。	平常点と期末試験またはレポートにより総合的に評価します。

13 年度	中国語上級_再履修	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期「中国語上級」の再履修クラスとして開講します。 テキストは「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研　朝日出版社）を使用し、１・２年に学んだ基礎中国語の文法、文型を用いて日常会話、リスニングを練習し、より正確な表現力と即戦力を身に着けることを目指す。会話体と文章体の違いについても理解を深める。練習問題を通じて中国語の基礎を確かなものとするとともに、応用力をつける。	一週目　会话：自我介绍 二週目　文章：全家福 三週目　会话：五一节 四週目　文章：过生日 五週目　会话：约会 六週目　文章：我的一天 七週目　会话：问路 八週目　文章：十月北京 九週目　会话：体育运动 十週目　文章：给姐姐的信 十一週目　会话：谈爱好 十二週目　文章：民族音乐家 阿炳 十三・十四週目　復習 十五週目　学期のまとめと期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研　朝日出版社）	平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。

13 年度 12 年度以降	中国語演習 中国語演習 I	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
中国の新聞・雑誌やブログから拾ったニュースが日本でも報道されることが多い。 これらから面白いニュースを拾って，そのネタ元となったであろう中国語による記事を読んでいく。 “ナマの”記事だけに，語彙や文体に特有のものも含まれる一方，内容の面白さもある。楽しんで中国語の文章を読む体験をしてもらう。 もちろん，教科書のようにピンイン付きの分かち書きになどになったテキストではないので，基礎力と相当の努力が必要となる。	1　学食の女性職員がつまみ食い？ 2　4 億人が標準語を話せず、コミュニケーションの障害に 3　列車の空席めぐっておばちゃん 2 人が大ゲンカ！ 4　泥酔した中年女性、長江に浮かんで爆睡 10 時間！ 5　破られた禁忌、「ひとり飯」を学びはじめた中国人―米紙 6　学術論文「捏造するより買う方が早い」 7　米図書館、中国人利用者のため職員苦悩の日々 8　レースクイーンみたいな服で授業する教師が激写される 9　ハロウィンの仮装を禁止、違反者は身柄拘束も＝北京市地下鉄 10 「赤ちゃんの股割れズボン」使用で警察に通報される―米国 11 生きたネズミ 1000 匹が村に放たれパニックに！ 12 マンション３階で争う男女・・・直後に爆発 13 列車内「隣に座った男性の足臭すぎ。靴の中から違法薬物 14 「換気したかった」。旅客機内の「非常ドア」を開けた乗客 15 IKEA のカオス度がスケールアップしていると話題 16 なぜか奇抜な英語名を付けたがる中国系移民 ※　記事については差し替えの可能性があります
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。出席は評価の前提である。

13 年度 12 年度以降	中国語演習 中国語演習 II	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
中国の新聞・雑誌やブログから拾ったニュースが日本でも報道されることが多い。 これらから面白いニュースを拾って，そのネタ元となったであろう中国語による記事を読んでいく。 “ナマの”記事だけに，語彙や文体に特有のものも含まれる一方，内容の面白さもある。楽しんで中国語の文章を読む体験をしてもらう。 もちろん，教科書のようにピンイン付きの分かち書きになどになったテキストではないので，基礎力と相当の努力が必要となる。	1　4 歳児が父親のパスポートにいたずら書き、父親は出国拒否 2　美観向上のはずが汚物増加・・・使えないトイレ１００カ所 3　40 代男性が豆乳をガブ飲みし続ける → 胸が猛烈に成長！ 4　中国人の子どもの名付けに見る中国現代史 5　川に飛び込んだ女性を救出した男性２人、脱いだ服を盗まれる 6　スーパーの売り場で子供がおしっこ！注意受け“逆ギレ” 7　おばちゃん１万人“暴走”　中国、道路占拠や騒音物議 8　１４年たっても進歩なし・・・ごみ分別回収の試験地区 9　「食べても死ぬわけじゃない」・・・作業員が発言 10 元公安局のビルが前兆もなく一瞬で倒壊 11 動物園のパンダが不整脈、原因は「おばちゃんダンス」騒音 12 上海地下鉄で割り込みの女が注意されて逆ギレ、男性を殴打 13 発酵食品「臭豆腐」食べて多臓器障害 14 倒れた男性放置し、ダッシュで逃げる乗客たち 15 【元手が 7 倍に】いま「ゴキブリ養殖」が儲かるらしい！ ※　記事については差し替えの可能性があります
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。出席は評価の前提である。

13 年度 12 年度以前	中国語演習（中国語ビジネス会話） 中国語演習Ⅰ（中国語ビジネス会話）	担当者	吉田　桂子

講義目的、講義概要	授業計画
近年、国際社会に存在感を増す中国の急成長を背景に、日本においても、自ら中国語を操り、日中間のコミュニケーションの一翼を担える人材の育成が急務となっています。 本講では、貿易業務における基本的な中国語ビジネス会話を中心に、様々な専門用語を含めて、徹底的に「聞く」/「話す」/「理解する」訓練を繰り返すことにより、**聞いて話せる「中国語運用能力」**の確実な向上を目指します。 同時に、毎回の授業では、将来の進路選択の一助となるよう、実際の日中貿易に関するビジネス業務全般の基礎知識も一緒に習得します。 実際の授業では、**毎回全員にビジネス会話の発言チャンスを配分**しながらゼミ形式で授業を進めます。 一層の理解を深める為、秋学期中国語演習（金３限）の継続（通年）受講を薦めます。	1　商談の基礎/アポイントメント(輸入) 2　アポイントメントの取得　(輸入) 3　引き合い(輸入) 4　オッファー(輸入) 5　商品及びメーカの紹介(輸入) 6　カウンタービット(輸入) 7　コミッションに関する話し合い(輸入) 8　オーダーの確認(輸入) 9　支払条件(輸入) 10　船積期日(輸入) 11　パッキング条件(輸入) 12　契約締結(輸入) 13　インシュランス（保険）と A/R、WA、FPA(輸入) 14　クレームの申し立て(輸入) 15　実習とまとめ(輸入)
テキスト、参考文献	**評価方法**
・『実習ビジネス中国語―商談編』白水社	・授業準備、授業での平常点（提出物を含む）及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が６０点以上で単位取得。

13 年度 12 年度以前	中国語演習（中国語ビジネス会話） 中国語演習Ⅱ（中国語ビジネス会話）	担当者	吉田　桂子

講義目的、講義概要	授業計画
世界に存在感を増す中国の急成長を背景に、日本・中国両国間において、様々な分野に関心を持ち、かつ、中国語で直接コミュニケーションを取り得る人材がますます求められてきています。 本講では、日中間のビジネス業務に焦点を合わせ、基本的なビジネス会話を中心に、様々な専門用語を含め、徹底的に「聞く」/「話す」/「理解する」訓練を繰り返すことにより、**聞いて話せる「中国語運用能力」**の確実な向上を目指します。 同時に、毎回の授業を通して実際の日中貿易の一端に触れることにより、ビジネス業務全般の基礎知識も一緒に習得します。 授業は、実際に日中間のビジネス現場にいる講師が、中国語とともにビジネス分野の専門用語や「貿易業務」一般に関するリアルタイムの情報を皆さんと共有します。 実際の授業では、**毎回全員にビジネス会話の発言チャンスを配分**しながらゼミ形式で授業を進めます。	1　商談の基礎/アポイントメント(輸出) 2　アポイントメントの取得　(輸出) 3　引き合い(輸出) 4　オッファー(輸出)) 5　商品及びメーカの紹介(輸出) 6　カウンタービット(輸出) 7　コミッションに関する話し合い(輸出) 8　オーダーの確認(輸出) 9　支払条件(輸出) 10　船積期日(輸出) 11　パッキング条件(輸出) 12　契約締結(輸出) 13　インシュランス（保険）と A/R、WA、FPA(輸出) 14　クレームの申し立て（輸出) 15　実習とまとめ(輸出)
テキスト、参考文献	**評価方法**
・『実習ビジネス中国語―商談編』白水社	・授業準備、授業での平常点（提出物を含む）及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が６０点以上で単位取得。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度 12 年度以前	中国語演習 中国語演習Ⅱ	担当者	加納　希美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、中国語による連続ドラマ≪浮沉≫を鑑賞しながら、日常生活や社会的活動において使用頻度の高い表現を運用する能力を養います。 言葉の運用は「場面」と切り離して考えることはできません。運用能力向上のために、履修者には、主として次の作業が求められます。（1）ドラマの各シーンで得られる視覚的、聴覚的情報と、辞書に掲載される説明を総合的に参照しながら、登場人物の発話内容を理解する。（2）理解した内容を正確に暗唱する（3）理解した内容を、習得した表現を用いて概括し直す。 なお、「中国語演習」では第６話から取り組みますが、初回の講義では春学期の「上級中国語」で扱った第１～５話のストーリーを概観すると共に、適宜補助教材を配布することで履修者の学習をサポートします。 小テストの詳細については講義にて説明します。	1. 講義概要と第１～５話の紹介 2. 第６話　前半：忘年之交 3. 第６話　後半：“塞思”内部的纠纷 4. 第７話　前半：事件背后的阴谋 5. 第７話　後半：乔莉的犹豫 6. ◆ 第６～７話のまとめ：「読み合わせ」と「概要読解」 7. 第８話　前半：乔莉落入陷阱 8. 第８話　後半：何总的会议安排 9. 第９話　前半：不如意的恋情 10. 第９話　後半：倒霉的一天 11. ◆ 第８～９話のまとめ：「読み合わせ」と「概要読解」 12. 第 10 話　前半：乔莉的演示 13. 第 10 話　後半：海南岛会议 14. ◆ 第 10 話のまとめ：「読み合わせ」と「概要読解」 15. ◆ 総まとめ：６－10 話の内容に基づく会話練習と第 11 話以降の紹介

テキスト、参考文献	評価方法
毎回講義用教材を配布します。	提出課題への取り組み(50%)、小テスト（30%）、授業への積極的参加（20%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度 12 年度以前	中国語演習 中国語演習Ⅱ	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
北京大学で行われた各分野著名人のスピーチをテキストに用いて講読を行います。 講義目的 ・中国語の読解力を向上させる。 ・会話と文章の中間に位置するスピーチを学び、 洗練された話し方を身につける。 在此供学生阅读的文章皆为专家、教授、知名学者、社会名流在北大的精彩演讲。文章深入浅出、简练朴素，既有引人深思的深厚学理、又有催人奋进的人生智慧。文章兼容并蓄，皆可谓思想的精萃、智慧的集锦。在浮华之风日盛的今日社会，对所有“为国求学、努力自爱”的人们来说，北大讲座中传来的思想之声是真正值得认真品味和用心领会的。	1. ガイダンス　資料配布 2. 王选　我一生中的八个重大抉择 1 3. 王选　我一生中的八个重大抉择 2 4. 王选　我一生中的八个重大抉择 3 5. 杨善华 当代中国的家族势力 1 6. 杨善华 当代中国的家族势力 2 7. 杨善华 当代中国的家族势力 3 8. 振り返りと討論 9. 欧阳中石 对书法艺术的理解 1 10. 欧阳中石 对书法艺术的理解 2 11. 欧阳中石 对书法艺术的理解 3 12. 池宇峰 青年 事业 成功 1 13. 池宇峰 青年 事业 成功 2 14. 池宇峰 青年 事业 成功 3 15. 振り返りと討論

テキスト、参考文献	評価方法
授業中に適宜配布する。教科書は指定しない。	平常点と提出物により総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度 12 年度以前	中国語演習 中国語演習Ⅱ	担当者	劉　岸麗

講義目的、講義概要	授業計画
１・２年に学んだ基礎中国語の文法、文型を用いて日常会話、リスニングを練習し、より正確な表現力と即戦力を身に着けることを目指す。 テキストは「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研　朝日出版社）を使用する予定。会話の部分と読解の部分がそれぞれあるので、その違いも勉強していくうちに、自然に覚えることができる。大量の練習問題もあり、中国語の基礎を確かなものとなるでしょう。同時に、応用力もレベルアップができる。 会話、リスニング、問題集の練習は全員一緒に行う場合と担当者を決めて、完成してもらう場合があります。	一週目　会话：参观与旅游 二週目　文章：自行车日 三週目　会话：宾馆服务台 四週目　文章：三个和尚没水吃 五週目　会话：买东西 六週目　文章：笑脸相迎 七週目　会话：在医务室 八週目　文章：书包太沉重 九週目　会话：作客 十週目　文章：情人多算帐 十一週目　会话：谁请客 十二週目　文章：来盘“微笑” 十三・十四週目　復習 十五週目　学期のまとめと期末試験

テキスト、参考文献	評価方法
「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研　朝日出版社）	平常点と中間・期末テストにより評価します。

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳論・中国語 多言語間交流特殊研究Ⅱ（翻訳通訳論・中国語）	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：日本と中国の翻訳の歴史と理論についての理解を深め、さらに実際の翻訳作品を素材として比較や分析を行います。また、学期の最後には種々のテキストを用いて翻訳実習を行います。 中国における翻訳研究の歴史、日中間の翻訳交流の歴史などから翻訳がいかなる役割を果たしたかを探ります。林語堂、魯迅の翻訳論に関しては中国語の原文と参考用に日本語翻訳または参考文献を配布します。 学期の半ばでは、実際の翻訳作品を例にとって、日本語から中国語、および中国語から日本語へ翻訳された場合の言語表現の変化を検討します。 最後に実際に自分で翻訳を行い、翻訳の楽しさや難しさを体験します。	1.　ガイダンス 2.　翻訳の理論が扱う問題 3.　中国における翻訳の歴史 4.　中国の翻訳論と日本の翻訳論 5.　近代文学と翻訳 6.　日本における中国文学の翻訳（近代以前） 7.　日本における中国文学の翻訳（近代以降） 8.　日本文学の中国語訳を読む（1） 9.　日本文学の中国語訳を読む（2） 10. 中国文学の日本語訳を読む（1） 11. 中国文学の日本語訳を読む（2） 12. 翻訳実習（1） 13. 翻訳実習（2） 14. 翻訳実習（3） 15. 学期のまとめ、レポート提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定せず、授業中にそのつど配布する。	平常点（授業における積極性）と期末レポートで評価します。

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳実習・中国語 多言語間交流特殊研究Ⅴ（翻訳通訳実習・中国語）	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：中日・日中翻訳・通訳入門 履修者の中国語運用能力に適した翻訳通訳の練習を行います。 １～5 回：比較的読みやすい雑誌記事などの中→日翻訳 ５回目：中間試験 ６～９回：基本的な文法事項にそって中国語作文練習を行いながら日本語から中国語への訳出訓練をします。 10～15 回：中日・日中双方向の逐次通訳と同時通訳の練習を行い、すばやい反応力と応用力を養います。 ５・９・14・15 回目の授業で翻訳・通訳についてそれぞれ実技試験を実施し、平均点で総合点を出します。	1.　ガイダンス　中国語読解力の判定 2.　文化コラムの翻訳 3.　エッセイの翻訳 4.　社会ニュースの翻訳 5.　翻訳の試験及び中国語リスニング力の判定 6.　中国語への訳出練習（単文） 7.　中国語への訳出練習（単文） 8.　中国語への訳出練習（長文） 9.　中国語作文試験及びスピーキング力の判定 10. 原稿付き逐次通訳 11. 原稿なし逐次通訳 12. 原稿付き同時通訳 13. 原稿なし同時通訳 14. 通訳試験（逐次通訳） 15. 通訳試験（同時通訳）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定せず、授業中にそのつど配布する。	授業に対する積極性と実技試験の結果で評価します。

13 年度	韓国語上級	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。	1　大衆文化について 2　引用形の縮約形 3　風習や慣習について 4　ジャンル別文章表現法 5　Review 6　作文の構想／意見交換 7　仮定法 8　韓国語学習の経験について 9　丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語－高級Ⅰ』Kyung Hee University Press	中間テスト、期末テスト

13 年度	韓国語上級_再履修	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。	1　大衆文化について 2　引用形の縮約形 3　風習や慣習について 4　ジャンル別文章表現法 5　Review 6　作文の構想／意見交換 7　仮定法 8　韓国語学習の経験について 9　丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語－高級Ⅰ』Kyung Hee University Press	中間テスト、期末テスト

13 年度以降	翻訳通訳論・韓国語	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、韓国語の語彙力の養成と、翻訳の実践的スキルを身につけることです。さまざまなテーマを巡る実際場面での翻訳ができるように、高度な語学力の養成とスキルを学習します。毎回、短いテキストを翻訳していくことで、素早い反応力と適切な表現力を身につけることができます。前期の授業では社会、経済、情報・通信分野の内容を取り上げます。 授業スケジュールは、参加者のニーズを考慮し多少変更する可能性があります。	１．講義の概要 ２．社会１ ３．社会２ ４．社会３ ５．社会４ ６．経済１ ７．経済２ ８．経済３ ９．経済４ １０．情報・通信１ １１．情報・通信１ １２．情報・通信１ １３．情報・通信１ １４．予備日、復習 １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で適宜紹介します。	定期テストまたはレポート、授業への参加度、課題を総合的に評価します。

13 年度以降	翻訳通訳実習・韓国語	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
前期の講義に引き続き、韓国語の語彙力の養成と、翻訳の実践的スキルを身につけます。さまざまなテーマを巡る実際場面での翻訳ができるように、高度な語学力の養成とスキルを学習します。毎回、短いテキストを翻訳していくことで、素早い反応力と適切な表現力を身につけることができます。後期の授業では文化、芸術、コミュニケーションの内容を取り上げます。 授業スケジュールは、参加者のニーズを考慮し多少変更する可能性があります。	１．講義の概要 ２．文化１ ３．文化２ ４．文化３ ５．文化４ ６．芸術１ ７．芸術２ ８．芸術３ ９．芸術４ １０．コミュニケーション１ １１．コミュニケーション２ １２．コミュニケーション３ １３．コミュニケーション４ １４．予備日、復習 １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で適宜紹介します。	定期テストまたはレポート、授業への参加度、課題を総合的に評価します。

12 年度以前	英語演習Ⅰ（The Future: Human Enhancement） （2012 年度以前入学者用）	担当者	J．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
Would you like super intelligence? Enhanced sporting abilities or physical attractiveness? Immortality? These and other enhancements could soon be possible, but should people change themselves without medical need? Is it ethically right to change what has been given to humans naturally? We will investigate human enhancements, look at how they are portrayed in works of fiction, and consider the ethics of these possibilities. Will these technologies soon become fact? The goals of this course are to improve English ability, develop an understanding of human enhancement, and promote critical thinking skills to develop opinions on the ethical issues involved. Students will complete weekly readings, classroom activities, share ideas in groups, lead discussions, keep a journal and make presentations.	Week 1: Course introduction. Week 2: The next 25 years. Week 3: Human imperfection. Week 4: What is transhumanism? Week 5: Intelligence. Week 6: Measuring intelligence. Week 7: Flowers for Algernon. Week 8: Flowers for Algernon. Week 9: Ethics. Week 10: Quiz 1. Week 11: Robotics & Artificial Intelligence. Week 12: Medicine. Week 13: Cyborgs. Week 14: Virtual Reality. Week 15: Quiz 2. The teacher may change the (order of) topics covered
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook to be announced. Students will need access to a computer.	Assessment will be based on participation, quizzes, homework assignments, and presentations.

12 年度以前	英語演習Ⅱ（Food Issues） （2012 年度以前入学者用）	担当者	J．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
This course will help students understand the production, consumption, sustainability and ethics of the food we eat. What do we eat? Where does our food come from? What should we be eating? What are the global consequences of our daily purchases? What is the future of food production? These are the kinds of questions that will be raised and investigated in this course. Some of the material will be disturbing, some may even be shocking, but in order to be informed and conscientious consumers it is important to have an awareness of the issues involved in producing our daily meals. The goals of this course are to improve English ability and critical thinking skills, through in-depth investigations into controversial aspects of modern food production and eating habits.	Week 1: Course outline; why is food an issue? Week 2: Presentation techniques and good research practice - a refresher Week 3: Changing diets - a global trend Week 4: Meat Week 5: Animal rights Week 6: Fast food Week 7: Global obesity epidemic Week 8: Seafood Week 9: GM Food Week 10: Cloning Week 11: Additives Week 12: Agricultural pollution Week 13: Water Week 14: What should we do? Week 15: Pair discussions/interviews The teacher may change the (order of) topics covered
テキスト、参考文献	**評価方法**
Textbook to be announced. Students will need access to a computer.	Assessment will be based on participation, quizzes, homework assignments and presentations.

12 年度以前	英語演習 I(映画英語) (2012 年度以前入学者用)	担当者	中込　知子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ジャーナリストを目指す20代の女性が主人公のファッション業界を背景とした映画The Devil Wears Pradaを教材として、英語圏の文化を学び、日常生活またビジネスで話される英語のスピードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指す。 講義内容 オーバーラッピングやシャドーイングをしながら発音、イントネーション、リエゾン等のプロソディーを身に付けていき、最終的には映画のいくつかのシーンを英語でダビングやグループでのロールプレイができるよう台詞に慣れていく。また、グループディスカッションで登場人物の会話の含みを考えていく。 毎回課題がでるので、必ずやってくること。グループプロジェクトとして1シーンのscriptの共同執筆、ロールプレイの発表がある。 参加人数やレベルによって上記の内容は変更することがあります。	1. Introduction 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Review 15. Exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
Aline Brosh McKenna, *The Devil Wears Prada* **松柏社**	期末試験の結果（５０％）と、課題、授業への積極的参加、グループプレゼンテーション等（５０％）を評価対象とする。

12 年度以前	英語演習 II(映画英語) (2012 年度以前入学者用)	担当者	中込　知子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ハーレムの子供たちのバイオリン教育に取り組んだ教師の実話に基づいた映画 Music of the Heart を教材として現代アメリカの社会の背景を学びながら日常に話される英語のスピードに慣れ、聴解力と自分の意見をまとめて発表できる発話力の向上を目指す。 講義内容 各シーンの台詞の内容を理解した後に、音声学理論に基づいた聞き取りの要点を押さえる。またキーポイントとなる phrase を自由に使える事ができるように例文を作り練習する。 内容面ではそれぞれの意見をまとめ、グループディスカッションを通して主人公の心の変化、登場人物の発言の意味、性格等について意見の交換を行う。 毎回課題がでるので、必ずやってくること。 参加人数やレベルによって上記の内容は変更することがあります。	1. Introduction 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Review 15. Exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
Yasuko Okino, *Music of the Heart* 英宝社	期末試験の結果（５０％）と課題、授業への積極的参加とディスカッションの発表等（５０％）を評価対象とする。

12 年度以前	英語演習 I(字幕翻訳) (2012 年度以前入学者用)	担当者	中島　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、翻訳の実技演習をおこなう。 翻訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的変化を起こさせることを狙う。 まずはテキストを使用し、映画で使用されている英語表現を学び、次にグループ単位で字幕作成作業を行う。 翻訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになる。英語の運用能力のみならず、日本語の運用能力、知識の増強なども行う予定である。 なお初回授業でプロジェクトグループを決定するので、受講を希望する場合には必ず出席すること。	1 Guidance 2 Love Actually is All Around 3 Agony of Being in Love 4 Group Work 5 Have You Gone Completely 6 Insane?It's for You 7 Group Work 8 You're Beautiful 9 All I Want for Christmas is You 10 Group Work 11 The Time to Be With the People You Love 12 All I Want for Christmas is You 13 Group Work 14 Group Presentation 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：Love Actually 英語総合教材『ラブ・アクチュアリー』(松柏社、2014 年)	字幕作成プロジェクトの内容により評価を行う。なお出席は前提条件であり、出席が全授業の 2/3 に満たない場合、評価の対象外とする。

12 年度以前	英語演習 II(英日通訳) (2012 年度以前入学者用)	担当者	中島　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、レジスターを意識し、場に応じた適切な表現を学びたい人も対象としています。 第 1 回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。	1. オリエンテーション 2. アテンド・随行通訳 3. パーティー・レセプション通訳 4. 工場見学通訳 5. ビジネス・商談通訳 6. 芸能・スポーツ通訳 7. ニュースのボイスオーバーパ 8. 確認テスト (1) 9. 司法通訳 10. 医療通訳 11. 国際政治や軍事に関するトピックの通訳 12. インタビュー対談通訳 13. セミナー・講演会通訳 14. 国際会議同時通訳 15. 確認テスト (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：浅野輝子・中村幸子・Robert Hewer 著『通訳の現場から学ぶ実践演習』(南雲堂フェニックス、2008 年)	授業中に実施する 2 回の確認テストによって評価する。 なお出席は前提条件であり、出席が全授業の 2/3 に満たない場合、評価の対象外とする。

13 年度以降 12 年度以降	スペイン研究概論 スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン）	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン研究概論では、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)」と関連性・連続性が強いため、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。	1.　世界のスペイン語 2.　イベリア半島の地理・言語状況 3.　カタルーニャの言語文化 1 4.　カタルーニャの言語文化 2 5.　バスク、ガリシアの言語文化 6.　アンダルシーアの言語文化 7.　イスラム・スペイン 8.　1492 9.　フラメンコ・闘牛 10.　スペイン黄金世紀 11.　18、19 世紀のスペイン 12.　18、19 世紀のスペイン 13.　スペイン内戦とフランコ体制 14.　スペインの民主化とヨーロッパ統合 15.　春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	定期試験によって評価する。

13 年度以降 12 年度以前	ラテンアメリカ研究概論 スペイン･ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々 の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。	1　導入①　ラテンアメリカとは 2　導入②　ラテンアメリカの多様性 ベネズエラ：ハンモックの埋葬 3　ラテンアメリカの地理的・文化的多様性 各地域の音楽を通して 4　ラテンアメリカにおける人種・民族と言語① 先住民とメスティーソ 5　ラテンアメリカにおける人種・民族と言語② アフリカ系とヨーロッパ系 6　歴史①　先コロンブス期：インカ、アステカ、マヤ 7　歴史②　植民地期：コロンブスの到達の歴史的意味 8　文化と社会①　宗教と祭り、家族、女性 9　文化と社会②　食文化、文学と造形芸術 10　歴史③　ラテンアメリカの独立と 19 世紀 11　歴史④　米国と対峙する 20 世紀のラテンアメリカ キューバ革命を中心に 12　経済と社会①　開発主義と独裁から民主化へ 13　経済と社会②　ラテンアメリカの挑戦 新サパティスタ運動（メキシコ） ボリバル革命　（ベネズエラ） 14　米国ラティーノ：新しい民族集団の形成 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：増田義郎『物語　ラテンアメリカの歴史』（中公新書）	数回の小テストおよび期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	スペインの言語と歴史・文化 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ（スペイン語圏の言語文化）	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。 主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語の文献や作品を実際に読む。そのため一定以上のスペイン語力が求められる。 今年度は特に、スペインの各地に伝わる「食」を中心に据えて、スペインの地域性をもとにスペインの文化について考えて行きたい。	①　オリエンテーション ②　スペインの地域性 ③　地域性と言語・文化１ ④　地域性と言語・文化２ ⑤　スペインの歴史と食の関係１ ⑥　スペインの歴史と食の関係２ ⑦　スペインの地域と食に関するプレゼンテーション１ ⑧　スペインの地域と食に関するプレゼンテーション２ ⑨　スペインの地域と食に関するプレゼンテーション３ ⑩　スペインの地域と食に関するプレゼンテーション４ ⑪　スペインの地域と食に関するプレゼンテーション５ ⑫　国民食とは ⑬　スペインの国民食 ⑭　現代と食 ⑮　総論
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	数回のレポート、プレゼンテーションによって評価する。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語研究 スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ（スペイン語学）	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語の文法要素を言語学的に分析することが本講義の目的である。分析の結果も大事な成果のひとつであるが、それ以前に分析の方法、プロセスを見いだし、問題設定をする練習の場とも考える。 今年度の主なテーマは「不定冠詞とそれを取り巻く文の構造」とする。 まず、スペイン語の不定冠詞に関する基本的な知識を獲得・復習するために講義を行う。その際に先行研究を紹介し、それらの分析にはどのような問題点があるのかを洗い出す。 ある程度の予備知識がついたところで、扱ったテーマの中からひとつテーマを選択し、それに関する短いレポートを課題とする。	①　スペイン語の不定冠詞について（説明講義）1 ②　スペイン語の不定冠詞について（説明講義）2 ③　スペイン語の不定冠詞について（説明講義）3 ④　スペイン語の不定冠詞について（説明講義）4 ⑤　問題点 1 ⑥　課題 1 ⑦　課題の説明 1 ⑧　スペイン語の不定冠詞と構文について（説明講義）5 ⑨　スペイン語の不定冠詞と構文について（説明講義）6 ⑩　スペイン語の不定冠詞と構文について（説明講義）7 ⑪　スペイン語の不定冠詞と構文について（説明講義）8 ⑫　問題点 2 ⑬　課題 2 ⑭　課題の説明 2 ⑮　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	授業への参加度、数回のレポートによって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降	スペイン語圏の文学	担当者	中井　博康

講義目的、講義概要	授業計画
17 世紀までのスペイン語文学について基礎的な知識を身につけるとともに、できるだけ多くの文学テクストを実際に読むことにより、新たな作家や作品と出会う機会にしてほしいと思います。具体的には、授業時間内では、主要な作家・作品についての解説を中心に、テクストの一部（スペイン語）を講読しながら、17 世紀までのスペイン文学史を概観し、授業時間外の課題として、できるだけ多くの文学テクスト（日本語訳など）を読み、その読書報告をしてもらいます。	01　ガイダンス 02　<El Cid>など 03　Arcipreste de Hita, Don Juan Manuel など 04　Jorge Manrique, Romance など 05　<La Celestina> など 06　16 世紀の詩：Garcilaso, Cetina など 07　ラテンアメリカ(1)：Colón, Cortés など 08　ラテンアメリカ(2)：Ercilla, Las Casas など 09　神秘主義, ピカレスク小説 10　Cervantes 11　17 世紀の詩：Góngora, Quevedo など 12　演劇（1)：Lope, Tirso, Alarcón など 13　演劇（2)：Tirso de Molina, Calderón de la Barca 14　Gracián, Sor Juana など 15　総論

テキスト、参考文献	評価方法
特定のテキストは使用しません。参考文献は授業で随時紹介します。	授業時のレスポンスカード（平常点 40%）と書評（課題点 60%）により、総合的に評価します。

13 年度以降 12 年度以前	ラテンアメリカの歴史と文化 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ（ラテンアメリカの歴史と社会）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、ラテンアメリカの現代を知るために必要な歴史と文化に関する重要事項を、社会運動、論争、絵画、音楽、食などの具体的事例を取り上げて論じるものである。 現代世界の起点は、大胆に言えば、コロンブスにあると言える。ラテンアメリカを知ることは、現代世界の成り立ちを知ることでもある。ウオーラーステインの「近代世界システム」論、アンダーソンの「想像の共同体」論、サイードの「オリエンタリズム」をもとに、ラテンアメリカの歴史と文化に接近したい。	1　メキシコ 1930 年代の観光ポスター ：他者表象と自己表象 2　1492 年と現代世界 3　コロンブス以前のアメリカ大陸 マヤ文字読解　　アステカの絵文書 4　コロンブスと「近代世界システム」の形成 5　「グアダルーペの聖母」をめぐる論争 6　植民地期における人種民族関係 7　ハイチ独立をめぐる諸問題 8　メキシコ革命とナショナリズム芸術　壁画運動 9　現代メキシコ文化：リラダウンズを題材に 10　グルーバル化の中の先住民 リゴベルタ・メンチュウとインディアニスモ 11　黒人文化の再発見：アンデスの黒人音楽など 12　カリブ海におけるクレオール主義 13　アジアとラテンアメリカ　中国系排斥の歴史 14　米国ラティーノの文化 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時、授業中に指定する。	授業での発言内容と期末レポートで評価する。

13 年度以降 12 年度以降	ラテンアメリカ近現代史 スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ（ラテンアメリカ近現代史）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に 19 世紀半ば以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得ないラテンアメリカとその自立の動きをおっていく。 基礎的歴史事項の修得を第一の目標にするが、それとともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資するものとしたい。現代ラテンアメリカの特徴は、①「もうひとつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移動を通して一体化する南北「アメリカ」、という一見相反する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれからどの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供していき、履修生が自ら考える場としたい。 ラテンアメリカ史の全体的ながれについては、春学期に別の授業が用意されている。 なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入としたい。	1　はじめに 「ラテンアメリカ」の誕生と中米・カリブ海域史 2　パナマ鉄道とスイカ事件 3　パナマ運河建設とパナマ建国 ＋ウォーカーのニカラグア侵攻 4　砂糖プランテーションとバナナ共和国 5　米西戦争＋キューバ革命と文化 ラテンアメリカの独立と欧米　19 世紀 6　ボリバルの夢とイギリスの非公式帝国 7　メキシコの独立とテキサス併合 8　米メキシコ戦争 9　ディアス期のメキシコ 新しい反システム運動 10　メキシコ革命からサパティスタ蜂起へ① 11　メキシコ革命からサパティスタ蜂起へ② 12　チリ革命・ニカラグア革命と文化 13　チャベスのボリバル革命 ＋ラテンアメリカの「左傾化」 米国へ浸透するラテンアメリカ 14　「アメリカス」の時代へ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示する。	授業での発言内容と期末レポートで評価する。

13 年度以降 12 年度以前	ラテンアメリカの政治と社会 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ（ラテンアメリカの政治と社会）	担当者	笛田　千容

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、ラテンアメリカ諸国の独立以降の政治と社会のあゆみを概観する。そのうえで、いくつかの代表的な国およびサブリージョンを取り上げて、地域の多様性について理解を深めていく。そして、現代のラテンアメリカがいかなる政治的・社会的課題を抱えているか、またそれにどう取り組んでいるか(取り組むべきか)を考える。主な目標は、ラテンアメリカ地域の政治・社会上の主要な人名、組織名、歴史的事件などの基本的情報を把握すること、また、ラテンアメリカの政治および社会を特徴づけるのに有効ないくつかの概念をつかって、独立以降のあゆみと今日的課題を説明できるようになることである。 （※なるべく秋学期の同一時間帯に開設の「ラテンアメリカの国際関係」 と併せて、春・秋学期を通して履修のこと）	I.ラテンアメリカ 政治と社会の歩み 1．ラテンアメリカ諸国の独立 2．寡頭支配 3．近代化・中間層の拡大とポピュリズム政権 4．国家発展の追求と軍事政権 5．民主化の波 II.ラテンアメリカ地域の多様性 6．メキシコ・中米地域(メキシコ・グアテマラなど) 7．アンデス地域(ペルー・ボリビアなど) 8．コノスール地域(アルゼンチン・ブラジルなど) 9．カリブ地域(英語・蘭語・仏語圏の小国) III.現代ラテンアメリカの政治と社会 10．ネオリベラリズムと貧困・社会格差 11．先住民運動と多文化主義 12．人の移動 13．麻薬と暴力 14．ジェンダーとカトリック教会 15．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験 70%、授業への参加・貢献度 30%

13 年度以降 12 年度以前	ラテンアメリカの国際関係 スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ（ラテンアメリカ国際関係論）	担当者	笛田　千容

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、世界におけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解を深めることを目標とする。 まず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、米州（南北アメリカ)やラテンアメリカ域内の国際関係に関する論点について学ぶ。そして、経済グローバル化とその副作用、反米・反グローバル化の動き、国際麻薬・金融犯罪の問題などを把握し、この地域が抱える 21 世紀の課題について考えていきたい。なお、日本とラテンアメリカの関係についても取り上げる。 (※なるべく春学期の同一時間帯に開設の「ラテンアメリカの政治と社会」 と併せて、春・秋学期を通して履修のこと)	I.ラテンアメリカの国際関係史 1．大航海時代 2．19 世紀の世界経済とラテンアメリカの近代化 3．米国の覇権主義とラテンアメリカ 4．地域主義と地域協力 5．グローバリズムとリージョナリズム II.米州域内の国際関係 6．キューバと米国 7．ラテンアメリカの軍事政権と米国 8．債務危機とワシントン・コンセンサス 9．米州機構と民主主義支援 III.現代ラテンアメリカの国際関係 10．自由貿易の拡大とインフラ統合 11．反米・反グローバリズム 12．　国際麻薬・金融犯罪 IV.日本とラテンアメリカの関係 13．日本人移民と日系社会 14．日本の対ラテンアメリカ政策 15．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験 70%、授業への参加・貢献度 30%

13年度以降 12年度以前	ラテンアメリカの経済と社会 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ（ラテンアメリカの経済と社会）	担当者	今井　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
１．ラテンアメリカ経済社会構造の特質を、アジア、アフリカと比較しながら理解し、ラテンアメリカ地域の自然･住民･宗教･文化について概観する。 ２．ラテンアメリカ地域の経済社会の歴史的変遷過程を辿り、植民地前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、経済社会構造の変容を理解する。 ３.こうした考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な経済社会問題について考察する。そしてこれらの問題に対する各国政府や国際機関の取り組みを紹介する。 ４．ラテンアメリカにおける開発の思想、理論、政策について紹介し、コスタリカ・モデル（非武装・中立・教育・福祉・環境重視）と呼ばれる開発政策を中心に、持続可能な開発のあり方について考える。 ５．日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代における日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について考える。主として講義形式で授業を進めるが、テーマに応じて受講生によるディスカッション形式もとり入れたい。	1. ラテンアメリカ概観―ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較 2. 第１章　ラテンアメリカ経済社会の歴史的変遷過程 第１節　ラテンアメリカ経済史の時期区分 3. 第２節　植民地期以前の先コロンブス期（－15世紀末） コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観 4. 第３節　植民地期（15世紀末－19世紀初め） 5. 第４節　独立期（19世紀初め－19世紀半ば） 6. 第５節　第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば－1929年恐慌） 7. 第６節　工業化から地域統合に至る時期（1929年恐慌－現在） 8. 第２章　ラテンアメリカ経済社会の現状と課題 9. 第２章　ラテンアメリカ経済社会の現状と課題 10. 第２章　ラテンアメリカ経済社会の現状と課題 11. 第３章　ラテンアメリカの開発思想・理論・政策 12. 第３章　ラテンアメリカの開発思想・理論・政策 13. 第４章　日本とラテンアメリカの経済関係 14. 第４章　日本とラテンアメリカの経済関係 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（参考書）国本伊代・中川文雄編『ラテンアメリカ研究への招待』新評論、2005、今井圭子編『ラテンアメリカ　開発の思想』日本経済評論社、2004、西島章次・細野昭雄編『ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004、宇佐見耕一他『図説ラテンアメリカ経済』日本経済評論社、2009。	授業中にリアクション・ペーパー、学期末にレポートを提出。 リアクション・ペーパーとレポート、出席、授業参加状況を合わせて評価する。

13年度以降 12年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（ラテンアメリカ経済発展論） スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ（ラテンアメリカ経済発展論）	担当者	今井　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
１．ラテンアメリカの経済を理解するために、まず基礎的な経済理論、経済用語について学ぶ。 ２．ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治社会構造を踏まえながら理解する。ラテンアメリカ経済の主要なテーマをとりあげ、その現状と課題、政策について考察する。こうした問題への理解を深めながら、経済のグローバル化がラテンアメリカ経済に及ぼしてきた影響を、WTOとラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済の自由化と格差問題、開発と環境などを中心に考察し、持続可能な発展の可能性について考える。 ３．以上を理解した上で、日本とラテンアメリカの経済関係について、貿易、投資、政府開発援助を中心に考察し、今後の望ましい方向性について考える。 授業は、講義、関連資料の解読、ディスカッション等の形で進められるので、積極的参加を歓迎する。	1. 序、第１章　経済学の基礎 第１節　経済学的な考え方、ミクロ経済学・マクロ経済学 第２節　市場原理―需要・供給と価格 2. 第３節　公共部門・経済政策 3. 第４節　雇用・失業問題・雇用政策 4. 第５節　インフレ・デフレ、財政・金融政策 5. 第６節　貿易・対外投資・国際収支・為替レート 6. 第２章　ラテンアメリカ経済の現状と課題 第１節　マクロ経済の諸問題、経済の自由化 7. 第２節　経済開発と政府の役割 8. 第３節　経済成長と企業 9. 第４節　人的資本と教育、技術開発 10. 第５節　雇用・格差・貧困問題と労働・社会政策 11. 第６節　農業と土地所有制度、第一次産品輸出経済 12. 第７節　経済のグローバル化と貿易、国際資本移動 13. 第８節　環境問題と環境政策 14. 第９節　日本とラテンアメリカの経済関係 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（参考書）宇佐見耕一他共著『図説　ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009年、西島章次・小池洋一編著『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2011年、ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ『スティグリッツ　入門経済学』東洋経済、最新版、今井圭子『アルゼンチン研究の基礎資料―国勢調査・経済社会統計―』上智大学、イベロアメリカ研究所、2008年など。	授業中に課したリアクション・ペーパーと最後の授業までに提出するレポートおよび出席・授業参加状況を合わせて評価する。

13 年度以降 12 年度以前	ブラジル研究 スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ（ブラジル研究）	担当者	E．ウラノ

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標は、受講生が積極的にブラジルについて考え、授業の内容について独自の視点を身につけることにある。そのために、ブラジルに関する基礎知識を勉強していただくとともに、社会科学をベースにした思考能力を高めることを目指す。 ブラジルは、2014年にワールドカップを開催し、2016年にはオリンピック開催を迎えており、世界で注目されている新興国の一つである。 この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会･経済・政治面から解説する。例えば、最近の経済成長をどのようなファクターが支えているのか。これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や政策が必要なのか。昨年のワールドカップの開催の際におこったデモンストレーションの背景には、どのような要因があったのか。 近年目立つ出来事として、BRICsやG20などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。	1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. 政治経済：「失われた 80 年代」 3. 政治経済：90 年代、インフレーション、経済安定化 4. 政治経済：2000 年代、経済成長への道 5. 格差社会の是正に向けて: Bolsa Família 6. 格差社会の是正に向けて: 新中間層 7. 映像から見たブラジル 8. 映像から見たブラジル 9. 持続可能な成長への課題: 教育・インフラ整備 10. BRICs、南南関係：.多極的外交の展開 11. 学生のプレゼンテーション 12. 学生のプレゼンテーション 13. 新たな路線: ブラジルの Third Way? 14. ワールドカップより教育・医療の充実： 2013－2014 年のデモを考える 15. まとめ：「未来の大国」から「現在の大国」？ ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストブック 堀坂浩太郎（2012）『ブラジル―跳躍の軌跡』、岩波新書。	基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、授業内ペーパー、プレゼンテーション等も加味した評価とする。

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（専門講読）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、メキシコを中心としたラテンアメリカの歴史と文化に関するスペイン語文献の精読をおこなう。 授業では、文献講読を通じて、スペイン語読解能力の向上だけでなく、ラテンアメリカに関する歴史文化理解を深めることを目的にする。文献の内容理解のためには、前提となる知識が欠かせない。そのため、履修学生とのやり取りを重視し、じっくり丁寧に進めたいと考えている。進め方については、最初の授業で案内する。 具体的には、バスコンセロス、オクタビオ・パス、カルロス・フエンテス、ペレス・モンフォルト、ボンフィル・バターヤ、ロヘル・バルトラの評論のなかから、重要な部分を厳選して読み進める。 また、ラテンアメリカ文化論の現代における代表的研究であるガルシア・カンクリーニ『ハイブリッド文化』についても一部分であるが取り上げたい。	1. 導入 2. 「グアダルーペの聖母」出現潭 1 3. 「グアダルーペの聖母」出現潭 2 4. José Vasconcelos; La Raza Cósmica 1 5. José Vasconcelos: La Raza Cósmica 2 6. Octavio Paz: Hijos de La Malinche 1 7. Octavio Paz: Hijos de La Malinche 2 8. Carlos Fuentes: Espejo Enterrado から 1 9. Carlos Fuentes: Espejo Enterrado から 2 10. メキシコ文化ナショナリズム論　1 11. メキシコ文化ナショナリズム論　2 12. García Canclini: Culturas Híbridas から 1 13. García Canclini: Culturas Híbridas から 2 14. García Canclini: Culturas Híbridas から 3 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示する。	授業内での発言など授業への積極的関与、および授業内に複数回行う小テストで評価する。

13 年度以降 12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a） スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a）	担当者	P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
Objetivo del curso: 1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los artistas más destacadas de cada época. 2. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral mediante los diálogos que se llevan a cabo durante la clase. -La comprensión oral a través de las explicaciones de la profesora. -Expresión escrita por medio de las tareas que hay que realizar al finalizar cada tema . **Destinatarios:** alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.	1. Presentación del curso. 2. Introducción.: geografía y relieve I 3. Geografia y relieve II 4. Los albores del arte español: *La cueva de Altamira*. 5. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas I. 6. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas II. 7. La romanización y sus consecuencias I. 8. La romanización y sus consecuencias II 9. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad y el arte visigodo. 10. La invasión musulmana (s. VIII). Sociedad, cultura y arte árabe. 11. la Alhambra de Granada y los jardines del Generalife I. 12. La Alhambra de Granada y los jardines del Generalife II. 13. La Reconquista (ss.XI-XIII). 14. La sociedad medieval. Castillos y ciudades medievales . 15. Película sobre alguno de los temas tratados.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No es necesario.	La entrega de una tarea por cada tema estudiado. **La asistencia a clase es importantísima.**

13 年度以降 12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b） スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b）	担当者	P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
Ver el apartado anterior.	1. El arte durante la Reconquista: el románico. 2. El arte durante la Reconquista: el gótico 3. El Camino de Santiago (Patrimonio de la humanidad). 4. Haciendo el camino. 5. *La Celestina*: el paso de la Edad Media al Renacimiento I 6. *La Celestina*: el paso de la Edad Media al Renacimiento II. 7. Los Siglos de Oro: el Renacimiento (XVI). 8. El Greco (1541-1614), un pintor manierista. 9. La arquitectura renacentista: El Monasterio de El Escorial. 10. Los Siglos de Oro: el Barroco (s. XVIII). 11. Diego de Velázquez (1599-1660), un pintor barroco. 12. Otros pintores barrocos: Murillo (1617-1682), Zurbarán (1598-1664) y Ribera (1591-1652). 13. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración I. 14. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración II. 15. Película sobre alguno de los temas tratados.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No es necesario.	La entrega de una tarea por cada tema estudiado. **La asistencia a clase es importantísima.**

13 年度以降 12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化） スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	担当者	倉田　量介

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，スペインとその旧植民地という位置づけにあるラテンアメリカのパフォーミングアーツ(音楽、ダンス、演劇)ならびに映像を扱います。欧米や日本の事情と比較することで，背景となる社会や時代の諸相を考察します。 この地域の音楽はダンスと一対に様式化されてきたことから，まず身体技法について触れます。クレオールを筆頭に文化混淆がキーワードとなるため，まずは成分にあたる要素を個別に検討します。世界のポピュラー音楽に影響を与えたキューバの事例が軸となります。中盤から対抗文化に着目し，クラブカルチャーを幅広く概観します。ジャマイカのレコード産業やサンバ・ボサノヴァで知られるブラジルの多様性を描いたドキュメンタリーも観ます。終盤では，民俗文化(音楽やダンス)が舞台芸術化していく過程，それらが国民文化に転換する軌跡を追います。広報メディアとしての映画，それが大衆(マス)の間に創りだすステレオタイプを分析するため、日本の娯楽も対照させます。流行には40年周期説があります。土着性に注目するDJも増えているようです。ルーツとは何か。社会科学の視角で議論しましょう。	1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域キューバの音楽やダンスにみる文化混淆 3. スペイン系弦楽器にみる口頭伝承的な弾き語り 4. アフリカ系太鼓にみるポリリズムとコール&リスポンス 5. フォルクローレは民謡か 6. 民俗文化をめぐる身体技法とグローカル化 7. 映像メディアとオブジェクティフィケーション(対象化) 8. 文化産業論と移民社会におけるマーケティング 9. 世界を席巻するポピュラー音楽と世界で渦巻く対抗文化 10. カット&ミックス，ジャマイカのスカ・レゲエ・ダブ… 11. クラブカルチャーのラップから里帰り的なレゲトンへ 12. 音楽大国ブラジルにおけるトロピカリアや農民音楽 13. スペインおよびラテンアメリカの歌劇と風刺劇 14. 日本の「大衆演劇」，創られた「ラテン歌謡」や J ポップ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配り，進捗に応じた参考文献を紹介する。地域文化的な各論に関して以下をあげておく。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版, 2010, 978-4490206678)	平常授業の感想紙におけるコメント等の実績(35%)と期末レポート(65%)

13 年度以降 12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン・ラテンアメリカの社会文化） スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ（スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	担当者	兒島　峰

講義目的、講義概要	授業計画
(講義目的) この講義目標は、ラテンアメリカ社会と文化の特徴を、歴史的な形成過程と地理的状況とともに学び、現在おけるラテンアメリカ文化と社会の関係について理解することにある。 ラテンアメリカとは何か、今日のラテンアメリカの特徴はどのように形成されてきたのか、またラテンアメリカと呼ばれる地域の相違について理解を深めることを目標とする。 （講義概要) ラテンアメリカの社会と文化について、いくつかトピックスに分けて、地域ごとの特徴を提示しながら説明する。毎回、映像などの具体的資料を提示し、授業計画沿って授業を進める。	1. オリエンテーション受講上の注意 2. ラテンアメリカに関する基礎知識 3. 国際社会におけるラテンアメリカの位置づけ 4. この講義で扱うラテンアメリカの特徴 5. ラテンアメリカの連帯と独自性、ナショナリズム 6. ラテンアメリカの社会構造 その１ 7. ラテンアメリカの社会構造 その２ 8. ラテンアメリカにおける“人種”概念 9. ラテンアメリカにおける男と女 10. ラテンアメリカにおける男女観と“人種”概念 11. ラテンアメリカにおける男女観と“人種”構造 12. 先住民の文化と社会的地位 13. 国際社会における先住民の文化と的地位 14. ラテンアメリカの今後の展望 15. 論述試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献については授業中その都度指示する。	学期末に行なう筆記試験を中心評価する。 よって、出席票を書くだけの受動的な学生には不向きであることを心得てほしい。初回のオリエンテーショには必ず出席すること。

13 年度以降 12 年度以前	中国研究概論 中国研究入門	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
中国研究および中国語圏理解のために役立つ、基礎的な知識を身につけることを目標とする。 中国人の現代生活と深い関わりを持つ、文化・政治・社会・経済などに関わる諸トピックをとりあげ、関連する中国語キーワードとともに、現代中国への理解への手がかりとする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1　ガイダンス 2　前提知識：近代の歴史：中国映画 1-1 3　前提知識：近代の歴史：中国映画 1-2 4　生活の知恵：伝統的遊び 5　生活の知恵：歴史ドラマ 1-1 6　生活の知恵：歴史ドラマ 1-2 7　中国の海外投資 1 8　中国の海外投資 2 9　学園生活 1 １０　学園生活 2 １１　中国の建築 1 １２　中国の建築 2 １３　現代中国社会：中国映画 2-1 １４　現代中国社会：中国映画 2-2 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。	平常点（授業への参加度等）［40%］、小課題［60%］を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。

13 年度以降 12 年度以前	中国社会論 中国研究Ｉ（中国社会論）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
国家の運営と民衆の生活双方に関わる事物をとりあげて論じ、これを通して現在の中国および中国語圏各地域への理解を深めることを目的とする。 具体的なトピックとして挙げるのは祝祭日、国旗、市民権、国籍、姓名、少数民族の権利、文字などである。どれも国家・民族の象徴と関わる事物であるが、同時に国内に住む全ての人の生活と切り離せない関係にある。こうしたものに対する個々人の距離のとり方、アイデンティティの所在なども視野に入れながら、履修生とともに考えたい。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1　ガイダンス 2　祝祭日（1）―台湾の場合 3　祝祭日（2）―現代中国の場合 4　国旗・国歌 5　国籍・市民権（1）―本土中国 6　国籍・市民権（2）―台湾 7　国籍・市民権（3）―香港 8　移住、華僑・華人 9　少数民族の特別権利 １０　地方各レベルの自治権 １１　国境線・領土権 １２　文字とことば １３　姓名 １４　共産党の統治体制について改めて考える １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。	平常点（授業への参加度等）［40%］、小課題［60%］を評価対象とする。課題の全提出を成績評価の必須条件とする。

13 年度以降 12 年度以前	中国特殊研究（日中交流史） 中国研究各論Ⅲ（日中交流史）	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが，２つの時期の状況がとりわけ注目を引く。 　唐代においては，日本が貪欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。 　そして，近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。日本新漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み，当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。 　中国語を学ぶ日本人の観点から，これを論ずる中国人学者の論文を読み，われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。 <隔在中西之间的日本　—　现代汉语中的日语“外来语”问题　—>（王彬彬，《上海文学》1998年）を読みつつ進行する。	1　オリエンテーション 2　唐代と近代　双方向の交流 3　現代中国語に深く根付く日本語由来の外来語 4　日本の翻訳と中国の翻訳 5　中国語を通して抽象語彙を翻訳した日本語 6　近代日本人学者の翻訳方法 7　訳語の競合と定着 8　梁啓超と日本新漢語流入の契機（１） 9　梁啓超と日本新漢語流入の契機（２）（梁啓超と日本語—　和文訓読法，日本借用語） 10　厳復の不満・反論 11　欧米の概念をいかに翻訳すべきかの議論 12　厳復のスタンスと限界 13　中国語にとって欧米の概念（１） 14　中国語にとって欧米の概念（２）（中国現代書面語の成立） 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。出席は評価の前提である。

13 年度以降 12 年度以前	中国言語文化論 中国研究各論Ⅴ（言語文化論）	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は，古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。「一衣帯水」という微妙な距離をおいての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は，背景の文化に対するそれと同様，独特のものがある。 　日本語母語話者の中国語学習においては，この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。	1　オリエンテーション 2　中国語とは？普通话、汉语、华语、国语 　漢字文化圏（＝漢語文化圏） 3　現代中国語の音韻 4　華人と中国語の比喩 5　中国人のコミュニケーションの特色 6　中国人の「色」 7　ことわざ・歇後語 8　〝既成の言い回し〟描写表現 9　東西南北、右左 10　日本語母語話者ゆえの誤謬 11　飲食に関する言葉 12　中国人の名前・命名 13　自尊心・コネ社会・宗教 14　「漢文」の時代の中国語と現代中国語 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。	授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。出席は評価の前提である。

13 年度以降	中国特殊研究（専門講読）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
さまざまな種類の中国語の文章を読み、中国語の多様な文体と触れることで、実践的な読解力を身につけることを目的とする。 課題となる文章は、エッセイなど教科書では読まないような「生」の文章である。現代中国のいろいろな断面を切り取った内容となっており、文章を通して中国の実情を理解してもらう。意味を推測しながら行間を読む訓練にもなる。 履修者は毎回、指示された文章を読んでくる必要がある。その際には辞書を使って単語を調べるなどの事前学習が必要である。授業の場では、履修者全員を順番で当て、該当箇所を訳してもらう。	1　ガイダンス 2　エッセイ：中国のロック歌手 3　エッセイ：連続テレビドラマ 4　エッセイ：クリスマスについて 5　エッセイ：オーディション番組 6　エッセイ：ハリー・ポッター 7　文芸的文章：詩文１ 8　文芸的文章：詩文２ 9　文芸的文章：絵本１ １０　文芸的文章：絵本２ １１　紀行文：チベット旅行 １２　解説文：電子メディア １３　解説文：バンザイ・サン＝シモン １４　解説文：バンザイ・サン＝シモン １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回の授業で辞書を持参する必要がある。それ以外に用いるものは、授業内で指示する。	平常点（授業への参加度、授業内ノルマ）［60%］、小課題［40%］。授業に毎回出席することを前提とするので、一定以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	中国地域論	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、中国語圏各地域の特徴について深く理解するため、台湾に限って、紹介・検討と行う。これにより、現代中国語世界への理解を深めることを目標とする。 まずは台湾社会を構成する主なエスニシティについて紹介し、歴史・言語・地理環境などについて解説を行う。それらを踏まえて台湾内の社会の変化やその意義についても触れる。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1　ガイダンス 2　現代政治と四大族群 3　台湾のマジョリティ―閩南人 4　政治的対立の起源―二二八事件について１ 5　二二八事件について２ 6　マイノリティ―先住民族と客家 7　日本史・中国史・先住民史―台湾出兵 8　日本統治時代のエスニシティ状況 9　日本史と先住民史の交錯、再び―霧社事件 １０　エスニシティと社会運動：先住民 １１　エスニシティと社会運動：客家 １２　境界線上の民族１―平埔族 １３　境界線上の民族２―少数民族の外省人 １４　ことばと名前を通して日中台の関係を考える １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。	平常点（授業への参加度等）［40%］、課題［60%］を評価対象とする。課題の全提出を成績評価の必須条件とする。

13 年度以降 12 年度以前	現代中国論Ⅰ 中国研究各論Ⅰ（現代中国論 a）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
中国の現状について理解するために、広州・上海・北京などの主要都市および、東北・内陸・国境地帯の各省について、その地域的特徴（主要な住民の構成、主要産業、地域の歴史など）を解説し、履修者には各地の現状・各地方の生活者に対する理解を深めてもらう。 ある意味で、これまで身につけてきた中国に関する知識を別の角度から総括することになるであろう。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。この小課題は全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1　ガイダンス―「中華料理」は存在するか 2　広州・深圳と対外貿易 3　上海と工業・金融 4　重工業と東北三省 5　山東省とドイツ 6　出稼ぎ供給地としての華中地域 7　革命故地、延安・井岡山・遵義等 8　首都、北京 9　古都、西安・杭州・南京 １０　四川省とパンダ・遺跡・少数民族 １１　雲南と少数民族 １２　内モンゴルと草原・モンゴル族 １３　新疆ウィグル自治区と中央アジア １４　チベット・チベット族と高原地帯 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献については授業中に示す。	平常点（授業への参加度等）［40%］、小課題［60%］を評価対象とする。課題の全提出を成績評価の必須条件とする。

13 年度以降 12 年度以前	現代中国論Ⅱ 中国研究各論Ⅱ（現代中国論 b）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
現代中国語世界の多様性を理解するための一つの方法として、本授業では民族・エスニシティを主なトピックとしてアプローチを試みる。 広大な面積を擁する中国国内には、多くの民族が暮らしている。本授業では、他の国の多文化共存のあり方と比較しつつ、多民族国家・中国の実態について検討する。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。この小課題は全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1　ガイダンス 2　トン族１ 3　トン族２ 4　ミャオ族 5　ジンポー族 6　タイ族１ 7　タイ族２ 8　中国の宗教と民族 9　回族 １０　彝族 １１　客家 １２　多文化主義：アメリカ、カナダ １３　多文化主義の課題１ １４　多文化主義の課題２ １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。	平常点（授業への参加度等）［40%］、小課題［60%］を評価対象とする。課題の全提出を成績評価の必須条件とする。

13 年度以降 12 年度以前	中国史Ⅰ 中国研究Ⅲ（中国史 a）	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半，中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間，王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して，当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	第1回：講義の概要 第2回：清朝皇帝支配体制 第3回：清朝の科挙と社会 第4回：清朝体制下の国際関係 第5回：アヘン戦争 第6回：南京条約と東南沿海地域の秩序再編 第7回：太平天国の成立 第8回：太平天国の滅亡 第9回：回民の反乱 第10回：洋務運動と洋学の受容 第11回：開港場の社会と経済 第12回：周辺地域宗主権の喪失 第13回：台湾事件と台湾出兵 第14回：清仏戦争と台湾の近代化 第15回：講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』（中公文庫Ｓ22－19）中央公論新社，2008 年。	平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%

13 年度以降 12 年度以前	中国史Ⅱ 中国研究Ⅳ（中国史 b）	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々，さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し，また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどります。 また近代になって「纏足問題」として認識されるようになった纏足認識の変容について検討し，近代中国の女性の社会状況の変化を理解します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	第1回：講義の概要 第2回：朝鮮をめぐる日中関係 第3回：朝鮮をめぐる日中関係 第4回：日清戦争 第5回：台湾の割譲と台湾住民の抵抗 第6回：変法改革 第7回：戊戌の政変 第8回：キリスト教布教と仇教運動 第9回：義和団の蜂起 第10回：義和団戦争 第11回：纏足問題 第12回：天足運動 第13回：革命派の台頭 第14回：光緒新政と地方自治の試み 第15回：講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』（中公文庫Ｓ22－19）中央公論新社，2008 年。	平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%

13 年度以降 12 年度以前	中国特殊研究（日中比較文化研究 a） 中国特殊研究Ⅰ（日中比較文化論 a）	担当者	大澤　昇

講義目的、講義概要	授業計画
日本人の見た[中国]、中国人の考えた[日本] 経済・政治などが地球上で均一化していく「グローバル（全球）化」の中で、日本と中国の地域的な対立は世界的にも注目を集めている。「政冷経熱」（政治上は対立するが、経済的には交流が深まる）が「政冷経冷」（政治的にも経済的にも対立する）、更には日中間の「文明の衝突」に向かわないためには、日本と中国との間の文化の違いや日本人と中国人の思考の差異を冷静な目で見る必要があるだろう。卑弥呼の時代の日中交流から、現代の中国人観光客の日本観やネット上の発言まで、「日本人が中国をどう捉えたか」「中国人が日本をどう見たか」を題材に、日中両国の文化を世界的な視点で、歴史の流れの中で比較していきたい。	1 「支那」と「小日本」――ネット上に溢れる蔑称 2 「徐福伝説」と「呉太伯」（大陸文化の渡来） 3 「聖徳太子」と「空海」（遣唐使が見た中国） 4 「慈覚大師円仁」と「浜松中納言」（大陸化からの自立） 5 「武家政権」と「科挙政治」（中国化を免れた日本） 6 「日本国王」と「室町文化」（日本文化の成立） 7 「南蛮文化」の渡来と日中衝突（「文化世界」の拡大） 8 「江戸」と「長崎」（近松門左衛門と荻生狙来が考えた「聖人君子の国」） 9 「黒船来航」と「アヘン戦争」（高杉晋作の上海渡航と崩壊する「中華世界」） 10 「文明開化」と「中体西用」（黄遵憲と梁啓超） 11 「合わせ鏡」としての日中関係（夏目漱石と芥川龍之介） 12 「同文同種」の分裂と衝突（魯迅と横光利一） 13 「激変中国」と「平和日本」（日中文化人のそれぞれの生き方。老舎・郭沫若と堀田善衛・火野葦平） 14 台湾・香港・シンガポールの華人が見た日本 15 「日本文明」と「中華文明」（互いに偏見をもたず理解）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、プリントを配布する予定。 参考文献は、授業の中で随時紹介する。	授業への積極的な参加、毎回の授業で提出させる「課題レポート」の評価をもとに総合的に判定する。

13 年度以降 12 年度以前	中国特殊研究（日中比較文化研究 b） 中国特殊研究Ⅱ（日中比較文化論 b）	担当者	大澤　昇

講義目的、講義概要	授業計画
「竜の文明」と「くじらの文化」 日本人と中国人は、一見するとまったく見分けが付かないほど、顔立ちは似ているが暮らしの上では、大きな違いが散見される。日本では「衣食住」（3 文字）が日常の暮らしに欠かせないものと言うが、中国では“衣食住行”（4 文字）と言い、交通手段も人間の生活に於いて必要不可欠なものと考える。また家族観や結婚・性生活についても両国の間ではかなり異なる点がある。19 世紀、「西欧の衝撃」を受けて近代化する過程に於いて、日本では「和魂洋才」から「文明開化」に進んでいったが、中国では“中体西用”と言って欧米文明の先進性をなかなか認めようとしなかった。こうした日中の文化や思考の違いを、キーワードで具体的に見ることで、日中間の「文明の和解」の一助としたい。	1 「顔」と「文化」――外見はそっくりだが 2 「国の形」（国号・国旗・国歌）が異なる日本と中国 3 （食）「水の料理」と「火の料理」 4 （政治）姓のない天皇、姓をもつ皇帝 5 （住）「木の家屋」と「土の城壁」 6 （考え方）「恥の文化」と「誇り（驕）の文明」 7 （衣）「柄の着物（和服）」と「色の衣服」 8 （生き方）「縮み志向」と「巨大願望」 9 （行）「歩く文化」と「乗る文明」 10 （生と死）日本の「幽霊」と中国の「妖怪」 11 （言語）「以心伝心」と“討価還価” 12 （芸術）派手な「浮世絵」と地味な「文人画」 13 （家族）公儀に対する「忠」と父母に尽くす「孝」 14 （社会）「金太郎アメ」世間と「クモの巣」関係 15 「くじらの文化」と「竜の文明」（これからの日本と中国――「普遍的な地球文明」か「文明の衝突」か？）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、プリントを配布する予定。 参考文献は、授業の中で随時紹介する。	授業への積極的な参加、毎回の授業で提出させる「課題レポート」の評価をもとに総合的に判定する。

13 年度以降 12 年度以前	中国特殊研究（中国文学研究ａ） 中国特殊研究Ⅲ（中国文学研究古典）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の読解力を高め、中国文化への理解を深めるには、中国の文学作品に直に触れることがもっとも有効な方法と言えます。このことを目標に、この授業では、中国の代表的な古典文学作品を取り上げます。 予め原文（原典、或いはその現代中国語訳）を予習してきてもらい、それを授業のときに履修者全員にランダムで訳してもらう、という進め方を考えています。また、適宜担当者を決め、プレゼンをしてもらう予定です。 ここに挙げた作品は、ほとんどが和訳されています。中国語と日本語の両言語から、作品理解を深めるよう努めてください。 一部の作品は映像化されているので、春学期の後半に鑑賞する予定です。 なお、学生の興味と語学力のレベルによって、作品を変更することがあります。	第1回 全体ガイダンス 第2回 木蘭詩 第3回 木蘭詩 第4回 唐詩選より 第5回 唐詩選より 第6回 唐詩選より 第7回 唐宋伝奇集 『補江総白猿伝』 第8回 唐宋伝奇集 『補江総白猿伝』 第9回 章回小説 『西遊記』 第10回 章回小説 『西遊記』 第11回 章回小説 『西遊記』 第12回 戯曲 『白蛇伝』 第13回 戯曲 『白蛇伝』 第14回 戯曲 『白蛇伝』 第15回 全体のまとめ、期末レポートに関する説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布	平常点（予習の取り組み方、読解の正確さ、作品理解の度合い）、レポート

13 年度以降 12 年度以前	中国特殊研究（中国文学研究ｂ） 中国特殊研究Ⅳ（中国文学研究現代）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
古今東西を問わず、自伝、書簡、日記、回想録など、「私」ついて語ったテクストは数知れない。中国近現代文学の場合に限定していえば、メディアの発達に伴い、こういったテクストは二十世紀初頭から増え始め、読者の目に触れる機会が多くなった。 しかし、ここで考えなければならないのは、作家たちはなぜそれを見ず知らずの読者に曝け出すのか、読者はなぜそれを読むのか、という問題ではないだろうか。 五四新文化運動以降、文革終息後に至るまで、異なる時代背景のなかで、「見せること」と「見ること」の関係がどのように移り変わっていったのか、このことを念頭に起きつつ、中国近現代文学の代表的な作家のテクストを取り上げ、熟読する。 授業の進め方、和訳の有無は春学期同様。 なお、学生の興味と語学力のレベルによって、作品を変更することがあります。	第1回 全体ガイダンス 自伝 郁達夫 第2回 自伝 郁達夫 第3回 自伝 郭沫若 第4回 自伝 郭沫若 第5回 書簡 魯迅『両地書』 第6回 書簡 魯迅『両地書』 第7回 書簡 沈従文『鄂行書簡』 第8回 書簡 沈従文『鄂行書簡』 第9回 日記 蕭軍『延安日記』 第10回 日記 蕭軍『延安日記』 第11回 日記 葉聖陶『一九七六年日記』 第12回 日記 葉聖陶『一九七六年日記』 第13回 回想録 巴金『随想録』 第14回 回想録 巴金『随想録』 第15回 全体のまとめ、期末レポートに関する説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布	平常点（予習の取り組み方、読解の正確さ、作品理解の度合い）、レポート

12年度以前	中国研究Ⅱ（中国の思想・文学）	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
2014年度のアジア・太平洋賞を受賞した葛兆光著『中国再考－その領域・民族・文化』を中国語原文と和訳を対照しながら読んでいきます。 内容：古代中国の天下観はいかにして現代中国の世界観へと転化したのか。伝統中国の領域はいかにして現代中国の国境となったのか。中国文化は漢族の文化なのか、複数の文化なのか。中国は西側諸国と文化衝突を起こすのか、国際平和と地域の安定を導くのか。歴史を考察して得られる理性によって民族主義的情緒を批判し、他国民と敬意をもって共存し、尊重しあう道を探る。	１回　ガイダンス、授業の方法について ２回「中国」の歴史的成り立ちとアイデンティティの混迷 ３・４回　世界観――古代中国の「天下」から現代世界の「万国」へ ５・６回　国境――「中国」の領域についての議論 ７・８1回　歴史――長期的に中国文化を考える ９・10回　周辺――十六，十七世紀以来の中国，朝鮮，日本の相互認識 11・12回　現実――中国と西側の文化の相違は衝突に到るか 13・14回　苦悩する中国――「現代」，「国家」，「文化」におけるジレンマ 15回　学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
葛兆光著『中国再考－その領域・民族・文化』 岩波現代文庫	授業に対する積極性を50%、期末レポートの点数を50%で評価する。

12年度以前	中国研究各論Ⅳ（中国の芸能・芸術）	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
「中国映画の世界」 この授業では特に高い評価を得た中国語圏の映画作品を鑑賞しながら、中国の社会・文化・人間関係のあり方などについて考えていきましょう。基本的に日本語字幕のある作品を選びますので、中国語の聞き取りに不安がある方も履修可能です。 解題：監督・出演者・あらすじと作品の背景・評論などをとりあげて予備知識をたくわえ、翌週の鑑賞に備えます。 第５回目から履修者にリサーチと発表をお願いします。 鑑賞：実際の映画を鑑賞します。上映時間によって２週にわたる場合があります。 批評：履修者による映画批評の発表です。鑑賞した映画について自由に感想を述べ合いましょう。	1. ガイダンス、授業で扱う作品についての説明 2. 『初恋のきた道』解題 3. 『初恋のきた道』鑑賞 4. 『初恋のきた道』批評 5. 『海洋天堂』解題 6. 『海洋天堂』鑑賞 7. 『海洋天堂』批評 8. 『ジョイラック・クラブ』解題 9. 『ジョイラック・クラブ』鑑賞 10. 『ジョイラック・クラブ』鑑賞 11. 『ジョイラック・クラブ』批評 12. 『恋人たちの食卓』解題 13. 『恋人たちの食卓』鑑賞 14. 『恋人たちの食卓』鑑賞 15. 『恋人たちの食卓』批評
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いない。	授業に対する積極性と期末レポートにより評価する。

13 年度以降 12 年度以前	韓国研究概論 韓国研究入門	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、韓国研究のための最初の一歩であり、現代韓国に関する基本的な知識を総合的に幅広く身につけることを目標とする。 履修者には、課題の提出と講義への積極的な参加が期待される。 ※※初回講義には必ず出席すること※※	1イントロ①－講義紹介 2イントロ②－韓国の基礎知識 3イントロ③－統計で見た韓国・韓国人 4～7 朝鮮半島の歴史基礎 8～11 現代韓国社会の論点 12～15 朝鮮半島から日本を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜紹介していく。	討論、期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国経済論 韓国研究各論Ⅱ（韓国社会各論 b）	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40 年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この 40 年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということを明らかにすることを目的とする。まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。	1.　韓国の歴史、政治（1） 2.　韓国の歴史、政治（2） 3.　家族の構造 4.　社会の人間関係ネットワーク 5.　経済成長の社会学的考察 6.　経済成長をどう表すか 7.　二重構造モデル（ルイス・モデル） 8.　経済発展と後発性利益 9.　韓国の経済成長（1） 10.　韓国の経済成長（2） 11.　工業化パタンー日本モデル 12.　輸出志向工業化と輸入代替工業化 13.　韓国の財閥 14.　日・韓経済関係 15.　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
服部民夫（2005）『開発の経済社会学－韓国の経済発展と社会変容―』文真堂 その他必要に応じて資料を配布する。	定期試験と授業への参加度によって評価する。

13 年度以降 12 年度以前	韓国社会論 I 韓国研究各論 I （韓国社会各論 a）	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，韓国ポピュラー文化を通じて韓国の文化，社会，歴史を考察していく。日本との類似点，相違点等を自ら発見していってほしい。 ※※初回講義には必ず出席すること※※	1 イントロ① 講義紹介 2 イントロ② ポピュラー文化を考える，とは 3 韓国メディア論① 4 韓国メディア論② 5 韓国映画の世界① 6 韓国映画の世界② 7 韓国映画の世界③ 8 韓流とは① 9 韓流とは② 10 韓国ポップの歴史と現在 1960 年代 11 韓国ポップの歴史と現在 1960 年代 12 韓国ポップの歴史と現在 1970 年代 13 韓国ポップの歴史と現在 1970 年代 14 Kpop と日本 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回講義時に提示する。	期末テスト

13 年度以降 12 年度以前	韓国社会論 II 韓国研究 II （韓国社会論）	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、変化の著しい韓国社会をジェンダーの視点で読み解いていく。 とりわけ講義の前半では韓国社会の「家族」をめぐるさまざまな変化に焦点を当てて論じ、後半には、徴兵制度や、日本と韓国の間の歴史問題などに焦点を当てていく。	1 イントロダクション-講義紹介 2 ジェンダーとは 3 韓国社会の女と男① - 家父長制のはなし（1） 4 韓国社会の女と男② - 家父長制のはなし（2） 5 韓国社会の女と男③ - 家父長制のはなし（3） 6 ジェンダーと制度① - 法と制度の変遷 7 ジェンダーと制度② - 少子高齢化社会・韓国 8 変わりゆく「家族」① - 「多文化」家族について 9 変わりゆく「家族」② - ひとり親世帯の現状 10 徴兵制とジェンダー① - 徴兵制について 11 徴兵制とジェンダー② - 「軍事化された社会」とは 12 徴兵制とジェンダー③ - 討論 13 大衆文化とジェンダー① 14 大衆文化とジェンダー② 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜紹介していく。	期末テスト

13 年度以降 12 年度以降	韓国史 韓国研究Ⅰ（韓国史）	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
昨今の韓流ブームにより、私たちは韓国に関する情報に触れやすくなった。しかし残念なことに、韓国の歴史については知らないことが多いと思いと思われる。韓国の歴史を知ることは、同時に日本の歴史を知ることでもあり、相互理解にとってとても大事なことである。 このことをふまえ、本講義では韓国（朝鮮半島）の通史を講義する。講義の進め方は、プリントを配布し、それに基づいて話をする。 なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てる。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くこと。	第1回: ガイダンス 第2回: 古代から統一新羅へ（1） 第3回: 古代から統一新羅へ（2） 第4回: 高麗時代（1） 第5回: 高麗時代（2） 第6回: 朝鮮時代（1） 第7回: 朝鮮時代（2） 第8回: 朝鮮時代（3） 第9回: 植民地時代（1） 第10回: 植民地時代（2） 第11回: 現代（1）1945 年から 1960 年 第12回: 現代（2）1960 年から 1980 年 第13回: 現代（3）1980 年から 2000 年 第14回: 現代（4）2000 年以後 第15回: まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは水野俊平著『韓国の歴史』(河出書房新社、2007 年、1800 円)。参考文献は授業時に指示する。	評価の基準は、１古代から現代に至る韓国（朝鮮半島）の歴史についての基本的知識を得ることができたか。２・韓国（朝鮮半島）の歴史を通して、韓国（朝鮮半島）の現代的課題を見出すことができたか。 評価方法は、授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。

13 年度以降 12 年度以前	日韓比較文化論 韓国特殊研究Ⅰ（日韓比較文化論 a）	担当者	金（きむ）　熙淑（ひぃすく）(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。(50 名まで) ◎注意：テーマごとにグループ分けして話し合う場を設け発表する形式を取る。極力１回目の授業から出席すること。	1.　日韓比較文化講義の概要 2.　韓日の建国神話 3.　韓日の国土構造 4.　韓日の村落 5.　韓日の産育習俗 6.　韓日の歳時風俗 7.　韓日の祭祀風習 8.　韓日の民俗信仰 9.　韓日の家族 10.　韓日の食文化 11.　韓日の食事の作法 12.　韓日の住生活 13.　韓日の服飾 14.　韓日の伝統遊び 15.　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。	評価方法：授業への参加度 40%、課題レポート 60% ・日本と韓国の異なる文化を理解したか。 ・具体的な日韓文化の比較ができるようになったか。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	日韓交流史 韓国研究各論Ⅲ（日韓交流史）	担当者	金（きむ） 熙淑（ひぃすく）（김 희숙）

講義目的、講義概要	授業計画
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」（あるいは相互認識）のあり方やその変化についても焦点を当てていく。	1. ガイダンス 2. 韓国の歴史の流れ 3. 王仁博士と漢文 4. 日本の中の百済文化 5. 高麗時代の社会状況 6. 『三国史記』と『三国遺事』 7. 室町時代の朝鮮通信史 8. 江戸時代の朝鮮通信史 9. 豊臣秀吉と李舜臣 10. 申叔舟と雨森芳洲 11. 安重根と伊藤博文 12. 日韓併合の政策 13. 日韓併合(実施) 14. 淺川巧と韓国 15. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。	評価方法：授業への参加度 30%、課題レポート 70% ・日韓の交流と歴史を理解したか。 ・日韓の交流と歴史について相互認識ができるようになったか。

13 年度以降 12 年度以前	韓国特殊研究（韓国政治論） 韓国研究各論Ⅳ（韓国文化各論 a）	担当者	呉　吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国の政治と政治文化に対する理解を深めることが目的である。 韓国政治の理解には、朝鮮半島における政治文化の形成・展開を検討することがとりわけ重要である。政治文化とは、政治のあり方を規定するイデオロギー、伝統、観念、信仰、ルールなどの政治過程に関わる一切の文化のことで、朝鮮半島においてはそれが近代以後に大きく変貌したとされる。だがその根幹となるものはすでに前近代に形成されており、従って政治文化の正確な把握には、前近代朝鮮の政治の展開過程を検討することが必要である。 講義では、朝鮮半島の政治を前近代から時代順に概観しつつ、各時期における政治の様子と政治文化の特徴を明らかにしていく。	１回　ガイダンス、韓国政治史の時期区分 ２回　朝鮮半島における古代国家の出現と古代統一国家の誕生 ３回　高麗王朝の建国と展開 ４回　朝鮮王朝の成立 ５回　両班支配体制の確立と展開 ６回　日本の植民地支配期の政治 ７回　米軍政と「分断体制」の形成（第１共和国） ８回　朝鮮戦争と政権の独裁化 ９回　4.19 学生革命と第２共和国 １０回　5.16 軍事クーデタと軍事政権の誕生（第３共和国） １１回　維新体制と軍事独裁の強化（第４共和国） １２回　軍事政権と民衆 １３回　光州民主化抗争と新たな軍事独裁（第５共和国） １４回　民主化（第６共和国） １５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。参考文献については、初回の授業時に紹介する。	授業への参加度：５０％、期末試験：５０％

13 年度以降 12 年度以前	韓国研究情報収集法 韓国研究情報収集法	担当者	金（きむ）　熙淑（ひぃすく）(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。３－４名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。 ＊韓国語を理解する者に限る。 注意：はじめの授業で演習のグループ分け、発表担当者と担当日を決めるので必ず出席すること。欠席は遠慮し極力１回目の授業から出席すること。	1.　ガイダンス 2.　各自発表する方法を選び、発表日程決定 3.　ハングルのタイピング練習① 4.　ハングルのタイピング練習② 5.　ハングルのタイピング練習③ 6.　ハングルのタイピング練習④ 7.　インターネット検索 8.　インターネット検索 9.　調査発表① 10.　調査発表② 11.　調査発表③ 12.　調査発表④ 13.　現地調査発表① 14.　現地調査発表② 15.　まとめ 注意:「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する。	評価方法：　授業への参加度 40%、課題レポート 60% ・韓国の情報収集方法について理解したか。 ・収集した情報を整理して発表することができるようになったか。

13 年度以降 12 年度以降	韓国特殊研究（韓国前近代史） 韓国研究各論Ⅵ（韓国文化各論 c）	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
韓国を理解するためには、その歴史を知る必要がある。とくに朝鮮時代は、現在の韓国文化の基盤となっていると同時に、韓国人の習慣や考え方の基礎となっている。本講義では韓国の前近代史、とくに朝鮮時代を講義することにより、その知識を得、韓国の歴史、文化に対する理解を深めることを目標とする。 講義ではガイダンスのあと、歴史と地理を概観した後に、国王と王妃、王朝の組織などを解説し、食事、服飾、建築などを各論に入る。テキストとプリントに基づいて講義をする。講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。 なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。 なお人数によっては課題レポートの作成と発表を行うこともある。	第１回：ガイダンス 第２回：歴史と地理（1） 第３回：歴史と地理（2） 第４回：歴史と地理（3） 第５回：国王と王妃 第６回：朝鮮王朝の組織 第７回：服飾 第８回：食事 第９回：建築 第１０回：芸能・音楽（1） 第１１回：芸能・音楽（2） 第１２回：美術（1） 第１３回：美術（2） 第１４回：世界遺産 第１５回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 橘洸次、姜基洪『朝鮮王朝 500 年の秘密』（二見書房） ＜参考資料等＞授業時に指示する。	授業冒頭に行う小テスト、レポート（50%）、期末試験（50%） ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えない。

13 年度以降 12 年度以前	韓国特殊研究（韓国の宗教） 韓国研究各論Ⅴ（韓国文化各論 b）	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
韓国と日本は隣国で似ている点も多いが異なる点も多くあります。宗教もその一つで、宗教分布や宗教と人々との関係など、日本と大きく異なっています。本講義では、こうした韓国の宗教状況とそれに関する問題点を理解することにより、韓国社会に対する理解を深めることを目標とします。 本講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行う。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。なお知識を定着させるため、授業の最後の 15 分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。	第１回：ガイダンス 第２回：韓国宗教の構造 第３回：民間信仰 第４回：仏教（1）仏教略史 第５回：仏教（2）仏教概要 第６回：仏教（3）韓国史の中での仏教 第７回：仏教（4）現代韓国の中の仏教 第８回：儒教（1）儒教略史 第９回：儒教（2）韓国史の中の儒教 第１０回：儒教（3）現代韓国の中の儒教 第１１回：キリスト教（1）キリスト教略史 第１２回：キリスト教（2）韓国史の中でのキリスト教 第１３回：キリスト教（3）現代韓国のキリスト教 第１４回：現代韓国と宗教 第１５回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 佐藤厚『韓国仏教入門』（大東出版社、2015 年夏刊行予定） 参考文献は授業中に紹介する。	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国文学史）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）文学とは、歴史、思想、心理や行動パターンなど、その国の文化の核心を集約した言語芸術である。本講座は、韓国文学史を代表する作品を、各時代の思想や世界観を中心に考察することを通して、韓国の原風景を巨視的に把握しようとする韓国研究企画の一つである。 （講義概要） 1）前近代： 古代から三国時代、高麗、朝鮮時代に至る文学の流れを各世界観を中心にコンパクトに考察する。庶民芸術で、韓国人の愛情心理の原型をなしている「春香伝」は映画で鑑賞する。 ２）近現代： 近代国民国家作りが植民地化とともに進行されざるをえなかった近代文学の特殊性を把握した上で、植民地時代、朝鮮戦争、南北分断、民主化、新自由主義時代を生き抜く韓国文学の流れを代表作を通じて考察する。映画化された小説は、映画版を積極的に活用する。	1. 文学作品を分析する五つの方法 2. この世と彼岸：古代神話と説話の世界 3. 中世文学１ 4. 中世文学２ 5. 中世文学３－パンソリ映画「春香伝」鑑賞 6. 自由討論－韓国・日本の中世ラブストーリー 7. 近現代文学序説 8. 近現代詩の世界–金素月・韓龍雲・尹東柱など 9. 近代史の中の女性たち：映画版「金薬局の娘たち」 10. 分断期の左右対立：映画版「太白山脈」鑑賞 11. 開発独裁時代の人間：映画版「我らの歪んだ英雄」 12. 産業化の影：映画版「三浦へ通ずる道」 13. 新世代のネット小説：映画版「猟奇的な彼女」 14. 新世代のネット小説：映画版「オオカミの誘惑」 15. まとめ （＊場合によって差し替えの可能性あります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
沈元燮編、『1 冊で読む韓国文学テキスト』（冊子）配布	感想文（1-２頁、約 2 回）：40%、期末テスト：40%、授業への参加度：20%

13 年度以降 12 年度以前	韓国特殊研究（韓国の言語文化） 韓国研究Ⅲ（韓国の言語文化）	担当者	金　泰植

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国映画を手がかりに、韓国の言語と文化について学ぶことを目標とする。 初回に韓国映画史に関する概論を学んだ後に、実際に韓国映画や台本を見ながら、韓国の言語と文化について学ぶ。映画に出てくる台詞に注目しながら、その人の属性や相手との関係性などシチュエーションに合わせた韓国語を使えるようにする。 また様々なテーマを扱った映画を見ることによって、韓国文化に対する理解を深めることを目的とする。例えば韓国の恋愛や若者文化に関する映画から、徴兵制や分断、または整形手術など多様なテーマの映画を扱うことにする。 映画を見た後のディスカッションと小レポート、期末にレポート課題を課す。なお具体的に扱う映画に関しては、初回ガイダンス時に行うアンケートを基に柔軟に対応するが、普段見ることの無い映画を積極的に扱うことにする。	第１回　ガイダンス・韓国映画史 第２回　歴史に関する映画 第３回　歴史に関する映画 第４回　社会問題に関する映画 第５回　社会問題に関する映画 第６回　恋愛に関する映画１ 第７回　恋愛に関する映画１ 第８回　戦争・分断に関する映画 第９回　戦争・分断に関する映画 第１０回　短編映画 第１１回　ドキュメンタリー映画 第１２回　ドキュメンタリー映画 第１３回　恋愛に関する映画２ 第１４回　恋愛に関する映画２ 第１５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献「韓国映画史 開化期から開花期まで」 ※その他は初回に提示する。	ディスカッションへの参加態度と小レポート（50%）、期末レポート(50%)で判断する。

13年度以降	韓国特殊研究（韓国小説の世界）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） —「小説で味わう韓国語中級の世界」— 小説は一国の文化の具体的な様子を、最も洗練で豊かな言語で描き出す言語芸術である。本講座は、韓国小説の学習を通して、韓国史や文化に対する理解を深める一方、より高いレベルの韓国語の世界を体験することを目標としている。 （講義概要） 1）韓国近・現代小説の流れを、韓国人に幅広く読まれてきた作品を中心に、コンパクトに紹介・解説する。 2）映画版を通して日本にも知られるようになった作品は映画を鑑賞する。 3）青年世代に人気のある作品である「若いケヤキ」・「にわか雨」・「ワンドォギ」は講読を行う。新しい文型、語尾、語彙などを中心とした応用練習を行う。	1. オリエンテーション 2. 韓国小説の流れ１ 3. 韓国小説の流れ２ 4. 映画と小説・ネット小説の世界 5. ネット小説「猟奇的な彼女」（2000映画版）鑑賞 6. ネット小説「オオカミの誘惑」（2004映画版）鑑賞 7. 現代小説「ワンドォギ」（2011映画版）鑑賞 8. 現代小説「若いケヤキ」講読１ 9. 現代小説「若いケヤキ」講読２ 10. 現代小説「にわか雨」講読１ 11. 現代小説「にわか雨」講読２ 12. 現代小説「ワンドォギ」講読１ 13. 現代小説「ワンドォギ」講読２ 14. まとめ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国小説テキスト』（冊子）配布	宿題（文型練習）（40%）、テスト（40%）、授業参加度（20%）

13年度以降	韓国特殊研究（韓国詩の世界）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） —「詩やK・POPで覚える韓国語中級」— 韓国は、珍しく詩集が大量に出版され、読まれている国である。歌を楽しむ文化も同じである。韓国の「詩と歌」を勉強することは、韓国人の精神世界や生き方を理解するに必要な近道の一つである。本講座では長い間、韓国人に親しまれてきた近・現代詩（声楽曲・K・POPを含め）の鑑賞・講読を通じて、韓国理解を深める一方、中・上級韓国語の世界を経験することを目的とする。 （講義概要） 韓国人に広く愛されている近現代詩や声楽曲、K・POPの中から、抒情的で、比較的に理解しやすいテキストを選び、テーマごとに講読を行う。重要な文型、語尾などは集中的に応用練習を行う。声楽曲やフオークソング、K・POPなどに作曲されている作品は動画鑑賞を並行する。	1. オリエンテーション 2. 恨：「アリラン」の世界、金素月「山有花」、「躑躅の花」 3. 知恵：韓龍雲「服従」・徐廷柱「菊の花のそばで」 4. 愛：金春洙「花」・姜恩橋「僕がもし詩人であるなら」 5. 故郷：鄭芝溶「郷愁」（詩と声楽曲） 6. 自我：尹東柱「序詩」「星を数える夜」 7. 秋：金南鳥「あなたがいるから」（詩と声楽曲） 金顯承　「秋の祈り」、高銀　「秋の手紙」 8. 自由：ヤン・ヒウン：「常緑樹」、「朝露」 9. 中間まとめ 10. K・POP金世花「涙で書いた手紙」、尹鐘信：「蘇り」 11. チャン・ナラ「祈り」など 12. ソン・シギョン「お前は感動だったよ」など 13. SHINee：「リン・ディンドン」など 14. ＥＸＯ：「好き好き」 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：　『詩や歌で覚える韓国語中級』冊子。授業時間に配布予定。	朗読（暗記）テスト（40%）、筆記テスト（40%）、課題・授業参加度（20%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	韓国特殊研究（専門講読） 韓国特殊研究Ⅲ（文献読解）	担当者	金　泰植

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は中級韓国語コースを履修した学生向けの読解専門講座である。初級、中級クラスで習得した文法知識を総点検、復習しながら、多様なジャンルの文章を読んでいく過程を通して、読解能力を培養することが目的である。 テキストは学生のレベルや個人差を勘案し授業開始時にアンケートも踏まえ決定するが、新聞記事から文学作品、エッセイ、論文などを考えている。新聞や雑誌記事は学生の関心があるテーマから選び、論文は参加者が卒業論文などで考えているテーマの中から選ぶことにする。 参加者が事前に配布された資料を読んで授業に参加し、指定された担当者が内容を発表し、理解を深めるためのディスカッションを行う。	第１回　ガイダンス・アンケート 第２回　雑誌記事を読む 第３回　雑誌記事を読む 第４回　新聞記事を読む 第５回　新聞記事を読む 第６回　文学作品を読む 第７回　文学作品を読む 第８回　文学作品を読む 第９回　論文を読む 第１０回　論文を読む 第１１回　論文を読む 第１２回　エッセイを読む 第１３回　エッセイを読む 第１４回　エッセイを読む 第１５回　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
資料を配布する。	課題とディスカッションへの参加態度（50%）と期末レポートを持って判断する(50%)

13 年度以降 12 年度以前	日本研究概論 I 日本研究Ⅶ（日本文化論）	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では日本研究の入門を目的とし、日本文化の各分野からトピックとなるような研究業績・課題を紹介します。 具体的には、歴史・民俗・宗教・美術・芸能・映画・マンガについて取り上げ、日本文化に関心を持つ学生が備えておきたい知識・教養を幅広くかつ興味深く概観します。 授業を通して、日本文化の豊かさを様々な切り口から窺い知ることになります。	1、　講義の概要 2、　網野善彦の歴史学（1） 3、　網野善彦の歴史学（2） 4、　柳田国男の民俗学（1） 5、　柳田国男の民俗学（2） 6、　折口信夫の民俗学 7、　仏教―法華経 8、　仏教と文学―宮澤賢治 9、　絵巻物の時空 10、能 11、黒澤明の映画 12、民俗芸能 13、マンガの引用学 14、戦後少女マンガ史 15、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、毎回プリントを配布。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

13 年度以降	日本研究概論Ⅱ	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 日本語という言語とその文化を，現代という限定された時間における単体の言語として把握するのではなく，東部アジアにおける他言語との関係の中の歴史的な存在としてみることによって，日本という言語文化への視点を獲得することを目的とする。 〔講義概要〕 授業は，教員の用意する資料を使用してすすめられる。毎回の授業は，資料にもとづいた課題が提示されるので，履修者はそれに対して，解答を作成すること，またはグループで討議することが要求される。そのなかで日本語の言語文化または東部アジアの言語文化をとらえる各自なりの視点を形成していきたい。	1. 導論 2. 古典中国語の位置 3. 古典中国語の特性 4. 漢文のひろがり 5. 訓読文の位置 6. 近代語と共有漢語 7. 漢字と訓読 8. 北東および東アジアの諸言語 9. 東南および南アジアの諸言語 10. 言語地理類型論 11. 高句麗語と日本語 12. モンスーンアジアと日本語 13. アイヌ語と琉球語 14. 日本の方言と諸言語 15. 結論
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは使用しない。参考文献は開講後指示する。	授業参加への積極性を前提としたうえで，試験(50%）とレポート(50%)を課し，その結果で評価する。

13年度以降 12年度以前	日本文学論・古代Ⅰ 日本研究Ⅰ（日本文学古典）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 奈良時代の文学テクストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」(時間があれば…)についても扱うことを予定している。	1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 ヤマタノヲロチ神話を読む④ 6 日本人遙かな旅を見る① 7 日本人遙かな旅を見る② 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 11 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 12 宮崎駿「もののけ姫」を見る⑤ 13 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 14 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験(持ち込み不可)

13年度以降	日本文学論・古代Ⅱ	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 平安時代の文学テクストは数多く残されているが、この講義では「異郷訪問譚」というキーワードのもとに、『伊勢物語』『源氏物語』を取り扱う。また、同じ「異郷訪問譚」の構造を持つ現代のファンタジーである「千と千尋の物語」を取り扱うことによって、上代・中古と現代の人々との間の運命観の違いについて話をしていきたい。	1 異郷訪問譚とは何か① 2 異郷訪問端とは何か② 3 伊勢物語を読む① 4 伊勢物語を読む② 5 源氏物語を読む① 6 源氏物語を読む② 7 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る① 8 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る② 9 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る③ 10 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る④ 11 源氏物語を読む③ 12 源氏物語を読む④ 13 源氏物語を読む⑤ 14 源氏物語を読む⑥ 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験(持ち込み不可)

13年度以降	日本文学論・中世Ⅰ	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、女房文学から隠者文学への交代を指標として区分することができる、古代より中世への和歌史を、各期を代表する歌人の和歌作品を取り上げて検討します。古典和歌文学の中心は、天皇の命によって編纂された勅撰集にあるが、女房と隠者の和歌についてみることは、周縁から和歌文学を眺め渡すことになります。 小野小町・和泉式部・西行の和歌作品を通して、古今集から新古今集までの和歌史を展望することにします。 近代短歌とは異なる古典和歌の表現の性格と、その読み方についての基礎的な理解も得られるようにしたいと考えます。	1、　講義の概要 2、　小野小町（1） 3、　小野小町（2）―移ろひ 4、　小野小町（3）―夢 5、　和泉式部（1） 6、　和泉式部（2）―帥宮挽歌１ 7、　和泉式部（3）―帥宮挽歌２ 8、　和泉式部（4）―帥宮挽歌３ 9、　女性仮託歌 10、西行（1） 11、西行（2）―たはぶれ歌１ 12、西行（3）―たはぶれ歌２ 13、西行（4）―たはぶれ歌３ 14、講義のまとめ 15、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

13年度以降	日本文学論・中世Ⅱ	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：お伽草子から中世日本人の世界観とその背景について考える。 中世という時代は古代と近世を繋ぎ、古代的観念を残しながら、信仰・宗教的にも近世へと橋渡しする時代でもある。そのため、古代から連綿と続く観念が認められるだけではなく、古代や近世とは異なる世界観が見られる。 現代「昔話」として語られているものの多くは、「お伽草子」に起源が求められる。本講座では「お伽草子」を中心に、中世的世界観を見出して行きたいと思っている。 今期は「ものぐさ太郎」「浦島太郎」「和泉式部」を取り上げていきたい。時間があれば「甲賀三郎」の冒険譚を読み解いていきたい。	1.　ガイダンス 2.　「お伽草子」とは何か① 3.　「お伽草子」とは何か②（「ものくさ太郎」） 4.　「浦島太郎」を読む① 5.　「浦島太郎」を読む② 6.　「浦島太郎」を読む③ 7.　「和泉式部」を読む① 8.　「和泉式部」を読む② 9.　「和泉式部」を読む③ 10.　「和泉式部」を読む④ 11.　「甲賀三郎」を読む① 12.　「甲賀三郎」を読む② 13.　「甲賀三郎」を読む③ 14.　「甲賀三郎」を読む④ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にない。	試験を行う。但し、欠席４回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻２回で欠席１回とする。

13 年度以降	日本文学論・近現代Ⅰ	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及する。 講義概要 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察する。 受講生への要望 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく興味関心を持ち、楽しんでほしい。	第１回　恐怖の日本文学のアウトライン 第２回　①伝統的手法による恐怖の造形 第３回　②　同上 第４回　③　同上 荒俣宏「帝都物語」 京極夏彦「魍魎の匣」 坂東眞砂子「死国」 他 第５回　①超自然的事象の題材からの造形 第６回　②　同上 第７回　③　同上 梅原克文「二重螺旋の悪魔」 鈴木光司「リング」「らせん」 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 他 第８回　①心理学的な題材からの造形 第９回　②　同上 第１０回 ③　同上 貴志祐介「黒い家」 桐野夏生「OUT」 他 第１１回 ①社会派ミステリーからの造形 第１２回 ②　同上 宮部みゆき「模倣犯」 東野圭吾「容疑者Ｘの献身」 他 第１３回 ①原作を映像で見る 第１４回 ②　同上 第１５回 まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度、紹介する。	レポート（定期試験）

13 年度以降 12 年度以前	日本文学論・近現代Ⅱ 日本研究Ⅱ（日本文学現代）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及する。 講義概要 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察する。 受講生への要望 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく興味関心を持ち、楽しんでほしい。	第１回　日本文学現代に見る癒やし 第２回　①人間関係からの癒し 第３回　②　同上 第４回　③　同上 重松清「ビタミンＦ」 浅田次郎「鉄道員」 恩田陸「夜のピクニック」 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 他 第５回　①時間からの救い 第６回　②　同上 第７回　③　同上 浅田次郎「地下鉄に乗って」 北村薫「スキップ」「ターン」 佐藤正午「Ｙ」 他 第８回　①笑いの持つ救い 第９回　②　同上 奥田英朗「インザプール」 「空中ブランコ」 佐藤多佳子 「しゃべれどもしゃべれども」 第１０回 ①美しい生き方 第１１回 ②　同上 第１２回 ③　同上 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 有川浩「阪急電車」 吉田修一「横道世之介」 天童荒太「悼む人」 他 第１３回 ①原作を映像で見る 第１４回 ②　同上 第１５回 まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度、紹介する。	レポート（定期試験）

13 年度以降 12 年度以前	民俗学 日本特殊研究Ⅰ（民俗学）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの生活は、先祖から受け継がれることで成り立っている。その受け継がれてきた心意や価値観を解明するのが民俗学である。そのため民俗学は過去の問題を研究するものではなく、継承されてきたものが、現在にどのようにつながり、現在の我々の生活の意味を探ることを目的とする。この研究は我々の現在の「存在」の在り方を探求する上でとても大事なことである。特にグローバル化された世界の中で、自分は何者であるのかを知ることが、相手を知ることに繋がるためである。 本講義では民俗学が研究対象とするものの概説、学問の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの問題を取り出して、これまでの研究成果を学ぶ。本講義により自分たちの現在の生活世界の土台がどのようなものであり、それが現在にどのように受け継がれてきているのかということを理解してもらいたいと思っている。	1　ガイダンス 2　民俗学の研究対象（具体的に） 3　国学から民俗学へ（民俗学の成立） 4　日本の祭り１（祭りの映像記録を見る） 5　日本の祭り２ 6　異界の問題１（妖怪・幽霊とは何か） 7　異界の問題２（日本の幽霊観） 8　異界の問題３（妖怪と神の関係） 9　昔話にみる「日本」 10　日本の災害伝承とその意味 11　年中行事１（とくに正月をめぐって） 12　年中行事２（とくに盆をめぐって） 13　人生儀礼１（人の一生における様々な儀礼） 14　人生儀礼２（とくに葬儀をめぐって） 15　日本人の死生観
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中にプリントを配布	試験による。ただし、４回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻２回で欠席１回とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13年度以降	日本史Ⅰ	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 原始～中世の日本列島を対象に、日本列島の社会・文化がどのように形成・変化していったのか、最新の研究成果を基に学ぶ。重要な点は、つぎの３点である。 ①日本列島の王権の位置・系譜を学び、それが万世一系ではないことを理解する。 ②古代天皇制から公家・武家・寺社が相互補完的に社会を支配する形へと変化していく要因・過程を理解する。 ③中世の長い時間を通じて武家の社会的役割が次第に大きくなっていく過程を学び、武家は単に軍事力で他の社会集団を凌駕したのではないことを理解する。 【講義概要】 ◎原始～中世の日本通史である。 ◎現在の研究の到達点と、中学校の歴史教科書の記述を比較しつつ、授業を進める。 ◎近年の日本の歴史学界のなかで、どのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていく。 ◎留学生・初学者にとって充分理解可能な講義である。	１：なぜ、歴史学は必要なのか？ ２：原始社会論 -稲作のはじまりはいつからか？- ３：邪馬台国からヤマト政権へ　-邪馬台国研究の最前線- ４：5～6ｃの倭国とアジア -王権は連続していたのか？- ５：倭国から「日本」へ -「天皇」・「日本」号の成立- ６：律令国家の展開 -天皇・律令国家の影響力は限定的だった！- ７：平安時代前期の国家と社会 -王臣家の地域進出- ８：摂関政治の成立 -ミウチ政治の成立・受領の台頭- ９：院政の成立と中世の胎動 -公家・武家・寺社の相互補完関係へ- 10：鎌倉幕府の形成と展開 -鎌倉幕府は1192年にできたのではない！- 11：元寇から鎌倉幕府の滅亡へ -元軍は本当に暴風雨で撤退したのか？- 12：日本列島史の転換期としての南北朝内乱 -なぜ内乱を通じて武家優位の社会になるのか？- 13：室町幕府論　-なぜ農民すらも武家を支持したのか？- 14：日明勘合貿易と「倭寇」 -「倭寇」は日本人か？- 15：総括　-古代・中世の日本列島と地域社会-
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に指摘する。	期末テスト（70%）、および課題レポート（3回程度実施：30%）による。

13年度以降	日本史Ⅱ	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 おもに戦国時代～太平洋戦争までの日本列島を対象に、世界の動きに留意しつつ、社会の変遷のあり方とそこに生きた人々の価値観を学び、現在の日本・世界の成り立ちと、これからの日本列島と世界について考える能力を身につける。とくに重要な点は、つぎの点である。 ①近世を通じた公武関係の変遷過程を知り、幕末になぜ天皇が再び注目されるようになったか、理解する。 ②日本列島の長い歴史過程のなかから**「獨逸学協会」**成立の意味を知る。 ③多くの当時者の言説を紹介しながら19ｃ後半～20cに生きた人々の「常識」と価値観を追い、戦争を是とする社会が形成されていく過程を動態的に知る。 【講義概要】 ◎戦国時代～太平洋戦争終結までの日本通史である。 その他は、春学期科目「日本史Ⅰ」に同じ。 ※歴史を学ぶ意義は知識を積み重ねることではなく、社会や人間の生き方、その変化について考える力を身につけることである。歴史を様々な視野から見つめることによって驚きを感じ、その重要さを学んで欲しい。	１：なぜ世界は統合に向かうか？ -大航海時代後の世界- ２：なぜ戦国大名はあらわれたのか？ -群雄割拠の時代から織豊政権・朝鮮侵略へ- ３：江戸幕府と東アジア -徳川政権と海を動き回る人々- ４：元禄の政治・社会 -大開発時代到来と戦時文化脱却- ５：江戸時代の評価 -「士農工商」なんてありません！- ６：対外危機と天保の改革 -なぜ幕末に「鎖国」概念が生まれたか？- ７：幕末の動乱 -なぜ再び天皇が注目されたか？- ８：明治政府の指針 -条約改正への長い道のり- ９：明治期の社会と思想 -自由民権運動・教育・獨逸学協会- 10：大日本帝国憲法・議会の成立と「国民」意識 -万世一系・単一民族国家説とナショナリズムの形成- 11：日清・日露戦争、韓国併合から条約改正へ -世界は日本をどう見たか？- 12：映像にみる20世紀前半の世界と日本 13：大正デモクラシーと第1次世界大戦 -脱亜から大東亜共栄への路線変更- 14：「優等生」の変貌と第2次世界大戦 -誰が戦争を支持したのか？当時の「常識」を考える- 15：総括 -日本列島の過去と未来をめぐって-
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に指摘する。	期末テスト（70%）、および課題レポート（3回程度実施：30%）による。

13 年度以降 12 年度以前	日本思想史Ⅰ 宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ（日本思想史１）	担当者	矢森　小映子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 現代の私たちがもっている世界観、特に「西洋（ヨーロッパ)」「東洋（アジア)」、そして自国に対するイメージは、いかに形成され、流布し、再生産されてきたのでしょうか。本講義ではその展開過程を、主に近世日本の洋学者とその周辺の人々の事例を通して検討していきます。私たちが当たり前に思っている世界観やイメージが、いつどのように形成されたものなのか、そしてどのような問題を抱えているのかを考えるきっかけにつなげてください。 【概要】 毎回一つのテーマに沿って、一人ないし複数の人物をとりあげます。彼らの史料を読み、その世界観と背景にある近世社会・思想の特質を考察していきます。 近世の人々の世界観を史料から読み取れるようになること、さらにその形成過程を歴史的文脈の中で捉える作業を通し、近世社会・思想への理解を深めることを目標とします。	1. 講義の概要 2. 洋学と洋学者―本講義が対象とする人々― 3. 近世初期の世界観―「三国」世界観の展開― 4. 地球球体説の衝撃―「中国」イメージの変容― 5. 「国益」と自国認識―司馬江漢と本多利明― 6. 只野真葛の世界観―近世の女性思想家― 7. 世界地理学者・山村才助の世界観 8. 国学者・平田篤胤の洋学受容と世界観 9. 19 世紀における洋学と社会―小関三英と渡辺崋山― 10. 藩と日本をめぐる意識―渡辺崋山を事例に― 11. 典拠蘭書とヨーロッパ社会 12. 箕作省吾『坤輿図識』の世界観 13. 幕末の世界観―アヘン戦争と『海国図志』― 14. 講義まとめ（確認テスト） 15. 講義まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しません。参考文献は授業中に適宜紹介しますので、積極的に読んで講義に臨んで下さい。	平常点 30%、レポート 30%、テスト 40%の割合で評価します。

13 年度以降 12 年度以前	日本思想史Ⅱ 宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ（日本思想史２）	担当者	小田　真裕

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 1. 古代から近代までの日本思想に関する基礎的な事象を学び、現在の私たちが抱く思想の形成過程や、特質等について考えること。 2. 日本思想史の研究を行う際に用いる史料と方法論を学び、自分自身で史料を読み解き、他人の受け売りではない意見を導き出せるようになること。 【概要】 現在の日本思想史研究において注目されているテーマやトピックと、それらにアプローチするための史料・方法論を紹介します。その際、概説的な説明をするだけでなく、（１）現在の「日本国」の外との交流・影響関係および、（２）獨協大学がある地域―草加・埼玉・関東―に生きた人々の思想的営為に着目していきます。 毎回の講義では、当該テーマについての説明をした上で、翻刻された史料を読む時間を設けます。 思想史は暗記科目ではありませんので、それぞれの人物が何を感じ、何を考えたのかということについて、自分自身の知見・経験に基づいて、主体的に考えようとする学生の参加を望みます。	1. 講義の概要 2. 日本思想史研究の歴史 3. 古代の思想 4. 中世の思想 5. 地域からの思想史 6. 近世の思想（１）―儒学はどう学ばれたか 7. 近世の思想（２）―江戸時代の手習い・教育 8. 近世の思想（３）―各地の国学受容者たち 9. 近世の思想（４）―農村復興のために 10. 幕末維新期の思想 11. 民衆思想史の方法 12. 近代の思想（１）―文明開化と民俗的世界 13. 近代の思想（２）―歌や句に見る近代化 14. 現代的課題へのアプローチ―災害への着目を例に 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義は、配布するプリントに沿って進めます。 参考文献は講義中に適宜示しますので、関心を持ったテーマ・トピックに関する文献を読んでください。	平常点 30%、期末テスト 70%の割合で評価します。

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 a） 日本研究各論Ⅳ（古典芸能）	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本の古典芸能の中でも世界的に関心を持たれている謡曲（能）をテーマとします。 とくに西行が登場する謡曲を数篇取り上げて検討し、題材と作劇の方法を探ってゆきます。そこから謡曲という古典芸能の性質を解明し、その日本文化の中に占める位置を理解するところにつなげてゆきたいと考えます。 神霊が主役を演じる、世界的にみて特異な演劇である能は、後世の演劇だけでなく、文学や映画などに大きな影響を与えていますが、授業を通してその本質に触れてもらいたいと思います。	1、　授業の概要 2、　西行桜（1） 3、　西行桜（2） 4、　実方 5、　西行塚 6、　遊行柳（1） 7、　遊行柳（2） 8、　江口（1） 9、　江口（2） 10、雨月 11、松山天狗 12、人丸西行 13、初瀬西行 14、講義のまとめ 15、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 b） 日本特殊研究Ⅳ（碑文を読む）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。 都市化が進んでも、ビルの陰にひっそりと石碑が建っていることがある。石碑とは（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）であるが、これらの種類や刻まれた文章を理解することで、それを立てた時代の人たちの意識や世界観を理解することができるだろう。 本講座は石碑類を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を写真などで示して（写真のデジタル処理に関してある程度の知識がある方が望ましい）読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。	1. ガイダンス 2. 概説（石碑にはどのようなものがあるか） 3. 日本漢文体の読解、梵字の読解 4. 道標・講中碑を読む 5. 墓碑銘・供養碑を読む 6. 記念碑・文学碑を読む 7. 学生諸君の報告と検討① 8. 学生諸君の報告と検討② 9. 学生諸君の報告と検討③ 10. 学生諸君の報告と検討④ 11. 学生諸君の報告と検討⑤ 12. 学生諸君の報告と検討⑥ 13. 学生諸君の報告と検討⑦ 14. 学生諸君の報告と検討⑧ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にない。	各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、授業中に検討した上で手直しして、最低４点提出してもらい、その内容による。

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 d） 日本特殊研究Ⅲ（写本を読む）	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、写本の読み方の基礎を手ほどきし、くずし字を用いて書写された文献を初心者でも読みこなせるようになることを目的とします。 教材として、西行の歌論『西行上人談抄』を取り上げることにします。 授業の最初では読み解き方の見本を示しながら進めてゆきますが、要領がわかってきたところで途中から履修者の学生にも課題を割り当てて読み解いてもらいます。 演習形式に近いですから、担当部分の発表時には準備に相応の負担がかかりますので、覚悟して下さい。 日本社会の中で失われてしまった和本リテラシーが、これからは改めて必要になってくるものと予想されます。その入門編となれば幸いです。	1、　授業の概要 2、　読み方の範例（1） 3、　読み方の範例（2） 4、　読み方の範例（3） 5、　読み方の範例（4） 6、　読み解き実践（1） 7、　読み解き実践（2） 8、　読み解き実践（3） 9、　読み解き実践（4） 10、読み解き実践（5） 11、読み解き実践（6） 12、読み解き実践（7） 13、読み解き実践（8） 14、講義のまとめ 15、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、プリントを配布する。	評価方法：期末試験の結果（50%）と、授業中に割り当てての実技（50%）によって評価する。

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 c） 日本特殊研究Ⅱ（文献読解）	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では西行の和歌を読解します。 日本文学史だけに限らず、広く現在まで日本文化の様々な分野に多大な影響を及ぼし続けている西行とは何者なのかを明らかにするために、その和歌作品を通して検討します。 様々に脱領域し、分野横断する西行和歌の魅力を、題材ごとに取りだしてみます。四季や恋といった通常の題材だけでなく、あらゆる題材に取材して和歌に詠んだ西行のことばを追求し、新しいことばの発見にも説き及んでゆきます。 和歌という形式が無限の可能性を秘めていることを知り、なぜ日本文化史の中に和歌が主要な位置を占め続けてきたのかを解明することにもなります。	1、　講義の概要 2、　花と西行 3、　月と西行 4、　山と西行 5、　野と西行 6、　河と西行 7、　海と西行 8、　恋と西行 9、　仏教と西行 10、修験道と西行 11、地獄絵と西行 12、民俗と西行 13、西行伝説 14、講義のまとめ 15、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 e）	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、昔話・伝説を素材とする宮澤賢治の童話を講読します。 昔話・伝説の宝庫といわれる東北・岩手県花巻に生まれ育った賢治の童話にはそれらを素材として取りこんだ作品が多いが、中でも彼の代表作のひとつ『風の又三郎』はその集大成と目されます。『風の又三郎』生成に至る童話数篇を取り上げて講読しますが、ひとつの方法として異人論を用いた作品分析を行います。 口承された前近代の昔話・伝説が、いかに近代の記載文学を豊かにしてきたかということを理解してもらいたいと考えます。	1、　授業の概要 2、　ざしき童子のはなし（1） 3、　ざしき童子のはなし（2） 4、　とっこべとらこ 5、　雪渡り（1） 6、　雪渡り（2） 7、　祭りの晩 8、　山男の四月（1） 9、　山男の四月（2） 10、種山ケ原（1） 11、種山ケ原（2） 12、風の又三郎（1） 13、風の又三郎（2） 14、風の又三郎（3） 15、講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文化研究 a） 日本研究各論 I （民俗芸能）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
「民俗芸能」は、無形民俗文化財に指定されるなど、「地域」との結びつきが強い文化の一つの類型として捉えることができる。 日本の祭りは神や仏との関係の中で、荘園制や中世後期以降の地縁的繋がりを基にして継承されてきた。神仏に対する「思い」や「願い」が基になっているために、祭りとの結びつきが強く、また所作や内容には信仰的意味が強く表れているといえるだろう。 日本は民俗芸能が多く残されている国であるが、民俗芸能をみることで、逆に日本文化の基盤あるいは認識変化を見ることができるといえる。 本講座では、芸能の種類によって、それぞれの成立ちや形を見て、その後、地域的な広がりと特性についてみていく。 授業では様々な民俗芸能を取り上げるが、講義だけではわかりにくいこともあり、映像を交えた形で理解を深めてもらいたいと思っている。 さらに現在では「民俗芸能大会」がさかんに行われているが、「地域」との結びつきや神仏との関係性の中で成立した芸能が、舞台にあがることの意味についても考えてみたい。	1. ガイダンス 2. 民俗芸能とは何か① 3. 民俗芸能とは何か② 4. 神楽 5. 獅子舞と鹿（獅子）踊り 6. 田植えに関する芸能 7. 「神」の去来 8. 二十五菩薩来迎会 9. 念仏踊りと盆踊り 10. 北海道・東北地方の芸能 11. 関東・北陸地方の芸能 12. 中部・近畿・中国地方の芸能 13. 四国・九州地方の芸能 14. 舞台にあがった芸能 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にない。必要な参考文献は授業中に示す。	試験を行う。但し、欠席４回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻２回で欠席１回とする。

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 b）	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本文化史の中で鬼の源流を探り、基層文化と外来文化とから成る日本文化の重層性の一例を解明することを目的とします。 鬼ごっこや節分の豆まきで子供の頃から誰しも馴れ親しんだ鬼にも歴史的変遷があり、その原像は現在の私たちが抱いている通念とは異なるものであったのではないかと考えられます。追う・追われる存在とは異なる、我々を祝福しに来訪する鬼を民俗伝承の中に探ってみる必要があります。 日本の歴史と文化の固有の性格に興味ある学生の関心に応じる授業になりますが、広くアジアの霊的世界への見渡しも視野に入れてゆきたいと考えます。	1、　授業の概要 2、　鬼の基礎知識（1） 3、　鬼の基礎知識（2） 4、　追儺の鬼（1） 5、　追儺の鬼（2） 6、　鬼の杖と宝物（1） 7、　鬼の杖と宝物（2） 8、　鬼の杖と宝物（3） 9、　中世の神と鬼（1） 10、中世の神と鬼（2） 11、中世の神と鬼（3） 12、タマの去来と季節風（1） 13、タマの去来と季節風（2） 14、タマの去来と季節風（3） 15、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは萩原秀三郎『鬼の復権』（吉川弘文館）を用いる。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

13年度以降	日本特殊研究（日本文化研究d）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：境界領域論から見る日本文化研究 日本文化の中にみられる「この世とあの世」や「異質と同質」などの、質的差異による認識の違いにより、空間的・時間的・社会的において、境界が生じる。この境界は線的に捉えられるものではなく、「領域的」であり、可変的であるとの性格が認められる。そしてこのような質的差異の認識や表象において、日本文化の中では大きな意味合いを持つ。 日本に存在する様々な場面を例として境界領域の性質と認識の形を明らかにし、また社会の中での境界領域の意味について考えていきたい。	1. ガイダンス、導入 2. 空間的境界領域とその認識①（日常的問題として） 3. 空間的境界領域とその認識② 4. 空間的境界領域とその認識③（非日常的問題として） 5. 時間的境界領域とその認識① 6. 時間的境界領域とその認識② 7. 日本の祭りにおける境界領域と認識① 8. 日本の祭りにおける境界領域と認識② 9. 昔話にみる境界① 10. 昔話に見る境界② 11. 子どもと老人の境界性① 12. 子どもと老人の境界性② 13. 近世の民間宗教者 14. 世間とは何か 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にない。必要な参考文献は授業中に示す。	試験を行う。但し、欠席４回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻２回で欠席１回とする。

13年度以降 12年度以前	日本特殊研究（日本文化研究c） 日本研究各論Ⅲ（地域文化）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
本講座では、「地域文化」の在り方と現在の実態を中心に話しを進める。「地域」とはどのようなものであり、そこにどのような「文化」を捉えることができるのであろうか。また「文化」とはどのようなものであるのか。 これらを理解した上で都市化と過疎化、そして高齢化やＩＴの発達がどのように我々の地域文化に影響を及ぼしているか、伝統的社会での「地域文化」の在り方から、現代の「地域文化」の様相を考えて行きたい。 「地域文化」は、生活そのものであるが、「伝統」という価値を付加することで、自己アイデンティティの形成のために用いられることもあり、また他者に対してアピールすることで、町おこしにも利用される。「地域文化」は単なる現象ではなく、我々が価値づけすることによって、成り立つ側面もある。「価値づけ」の意味についても本講座では問うてみたい。 「地域文化」を学ぶことは、自己存在を学ぶことでもある。	1　ガイダンス 2　地名の成り立ちと地域 3　地域形成と生活構造 4　白川郷の「結」（ビデオと解説） 5　地域認識の問題（地名と地域の関係） 6　地域文化としての祭り１ 7　地域文化としての祭り２ 8　地域の重層的構成 9　内的他者とその機能 10　伝統的祭りの方向性１（過疎地域の問題、具体例を通して） 11　伝統的祭りの方向性２（都市地域の問題、具体例を通して） 12　文化圏としての地域文化（ビデオと解説） 13　地域文化とフォークロリズムの問題 14　地域文化と新興の祭り（伝統的「地域」を離れた祭り。ビデオと解説） 15　ボーダレス社会の中の地域文化（現在にとって地域文化とは何か）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中にプリント配布	試験による。ただし、４回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻２回で欠席１回とする。

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本史研究 a） 日本研究Ⅲ（日本史 a）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945年に終わった戦争は普通には太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを見直す必要がある。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。 中高でのこの戦争の学習では、原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく、戦争全体の中での加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、ビデオをかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中、この戦争はどういうものだったかの事実はしっかり知っておきたい。 また、戦争の原因を日清・日露戦争にさかのぼって世界の中、アジアの中での日本の歩みを概観し、考察してみたい。 なお、なるべく秋学期とあわせて受講して欲しい。	1　1945 年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2　1941 年 12 月 8 日―真珠湾からかコタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　日中戦争をとらえる①―満州事変から日中戦争へ 6　日中戦争ととらえる②―対米英戦争とのかかわり 7　加害の問題①―731 部隊とは何か 8　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 9　治安戦としての日中戦争―「尽滅掃討」作戦 10　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 11　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 12　戦時下の社会―天皇制と国家神道・戦争への動員 13　女性と戦争（「女も戦争を担った」） 14　戦争と経済の関わりを考える 15　この戦争の原因をどうとらえるか

テキスト、参考文献	評価方法
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。平常点を若干加味する予定。

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本史研究 b） 日本研究Ⅳ（日本史 b）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
なぜ沖縄には、たくさんの米軍基地があるのか…。それはどうつくられ、どう維持されてきたのか。戦後のアメリカとの関わりをふまえて日本と沖縄の歩み学ばなければ、今日の沖縄の問題をとらえることはできない。1945 年 8 月に敗戦を迎えた戦争（アジア太平洋戦争・15 年戦争）をどうとらえるか、70 年目を越えた今日でも大きな争点である。占領以来のアメリカとの関係が、講和や賠償問題等をとおしての今日の日本の在り方、また日本人の戦争認識にも大きな影響を与えてきた事実に目を向けたい。 中国や韓国をはじめとするアジアの国々は、この 2、30 年間で大きく変わってきた。民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、かつては不可能だった民衆同士の交流が大きく進んできた。戦後補償や戦争の認識をめぐる論議が今もおこることを、やっとそういう論議ができるようになったと捉える必要がある。そうしたことをきちんと論議ができる知識をもつ若者でいて欲しい。 2011 年の 3･11 を経て、原発がどのように導入されてきたかを知ることの不可欠になった。取り上げていきたい。 なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。	1　本土決戦と日本の戦争の終わり方 2　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　東京裁判をめぐって 5　サンフランシスコ講和のもった問題 6　原発の導入をめぐって①―「ビキニ被曝」の直後に 7　原発の導入をめぐって②―原子力共同体と安全神話 8　日本の国内での補償をめぐって 9　日本のアジアへの補償をめぐって 10　日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 11　日中国交回復を考える 12　沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること 13　アジアの民衆からの戦後補償要求 14　「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 15　戦後 50 年の国会決議をめぐって―政治家の戦争認識

テキスト、参考文献	評価方法
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。平常点を若干加味する予定。

12 年度以前	日本研究Ⅴ（日本経済論 a）	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、基礎的な経済理論をベースに日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を明らかにするものである。講義を通じて、現実の日本経済がどうなっているのか、また実際の経済現象が理論的にどのように説明されるのかについて理解してもらいたい。なお、新聞やニュースで取り上げられている経済問題も紹介しながら講義を行う予定である。 特に受講の条件というわけではないが、受講生はマクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な知識を学習していることが望ましい。また、できるかぎり新聞や雑誌に目を通して、現実の経済の動きを理解するよう努めてもらいたい。	1.　イントロダクション 2.　国民経済計算とは 3.　三面等価の原則 4.　日本の経済成長 5.　産業構造の変遷 6.　日本の景気循環 7.　個人消費の特徴 8.　消費の決定要因 9.　消費と資産価格 10.　貯蓄率の動向 11.　設備投資の特徴 12.　設備投資の決定要因：資本ストックと金利 13.　設備投資の決定要因：企業経営者の経済見通し 14.　資金調達と設備投資 15.　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。	定期試験により評価する。

12 年度以前	日本研究Ⅵ（日本経済論 b）	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、基礎的な経済理論をもとに日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を明らかにすることを主眼としており、日本経済論 a の続編である。この講義では、民間経済主体の行動についての理解を前提として、政府の行動が経済に及ぼす影響、金融市場と実体経済との関係、世界経済と日本経済との相互の関係について理解してもらいたい。なお、本講義でも新聞やニュースで取り上げられている経済問題も紹介しながら講義を行う予定である。 特に受講の条件というわけではないが、日本経済論 a の場合と同様に、受講生はマクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な知識を学習していることが望ましい。また、できるかぎり新聞や雑誌に目を通して、現実の経済の動きを理解するよう努めてもらいたい。	1.　イントロダクション 2.　日本の雇用状況 3.　雇用の非正規化 4.　日本の物価動向 5.　日本の物価はなぜ上昇し難いのか 6.　財政とは 7.　財政と国債 8.　日本財政の問題点と展望 9.　金融とは 10.　日本の資金循環 11.　日本の金融システム 12.　国際収支の特徴 13.　外国為替レートの推移 14.　経常収支の決定要因 15.　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。	定期試験により評価する。

12年度以前	日本研究各論Ⅱ（企業経営）	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、我国企業の経営の特質について、グローバルな視点から考察することが目標である。グローバルな日本企業を数社取り上げて、先進国、発展途上国を問わず、如何に市場に参入し、成功を収めているかについて考察する。その上で、日本企業の企業経営における競争優位性について理解を深めていく。 日本企業がグローバル企業として世界に認められるには、その条件がある。日本国内だけに目を向けた経営は、やがて世界から排除されるだけでなく、市場からの消滅の恐れもある。したがって、限定された地域、人々を対象とするのではなく、開放的な経営をすることが、肝要となる。未成熟な経営段階からグローバル企業として認知されてきている我国企業の経営について、具体例を取り上げながら講義する。	1. 現代企業の諸形態 2. 株式会社の発展と企業支配 3. コーポレート・ガバナンス 4. 現代企業の社会的責任 5. 現代企業の環境経営 6. 現代企業の経営戦略 7. 人間関係論からモチベーション論へ 8. 経営組織の基本形態 9. 経営組織の発展形態 10. 製造業の国際競争力と生産管理 11. 経営のグローバル化と多国籍企業 12. 現代企業におけるIT戦略 13. 日本型企業システムの変容 14. 自動車産業の経営戦略 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	期末試験と授業への参加度によって、総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	言語学概論 多言語間交流研究 I （言語学 a）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する．ここでは言語学の応用的領域を取り上げ，社会における言語の機能を理解すると共に，その背景にある基本的な考え方を学ぶ．主として英語を対象言語とするが，言語資料分析については必要に応じて他の言語も扱う．また，言語学の周辺領域における言語研究にも言及する． 参考文献 David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of Language (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7) D. クリスタル／風間・長谷川訳 『言語学百科事典』（大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2） 町田健『言語学が好きになる本』（研究社出版，1999; ISBN:4-327-37674-4）	1. 話し言葉と書き言葉 ～言葉は約束事：言語学の研究対象，記号論，ローマ字表記 2. 動物の言語と人間の言語 ～チンパンジーも言葉が話せる？：動物のコミュニケーション 3. 言語と脳 ～失われた言葉を取り戻す：心理言語学と大脳生理学 4. 子供の言葉の発達 ～どのようにして言語を習得するか？：第 1 言語の発達過程 5. 外国語の上達 ～どのようにしたらうまく話せるようになるか？：第 2 言語の習得理論 6. 音と音声 (1) ～カテゴリーができるまで：調音音声学と音韻論 7. 音と音声 (2) ～音声はどのように聞こえるか？：音響音声学と聴覚音声学 8. 統語論 ～「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述：構造主義文法，生成文法，その他の文法 9. 形と意味 ～発話に意味を込める：意味論，語用論 10. 会話の原則 ～言葉の適切な使い方：談話分析 11. 言語と社会 ～言葉の多様性と普遍性：社会言語学 12. 世界の言語とその系統 ～言語の系統と分類：歴史言語学 13. 言語の進化 ～言語と人類の発達：言語考古学 14. コンピューターと言語 ～近未来の言語研究：人工知能，機械翻訳，コーパス言語学 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』（大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1）	定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題

12 年度以前	多言語間交流研究 II （言語学 b）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある．メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり，文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである．この授業では言語の基本的な構造を取り上げ，理論的枠組みを理解すると共に，ハンズオン的学習を通して言語資料の分析練習を行う．対象言語は英語を初め各国語にわたる．教材の事前予習を前提とする． **参考文献** Edward Finegan, *Language: Its Structure and Use, 6th ed.* (Wadsworth, 2011; ISBN: 978-0495900412) David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of Language* (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)	1. 形態論 (1)　形態素の同定（ハンガリー語，スペイン語） 2. 形態論 (2)　形態素の同定（現代ヘブライ語，マレー・インドネシア語，ペルシア語） 3. 形態論 (3)　形態素の同定（ラテン語，ラコタ語） 4. 音声学・音韻論 (1)　発音記号，音素・異音（英語） 5. 音声学・音韻論 (2)　音韻の同定（ウィチタ語，古典ヘブライ語，ラコタ語） 6. 音声学・音韻論 (3)　音素の同定（スペイン語，ヒンディー語，日本語） 7. 音声学・音韻論 (4)　超分節音素の同定（中国語，アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語） 8. 音声学・音韻論 (5)　音韻現象，生成音韻論（トルコ語，英語） 9. 統語論 (1)　直接構成素分析，句構造規則（英語） 10. 統語論 (2)　句構造規則（英語，イタリア語・ギリシア語） 11. 統語論 (3)　構造形成，語順，格（英語，中国語，ドイツ語，クリンゴン語） 12. 意味論　上位概念・下位概念，同意語・反意語（英語，日本語，ペルシア語） 13. 語用論　新旧情報，言語行為，話題化（英語，中国語） 14. 書記法（英語，イタリア語，ギリシア語，ヘブライ語） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Paul R. Frommer & Edward Finegan, *Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 5th ed.* (Heinle, 2011; ISBN: 978-0495912316)	定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題

12 年度以前	多言語間交流研究Ⅳ（英語学 b）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
前半は英語の歴史の概観を通して，英語世界がいかに成立し，どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ．視聴覚資料を補助的に用い，学習を支援する．また，英語史に関連する観光スポットを随時紹介する． 後半は英語を特徴づけ，他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ，現代社会における英語の位置づけを学ぶ． 　参考資料の事前読了および講義支援システムの参照が求められる． **参考文献** David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed.* (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4) David Graddol, Dick Leith, & Joan Swann, *English: History, Diversity and Change* (Routledge, 1996; ISBN: 0 415 13118 9 / 0 415 13117 0) R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, *The Story of English: Special Complete Edition*（マクミランランゲージハウス, 1989; ISBN: 4895850242） 石黒昭博他,『現代英語学要説』（南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X） 宇賀治正朋,『英語史』（開拓社, 2000; ISBN: 4 7589 0218 6）	1.　英語の概要：ヨーロッパと世界の言語分布 2.　英語以前 (1)：印欧語族の成立 3.　英語以前 (2)：ゲルマン語族の成立 4.　英語の夜明け：古英語とその社会 5.　英語の変動期：ヴァイキングおよび政治的変動 6.　英語の夜明け：中世とは？そしてその英語 7.　英語の充実：初期近代英語とイギリス社会の発展 8.　英語の黄金期：近代英語とヴィクトリア朝文化 9.　英語の多様性：イギリスの英語から世界の英語へ（地理的変異） 10.　英語の現状：アメリカ英語・第 3 世界の英語・コックニー 11.　英語使用の現状 (1)：公用語・第 2 言語・英語学習・辞書 12.　英語使用の現状 (2)：社会・文化と英語使用 13.　英語の特徴（語彙・語源）：本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング，（発音と綴り）：大母音推移・発音・文字・正書法 14.　英語の特徴（文法）：語順・修飾・統御，（談話構造）：パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 15.　英語の特徴（社会的変異）：社会階層・レジスター・ジャンル
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントを配布する．	定期試験 x 出席率 +平常授業における課題

13 年度以降 12 年度以前	英語学概論 多言語間交流研究Ⅲ（英語学 a）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする．扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論・英語史などがある．それぞれのテーマについて基本的概念を解説し，実際の英語理解の支援を行う．分野によっては視聴覚資料を補助的に用いる． **参考文献** 朝尾幸次郎,『英語の演習　第 3 巻：語彙・表現』（大修館書店）　宇賀治正朋,『英語史』（開拓社, 2000; ISBN: 4 7589 0218 6）　高橋作太郎,『英語教師の文法研究』（大修館書店, 1983; ISBN: 4469141526）　高橋作太郎,『続・英語教師の文法研究』（大修館書店, 1985; ISBN: 4469141542）　高橋作太郎,『英語の演習　第 2 巻：文法』（大修館書店）　竹林滋・桜井雅人,『英語の演習　第 1 巻：音韻・形態』（大修館書店）　西光義弘他,『日英語対照による英語学概論』（くろしお出版, 1999; ISBN: 4874241697）　橋内武,『ディスコース：談話の織りなす世界』（くろしお出版, 1999; ISBN: 4-87424-172-7）　David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4) R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, The Story of English: Special Complete Edition（マクミランランゲージハウス, 1989; ISBN: 4895850242）	1.　英語の文法理論（6 章） 2.　音声学（7 章） 3.　音韻論 (1)：分節音韻論（8 章） 4.　音韻論 (2)：強勢・イントネーション（8 章） 5.　形態論・語形成（9 章） 6.　統語論 (1)：構造主義の統語分析（10 章） 7.　統語論 (2)：生成文法の統語分析（10 章） 8.　意味論・語用論（11 章） 9.　談話分析 10.　英語史 (1)：古英語（4 章） 11.　英語史 (2)：中英語（4 章） 12.　英語史 (3)：近代英語（5 章） 13.　英語史 (4)：現代英語（5 章） 14.　英語史 (5)：英語の多様性（12 章） 15.　コーパス英語学
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：石黒昭博他,『現代英語学要説』（南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X）	定期試験 x 出席率 +平常授業における課題

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育概論 日本語教育研究Ⅰ（日本語教育概説）	担当者	石塚　京子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義概要＞ 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。 この講義は、将来、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。 なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法１の内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 ＜講義の目的＞ １．日本語教育と国語教育の違いを知る。 ２．日本語教育の歴史と現状を知る。 ３．さまざまな外国語教授法を概観する。 ４．日本語を外国語として客観的に捉える。 ５．外国語としての日本語の指導法を考える。 ６．教師の役割を考える。	1. 講義の概要説明、日本語教育の一例を紹介 2. 日本語教育とは何か(1) 日本語教育と国語教育の違い 3. 日本語教育とは何か(2) 日本語教育の歴史 4. 異文化接触と日本語教育 5. 外国語教授法の歴史 6. 外国語教授法の紹介(1) 7. 外国語教授法の紹介(2) 8. 言語教育と学習観 9. 日本語のしくみと指導のポイント(1) 10. 日本語のしくみと指導のポイント(2) 11. 教室活動の活動例 12. 教師の役割 13. コースデザインとシラバス 14. 評価方法 15. 講義のまとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜参考文献＞ 佐々木康子『ベーシック日本語教育』ひつじ書房、2007 中西家栄子『実践日本語教授法』バベル出版	期末試験（70%）、平常点や課題などの提出状況（30%）を総合的に評価します。

13 年度以降 12 年度以前	日本語コミュニケーション論 日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、外国人の日本語学習者に日本語を教える日本語教師にとって必要なコミュニケーションスキルを理解し、修得したい学生の要望に応じることを目的として授業します。 常に異文化コミュニケーションの中にある日本語教師が、日本語教育の現場でどのように対応してゆけばよいのかを考え、異文化理解と様々なコミュニケーションスキルを紹介し、それを身につけるためのエクササイズを行います。	1、 異文化摩擦 2、 異文化理解とは（1） 3、 異文化理解とは（2） 4、 コミュニケーションスタイルを決めるもの（1） 5、 コミュニケーションスタイルを決めるもの（2） 6、 自分をふりかえる（1） 7、 自分をふりかえる（2） 8、 言語コミュニケーションの違い（1） 9、 言語コミュニケーションの違い（2） 10、非言語コミュニケーションの違い（1） 11、非言語コミュニケーションの違い（2） 12、異文化コミュニケーションスキル（1） 13、異文化コミュニケーションスキル（2） 14、講義のまとめ 15、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは八代京子・世良時子『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』（三修社）。	評価方法：期末試験の結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	応用言語学 I 多言語間交流研究各論 I （応用言語学）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の４領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～3 週：言語習得 －言語習得 －言語維持 －言語喪失 第 4～6 週:　言語と社会 －バイリンガリズム・マルチリンガリズム（個人・社会） －マイノリティ言語 第 7 週：言語と脳 第 8～12 週：外国語教育 －Second language vs. Foreign language －教室における第 2 言語習得（指導法） －言語政策（公用語化、小学校英語、教育方法など） 第 13～15 週：言語研究

テキスト、参考文献	評価方法
配布資料等有り。	期末レポート＆課題(50%)、期末テスト(50%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	応用言語学Ⅱ 多言語間交流研究各論Ⅱ（第二言語習得）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 出席を前提とする。 また、課題（論文講読など）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～7 週： SLA 理論・仮説 －モニターモデル －認知プロセス －インプット・アウトプット・インターアクション仮説他 第 8～13 週：学習者要因 －年齢 －動機・態度(諸理論) －学習ストラテジー・学習スタイル －適正 －不安 －多重知能理論など 第 14・15 週：発表および総括

テキスト、参考文献	評価方法
配布資料等有り。	期末レポート＆課題（50%）、期末テスト（50%）

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学Ⅰ 多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	担当者	大熊　昭信

講義目的、講義概要	授業計画
授業目的 今日グローバル化が喧伝され、英語が世界語となっている事態から予想されるように、英語で作品を発表する作家が増えている。しかしこうした事態はすでに植民地主義以後のイギリスやアメリカの旧植民地で始まっていたことである。それはもはやイギリス文学、アメリカ文学といった範疇を超えている。英米の本国で生まれた白人作家ではない作家たちの英語で書かれた作品を英語圏文学というのである。この授業では主として旧植民地出身の作家たちの多彩な創作活動を、地域別に主要作家とその作品を紹介する。 講義概要 英米の旧植民地の作家や英米の作家の植民地に取材した作品を紹介し、カナダのアトウッドの『サバイバル』の紹介からはじめて、ソール・ベローや日系のジョイ・コガワ、黒人作家のイシュメール・リード、キャリル・フィリップス、イギリス人作家やアメリカ人作家の植民地体験としてロレンスやメルヴィルなどを紹介する。	第 1 週　講義概要 第 2 週　カナダ 第 3 週　オストラリア、ニュージーランド 第 4 週　サモア、チカーノ/チカーナ 第 5 週　日系のアメリカ人、カナダ人 第 6 週　中国系アメリカ人、朝鮮系アメリカ人 第 7 週　インディアン系アメリカ人 第 8 週　ユダヤ系のアメリカ人、イギリス人 第 9 週　英米の黒人系 第 10 週　カリブ海諸島 第 11 週　アフリカ（ナイジェリア、ケニヤ、南ア） 第 12 週　インド、パキスタン 第 13 週　アメリカ人作家の植民地体験 第 14 週　イギリス人作家の植民地体験 第 15 週　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。授業概要を毎回配信する。参考文献は授業中に適宜紹介する。	評価は、期末試験の結果(80%)によって評価するが、平常授業における参加度・貢献度などの実績(20%)も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学Ⅱ 多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	担当者	大熊　昭信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 現代は異文化が混在する多文化社会と言われている。だが、いったい多文化社会とはどのような社会なのか。どのように形成されたのか。その中で文化はどのような形をとるのか。異文化間の交流にはどのような形態があるのか。そうした疑問に答えつつ、そこにみられるさまざまな文化交流や変容の在り方を、文化変容、異種混合といったタームを導入しながら、英語圏文学に具体例をとって検討したい。 講義概要 多文化社会から誕生し、現在生産され消費されている英語圏文学の作家や作品をとりあげ、それらの国家間民族間の移動や、英語圏文学に特徴的である手法や、英語圏文学をも越える可能性としてクレオールやエクソフォニーやハイパーテキストや世界文学などについて批評的に検討する。	第１週　　講義の概要 第２週　　多文化社会の形成 第３週　　多文化社会のありかた（１） 第４週　　多文化社会のありかた（２） 第５週　　多文化社会のなかの文学の形 第６週　　作家の移動 第７週　　作品の移動 第８週　　リアリズムとマジック・リアリズム 第９週　　擬史の手法 第１０週　クレオールの文学 第１１週　エクソフォンの文学 第１２週　翻訳の問題 第１３週　世界文学のほうへ 第１４週　ハイパーテキストの可能性 第１５週　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。次回の授業概要を毎回配信する。参考文献は授業中に適宜紹介する。	評価は、期末試験の結果(80%)によって評価するが、平常授業における参加度・貢献度などの実績(20%)も評価対象とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化・批評 I 多言語間交流研究各論Ⅲ（英語圏の小説 a）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：次の三点を焦点に、world literatureを視野におきながら英語圏の小説について考えます。 1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。 2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。（言語についても考察します） 3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。 講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。 注意事項:TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。	1. 新奇なるもの、小説？ ― 新世界と小説 2. 帝国・小説・資本主義 3. 社会と小説 4. 英語圏の拡大 (1) 5. English Bestsellers of all time (1) 6. English Bestsellers of all time (2) 7. 帝国の光と影 8. 英語圏の拡大 (2) 9.「英文学」の成立 10. 小説の新たな挑戦 (1) 11. 小説の新たな挑戦 (2) 12. 語り返す言葉たちの登場 13. ポストコロニアルの文学地図 (1) 14. ポストコロニアルの文学地図 (2) 15. テキストの思わぬ旅路

テキスト、参考文献	評価方法
ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します	主に、コメントペーパー(30%)と定期試験(70%)による。 (上記の%は予定であり、変わる可能性もある)

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ 多言語間交流研究各論Ⅴ（英語圏の詩 a）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。 講義概要 アメリカ先住民の口承詩（うた）、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人たちの作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、「ここそしていま」の視点から論じる。メーリング・リストを使い、毎回、受講生の質問やコメントに応えたい。	1. アメリカの大地の声—Native American のうた 2. Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon 3. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman 4. ミクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson 5. モダニズムの起源を探る—(1)Ezra Pound がみた東洋 6. (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” に描かれた現代人の苦悩 7. (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学 8. (4) e. e. cummings の “typography”が創る「感じる」詩 9. ポストモダンの詩を読む　(1) Allen Ginsberg の “A Supermarket in California” 10. (2) Gary Snyder の “Riprap” 11. (3) Sylvia Plath の “Daddy” 12. (4) Robert Bly の “Snowfall in the Afternoon” 13. (5) Adrienne Rich の “Onion” 14. (6) Frank O’Hara の “The Day Lady Died” 15. (7) Sandra Cisneros の “My Wicked Wicked Ways”
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: *The Penguin Book of American Verse.* Geoffrey Moore, ed. New York: Viking, 2011 (ISBN: 9780241955444) 参考文献、『アメリカ名詩選』（岩波文庫）	4,000 程度の作品論（原ゼミ HP の「MLA 論文の書き方」を参照）とその詩の日本語訳をつけたレポートによって評価する。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象としない。

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ 多言語間交流研究各論Ⅷ（英語圏の演劇 b）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもらう場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげ、映像化された作品は冒頭部分を上映します。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。	毎回授業開始時に英語の語彙 quiz を、終了前に内容把握 quiz を行います。教室で読むテキストは、第 1～15 回まで、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）に関することなど、詳細は教室にて説明します。 ＊＊＊注意事項＊＊＊ 　全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ」は、英語学科生は「英語圏の演劇 b（06～12 年度）」「英語圏の文学・文化・批評 b（13 年度以降）」、言語文化学科生は「多言語間交流研究各論（07～12 年度）」「英語圏の文学・文化・批評Ⅱ（13 年度以降）」として登録ください。テキストの英文は TOEIC650 点程度かそれ以上の英語力が前提です。650 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	授業時の 2 つの quiz で 50%。観劇レポート 2 編（必修）で 50%、未提出者には単位を認めません。学期末定期試験はしません。

13 年度以降 12 年度以前	日本語音声学 日本語教育研究各論Ⅲ（日本語音声学）	担当者	磯村　一弘

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声について、基本的な知識を学ぶ。普段、意識しないで話している日本語の音声を、客観的に捉えられるようになることを目標とする。 そのうえで、外国人学習者が日本語の音声を学ぶ際の問題点や、これを教えるための具体的な方法について考える。	1.　(4/8)　言語音を作るしくみ 2.　(4/15)　母音(1) 3.　(4/22)　母音(2)、子音(1) 4.　(4/29)　調整日 5.　(5/13)　子音(2) 6.　(5/20)　子音(3) 7.　(5/27)　音素と異音、母音の無声化 8.　(6/3)　特殊音素(1) 9.　(6/10)　特殊音素(2)、拍とリズム 10.　(6/17)　アクセント(1) 11.　(6/24)　アクセント(2) 12.　(7/1)　イントネーション(1) 13.　(7/8)　イントネーション(2) 14.　(7/15)　**最終試験** 15.　調整日 **定期試験に代わるものとして、「最終試験」を 7 月 15 日の授業時間内に行う。定期試験期間中は、試験を行わない。単位が必要な者は、7/15 の試験を必ず受験すること。**
テキスト、参考文献	**評価方法**
国際交流基金（2009）『国際交流基金日本語教授法シリーズ 2　音声を教える』ひつじ書房。 そのほか、必要に応じて適宜プリントを配布する。	「最終試験」の成績による（上記参照のこと）。出席は取らない。

13 年度以降 12 年度以前	国際語としての英語 多言語間交流研究各論Ⅸ（国際語としての英語）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
約 3 億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると 20 億人あまり英語話者がいるという。20 億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。日本人にとって英語とは何なのであろうか。 本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングやフィールドワーク）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2 週：英語の普及 　－ディアスポラなど 第 3～4 週：英語の多様化 　－ピジンとクレオール 　－方言と標準語 第 5～7 週：世界英語―内部圏における多様化 　－アメリカ、オーストラリア、イギリス英語など 　－Hawaii Creole English 　－Ebonics 　－Spanglish など 第 8～9 週：世界英語―外部圏における多様化 　－インド英語 　－Singlish 第 10～11 週：世界英語―拡大圏における多様化 　－ヨーロッパと英語、ロシアと英語 　－中国と英語、韓国と英語 第 12～13 週：日本人にとっての英語とは何か 　－日本での英語使用 　－日本の英語教育史 　－現状と動向：政策、教師、カリキュラム、目的など 第 14～15 週 　－発表と総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布資料等有り。	フィールドワーク、期末レポートおよび他課題（50%）、期末テスト（50%）

13 年度以降 12 年度以前	日本語教授法Ⅰa 日本語教育研究各論Ⅰ（日本語教授法１a）	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この授業では、外国語として日本語を教えるために必要な基礎的な知識と能力を身につけます。自分自身の日本語運用や外国語学習の経験を振り返りながら、何をどう教えるかについて、様々な角度から考えます。 【講義概要】 日本語教育能力検定試験の出題範囲を概観し、これまでに学んだ各論の知識を整理します。また、コミュニケーション能力を伸ばす言語教育とはどのようなものかを考え、実践のための基礎力を養います。授業は、講義とディスカッション、発表の形態で進めます。 【注意事項】 授業で指示された課題は必ず取り組んで来ること。	第1回　オリエンテーション 第2回　言語使用と社会 第3回　言語習得 第4回　異文化理解と心理 第5回　外国語教授法 第6回　音声学・音韻論、学習者の発音１ 第7回　音声学・音韻論、学習者の発音２ 第8回　発音の指導 第9回　日本語の文字・表記 第10回　日本語の語彙、語彙形成、意味 第11回　文字・語彙の指導 第12回　文法・文型１ 第13回　文法・文型２ 第14回　文法・文型の指導 第15回　コースデザイン　－調査・分析－
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：佐々木泰子編『ベーシック日本語教育』ひつじ書房 参考文献：授業で随時紹介	①課題の取り組み　３０％ ②期末試験　５０％ ③参加態度・貢献度　２０％

13 年度以降 12 年度以前	日本語教授法Ⅰb 日本語教育研究各論Ⅱ（日本語教授法１b）	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この授業では、外国語として日本語を教えるために必要な基礎的な知識と能力を身につけます。自分自身の日本語運用や外国語学習の経験を振り返りながら、何をどう教えるかについて、様々な角度から考えます。 【講義概要】 秋学期は、コースデザインの基礎を学びます。また、「話す」「書く」「聞く」「読む」の技能別の指導と教室活動について理解を深め、実際の授業の流れを考えます。前学期に引き続き、コミュニケーション能力を伸ばす言語教育とはどのようなものかを考え、実践のための基礎力を養います。 【注意事項】 ・授業で指示された課題は必ず取り組んで来ること。 ・ペアワーク、グループワークなど協働で取り組む時間が多くなります。積極的な参加態度を期待しています。	第1回　コースデザイン　－計画の段階－ 第2回　教材・教具の選択 第3回　様々なシラバス 第4回　初級教科書のシラバス分析 第5回　授業の計画と実施 第6回　中上級教科書のシラバス分析 第7回　授業の計画と実施 第8回　話すための指導と教室活動 第9回　書くための指導と教室活動 第10回　聞くための指導と教室活動 第11回　読むための指導と教室活動 第12回　評価とテストの作成 第13回　総合的な教室活動１ 第14回　総合的な教室活動２ 第15回　総合的な教室活動３
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：佐々木泰子編『ベーシック日本語教育』ひつじ書房 参考文献：授業で随時紹介	①課題の取り組み　３０％ ②期末レポート　４０％ ③参加態度・貢献度　３０％

12年度以前	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法２）	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 外国語として日本語を教える具体的な方法を学びます。この授業は、日本語教育機関で実習を行うための準備教育で、演習中心で進めます。 【講義概要】 毎回、学生による模擬授業を行います。模擬授業担当者は期日までに教案を提出し、当日は自分の授業の様子をビデオに録画し、授業後半の振り返りに使用します。一方、教師役以外は全員学習者役となり、学習者の立場から、また、授業を俯瞰的、客観的にみる観察者として授業観察記録をつけます。 履修者の人数により、1回の模擬授業の人数を決定しますが、少なくとも一人2回は授業（教師役）を担当します。 学期末には、観察記録（他者からの評価）と振り返り（自己評価）をまとめ、自己分析レポートとして提出します。	第１回 ①オリエンテーション ②分担の取決め ③教案の書き方 ④授業の流れの復習 ⑤授業観察の方法 第２回～第14回 担当者による模擬授業 第15回 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
模擬授業に使用するテキスト： 『みんなの日本語初級Ⅰ,Ⅱ』、『げんきⅠ,Ⅱ』等の一般的な初級の教科書	①授業の準備　２０％　④参加態度・貢献度　２０％ ②模擬授業　３０％ ③期末レポート（自己分析レポート）３０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

12年度以前	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法２）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なう準備教育であり、演習授業である。 〔講義概要〕 毎回、学生による模擬授業をおこなう。自分の授業は必ず録画し，それをもとにした事後報告の提出を義務とする。また日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生になり、その授業を受けながら、授業の進行を客観的に観察し，授業観察記録をつける。 授業は，各回の前半が模擬授業，後半がそれについての討議と議論によって構成される。 模擬授業に使用するテキストは，『日本語初級　大地』(スリーエーネットワーク)を標準とする予定であるが，授業開始時にあらためて決定する。	第1回 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ④授業観察の方法 第２回～第14回 担当者による模擬授業 第15回 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講後適宜指示する	①模擬授業，②教案と報告書，③授業観察レポート，④授業参加への積極性貢献度の4項目(各25%)によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

12 年度以前	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	担当者	各担当教員

講義目的，講義概要	授業計画
〔授業目的〕 獨協大学における日本語教員養成課程は，4年次における教育実習を必須としている。実習では、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることが目的となる。 〔授業概要〕 この授業は，大学での事前と事後の指導，および学外の日本語教育機関における、少なくとも 2 週間(48 時間相当)にわたる実習(実際の授業を担当する教壇実習をふくむ)によって構成される。なおこの授業を履修するためには，教授法Ⅱを修了していることが条件となる。	各教育機関による。
テキスト，参考文献	**評価方法**
各教育機関によって指定される。	基本的には実習校からの評価に基づく。よって，欠勤，遅刻，不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。

12 年度以前	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	担当者	各担当教員

講義目的，講義概要	授業計画
〔授業目的〕 獨協大学における日本語教員養成課程は，4年次における教育実習を必須としている。実習では、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることが目的となる。 〔授業概要〕 この授業は，大学での事前と事後の指導，および学外の日本語教育機関における、少なくとも 2 週間(48 時間相当)にわたる実習(実際の授業を担当する教壇実習をふくむ)によって構成される。なおこの授業を履修するためには，教授法Ⅱを修了していることが条件となる。	各教育機関による。
テキスト，参考文献	**評価方法**
各教育機関によって指定される。	基本的には実習校からの評価に基づく。よって，欠勤，遅刻，不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。

13 年度以降 12 年度以前	日本語文法論Ⅰ 日本語教育研究各論Ⅳ（日本語文法形態論）	担当者	武田　明子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語文法論の範囲で形態論を取り上げる。形態論が日本語教育の中で役立つような観点から、必須となる項目を選んで話を進めていく。 形態論では日本語教育に役立つことを念頭においているため、品詞についても詳細に述べる予定である。もちろん、学生のすべてが日本語教育を志しているわけではない。しかし、学校文法で苦労した記憶のある者は、日本語を外国語として学ぶという観点から文法を眺めなおすことが、母語としての日本語のより深い理解と興味につながっていくはずである。 講義は毎回資料を配布するので、特に学生が用意してくるものはないが、毎回出席することを期待している。原則として欠席は３回までとするので、これを超える場合にはきちんと理由を報告する必要がある。	1.　日本語を取り巻く状況 2.　ヒトのことばの特徴 3.　形態論の概要 4.　派生形態論と屈折形態論 5.　語形と品詞 6.　動詞 7.　形容詞、名詞 8.　副詞、その他 9.　助詞 10.　助動詞 11.　語構成 12.　文語表現 13.　動詞の活用による表現 14.　形態論を取り巻く文法論 15.　日本語文法の中の形態論の整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリントを配布する	平常授業の実績　３０％ 期末試験の結果　７０％

13 年度以降 12 年度以前	日本語文法論Ⅱ 日本語教育研究各論Ⅴ（日本語文法統語論）	担当者	武田　明子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語学としての文法論を取り上げる。Ⅰと同様にこの論が日本語教育の中で役立つような観点から、必須となる項目を選んで話を進めていく。 形態論が語を検討課題としているのに対し、文法論では文そのものが検討課題となる。まずは単文内での文法分析を行い、次いで、複文での分析を行う。春と同様に学生のすべてが日本語教育を志しているわけではないが、母語話者であっても、日本語学の一端として日本語文法を垣間見ることは、日本語のより深い理解と興味につながっていくはずである。 講義は毎回資料を配布するので、特に学生が用意してくるものはないが、毎回出席することを期待している。原則として欠席は３回までとするので、これを超える場合にはきちんと報告をする必要がある。	1.　統語論の外観 2.　文法カテゴリ 3.　主題と主語 4.　テンス 5.　アスペクト 6.　ヴォイス(1) 7.　ヴォイス(2) 8.　使役 9.　授受 10.　自動詞と他動詞 11.　モダリティー 12.　取り立て 13.　複文(1) 14.　複文(2) 15.　日本語学としての統語論の整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリントを配布する	平常授業の実績　３０％ 期末試験の結果　７０％

13 年度以降	英語教育特殊研究（専門講読 a）	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
この「英語教育特殊研究（専門講読 a）」では英語教育に関する専門書（洋書）を読みます。指定されたテキスト、補助プリント、参考文献などを読むことで専門分野のことを英語で読み取れる読解力を養成（質、量ともに）すると同時に、それらの内容についての議論、発表をしながら、理解をより深めていくことをねらいとし、授業と学習を通して総合的な英語力の向上を目指します。内容に関しては教職的な授業実践も含みますが、英語の「教え方」を学ぶことで「学び方」の参考にもなるはずで、またその逆もありえます。なので、英語を「教える」「学ぶ」に関心があれば教職履修の有無は問いません。必要なものは英語教育への興味、関心と積極的な参加姿勢です。また、通常の言語科目同様、欠席が特段の理由なく３回を越えてはいけません。なお「英語」の授業なので、授業内は極力、英語での参加・進行を試みます。 The aim of this course is to improve your English ability through reading texts related to English education. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons.	1 Introduction 2 Reading the text with exercises 1 3 Reading the text with exercises 2 4 Reading the text with exercises 3 5 Reading the text with exercises 4 6 Reading the text with exercises 5 7 Reading the text with exercises 6 8 Reading the text with exercises 7 9 Reading the text with exercises 8 10 Reading the text with exercises 9 11 Reading the text with exercises 10 12 Reading the text with exercises 11 13 Reading the text with exercises 12 14 Reading the text with exercises 13 15 Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced at the first lesson	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%

13 年度以降	英語教育特殊研究（専門講読 b）	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
この「英語教育特殊研究（専門講読 b）」では専門講読 a に引き続き、英語教育に関する専門書（洋書）を読みます（a とセットでの履修が望ましいですが、b から(b だけ)では履修できないということではありません。）指定されたテキスト、補助プリント、参考文献などを読むことで専門分野のことを英語で読み取れる読解力を養成（質、量ともに）すると同時に、それらの内容について議論、発表をしながら、理解をより深めていくことをねらいとし、授業と学習を通して総合的な英語力の向上を目指します。内容に関しては教職的な授業実践も含みますが、英語の「教え方」を学ぶことで「学び方」の参考にもなるはずで、またその逆もありえます。なので、英語を「教える」「学ぶ」に関心があれば教職履修の有無は問いません。必要なものは英語教育への興味、関心と積極的な参加姿勢です。また、通常の言語科目同様、欠席が特段の理由なく３回を越えてはいけません。なお「英語」の授業なので、授業内は極力、英語での参加・進行を試みます。 The aim of this course is to improve your English ability through reading texts related to English education. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons.	1 Introduction 2 Reading the text with exercises 1 3 Reading the text with exercises 2 4 Reading the text with exercises 3 5 Reading the text with exercises 4 6 Reading the text with exercises 5 7 Reading the text with exercises 6 8 Reading the text with exercises 7 9 Reading the text with exercises 8 10 Reading the text with exercises 9 11 Reading the text with exercises 10 12 Reading the text with exercises 11 13 Reading the text with exercises 12 14 Reading the text with exercises 13 15 Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced at the first lesson	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降	英語教育特殊研究（授業分析と実践 b）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
自他の授業を分析し、省察できるようになることを主なる目的とする。また、長期的に英語を媒体言語として英語や社会の授業を展開できるようになることを目的とする。 講義内では、英語の授業を英語で教えることの功罪について考え、その長所を活かす授業展開に必要な教室談話を検討し、実践し、省察する。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングや分析課題）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語科教科教育法 II および/もしくは III の既修者が望ましい。	授業計画 第1回：　概論 第2回：　教室談話と学習 第3回：　発問とインタラクション 第4回：　発問と認知 第5回：　足場かけ（scaffolding） 第6回：　協働学習 第7回：　中学校英語の授業談話分析（日本語） 第8回：　中学校英語の授業談話分析（英語） 第9回：　中学校社会（日本）の授業談話分析 第10回：中学校社会（欧米）の授業談話分析 第11回：模擬授業および授業分析　1 第12回：模擬授業および授業分析　2 第13回：模擬授業および授業分析　3 第14回：模擬授業および授業分析　4 第15回：省察および総括

テキスト、参考文献	評価方法
Walsh, Steve. (2011). Exploring Classroom Discourse: Language in Action. London and New York: Routledge. ISBN: 978-0-415-57067-1	授業分析課題（30%）、模擬授業および授業分析レポート（40%）、その他課題（30%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降	英語教育特殊研究　（早期外国語教育）	担当者	居村　啓子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では早期外国語教育の理論と指導法を扱います。まず、第一言語獲得、第二言語獲得の知見から、子どもがどのようにして言語を獲得するのか、という全体像を学びます。年齢と外国語学習との関連性を探るとともに、子どもが言語学習に於いてどのような認知的方略を用いるかを検証し、さらに日本の早期外国語教育政策を外国の言語政策を踏まえ、学習指導要領を分析します。 後半は具体的な指導法を扱うと共に、現在の日本の早期外国語教育の課題について考察します。英語のテキストを購読しながら進めていきますが、随時日本語による資料も配布する予定です。授業参加度にはデイスカッションンや発表が含まれるので、積極的な参加を望みます。	１．子どもの認知発達 ２．母語の獲得 ３．第二言語習得 ４．年齢的要因 ５．学習ストラテジー ６．子どもの外国語習得の研究 ７．言語教育政策 ８．リスニングとスピーキング指導 ９．リーデイングとライテイング指導 １０．語彙と文法の指導 １１．教材分析と評価 １２．内容言語統合型指導法 CLIL １３．日本の早期外国語教育の課題 １４．発表 １５．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
Annamaria Pinter (2006) *Teaching Young Language Learners.* Oxford University Press	授業への参加度(20%)、課題レポート(30%)、期末テスト（50%）

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育特殊研究（教育教材論） 日本語教育特殊研究Ⅵ（日本語教育教材論）	担当者	小山　慎治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、日本語教育の教材作成の実践を通じて、言語コミュニケーションの能力の習得について考えることである。 授業では、日本語の授業における副教材の作成について学ぶ。この課題のために、教科書の分析、教材作成に関わる文献の講読を行う。そのうえで受講生には初級レベルの会話教材、読解教材、漢字教材の作成、それらを用いた授業案の作成を課す。また、中級、上級レベルの授業を視野に入れ、ビデオ、新聞記事、小説などを教材として使用する方法について検討してもらう。 このように、受講生による文献発表、教材の作成、作成過程および授業案の発表を軸に授業を進めることになるので、積極的に活動に参加し，クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。	1　オリエンテーションと教材・教具の概観 2　言語コミュニケーションと日本語教育 3　初級教材の作成：教科書の分析 4　初級教材の作成：会話教材作成 5　初級教材の作成：漢字教材作成 6　初級教材の作成：日本事情教材の作成 7　初級教材作成過程と授業案の発表 8　初級授業における教材の可能性 9　中上級教材の作成：教科書の分析 10　中上級教材の作成：会話教材の作成 11　中上級教材の作成：生の素材を用いた読解教材作成 12　中上級教材の作成：ビデオを用いた教材作成 13　中上級教材の作成：日本事情教材の作成 14　中上級教材作成過程と授業案の発表 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない 参考文献： 野田尚志（編）『コミュニケーションのための日本語文法』くろしお出版 関正昭ほか（編）『会話教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭ほか（編）『漢字教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭（編）『読解教材を作る』スリーエーネットワーク	クラスでの課題（30%）、クラス参加（30%）、最終課題（40%）の割合で評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育特殊研究（意味論） 日本語教育研究各論Ⅶ（日本語意味論・語用論）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 日本語を素材として意味論と語用論の概要を理解するとともに，日本語教育への応用をかんがえることを目的とする。 意味とは何かという問題からはじまって，意味をとりあつかういくつかの理論とともに，意味論が対象とする具体的な言語現象を理解する。同様に，発話レベルでの文の意味をあつかう理論と，その具体的な現象を理解する。 〔講義概要〕 履修者は毎回の該当箇所を予習し，わからない点を明確にしてから出席することが要求される。教員から質問が「強制」されることもありうるので，よく準備をされたい。あわせて適宜，教員から議論の材料となる語彙・意味に関するデータが提供されるので，授業内で，グループなどによる討論もおこなわれうる。	1. 意味論語用論概説 2. 語の定義 3. 形態素 4. 語の種類 5. 語種 6. 語構成 7. 意味の意味 8. 語の意味 9. 同義と反義 10. 上位語と下位語 11. コローケーション 12. 文の意味 13. 叙法の意味 14. 強調の原理 15. 意味論語用論と言語教育
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは，担当者が用意するプリントを使用する。参考文献は開講後指示する。	授業参加への積極性を前提としたうえで，試験をおこない，その結果で評価する。必要に応じてレポートを課すこともある。

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育特殊研究（談話論） 日本語教育研究各論Ⅵ（日本語談話論）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 談話についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は，前世紀の後半以降，文学，文化人類学，社会学，心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では，日本語教育の中上級の学習項目を談話論にもとめるという目標のもとで，談話とはなにか，どのような理論があり，どのような具体的分析が可能なのかを学習していく。 〔講義概要〕 履修者は毎回の該当箇所を予習し，わからない点を明確にしてから出席することが要求される。教員から質問が「強制」されることもありうるので，よく準備をされたい。あわせて適宜，教員から議論の材料となる談話に関するデータまたはテキスト内のものもふくめた課題が提供されるので，授業内で，グループなどによる討論もおこなわれうる。	1. 談話論概説 2. 談話の構成要素 3. 指示 4. 省略 5. 主題 6. 接続 7. 結束性分析 8. 語順 9. 動詞の文法範疇の談話分析 10. 文の種類 11. 各種の文の機能 12. 文章の談話構造 13. 会話談話構造 14. 応答と間投 15. 談話論と言語教育
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは，担当者が用意するプリントを使用する。参考文献は開講後指示する。	授業参加への積極性を前提としたうえで，試験をおこない，その結果で評価する。必要に応じてレポートを課すこともある。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	異文化間コミュニケーションⅡ 多文化共生研究Ⅵ（異文化間コミュニケーション b)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間のコミュニケーションとは「他者理解」の作法と言い換えることができる。グローバル時代では不可欠なことだ。しかし、それは「言うは易く行うは難し」のフレーズ通りなのである。 本講義では、その事例としてアメリカの黒人問題をとり上げる。 価値観や行動様式、そして外見のちがう「他者」との出会いでは、相手を理解する努力と寛容さが必要だ。ただ、アメリカは黒人種との出会いにおいて大きな過ちを犯した。それは彼らを奴隷として処遇したことである。この大罪に、アメリカはいまだ苦しんでいる。黒人と白人との修復されない不仲は犯罪や貧困の温床となっている。 苦悩するアメリカの現状を紹介し、歴史をさかのぼって奴隷から「解放」、そして真の「解放」への闘争を紹介する。	1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. 最近の黒人暴動にみる共生の現実 4. 奴隷制とは 5. 奴隷解放？現実は？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. バスボイコット事件 8. 公民権運動の共生理念 9. 非暴力不服従　ガンジーとキング 10. 迷える北部の黒人たち 11. 急進派ブラック・パワーとは 12. ベトナム反戦と黒人運動 13. モハメッド・アリ 14. 最近の人種関係 15. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
参考文献:『アメリカ黒人の歴史』本田創造　岩波新書 『キング牧師とマルコム X』上坂昇　講談社現代新書	学期末試験 レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください

13 年度以降 12 年度以前	多文化共生研究 I 多文化共生研究各論 I （アメリカの多文化共生 a）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
泥沼化するパレスチナ、イスラエルの紛争。二国家分立を実現し、かの地に多文化共生社会を築くためには何が必要なのか。それを妨げる阻害要因を中心に学ぶ。 春学期後半では、アメリカ社会のマルチ・エスニックな成り立ちを下記教科書を台本として、映像ソフトをみながら解説してゆく。	1．パレスチナは独立国家たりうるのか 2．アメリカはなぜ公平な仲介者となりえないのか 3．イスラエル国防軍を掌握する宗教シオニスト 4．在米キリスト教徒のシオニスト 5．イスラエル・ロビーの番付表 6．最強のイスラエル・ロビーとは 7．弟分、在欧イスラエル・ロビー 8．アラブ・ロビーはなぜ脆弱なのか 9．アメリカ先住民 10．越境するヒスパニック 11．今を生きる黒人 12．歴史の中の黒人 13．等身大のユダヤ人 14．声なき少数派、アジア系 15．ホワイト・エスニック
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行『映画で学ぶエスニックアメリカ』（2008 年NTT 選書1600 円） 佐藤唯行『アメリカがイスラエルを見捨てる日は来るのか』日新報道、1500 円	20 問 12 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可

13 年度以降 12 年度以前	多文化共生研究 II 多文化共生研究各論 II （アメリカの多文化共生 b）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期前半は明治以後の140年間、日本に対し、日露戦争の軍資金調達、医学・化学などの学術指導、法制定を通じ多大な恩恵を及ぼした知られざるユダヤ・パワーを学ぶ。 日猶友好親善の140年史を学ぶことは「外国人との共生」の道を模索せねばならぬ今日の日本人にとり、有益な示唆がえられるはずである。 後半は、多人種・多民族社会アメリカを舞台に、ユダヤ系を中心に、他の人種・民族集団とのあつれきを生み出したメカニズムを歴史的に学んでゆく。対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する努力を紹介する。	1．日猶交流の140年史 2．投資銀行家、シフはなぜ日本を助けたのか 3．野口英世と恩師フレクスナー 4．明治医学界のユダヤの恩師 5．日本歴史学の父、リース 6．日本原子物理学の恩人、ボーア 7．憲法起草で指導的役割を果したケーディス 8．憲法に「男女平等」を盛り込んだベアテ・シロタ・ゴードン 9．米高等教育におけるクオータ・システム 10．アメリカにおける反ユダヤ主義の起源 11．黒人による反ユダヤ主義が生まれた背景 12．公民権闘争期、米南部におけるユダヤ教会堂爆破 13．アイルランド系移民による反ユダヤ暴動 14．ネイティブ・サザナーによるユダヤ人リンチ殺害 15．自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行『日本の恩人、ユダヤ人』（仮題）日新報道 15 年 9 月刊行予定、1600 円位 佐藤唯行『アメリカのユダヤ人迫害史』（2000 年 集英社新書）740 円	20 問 12 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可

13 年度以降 12 年度以前	多文化共生研究各論Ⅶ（大衆文化論）	担当者	木本　玲一

講義目的、講義概要	授業計画
現代の文化産業について理解を深めることを目的とする。各産業の成り立ち、市場の形成、関連する技術の変容、制度の確立、文化の動態などについて考えながら、私たちが日常的に接している文化・芸術について多角的に見る視点を養う。 この講義では、特に20世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製技術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、まず20世紀のポピュラー音楽を題材とし、サブカルチャーの社会的な意味を探る。さらにIT 技術の進展に伴う現在の複合メディア環境にも目を向け、そうした環境が導く文化、社会の動態について考察を深めていく。具体的な事例を中心に話を進めるが、講義の軸は社会学である。	1. イントロダクション 2. 20 世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3. 20 世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4. 20 世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5. サブカルチャーとグローバライゼ-ション 1：日本のロック（流入期～） 6. サブカルチャーとグローバライゼ-ション 2：日本のロック（その後～） 7. サブカルチャーとグローバライゼ-ション 3：日本のヒップホップ（流入期～） 8. サブカルチャーとグローバライゼ-ション 4：日本のヒップホップ（その後～） 9. 産業と文化 1 10. 産業と文化 2 11. ヤンキー文化とオタク文化 1 12. ヤンキー文化とオタク文化 2 13. 複合メディア社会とサブカルチャー1 14. 複合メディア社会とサブカルチャー2 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時指示する。	試験により評価する。

13 年度以降 12 年度以前	ローカル・メディア論 多文化共生研究各論Ⅷ（地域メディア論）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱うローカル・メディア（地域メディア）は、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo　Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここではローカル・メディアとしてとりあげたい。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、またどういった機能がそこに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。 学期の後半は、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらう。	１．イントロダクション ２．グローバル化とローカルコミュニティ ３．地域・地方文化の復権とメディア ４．各地のローカル・メディア（１） ５．各地のローカル・メディア（２） ６．各地のローカル・メディア（３） ７．メディアによる地域文化の創造（１） ８．メディアによる地域文化の創造（２） ９．多文化共生とローカル・メディア（１） １０．多文化共生とローカル・メディア（２） １１．災害時におけるローカル・メディアの役割 １２．受講者による発表（１） １３．受講者による発表（２） １４．受講者による発表（３） １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房	レポート（50%）と授業内での作品発表（50%） 【履修者多数の場合は期末テストを行う】

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文化 多言語間交流研究各論ＸＩ（英語圏の文化）	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP＜White Anglo-Saxon Protestant＞）社会を創造した。１９世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。	1. ガイダンス 2. ワスプ主義とは 3. 新しい白人移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャーⅠ 10. カウンターカルチャーⅡ 11. ロックミュージックの誕生 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：授業で紹介する	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

13 年度以降 12 年度以前	英語圏事情 多言語間交流研究各論ＸⅡ（英語圏事情）	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化の理想は、世界の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響力に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。 イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつづけ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。 アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。	1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. なぜ、銃が必要か 4. 日本の中のアメリカ、米軍を考える 5. アメリカの占領 6. 日米による安全保障とは 7. 米兵事件の実相 8. 湾岸戦争 9. ９１１ 10. アフガン/イラク戦争 11. もう一つの９１１ 12. 映像 13. ソフト・パワー 14. アメリカンポップカルチャーの力 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：授業で紹介する	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

13 年度以降 12 年度以前	国際関係論 国際交流研究Ⅰ（国際関係論）	担当者	中島　晶子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際関係の歴史と理論、国際政治と国際経済が連動する構造について、基本的な見方や枠組みを理解することを目的とします。 国際関係論は、大きな惨禍をもたらした第一次世界大戦の衝撃を受け、国際事象を総合的に把握するための学問として発展してきました。 国際関係の重要な課題は、1960 年代半ば頃まで冷戦構造における軍事的な安全保障でしたが、1960 年代末から冷戦構造が多極化に向かうにつれ、経済的問題の重要性が増すようになりました。 特に冷戦の終結後、国際経済秩序の再編、旧ソ連・東欧諸国の資本主義への体制移行をはじめとする多くの争点が続いて現れ、その傾向は強まりました。さらに、グローバリゼーションをめぐる議論の高まりで、国際政治と国際経済の相互作用や統合がますます国際関係の中心テーマになっています。 講義では国際関係の見方について、歴史および政治経済の連動の観点から概説します。	1. イントロダクション 2. 主権国家の誕生 3. ナショナリズムと帝国主義の時代 4. 第一次世界大戦 5. 第二次世界大戦 6. 冷戦からポスト冷戦へ(1) 7. 冷戦からポスト冷戦へ(2) 8. 地域紛争(1) 9. 地域紛争(2) 10. 国際関係学の理論(1) 11. 国際関係学の理論(2) 12. 国際関係学の理論(3) 13. 国際政治と国際経済の連動(1) 14. 国際政治と国際経済の連動(2) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
原彬久編『国際関係学講義［第 4 版］』（有斐閣、2011 年）をテキストとし、参考文献は適宜紹介します。	期末試験（70%）とコメントカードなど平常点（30%）により評価します。

13 年度以降 12 年度以前	南北問題　（貿易と開発の国際政治経済） 国際交流研究Ⅴ（南北問題）	担当者	キム　ウンヒ 金　雄熙

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、地球社会における貧困と差別などの具体的事象を取り上げ、南北問題とその解決策について考える。講義の進め方としては、まず南北問題を体系的に理解するうえで必要な理論的アプローチを学習する。そして南北問題の主な争点に紹介し、議論する。 講義の後半では、国際開発協力活動を取り上げ、深刻な南北問題に対する国際社会の取組みについても目を向ける。	1. 国際政治経済学の主なアプローチ 2. 自由主義 3. 重商主義 4. 急進主義 5. 戦後国際政治経済システムの形成 6. 戦後国際政治経済システムの特徴 7. 戦後国際政治経済システムの変容 8. 講義のまとめ 9. 新国際経済秩序(NIEO) 10. UNCTAD 11. ODA：理論的検討 12. ODA：主要争点 13. 主要国の ODA 政策(1) 14. 主要国の ODA 政策(2) 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する	中間テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常授業における課題などの実績（20%）で評価する。

13 年度以降	地域研究論　（東アジアと日韓関係）	担当者	キム　ウンヒ 金　雄熙

講義目的、講義概要	授業計画
日韓関係を取り巻く歴史的な環境や、現在両国間に生起する様々な問題を的確に捉えるための手がかりを提供するのが、この講義の目的である。 特に、韓国が経済・政治・外交・文化などの面で急速に台頭している中で、日韓政治関係が悪いのはなぜか。これには構造的要因があるのか、それとも、これからの関係者の行動によって改善されうるのか。竹島（獨島）・65年体制の問題などにどう対処すべきか。これらの諸問題について、東アジアの中の日韓関係という視座からバランスよく考えてみる。	1. 東アジアについての概念的理解 2. 東アジアの歴史的・文化的理解 3. 東アジア秩序の展開 4. 東アジア経済危機後の地域主義の変化 5. 東アジア共同体の分水嶺(1) 6. 東アジア共同体の分水嶺(2) 7. 東アジア共同体の分水嶺(3) 8. 講義のまとめ 9. 日韓基本条約と 1965 年体制(1) 10. 日韓基本条約と 1965 年体制(2) 11. 日韓 FTA の政治経済 12. 日韓関係の政治的理解 13. 日韓文化交流の現状と課題 14. 21 世紀新時代における日韓関係の未来ビジョン 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する	中間テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常授業における課題などの実績（20%）で評価する。

13 年度以降 12 年度以前	ＮＧＯ論 国際交流研究Ⅳ（NGO 論）	担当者	清水　俊弘

講義目的、講義概要	授業計画
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ＯＤＡ）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するＮＧＯが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。	①NGO 論オリエンテーション ②～③「対テロ戦争」と市民社会 I／アフガニスタンの現状と NGO の活動 ④～⑤「対テロ戦争」と市民社会 II／イラクの現状と NGO の活動 ⑥パレスチナ問題とＮＧＯの取り組み ⑦東アジアの平和と市民交流 ⑧ＮＧＯによる復興・開発協力の事例　（カンボジア） ⑨ミレニアム開発目標（MDGｓ）と持続的開発目標（SDGｓ）。ラオスにおける森林保全から考える。 ⑩アフリカにおける HIV/AIDS の原状と NGO の取り組み ⑪政府開発援助と NGO ⑫～⑬非人道兵器の禁止と市民社会 I 対人地雷の廃絶ｷｬﾝﾍﾟｰﾝに学ぶＮＧＯのﾈｯﾄﾜｰｸ ⑭非人道兵器の禁止と市民社会 II クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 ⑮ＮＧＯの組織運営と資金
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：日本国際ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ著『NGO の選択』めこん 2005 年 参考文献：清水俊弘著　『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年	平常点、授業への参加度、課題提出などの実績（30%）及び期末考査（小論文またはリポート）の結果（70%）を評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	国際政治論Ⅰ 国際交流研究各論Ⅰ（国際政治論 a）	担当者	岡垣　知子

講義目的、講義概要	授業計画
国際政治学は、他の社会科学および自然科学の知見を取り入れながら、戦争の原因および平和の条件をその中心的課題として、発展してきた学問である。この講義は、複雑化する今日の国際政治事象を体系的に考え、一見アト・ランダムな寄せ集めに見える国際的事件の中に一定のパターンを見出し、分析する力を養うことを目的として、国際政治学の基礎概念や代表的理論を紹介する。	１．　国際政治学とは何か ２．　国際政治の先駆思想 ３．　国際政治の歴史 ４．　国際政治学の基礎概念（１）集合行為の論理 ５．　国際政治学の基礎概念（２）分析のレベル ６．　国際政治学の基礎概念（３）国家とは ７．　国際政治学の基礎概念（４）国際政治の構造と安定性 ８．　リアリズムの世界（１）古典的リアリズム ９．　リアリズムの世界（２）構造主義とネオリアリズム １０．　リベラリズムの世界（１）相互依存論 １１．　リベラリズムの世界（２）民主主義による平和論 １２．　リベラリズムの世界（３）国際制度論 １３．　コンストラクティヴィズム、その他の理論 １４．　理論と政策 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：適宜紹介する	小テスト：１０％ 宿題：１０％ 中間試験：４０％ 学期末試験：４０％

13 年度以降 12 年度以前	国際政治論Ⅱ 国際交流研究各論Ⅱ（国際政治論 b）	担当者	岡垣　知子

講義目的、講義概要	授業計画
国際政治についての体系的なものの見方や主要概念を踏まえたうえで、この講義では、国際政治学と外交史、国際法、経済学、比較政治学、社会学等との学際的接点に注目しながら、今日のさまざまな国際政治事象を詳しく分析する。	１．国際政治経済学の基礎 ２．国際政治経済学（１）：グローバリゼーションの諸相 ３．国際政治経済学（２）：開発経済学の視点 ４．国際政治経済学（３）地域統合のダイナミクス ５．国際安全保障論の基礎 ６．国際安全保障論（１）：安全保障概念の変遷 ７．国際安全保障論（２）：安全保障レジーム ８．国際安全保障論（３）：新しい安全保障問題 ９．今日の課題（１）：環境 １０．今日の課題（２）：人権問題 １１．今日の課題（３）：核拡散 １２．今日の課題（４）：中国の台頭 １３．今日の課題（５）：アメリカと国際社会 １４．国連 １５．世界の中の日本
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：適宜紹介する	小テスト：１０％ 宿題：１０％ 中間試験：４０％ 学期末試験：４０％

13 年度以降 12 年度以前	国際経済論 I 国際交流研究各論Ⅲ（国際経済論 a）	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。	１　国際貿易概観 ２　リカード的比較優位説 ３　リカード的比較優位説 ４　ヘクシャー・オリーン定理 ５　ヘクシャー・オリーン定理 ６　国際貿易の一般均衡 ７　国際貿易の一般均衡 ８　経済成長と貿易 ９　国際資本移動と移民 １０　国際資本移動と移民 １１　関税・輸入数量制限 １２　関税・輸入数量制限 １３　輸入補助金と輸出自主規制 １４　輸入補助金と輸出自主規制 １５　質問とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
大山道広・伊藤元重『国際貿易』　岩波書店	試験のみで評価

13 年度以降 12 年度以前	国際経済論Ⅱ 国際交流研究各論Ⅳ（国際経済論 b）	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的な内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。	１　国際収支と国民所得勘定 ２　国際収支と国民所得勘定 ３　外国為替市場 ４　外国為替市場 ５　外国為替市場 ６　固定相場制下の所得決定 ７　固定相場制下の所得決定 ８　変動相場制下の所得決定 ９　変動相場制下の所得決定 １０　国際収支と財政・金融政策 １１　国際収支と財政・金融政策 １２　国際資本移動と財政・金融政策 １３　国際資本移動と財政・金融政策 １４　質問とまとめ １５　質問とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	試験のみで評価

13 年度以降 12 年度以前	日本政治外交史Ⅰ 国際交流特殊研究Ⅰ（日本政治外交史 a）	担当者	福永　文夫

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来図は、過去の経験と現在の選択においてしか描かれることはない。本講義では、第２次大戦後の日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。 春学期は敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力ーとくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを見てみる。 その際、国際社会のなかで日本はどうあるべきかを念頭に、受講者には歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えてもらいたい。	1. はじめに―国際社会のなかの日本― 2. 日米戦争と戦後日本（1） 3. 日米戦争と戦後日本（2） 4. 敗戦と占領　（1） 5. 敗戦と占領　（2） 6. 日本国憲法の誕生　（1） 7. 日本国憲法の誕生　（2） 8. 政党政治の再出発 9. 政党政治の展開 10. 中道政権の軌跡　（1） 11. 中道政権の軌跡　（2） 12. 占領政策の転換　（1） 13. 占領政策の転換　（2）－吉田茂の再登場 14. 占領政策の転換　（3）－ドッジ・ライン 15. おわりに
テキスト、参考文献	**評価方法**
【テキスト】福永文夫『日本占領史 1945～1952－東京・ワシントン・沖縄』中公新書。	講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。

13 年度以降 12 年度以前	日本政治外交史Ⅱ 国際交流特殊研究Ⅱ（日本政治外交史 b）	担当者	福永　文夫

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来図は、過去の経験と現在の選択においてしか描かれることはない。本講義では、第２次大戦後の日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。 敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、サンフランシスコにおける講和・独立から「５５年体制」を経て１９７０年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、それに日本の諸政治勢力ーとくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。 その際、国際社会のなかで日本はどうあるべきかを念頭に、受講者には歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えてもらいたい。	1. はじめに―国際社会のなかの日本― 2. 講和への胎動（1） 3. 講和への胎動（2） 4. 講和をめぐる国内政治－全面講和と多数講和 5. 講和をめぐる国際関係－サンフランシスコ講和 6. 「55 年体制」の形成－保守勢力の混迷 7. 「55 年体制」の成立－保守合同と社会党の統一 8. 「55 年体制」展開－鳩山・岸内閣 9. 60 年安保騒動と政党政治 10. 高度成長期の政治と外交－池田政権 11. 高度成長期の政治と外交－佐藤政権 12. 混迷の 70 年代（1） 13. 混迷の 70 年代（2） 14. 混迷の 70 年代（3） 15. おわりに
テキスト、参考文献	**評価方法**
【テキスト】福永文夫『日本占領史 1945～1952－東京・ワシントン・沖縄』中公新書。【参考文献】福永文夫『大平正芳－戦後保守とは何か』中公新書。	講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。

13 年度以降 12 年度以前	国際機構と法Ⅰ 国際交流研究Ⅲ（国際機構論）	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 本講義の目的は、国際社会が抱える地球規模の問題（たとえば、安全保障、テロ、世界規模の感染症等）とそれへの国際社会（特に国際組織）の取り組みについて理解することです。 〔講義概要〕 国際社会には世界政府は存在しません。しかし、多様な国際組織が、国家とともに、国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っています。本講義では、これら国際組織の様々な活動分野をとりあげて、国際組織が各分野で果たしている機能を具体的に説明します。 本講義の履修にあたっては、国際法の知識は必ずしも必要ではありませんが、講義の中では主に国際法の視点から分析を行うため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行います(なお国際教養学部や経済学部の学生が履修する場合は 2 年生以上で受講することをお勧めします)。 この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。	1　はじめに 2　国際組織と国際法 3　紛争の平和的解決に関わる国際組織（1） 4　紛争の平和的解決に関わる国際組織（2） 5　安全保障に関わる国際組織（1） 6　安全保障に関わる国際組織（2） 7　軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 8　人権問題にかかわる国際組織 9　人道・難民問題に関わる国際組織 10　国際貿易・国際金融に関わる国際組織 11　開発援助と南北問題に関わる国際組織 12　教育・文化に関わる国際組織 13　国際保健に関わる国際組織 14　海洋に関わる国際組織 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト : 大森正仁編著『よくわかる国際法（第 2 版）』（ミネルヴァ書房）	学期末に実施する試験により評価し(100%)、平常点を加点材料とします(ただし上限 10%)。

13 年度以降	国際機構と法Ⅱ	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 本講義は、国際連合を中心とする国際組織を規律している法に関する講義を提供することを目的とします。 〔講義概要〕 今日、国際連合をはじめとした多くの国際組織が活動し、多くの人々がいわゆる「国際公務員」として活躍しています。しかし、これらの活動は、国際組織の設立条約や地位協定、職員規則などのルールに従っています。本講義は、国際組織や国際公務員の活動を規律しているルールについて、主に国際連合を例として分析を行います。 本講義は、国際法や国際組織法 1 を履修していなくても履修できます(主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通授業科目の国際法や法学部の国際法も同時に受講することを奨励します)。 また、この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。	1　はじめに 2　国際組織の概念と歴史 3　国際法の基礎知識 4　国際組織の設立と解散 5　国際組織の国際法上の地位 6　国際組織の国内法上の地位 7　国際組織と加盟国 8　国際組織間の連携・協力 9　国際組織と NGO（民間団体） 10　国際公務員 11　国際組織の意思決定 12　国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 13　国際組織に関する事例研究(1) 14　国際組織に関する事例研究(2) 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、参考文献として大森正仁編著『よくわかる国際法（第 2 版）』(ミネルヴァ書房, 2014 年)、杉原『基本国際法　第 2 版』(有斐閣,2014 年)、横田編『国際社会と法』(有斐閣，2010 年)等を参照してください。	学期末に実施する試験により評価し(100%)、平常点を加点材料とします(ただし上限 10%)。

13年度以降	グローバル社会特殊研究（在外日本人研究）	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異郷で生きた日本人の足跡をたどり、「日本人ってなんなのか」を考えてみたい。 明治のころ、一攫千金を夢みて太平洋を越えた日本人たちはハワイへ、アメリカ本土へ、あるいは南米へと渡っていった。そうした人びとの子孫はいまや270万人にのぼる。 授業では、①一時滞在のつもりで日本を離れた彼らが帰国せず、②そのうち家族をもち異国で骨を埋める覚悟をもつようになる。しかし、③白人からの激しい差別を受け、日本人たちは、④それに忍従で対応して、⑤今日の確固とした地位を確立する、過程をみていく。 ただ、このようにダイジェストすると美点だけが強調されるが、授業では日本人の狡猾で日和見的な姿もとり上げる。 この授業はグローバルの「特殊研究」といって、講義の一部は参考文献を用いて講義の理解を深めることとする。	1. ガイダンス 2. 夢のハワイへ 3. ポリネシアハワイの生活 4. アメリカ西海岸への移動 5. 敵意のはじまり 6. 差別のメカニズム 7. 日本人の完全排除 8. 日米戦争と強制収容 9. 収容キャンプの生活 10. アメリカへの忠誠と従軍 11. 二世部隊 12. 帰米二世 13. 中南米へ渡った日本人 14. 戦後の人権獲得と汚名返上 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献:『ハワイの日本人移民』山本英政　明石書店	学期末試験 レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください

13年度以降 12年度以前	グローバル社会特殊研究（滞日外国人研究） 多文化共生特殊研究Ⅰ（滞日外国人研究）	担当者	田房　由起子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、日本社会における外国人の状況を知ることにより、国際移動によって「異文化」の中で生活する人々の抱える問題について理解を深めることを目的とする。 まず、人の国際移動や、人種、エスニシティに関する理論について紹介する。次に、いくつかのエスニック集団を取り上げ、個々の集団に特徴的な状況について知識を得てもらう。また、教育や労働などのテーマからもかれらの抱える問題を取り上げてみたい。さらに、受け入れ社会側の人々にとって「異文化」を持つ人々を受け入れるとはどのようなことかを考え、そこから「多文化共生」の可能性を模索したい。	1. ガイダンス・日本における外国人の概況（1） 2. 日本における外国人の概況（2） 3. なぜ人は移動するのか 4. 人種とエスニシティ 5. オールドカマー 6. ニューカマー（1） 7. ニューカマー（2） 8. ニューカマー（3） 9. 労働問題（1） 10. 労働問題（2） 11. 子どもたちと教育（1） 12. 子どもたちと教育（2）・アイデンティティ 13. 人種／エスニシティと差別 14. 「多文化共生」の可能性 15. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献は授業時に紹介する。	平常授業における課題レポート（40%）、期末試験（60%）により評価。

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（アメリカ合衆国のラティーノ社会） 多文化共生特殊研究Ⅱ（アメリカ合衆国のラティーノ社会）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、米国におけるラティーノ概念誕生の経緯を歴史的に追い、さらにラティーノ社会の現状と問題点を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。 一般に米国における人種およびエスニック集団とラテンアメリカの人種をめぐる認識はまったく違うものと考えられてきた。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種認識の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティーノの「人種」化である。 また、ラティーノが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで履修者とともに考えていこうと思う。	1　はじめに：　ラティーノとはだれか 米国における人種・民族関係とラティーノ 2　ラティーノの概要：出身地域と分布 3　人種化する「ラティーノ」 4　米ネイティビズムの動向 ハンチントン　アリゾナ州反移民法　荒野の越境 5　「非合法移民」問題 をめぐって 6　麻薬戦争　エルパソとフアレス市 7　国境ツインシティ：ティフアナとサンディエゴ 8　なぜひとは国境を越えて移動するのだろうか。 9　移動の歴史①　プエルトリコ系とキューバ系 10　移動の歴史②　メキシコ系 11　アストラン伝説とチカノ運動 12　トランスナショナル・シティズンの誕生 13　映像資料 14　ラティーノは米国を変えるのか 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：中條献『歴史の中の人種』北樹出版　2004 サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』集英社 2004 など　授業中に文献リストを配る	2, 3 回の講義につき 1 回の小テストあるいは討論をおこない、その結果と授業内での発言を総合して判断する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合 a） 国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流 a）	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、各国の経済発展の軌跡および経済の特徴について学習します。 講義には二つの軸があります。一つは、東南アジア諸国の多様性に焦点をあてることです。東南アジアという地域概念が定着してから半世紀も経っていません。 もう一つは、共通の分析項目を設定することにより、各国経済を横並びで捉えることです。経済発展の初期条件、経済発展戦略、マクロ経済動向、産業構造の特徴、外国直接投資、日本との経済関係などについて解説します。加えて、各国が直面している経済的課題を取り上げます。 今年度より、第 8 回と第 14 回の授業で全員参加型のディスカッションを実施します。ペーパー（800 字程度）の提出と発言が求められます。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論 b も履修してください。第 1 回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。	1. 講義の目的、成績評価 2. 東南アジア経済の概要 3. タイ(1)：経済発展の軌跡と特徴 4. タイ(2)：産業集積と輸出主導型経済 5. シンガポール(1)：経済発展の軌跡と人材戦略 6. シンガポール(2)：産業高度化戦略 7. シンガポール(3)：多国籍企業のグローバル拠点 8. 全員ディスカッション（シンガポールの人材戦略） 9. マレーシア：脱工業化の模索 10. インドネシア：世界最大のイスラム国家の挑戦 11. ベトナム：ドイモイ（刷新）政策の意義と限界 12. カンボジア：経済復興から経済成長への道筋 13. ミャンマー：経済再建の胎動 14. 全員ディスカッション（東南アジアで経済的に最も有望な国は？） 15. 教員への質問と講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。	学期末試験（100%）。ディスカッションでの貢献に対する加点あり。出席が一定回数を下回ると自動的に不可評価になるので注意のこと（詳細は第 1 回の講義で説明）。

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合 b） 国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流 b）	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、地域経済共同体としての東南アジア諸国連合（ASEAN）について学習します。 講義の柱は３つあります。第 1 は、1967 年に発足した ASEAN がいかなる経緯を経て地域経済共同体として発展し、多国籍企業をひきつけてきたかを理解することです。ラオス、カンボジア、タイ、ベトナムなどで構成されるメコン地域の開発構想についても解説します。 第２は、ASEAN における経済発展の担い手である華橋・華人資本、日本の自動車メーカー、邦銀の活動について学ぶことです。 第３は、わが国が ASEAN のさらなる経済発展のために担うべき役割を考えることです。 今年度より、第 14 回の授業で学生に東南アジアに関するスピーチを披露してもらいます。ペーパー（800 字程度）の提出と発言が求められます。加えて、全員ディスカッションを行う可能性があります。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論 a も履修してください。第 1 回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。	1. 講義の目的、成績評価等 2. 第 2 次世界大戦後の経済発展の軌跡 3. ASEAN 市場に挑む日本企業（NHK スペシャル） 4. 地域経済共同体としての ASEAN(1)：形成過程 5. 地域経済共同体としての ASEAN(2)：共同体の実現 6. 地域経済共同体としての ASEAN(3)：将来構想 7. 大メコン圏開発とインフラ整備 8. ASEAN の対域外自由貿易協定（FTA）戦略 9. わが国自動車メーカーの東南アジアでの事業展開 10. 邦銀の東南アジアでの事業展開 11. 経済発展の担い手としての華僑・華人資本 12. わが国と東南アジアの経済関係(1)：ASEAN の視点 13. わが国と東南アジアの経済関係(2)：日本の視点 14. 東南アジアに関する学生スピーチ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。	学期末試験（100%）。ペーパーの提出とスピーチによる加点あり。出席が一定回数を下回ると自動的に不可評価になるので注意のこと（詳細は第 1 回の講義で説明）。

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（東南アジアの開発と社会）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　さまざまな発展状況にある地域の特徴を理解し、自らの生活との関連づけて考察する。東南アジアの開発／発展と社会の変化について、また文化的な影響について、グローバルな視点とローカルな視点の両面から批判的に検討する。 講義概要 　東南アジア社会が直面する課題について、さまざまな視角から紹介し、望ましい発展とは何かを考える。また、主としてタイを事例に、1、開発／発展に関わる政府の政策、NGOsなどによるオルタナティブなアプローチについて紹介し、2、開発／発展によって生じた問題を解決するためのさまざまな福祉的アプローチについて検討する。	第1回: 導入　地域研究的な思考方法について 第2回: 東南アジアの地域的特徴 第3回: 東南アジア地域研究の課題 第4回: 東南アジア社会の多様性 第5回: 東南アジアの地誌と地域研究的課題 第6回: 東南アジアにおける都市と農村 第7回: 東南アジアにおける開発政策 第8回: オルタナティブな開発／発展観／思想 第9回: 東南アジアにおける開発／発展と宗教 第10回: 東南アジアにおける開発／発展と環境 第11回: 東南アジアにおける開発／発展と労働力 第12回: 東南アジアにおける開発／発展と家族・子ども 第13回: 東南アジアにおける開発／発展と女性 第14回: 東南アジアにおける社会保障／福祉 第15回: まとめ 定期試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『地域研究』（JCAS Review）Vol.7 No.1　（2005 年 6 月発行） 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法　アジアアフリカ社会研究入門』　文化書房博文社　（2006 年）　大泉啓一郎著　『老いてゆくアジア』中公新書　(2007 年)	定期試験が 60 パーセント、授業中に提出された課題を 40 パーセントとして総合的に判断する。

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（ポストコロニアル研究）	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
植民地主義の歴史と、現在における、政治、社会、文化などに残存する植民地主義の影響を認識することからはじめ、「自己」と「他者」、「西欧」と「それ以外」、「植民地支配」と「被支配者」の境界に立って、現代世界を捉え直していくことを試みる。 講義中盤からは、ポストコロニアル文学作品などを取り上げ、討論形式で講義を進めていく。	1 イントロダクション-講義紹介 2 帝国主義のものがたり① 3 帝国主義のものがたり② 4 ポストコロニアリズムとはなにか① 5 ポストコロニアリズムとはなにか② 6 ～14　討論 - 文学作品・映画から考える 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜紹介していく。	期末レポート

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（地球環境と法 a） 国際交流特殊研究Ⅴ（グローバル・ガバナンス a）	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質･歴史、紛争の類型、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。 【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 a」としては３年生以上に開講されるが、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス a」としては２年生以上に開講される。国際教養学部の２年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。	1 講義の概要 2 環境問題と国際社会 3 国際環境問題の法的紛争類型 4 越境汚染と領域使用の管理責任 5 無過失責任条約 6 国際公域の環境保全と責任 7 国際環境法の生成と諸原則① 8 国際環境法の生成と諸原則② 9 環境責任論の進展 10 国際環境保全規範と事前防止 11 事前防止の手続的規則① 12 事前防止の手続的規則② 13 国際環境保全とソフト・ロー 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。参考文献として、 松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂 2010 年 『地球環境条約集』第 4 版、中央法規 2003 年	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（地球環境と法 b） 国際交流特殊研究Ⅵ（グローバル・ガバナンス b）	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の類型ごとに国際環境法の構造を分析する。 【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 b」としては３年生以上に開講されるが、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス b」としては２年生以上に開講される。国際教養学部の２年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。	1 講義の概要 2 長距離越境大気汚染、酸性雨 3 地球大気圏･気候変動問題①オゾン層 4 地球大気圏･気候変動問題②気候変動枠組条約 5 地球大気圏･気候変動問題③京都議定書 6 海洋環境の保全①総論 7 海洋環境の保全②船舶起因 8 海洋環境の保全③海洋投棄 9 南極の環境保護 10 廃棄物の越境移動 11 有害物質、放射能と環境 12 自然環境の保全 13 生物多様性の保全 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。参考文献として、 西井・臼杵編『国際環境法』有信堂 2011 年 『地球環境条約集』第 4 版、中央法規 2003 年	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。

13 年度以降 12 年度以前	教育学概論 I (教職論) 教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。 【授業の概要】 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。	第１回：　オリエンテーション 第２回：　期待される教師像と目指す教師像 第３回：　児童・生徒の成長と教員の役割 第４回：　教員の資質と能力 第５回：　教員養成と教員免許 第６回：　教員の任用と教育委員会 第７回：　教員の身分と服務 第８回：　教員の職務(1)　学校と教員の一年・学校と教員の一日 第９回：　教員の職務(2)　学校運営と校務分掌 第１０回：　教員の職務(3)　学習指導と生徒指導 第１１回：　教員の研修(1)　年次研修と教員のキャリア 第１２回：　教員の研修(2)　自主的研修（教育センター等における研修機会）の活用 第１３回：　様々な進路選択の問題を考える(1) 他の仕事と比較した教職の特質 第１４回：　様々な進路選択の問題を考える(2) 学校教育の体験―学校支援員等について― 第１５回：　まとめ 教職を目指す君たちが今なすべきこと
テキスト、参考文献	**評価方法**
【テキスト】講義毎に配布する資料 【参考文献】講義内容に応じて適宜紹介	課題レポート、定期試験等により総合的に評価する。

13 年度以降 12 年度以前	教育学概論 I (教職論) 教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	教育学概論Ⅱ(教育の原理) 教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【授業の到達目標及びテーマ】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養う。 【授業の概要】 １．教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学ぶ。 ２．教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていく。	第１回：講義の進め方の説明 第２回：教育の意義 第３回：人間形成と学習 第４回：教育の思想と歴史（その１）近代教育思想のめばえ 第５回：教育の思想と歴史（その 2） 紳士の教育から人間の教育へ 第６回：教育の思想と歴史（その 3）近代市民教育と国民教育 第７回：教育の思想と歴史（その 4）日本の教育思想の歴史 第８回：教育の思想と歴史（その 5） 戦後の教育思想と教育問題 第９回：教育の思想と歴史（その 6） 21 世紀の教育思想と教育課題 第１０回：学力問題と国際比較 第１１回：能力と指導を考えるー 習熟度別指導と発達の最近接領域説ー 第１２回：教育における競争と自由の問題を考える 第１３回：子どもの権利条約の精神 第１４回：子どもに固有の権利と人権との関係 第１５回：子どもとはどういう存在か （系統発達と子どもの発見）
テキスト、参考文献	**評価方法**
【テキスト】『ポケット版　子どもの権利ノート』(300 円) 【参考文献】適宜紹介する。	期末試験に、感想文や小レポートの提出等を加味する。

13 年度以降 12 年度以前	教育学概論Ⅱ(教育の原理) 教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	心理学概論 I (こころの世界) 教育科学研究Ⅵ（こころの世界）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，まず，現代心理学の成立過程を概観する。その後，性格の形成，ストレス，心の健康とカウンセリングなどのテーマについて，心理学的研究に基づく調査や実験のデータを示しながら説明していく。 本講義を通して，心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また，心理学の基本的知識を習得し，同時に，社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。	以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 1. はじめに：科学としての心理学 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格をとらえる枠組み：性格理論 8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9. 性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. カウンセリングとこころの健康
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。	授業における小レポートと試験により総合的に評価する。

13 年度以降 12 年度以前	心理学概論Ⅱ(心理検査法と自己理解) 教育科学特殊研究Ⅲ（心理検査法と自己理解）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して，心理学の基本的知見を習得してほしい。また，心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000円）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。	授業計画は以下のとおりである。 1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査①（Ｙ－Ｇ） 4. 質問紙による性格検査②（Ｙ－Ｇ） 5. ストレス・コーピング 6. 絵からみる家族像 7. 知能検査 8. EQS 9. 職業興味 10. 性格５因子 11. TEG 12. グループ・ワークによる自己理解① 13. グループ・ワークによる自己理解② 14. テスト・バッテリーに基づく自己理解 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。	実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらう。また、最終レポートを課す。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。

13 年度以降	スポーツ・レクリエーション概論	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の 2 割から 3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは 1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」（生きがい）とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずです。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。	1　オリエンテーション 2　自由時間とは 3　生活時間の構成 4　自由時間の推移と現状 5　自由時間「三つの意味」その１ 6　自由時間「三つの意味」その２ 7　少子化とライフスタイル 8　古典的解釈から知るレジャー 9　「スコレー」とは 10　余暇享受能力を開発していますか 11　ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12　クオリティオブライフ 13　環境と健康 14　ライブアンケートから知る獨協生の価値観とライフスタイル 15　まとめ 授業で通信端末を大教室における双方向授業としてライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、参加は任意ですが、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。（パケット通信料がかかります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムに授業資料をアップロードします。	授業への取り組み・授業内レポート（50%）、学期末試験（50%）により評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降	スポーツ科学概論	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ科学分野は近年目覚しい発展を遂げている。「スポーツ」を「科学」することによってトップアスリートの身体機能やパフォーマンスの秘密が明らかになり、効率的なトレーニング方法が開発されている。また健康の維持増進にも寄与する実験科学的データや、社会科学的分野でも日々新たな知見が得られており、私たちの生活にもスポーツ科学は貢献している。スポーツを科学することによって個々の受講生がスポーツに対する理解を深めることを目標とする。 〔講義概要〕 この講義ではスポーツ科学が扱う様々な領域を概説し、スポーツの魅力と可能性について紹介する。またビデオ映像を適宜視聴する。	1. ガイダンス 2. スポーツ科学とは 3. スポーツの起源と歴史 4. 世界のスポーツ 5. 持久力の科学 6. 筋の科学 7. トップパフォーマンスとは 8. コンディショニングと疲労 9. 障害者のスポーツ 10. メンタルトレーニング 11. スポーツ振興 12. 競技スポーツの科学（サッカー・野球・陸上など） 13. トップアスリートの秘密を探る① 14. トップアスリートの秘密を探る② 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布する。	授業内レポート（40%）と試験（60%）により評価する。

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（子ども論 a） 教育科学研究各論Ⅵ（こども論）	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
●講義目的 子どもを取り巻く子育て、貧困、少年事件などのトピックに関する政策を再度検討することを目的としている。 政策が立案される背景には、言説――たとえば親の教育力が低下した、少年犯罪は増加・凶悪化の一途をたどっている、など――があるがそれらははたして本当なのか。本当だとしたなら、その現状に照らして政策は適切なのか。これらを考える契機となるような入門的な講義にしたいと考えている。 ●講義概要 ２～５では子どもの貧困の現状や政策の現状を概観し、検討していく。 ６～９では、改正された少年法の内容とその意味を考える。合わせて厳罰化で少年犯罪が減少するのかもアメリカ等の事例を参考に検討していく。 １０～１５では、子ども（子育て）支援の動向を、イギリス、フランス、スウェーデン、韓国を例に検討し、日本の支援の在り方を考える。	１．　ガイダンス（授業の進め方等について） ２．　子どもの貧困①（子どもの貧困を測る） ３．　子どもの貧困②（誰のための政策か） ４．　子どもの貧困③（母子世帯の子ども） ５．　近年の動向（含ディスカッション） ６．　少年事件①（少年事件は増加したか） ７．　少年事件②（少年法が変わった） ８．　少年事件③（共生の可能性を探って） ９．　近年の動向（含ディスカッション） １０．　日本における子育て支援 １１．　子育て支援の国際比較① １２．　子育て支援の国際比較② １３．　子育て支援の国際比較③ １４．　子育て支援の国際比較④ １５．　近年の動向（含ディスカッション）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特になし 参考文献：授業中に適宜指示する	①授業への参加、発言などの貢献、②レポートシステムの提出、内容、③学期末レポートで評価する。 ※評価方法等は１回目の授業で説明する。

13 年度以降 12 年度以前	比較教育制度論 教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。 【授業の概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。	第１回：オリエンテーション 第２回：教育の制度化 第３回：学校教育制度の概要 第４回：学校教育制度の変遷 第５回：公教育と私教育 第６回：教育行財政 第７回：教育委員会制度 第８回：教育課程と学習指導要領 第９回：諸外国の教育制度 第１０回：家庭教育の現状と課題 第１１回：社会教育の現状と課題 第１２回：教育改革の現状と課題(1) 学校評価・人事評価制度 第１３回：教育改革の現状と課題(2) 学校選択制・小中高一貫教育 第１４回：教育改革の現状と課題(3) 学校評議員・学校運営協議会 第１５回：教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度
テキスト、参考文献	**評価方法**
【テキスト】講義毎に配布する資料 【参考文献】講義内容に応じて適宜紹介	課題レポート、定期試験により総合的に評価する。

13 年度以降 12 年度以前	比較教育制度論 教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	教育課程論 教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【授業の到達目標及びテーマ】 教育課程の編成と評価 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。 【授業の概要】 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、ＶＴＲ教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。	第１回：教育課程と学力問題 第２回：教育課程とは何か 第３回：日本の教育課程(1)教育課程編成のプロセス 第４回：日本の教育課程(2)学習指導要領と教育課程 第５回：教育課程編成の理論と方法(1)経験カリキュラム 第６回：教育課程編成の理論と方法(2)教科カリキュラム 第７回：教育課程編成の理論と方法(3)教育課程構成法 第８回：学習指導要領と教育課程(1)昭和 20 年代 第９回：学習指導要領と教育課程(2)昭和 30-40 年代 第１０回：学習指導要領と教育課程(3)昭和 50-60 年代 第１１回：学習指導要領と教育課程(4)平成 1-10 年代 第１２回：新学習指導要領の検討 (1)改訂の経緯と概要 第１３回：新学習指導要領の検討 (2)実践課題 第１４回：教育課程と評価 第１５回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
【テキスト】特になし 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説　総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説　総則編』。その他は、講義の中で紹介する。	授業課題、試験による総合評価

13 年度以降 12 年度以前	教育課程論 教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	教育心理学 教育科学研究Ｖ（発達と学習の心理学）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【授業の到達目標及びテーマ】 教育心理学においてこれまで得られてきた知見が，今日の学校臨床における生徒理解あるいは生徒指導にいかに生かすことができるかを受講者とともに検討する。受講生には，こうした講義を通して教育現場にたつ人間に必要とされる心理学の基礎的知識について理解を深めてほしい。 【授業の概要】 教育心理学には大きく（１）測定・評価，（２）人格・適応，（３）発達，（４）学習という４つの領域がある。本授業では、これら４領域の内容を解説する。すなわち、１．教育評価と学力問題，２．学習の過程と学習への動機付け，３．発達および発達障害について講義していく予定である。	第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：教育評価と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習における動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：発達期と発達課題 第１１回：心理アセスメントと発達障害 第１２回：学習障害の理解 第１３回：ADHD の理解 第１４回：自閉性障害の理解 第１５回：発達障害への心理支援
テキスト、参考文献	**評価方法**
【テキスト】必要な資料を配付する。 【参考文献】授業にて適宜紹介する。	学期末の試験により，総合的に評価をおこなう

03 年度以降 13 年度以降	教育心理学 教育科学研究Ｖ（発達と学習の心理学）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	カウンセリング論 教育科学研究各論Ⅲ（カウンセリング論）	担当者	瀧本　孝雄

講義目的、講義概要	授業計画
カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。 　まず、カウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法について学習する。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。 　さらに、ロールプレイや心理テストを実施する。 　言語文化学科の専門科目であるが、全学科の２年生以上の学生は受講できる。 　出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。	1. 講義の概要 2. カウンセリングとは何か 3. カウンセラーの役割と資格 4. カウンセラーの世界（相談機関） 5. カウンセリングと心理療法 6. クライエント中心カウンセリング（1） 7. クライエント中心カウンセリング（2） 8. 精神分析的カウンセリング 9. 認知行動カウンセリング 10. 傾聴の理論 11. 傾聴の実習 12. ロールプレイの実習 13. 心理テストの実施 14. 講義のまとめ(1) 15. 講義のまとめ(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
『カウンセリングへの招待』　瀧本孝雄著　サイエンス社	試験とレポートによる。

13 年度以降 12 年度以前	パーソナリティ理論 教育科学研究各論Ⅳ（パーソナリティ理論）	担当者	瀧本　孝雄

講義目的、講義概要	授業計画
人の行動の特徴を表わす言葉として、心理学ではパーソナリティという言葉が使われている。われわれが人を理解するとき、このパーソナリティという用語は非常に重要な概念の一つである。 　本講義では、パーソナリティの定義、理論、形成、発達について学習し、またパーソナリティと関連の深い葛藤、フラストレーション、防衛機制などの諸問題について考察する。 　さらに、パーソナリティ・テストの方法について理解し、テストを実施することで、自己理解を深めていく。 　言語文化学科の専門科目であるが、全学科の２年生以上の学生は受講できる。 　出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。	1. 講義の概要 2. パーソナリティとは何か 3. パーソナリティの類型論 4. パーソナリティの特性論 5. パーソナリティ形成の諸理論 6. パーソナリティの発達 7. 青年期のパーソナリティ 8. 成人期・老年期のパーソナリティ 9. 文化とパーソナリティ 10. フラストレーションと葛藤 11. 防衛機制 12. パーソナリティ・テストの種類と方法 13. パーソナリティ・テストの実施 14. 講義のまとめ（1） 15. 講義のまとめ（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
『カウンセリングへの招待』　瀧本孝雄著　サイエンス社	試験とレポートによる。

13 年度以降 12 年度以前	学校カウンセリング 教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義では、カウンセリングの基本的な理論や技法に加え、学校現場で生じる問題の解決のために実際にカウンセリングがどのように用いられているのかについて扱う。学校カウンセリングに関する「知識」を習得することにとどまらず、学校現場で起こりうる様々な問題への対処について、自分自身で「考える力」を身につけることをこの講義の目標とする。 【授業の概要】 本講義では、教員が学校で生徒と接する際に必要とされるカウンセリングの基本的な理論や技法について講義する。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について、どのように対応すべきか、実際に受講生が考える機会を設ける。	第１回： 学校カウンセリングとは何か 第２回： 教師が行う学校カウンセリングの特徴 第３回： 学校カウンセリングの理論① －来談者中心療法とカウンセリングマインド 第４回： 学校カウンセリングの理論②－その他の理論 第５回： 学校カウンセリングの理論③－カウンセリングの体験 第６回： 予防的カウンセリング① －構成的グループエンカウンター 第７回： 予防的カウンセリング② －ソーシャルスキルトレーニング 第８回： 思春期の心の発達と危機 第９回： 学校カウンセリングの実際①：いじめ 第１０回： 学校カウンセリングの実際②：不登校・ひきこもり 第１１回： 学校カウンセリングの実際③：非行 第１２回： 学校カウンセリングの実際④： 発達障害の理解と支援 第１３回： 学校カウンセリングの実際⑤： 精神障害の理解と支援 第１４回： 学校カウンセリングの実際⑥： 保護者との協調 第１５回： まとめ：学級運営に活かすカウンセリング
テキスト、参考文献	**評価方法**
【テキスト】特になし。 【参考文献】特になし。講義内で適宜、紹介する。	定期試験の結果によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物等も評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	学校カウンセリング 教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
. （半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（リーダーシップ論） 教育科学特殊研究Ⅵ（リーダーシップ論）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 　グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目標とします。 　授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。 　いくつかのグループによって提案された企画は投票によって 1 位を決定し、1 位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。 　グループでの話し合いと実践が多いので出席が重視されます。	1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレーキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動 1 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動 2 6 グループ内での課題についての討論と発表 7 リーダーシップ理論 8 イベント企画作成の手順 9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 10 イベント企画案の作成 11 イベント企画プレゼンテーション第 1 回 12 イベント企画プレゼンテーション第 2 回 13 イベントの実施 14 イベントの評価とまとめ 15 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布します。	授業への取り組み姿勢・態度、小レポート、期末レポート、企画コンテストを評価します。

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（教師と語る） 教育科学特殊研究Ⅱ（教師と語る）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
1．目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2．概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会合宿に必ず参加して下さい（参加費は 9000 円程度）。研究会合宿に参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3．研究会合宿で 7 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。メールアドレスは、　hkawamur@dokkyo.ac.jp　です。 4．教職課程に登録している必要はありません。 5．履修登録の上限を 30 名とします。	1　講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2～7　実践記録を読む 8　研究会合宿参加のまとめ 研究会は、12 月 5 日・6 日（土・日）、またはその前後の土日、場所は埼玉県西部にある森林公園近くのホテルの予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高橋陽一編『新しい生活指導論と進路指導』 （武蔵野美術大学出版局）	研究会と講義への参加度と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（認知科学） 教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり，その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また，授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい，その結果をまとめて，授業にてレポート発表してもらう予定である。 授業内容は，まず，人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに，動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに，近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める。	授業計画は以下の通り 1.　認知科学とは（授業概要） 2.　認知科学の歴史 3.　視知覚の特性①（概説） 4.　視知覚の特性②（実験・調査） 5.　視知覚の特性③（レポート発表） 6.　音の知覚 7.　言語と脳（脳の機能局在） 8.　言語と脳（言語野） 9.　認知工学と脳 10.　記憶のしくみ①（記憶の過程） 11.　記憶のしくみ②（実験と調査） 12.　記憶のしくみ③（レポート発表） 13.　記憶のしくみ④（実験と調査） 14.　記憶のしくみ⑤（レポート発表） 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。	課題レポートおよび講義での発表内容により評価する

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（認知科学） 教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
半期完結授業のため春学期と同一である	
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（社会心理学 a）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a，b では，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では，個人の心の働きに主に焦点を当てる。	1. イントロダクション -「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7. 自己(1)：自分はどんな人間か 8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. 期末試験と振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣	中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。 なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（社会心理学 b）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a，b では，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では，主に個人と社会との間の相互作用や，社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)：コミュニケーションとしての対人行動，対人行動としてのコミュニケーション 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1)：互恵性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論・モデル 13. 健康行動と社会心理学(2)：HIV 感染予防ための社会心理学の挑戦 14. 期末試験と振り返り 15. 社会心理学の未来
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。 亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣	中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。 なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（スポーツ科学実習） 教育科学特殊研究Ⅳ（スポーツコーチ学 a）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ選手の競技力向上には身体機構、運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスチェックが欠かせない。そこで本講義ではスポーツに関わる身体の基本的な機能と測定・分析方法を学び、実際にスポーツパフォーマンスに関係する様々な測定を経験し、各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指す。 〔講義概要〕 基本的な身体機能および運動中の反応について概説する。実際にスポーツ中のパフォーマンスに関連するデータを測定し、試合や演技の映像を持ち寄って分析を行う。成果を学期末に発表する。 ☆教室以外に、35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用するので、室内および屋外スポーツ用シューズと運動にふさわしい服装を用意すること。	1. ガイダンス 2. 身体の基本的な機能（骨格筋の働き） 3. 身体の基本的な機能（循環系の働き） 4. フィジカルテストの基礎 5. フィジカルテストの実践（グループワーク） 6. フィジカルテストの分析（グループワーク） 7. 動作分析の基礎 8. 動作分析の実践（グループワーク） 9. 動作分析の解析（グループワーク） 10. ゲーム分析の基礎 11. ゲーム分析の実践（グループワーク） 12. 運動強度測定（室内スポーツ） 13. 運動強度測定（屋外スポーツ） 14. 成果発表① 15. 成果発表② ☆授業計画の講義内容の順番は変わる可能性あり
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布する。	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）。

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（スポーツ指導実習） 教育科学特殊研究Ⅴ（スポーツコーチ学 b）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。 授業曜時に使用できる学内の施設を利用して、コーチングの実践・実習を行う。	基本的なスポーツは次の通りですが、使える施設、受講生の人数等で変更があります。 第 1 回授業時、第 2 回授業時に提示します。 1　ガイダンス 2　スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成 3　トレーニングルーム講習 4　トレーニングルーム利用 5　フットサルコーチング① 6　フットサルコーチング② 7　ソフトボールコーチング① 8　ソフトボールコーチング② 9　インラインホッケーコーチング① １０　インラインホッケーコーチング② １１　テニスコーチング① １２　テニスコーチング② １３　コーチング方法の分類① １４　コーチング方法の分類② １５　コーチング方法の分類③
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要により紹介し、プリントを配布する。	コーチング方法の理解、最終レポートを総合して評価する。

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（スポーツマネージメント） 教育科学特殊研究Ⅶ(体育経営スポーツマネージメント)	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕マネジメントは成果によって定義されるといわれている。スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポ-ツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポ-ツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。身近なスポ-ツ活動からトップ・プロの動向など幅広く題材として扱い、スポ-ツの普及とは如何にあるべきかを考える。 〔講義概要〕1980 年から 1990 年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に応えてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。 〔受講生への要望〕適宜資料を配布するので、ファイル等を用意することが望ましい。	〔授業計画〕 1. オリエンテーション 2. スポーツ・マネジメントの概要 3. 我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 4. 体育とスポーツ教育学 5. 我が国における健康教育のマネジメント 6. 北米における学生スポーツの発展 7. プロスポーツとアマチュアスポーツ 8. 我が国における学生スポーツのマネジメント 9. ディスカッション 10. プロスポーツのマネジメント 11. メンタル・マネジメント 12. 高度競技スポーツにおけるマネジメント 13. スポーツ・マーケティング 14. これからのスポーツ・マネジメント 15. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜資料を配布する。	〔評価方法〕平常点、授業態度、課題提出状況、そして期末試験の結果を総合的に評価する。

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（ボランティア論） 教育科学特殊研究Ⅷ（ボランティア論）	担当者	山口　友佑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，現在様々な状況などで実施されているボランティア活動とは一体なんであるのかを、学習していくこととします。 講義では，ボランティアの歴史やボランティア活動の意義、ボランティアの実例を参照しながら，ボランティアについて考えていくことを目的とします。 ボランティアの実例の紹介や VTR を使用，理解を促進する教材を適宜用いながら，具体的な理解を深めていきます。	1.　オリエンテーション 2.　ボランティアの歴史 3.　現代社会におけるボランティア活動 4.　グループワーク① 5.　高齢者分野におけるボランティア 6.　障害者分野におけるボランティア 7.　児童分野におけるボランティア 8.　グループワーク② 9.　ボランティアの実際 10.　世界におけるボランティアの実際 11.　グループワーク③ 12.　ボランティアと NPO 13.　地域で暮らす人の生活を支えるボランティア 14.　ボランティア活動における留意点 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しません。講義中に適宜、コピーの配布・文献の紹介を行います。	平常点（50%、授業中に課す小レポートの提出などを含む）及び、期末試験（50%、またはレポート）により評価します。

13 年度以降 12 年度以前	社会学Ⅰ 多文化共生研究Ⅲ（社会学 a）	担当者	木本　玲一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、社会学という学問に対する基礎的な知識の習得と包括的な理解を深めることを目的とする。 学説史もまじえながら、これまでの社会学における諸議論を紹介し、社会学という学問の発想法に対する理解を深める。そのうえで、労働、グローバライゼーション、文化、コミュニケーション、メディア等のトピックを取り上げ、それらに対する社会学的な議論の方法を学ぶ。これらを通して、より専門的な下位・隣接領域の研究や社会調査法を学習するうえでの下地をつくる。 社会学には曖昧なイメージがある。しかしそれはひとつの「物の見方」だと理解すれば良い。この講義では、社会学という学問の考え方を伝えると共に、身の回りにある具体的な事象について検討していく。	1　イントロダクション 2　逸脱 3　犯罪とリスク 4　労働(1) 5　労働(2) 6　消費 7　遊び 8　文化 9　スポーツ 10　メディア 11　社会調査 12　ナショナリズム 13　グローバライゼーション(1) 14　グローバライゼーション(2) 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義のなかで随時指示する。	試験によって評価する。

13 年度以降 12 年度以前	社会学Ⅱ 多文化共生研究Ⅳ（社会学 b）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
社会学が成立した背景について、その概略を学び、現代社会が抱えるさまざまな問題を社会学的なアプローチから考える。とくに、グローバル社会のなかで異文化・異民族が共存するとき、そこにどういった問題が生じるのか、社会学はどのようにその問題を分析するのか、といった論点をベースにしつつ、映像資料も適宜取り入れながら講義を進める。 講義のなかでとりあげるトピックは、都市、地域社会、移民、大量消費社会、異文化、メディアである。幾人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、これらについて受講者とともに考えてゆきたい。受講者は、本講義で学んだことを自分なりに展開し、現代のグローバル化・国際化のもとで今後の日本社会が直面する課題はなにか、自分はどういった立場でそこに関わっていくのかについて考えてほしい。	1. イントロダクション 2. 社会学の歴史――ウェーバーとデュルケム 3. 社会の類型 4. 社会的性格と「自由からの逃走」――E.フロム 5. 同調様式の３類型――D.リースマン 6. 都市化と移民――W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 7. 同心円地帯説――E.バージェス 8. シカゴ学派と都市問題――R.パーク 9. 予言の自己成就――R.K.マートン 10. 誇示的消費――T.ヴェブレン 11. 認知的不協和の理論――L.フェスティンガー 12. 文化的再生産――P.ブルデュー 13. コンフルエント・ラブ――A.ギデンズ 14. 「社会問題化する」ということ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社　　ほか	小レポート（20%）と期末試験（50%）を中心に、授業への積極的態度（30%）も考慮し総合的に評価する。

13 年度以降 12 年度以前	文化人類学Ⅰ 多文化共生研究Ⅰ（文化人類学 a）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
学問としての成り立ちや、主要な関心に触れながら、文化人類学の基本概念を理解することを目的とする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。小課題は原則小レポートであるが、一部調査課題を課す。この小課題は全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	１　授業ガイダンス ２　未開とは何か ３　文化と文明 ４　言語と文字 ５　日常と非日常 ６　通過儀礼 ７　年齢と分類 ８　タブー ９　宗教と人類学 １０　ジェンダーと人類学 １１　家族・親族 １２　贈与と交換：クラとポトラッチ １３　伝統の創造 １４　文化の書き方 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは山下晋司等著『文化人類学キーワード　改訂版』（有斐閣）とする。その他のものは授業内で指示する。	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［30%］、期末試験［40%］を評価対象とする。

13 年度以降 12 年度以前	文化人類学Ⅱ 多文化共生研究Ⅱ（文化人類学 b）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学習した文化人類学の基本概念をふまえて、調査手法を中心に人類学の方法論と考え方を実践的に学ぶことを目的とする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。特に秋学期は主体的に課題をこなすことが重要となる。また、授業中に小課題の提出を課す。秋学期の課題は、調査課題が中心である。課題を全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	１　授業ガイダンス ２　人類学における調査とは ３　テーマ調査１ ４　テーマ調査２ ５　聞き取り調査１ ６　聞き取り調査２ ７　聞き取り調査３ ８　参与観察１ ９　参与観察２ １０　ディスカッションと考察１ １１　ディスカッションと考察２ １２　グループ調査１ １３　グループ調査２ １４　グループ調査３ １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは山下晋司等著『文化人類学キーワード　改訂版』（有斐閣）とする。その他のものは授業内で指示する。	平常点（授業への参加度等）［40%］、小課題［60%］を評価対象とする。課題の全提出を成績評価の必須条件とする。

13 年度以降 12 年度以前	倫理学Ⅰ 宗教・文化・歴史研究Ⅵ（倫理学 a）	担当者	川口　茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
西洋現代哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 この学期では現代の哲学的諸問題をおもに扱う（もちろん古代〜近代の哲学者たちの考察はつねに参考にされる）。 現代は画像・映像といったイメージがさまざまなメディアで飛びかい、そうしたイメージによる記録／記憶が人々の心を苦しめる時代でもある。これを〈記憶〉と〈歴史〉と〈アーカイヴ〉の問題として受けとめ、考察したい。 授業は教科書を中心にして進められる。教科書にまとめられている内容を要約ないし発展的にふくらませる補足説明を、毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。	１．　導入　（プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） ２．　記憶とは？　歴史とは？　アルシーヴとは？ ３．　プラトン・アリストテレスの記憶論 ４．　記憶現象の４種類 ５．　個人的記憶と集合的記憶 ６．　証言と歴史記述 ７．　歴史が学校で教えられなくなったら、どうなる？ ８．　アナール学派の〈心性史〉歴史記述 ９．　アナール学派の〈表象史〉歴史記述 １０．　王の肖像 —— 権力のイメージ １１．　裁判官と歴史家 —— 公正な第三者とは？ １２．　ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって（１） １３．　ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって（２） １４．　「困難な赦し」 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 ——— リクールと「記憶、歴史、忘却」』（京都大学学術出版会）	学期末試験による。 ただし各授業回で教科書内容の要約・補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。

13 年度以降 12 年度以前	倫理学Ⅱ 宗教・文化・歴史研究Ⅶ（倫理学 b）	担当者	川口　茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。 西洋哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 古代ギリシアから、近世のデカルト・パスカルなどを経て、さらに近代のニーチェ、現代のアーレントまでをこの学期で広く見ていく。 教科書はかなりコンパクトに西洋の各哲学者の思想をまとめたものであるが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。質問などでも積極的な授業参加を歓迎する。	１．　導入 （プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） ２．　西洋哲学ではなにが問われてきたのか？ ３．　プラトン「イデアという理想」 ４．　アリストテレス「人間は知ることを欲する」 ５．　エピクロス派、ストア派 ６．　デカルト（１）「私は思考する、ゆえに私は在る」 ７．　デカルト（２）永遠真理創造説 ８．　デカルト（３）四つの暫定的道徳 ９．　パスカル「きみはどちらに賭ける？」 １０．　ルソー（１）「人づきあいが人間を不幸にする」 １１．　ルソー（２）「理想的な教育とは」 １２．　ニーチェ（１）「きみは永遠回帰に耐えられるか」 １３．　ニーチェ（２）「音楽と悲劇」 １４．　アーレント「アウシュヴィツと悪の凡庸さ」 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』 （白水社・文庫クセジュ）	学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。

13 年度以降 12 年度以前	文化史入門 宗教・文化・歴史研究Ⅰ（文化史入門）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 ＜講義概要＞ 　本講義では、古代地中海世界で体現された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。	１　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２　技術文化（その１）：動力とエネルギー源 　奴隷労働は生産的であったか？ ３　技術文化（その２）：水の供給・処理と農業・牧畜 　水道橋にかけるローマ人の執念 ４　運送手段（その１）：船と海上輸送 　古代の戦艦「三段櫂船」の脅威 ５　運送手段（その２）：陸上輸送 　古代の「一般道」と「高速道路」 ６　造形芸術：建築と彫刻 　アルカイック・スマイルの謎 ７　文学の世界：叙事詩と演劇 　ギリシア文化の普遍性 ８　宗教と祭祀：神々と人間 　ギリシア人は「神話」を信じていたか？ ９　性愛の諸相（男と女）（その１）：同性愛 １０　性愛の諸相（男と女）（その２）：異性愛 １１　競技的（アゴン）人間類型：理想的人間とは？ １２　クリエンテーラ・パトロネジ関係 １３　民主政の中の人間関係（１） １４　民主政の中の人間関係（２） １５　まとめ（総括と展望）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。	学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、平常点を加味して総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	東洋思想史Ⅰ 宗教・文化・歴史研究Ⅱ（東洋思想史 a）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉える。 このような思想を実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史Iでは、古代インド、中国思想を中心に、５世紀頃までの古代思想を視野に入れることになる。	１．（インド）アーリア人とヴェーダの宗教 ２．（インド）ウパニシャッド哲学の思想 ３．（インド）ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 ４．（インド）ウパニシャッド哲学のまとめ ５．（インド）原始仏教Ⅰ ６．（インド）原始仏教Ⅱ ７．（インド）原始仏教とヒンドゥー教の思想 ８．（中国）孔子と論語Ⅰ ９．（中国）孔子と論語Ⅱ １０．（中国）儒教と老荘思想 １１．（中国）老荘思想Ⅰ １２．（中国）老荘思想Ⅱ １３．（日本）無常思想 １４．古代の東洋思想のまとめ １５．古代の東洋思想のまとめと質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示	授業参加度 30%、課題によるレポート評価 70%

13 年度以降 12 年度以前	東洋思想史Ⅱ 宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史 b）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉える。 このような思想を実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史 II では、中世・近代のインド、中国思想を中心に、日本における近世・近現代思想を視野に入れることになる。	１．（インド）仏教哲学（説一切有部） ２．（インド）仏教哲学（中観派） ３．（インド）仏教哲学（唯識派） ４．（インド）仏教哲学のまとめ ５．（インド）現代とインド思想の関係 ６．（中国）宋学Ⅰ（周濂渓） ７．（中国）宋学 II（程明道） ８．（中国）宋学 III（程伊川） ９．（中国）宋学 IV（張横渠） １０．（中国）宋学 V（朱子学） １１．（中国）宋学のまとめ １２．（中国）現代と中国思想の関係 １３．（日本）本居宣長の思想 １４．（日本）京都学派の哲学 １５．東洋思想史の現代的意義と質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示	授業参加度 30%、課題によるレポート評価 70%

13 年度以降 12 年度以前	文明史研究Ⅰ 宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究 a）	担当者	櫻井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　文明は世界中に残されていますが、私たちが知ることのできる文明はほんの一部でしかありません。多くは滅んでしまったり、遺跡も失われたため存在の証を知る手がかりすら無いものもあるからです。ですから、現在残されている文明を大切に維持し、次世代に正確に伝えていかなければならないのです。 　本講義ではヨーロッパ文明の源流となったギリシア、ローマ文明に焦点を当て、政治的対立を超えた文明の交流について考察を深めることを目的とします。 ＜講義概要＞ 　文明が栄えていく時期にはその文明を担う英雄も現れ、また滅んでいく過程では自然災害や気候変動といった要素はもちろん、病気や人類が引き起こした戦争、紛争などの対立がありました。 　本講義では文明に対する理解を深めるため、図像資料やビデオ、ＤＶＤといった映像を使用することにより、文明の多くの課題を皆さんと一緒に考える時間にしたいと思います。	１、　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２、　クレタ文明 ３、　ミケーネ文明 ４、　トロイア戦争 ５、　ギリシア文明　１ ６、　ギリシア文明　２ ７、　ペルシア文明 ８、　ペルシア戦争 ９、　ペロポネソス戦争 １０、マケドニアとアレクサンドロス １１、ヘレニズム文明 １２、ローマの対内外戦争 １３、ローマ文明　１ １４、ローマ文明　２ １５、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。	学期末のレポート及び中間での小レポートさらに平常点を加えて総合的に評価します。

13 年度以降 12 年度以前	文明史研究Ⅱ 宗教・文化・歴史研究Ⅴ（文明史研究 b）	担当者	櫻井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　ヨーロッパは第一次世界大戦、第二次世界大戦を経てＥＵの統合がなされました。まさにグローバリゼーションによって、ヨーロッパの国々では国境の壁は低くなっています。 　本講義ではシュペングラーやトインビーらの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型として、ヨーロッパ文明をとりあげます。ギリシア・ローマ文明はその後どのように伝播がなされていったのかについて考察したいと思います。 ＜講義概要＞ 　ヨーロッパの語源となったエウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明がどのようにして全世界に伝播され、受容されていったかを検証したいと思います。ヨーロッパの視点からだけではなく、アジアやアフリカ、新大陸といわれたアメリカなどの視点では、どのようにヨーロッパは映るのかといった双方向の視点から検討します。春学期と同様に図像資料や映像も使用し、理解を深めたいと思います。	１、　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２、　ヨーロッパとは何か ３、　ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 ４、　アレクサンドロス大王とヘレニズム文明 ５、　ローマ帝国の意味 ６、　中世フランク王国 ７、　イタリア・ルネサンス ８、　大航海時代 ９、　植民地を求めて １０、植民地の争奪 １１、第一次世界大戦 １２、大戦後のヨーロッパ １３、ヨーロッパ統合の思想 １４、講義のまとめ　１ １５、講義のまとめ　２
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。	学期末レポートと中間での小レポート、さらに平常点を加えて総合的に評価します。

13 年度以降 12 年度以前	比較宗教史 宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ（比較宗教史）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
現代に生きるものにとっては、多文化社会に生きることが否応なく求められる。その際に、必要なのは、相手の文化の根底をなしている宗教を理解することである。このことが多文化共生社会の基本的な了解事項になる。そればかりではなく、相互の宗教理解が無ければ、多文化共生の基盤は崩壊する。従って、世界の大宗教および自国日本の宗教を理解して、比較研究することは現代人にとって必須である。 上のごとき目的意識しつつ、諸宗教を理解する実践的授業を行う。すなわち、講義担当者から事前に配られる諸宗教表をもとに、聴講者各自がいずれかの宗教を選択し、グループを作る。そのグループ作業の中で、各自が担当することになる宗教を多方面から研究し、理解し、それを発表する。この発表の積み重ねができた状態となったとき、授業担当者は、発表された各宗教の類似点と相違点を抜き出し、比較思想の手法で、宗教の新たな役割、人生上の意味と功罪を比較検討していく。そこから各宗教を基にした死生観の多様性を浮かび上がらせることにする。	１．オリエンテーション ２．各グループの形成と調査研究の方法論 ３．各グループ毎の実践的調査研究Ⅰ ４．各グループ毎の実践的調査研究Ⅱ ５．キリスト教についての調査研究の発表 ６．イスラムについての調査研究の発表 ７．ユダヤ教についての調査研究の発表 ８．キリスト教、イスラム、ユダヤ教の一神教の比較検討 ９．ゾロアスター教についての調査研究の発表 １０．二神教と一神教の比較検討 １１．ヒンドゥー教についての調査研究の発表 １２．神道についての調査研究の発表 １３．多神教の比較検討 １４．仏教についての調査研究の発表 １５．授業全般の総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示	発表と研究を通じての授業への貢献度 40%、それに基づくレポート評価 60%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 根度以前	科学史Ⅰ 自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在のわれわれの生活は、科学と切り離すことができない。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、画期的な治療薬を開発する基礎となったりして、我々の人生や生活を豊かにする。一方、最新の科学知識によって、我々の生命観や宇宙観は問い直しを迫られており、核兵器のような大量破壊兵器や環境破壊によって、人類の存続は危機に直面している。このような科学はどこから来てどこに向かおうとしているのであろうか。 この講義では、科学が歴史の中で姿を変えていく様子を大まかに辿ることによって、我々が社会の中で科学とどのように関わっていけば良いのかを考えるとともに、物語性や伝記的要素を強調することによって、科学を歴史的視点で捉えることの楽しさ・面白さを発見することを目指す。 春学期は、古代から１７世紀の科学革命を経て、「科学者(scientist)」という言葉が登場した１９世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観する。	１．　ガイダンス、科学とはなにか？ ２．　科学的な考え方の始まり（古代） ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　古代世界の宇宙観 ５．　地中海世界からアラビア世界へ ６．　アラビア世界からヨーロッパ世界へ ７．　宇宙観の転換―天動説から地動説へ ８．　魔術と科学 ９．　機関論的自然観の登場 １０．ニュートンと科学革命 １１．科学アカデミーの誕生 １２．科学史における女性 １３．産業革命と科学 １４．フランス革命と科学 １５．「科学者（scientist）」の登場
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

13 年度以降 12 年度以前	科学史Ⅱ 自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在のわれわれの生活は、科学と切り離すことができない。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、画期的な治療薬を開発する基礎となったりして、我々の人生や生活を豊かにする。一方、最新の科学知識によって、我々の生命観や宇宙観は問い直しを迫られており、核兵器のような大量破壊兵器や環境破壊によって、人類の存続は危機に直面している。このような科学はどこから来てどこに向かおうとしているのであろうか。 この講義では、科学が歴史の中で姿を変えていく様子を大まかに辿ることによって、我々が社会の中で科学とどのように関わっていけば良いのかを考えるとともに、物語性や伝記的要素を強調することによって、科学を歴史的視点で捉えることの楽しさ・面白さを発見することを目指す。 秋学期は、「科学者（scientist）」という言葉が登場した１９世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得していく過程について、具体的な事例に焦点を当てて概観する。	１．　ガイダンス、「科学者（scientist）」とはだれか？ ２．　蒸気機関と熱力学の誕生 ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　科学の制度化と専門職業化 ５．　科学の産業化 ６．　公害の発生と科学 ７．　進化論と社会 ８．　帝国主義と科学 ９．　研究所の誕生 １０．科学と国家 １１．現代科学の登場と自然観の転換 １２．科学と戦争 １３．ビッグ・サイエンスの誕生 １４．環境科学の誕生と展開 １５．「科学者」の現在・過去・未来
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

13 年度以降	科学技術基礎論 I	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
「科学技術」ということ、専門家以外には分からないし関係ないというイメージをもっている人が多いかもしれない。たしかに現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家でさえ、自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きる我々は、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、我々が直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、我々にとって身近な事例を取り上げて、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、多分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働を可能にするための方法を考える。 春学期は主として生命や環境に関する事例を取り上げて考察する。	１．　ガイダンス、生命とは何か？ ２．　生きているとはどういうことか？ ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　なぜ理系に進む女性は少ないのか？ ５．　遺伝とはなにか？ ６．　品種改良と遺伝子 ７．　病気とは何か―正常と異常を考える ８．　感染と免疫 ９．　生命と食品 １０．食のリスクと安全 １１．生命から見た環境 １２．環境問題とは何か？ １３．環境問題の国際協力―オゾンホール問題を例に １４．レギュラトリー・サイエンスとは何か？ １５．科学技術は誰のものか？
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

13 年度以降	科学技術基礎論 II	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
「科学技術」ということ、専門家以外には分からないし関係ないというイメージをもっている人が多いかもしれない。たしかに現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家でさえ、自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きる我々は、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、我々が直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、我々にとって身近な事例を取り上げて、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、多分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働を可能にするための方法を考える。 秋学期は主として物質や情報に関する事例を取り上げて考察する。	１．　ガイダンス、科学と不確実性―地震予知の事例から ２．　科学的予測の原理と実態 ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　科学技術の発達は人々の職を奪うか ５．　情報という考え方 ６．　プライバシーと科学技術 ７．　デジタルディバイドとは何か？ ８．　知的財産権と科学技術 ９．　製造物責任と科学技術 １０．研究不正を考える １１．科学者の社会的責任 １２．物質から見た環境 １３．物質が存在するとはどういうことか？ １４．自然法則とは何か？ １５．宇宙はどこにあるのか？
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

13 年度以降 12 年度以前	数学Ⅰ 自然・環境研究Ⅲ（数学 a）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
数学とは、数量および空間に関して研究する学問であり、古代文明以来人類が持ち続ける教養の一つです。また、これらの研究から得られた公理と推論からなる論理と理論の体系全体を指すとも言えます。数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、数学を支えてきた論理である「数理論理」について学びます。論理において重要なものは文と文の接続関係ですが、「数理論理」では、文を「命題」として扱い、接続関係を「論理演算子」で表します。授業では、まず、文の真偽に対応する「命題」の「真理値」と、「論理演算子」により合成された「合成命題」の「真理値」の関係を調べ、「同値」な「命題」について考察します。つづいて、論証を構成する接続関係である「条件文」を導入し、「条件文」と「同値」な「命題」についても考察します。さらに、論証の中でも最も厳格に前提から結論を演繹的に導く「推論」を取り上げ、「推論」の妥当性について検討します。また、論理と代数、論理と集合との関係についても学びます。	１．はじめに ２．命題と論理式 ３．真理表と命題の同値 ４．条件文１ ５．条件文２ ６．推論と証明 ７．論理式と代数１ ８．論理式と代数２ ９．論理と集合１ １０．論理と集合２ １１．推論の応用１ １２．推論の応用２ １３．推論の応用３ １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：小島寛之『文系のための数学教室』（講談社現代新書 2004 年）	授業中の問題解答（10%）、授業最後の課題（10%）、学期最後の問題演習（80%）により評価

13 年度以降 12 年度以前	数学Ⅱ 自然・環境研究Ⅳ（数学 b）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
数学とは、数量および空間に関して研究する学問であり、古代文明以来人類が持ち続ける教養の一つです。また、これらの研究から得られた公理と推論からなる論理と理論の体系全体を指すとも言えます。数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。内容は、まず、「確率」の学習に必要な「集合」と「順列」「組合せ」、そして「確率」と「条件付確率」の考え方を学習します。つぎに、「確率変数」を導入し、「確率分布」とその「平均」や「分散」を学びます。さらに、「確率分布」の実例として「二項分布」や「正規分布」を取り上げます。これらの内容は、「推定」や「検定」といった「推測統計」の理解や利用につながります。	１．はじめに ２．場合の数と集合 ３．順列・組合せ ４．標本空間と事象 ５．確率１ ６．確率２ ７．条件付確率と事象の独立 ８．確率変数と確率分布１ ９．確率変数と確率分布２ １０．確率分布の平均 １１．確率分布の分散 １２．二項分布 １３．正規分布 １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）	授業中の問題解答（10%）、授業最後の課題（10%）、学期最後の問題演習（80%）により評価

13 年度以降	物理学Ⅰ	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、物理学の中でも２０世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。内容は、①物体に働く力と物体の運動との関係を考察する「力と運動」、②熱の現象とその実態である分子運動を扱う「熱」、③波の一般的性質とその実例としての音波・光波を扱う「波動」、④電気と磁気に関する現象や電気と磁気との関係、さらに電磁波について考察する「電磁気」からなります。	１．はじめに ２．力と運動１－物体の運動 ３．力と運動２－物体に働く力 ４．力と運動３－運動の法則 ５．力と運動４－万有引力 ６．熱１－温度と熱 ７．熱２－熱と分子運動 ８．波動１－媒質の振動と波 ９．波動２－音波と光波 １０．電磁気１－電気と磁気 １１．電磁気２－電流と磁場 １２．電磁気３－電磁誘導 １３．電磁気４－電磁波 １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する予定

13 年度以降	物理学Ⅱ	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、２０世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。時間と空間は、以前は自然の基本法則が登場する舞台でしたが、２０世紀以降「相対性理論」により物理学の研究対象となりました。物が何からできているかという物質の究極像を探る研究は、原子・素粒子の発見やその従う法則である「量子力学」の成立により大きく進展しました。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。内容は、前半が「時間と空間」について、後半が「物質の究極像」についてです。 なお、春学期開講「物理学Ⅰ」の授業で学習した知識があることを前提とします。	１．はじめに ２．時間と空間１－電磁気学と相対性原理 ３．時間と空間２－ローレンツ変換 ４．時間と空間３－４次元不変量 ５．時間と空間４－等価原理 ６．時間と空間５－時空の歪み ７．時間と空間６－ブラックホール ８．物質の究極像１－元素と原子 ９．物質の究極像２－原子の構造 １０．物質の究極像３－前期量子論 １１．物質の究極像４－量子力学 １２．物質の究極像５－素粒子論 １３．物質の究極像６－統一理論 １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する予定

13 年度以降 12 年度以前	天文学Ⅰ 自然・環境研究Ⅶ（天文学 a）	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
天体の見かけの運動を理解する。惑星の運動の法則や、太陽系の現在の姿とその形成過程を理解する。 　中学校で一部、既習の天体のみかけの運動の説明から始め、次いで、惑星の運動を表すケプラーの法則を説明する。太陽系に属する様々な天体を紹介し、太陽系の形成過程や地球の形成過程などを学んでいく。	1　講義内容の紹介 2　天球と日周運動 3　年周運動 4　惑星の見かけの運動 5　ケプラーの法則１　第一法則 6　ケプラーの法則２　第二法則 7　ケプラーの法則３　第三法則 8　万有引力とニュートンの力学 9　太陽と太陽系の広がり 10　太陽系の姿　惑星と小惑星 11　太陽系の姿　彗星と太陽系外縁天体 12　太陽系の形成１ 13　太陽系の形成２ 14　太陽系以外の惑星 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。プリントを配布する。 参考書は講義で紹介する。	試験

13 年度以降 12 年度以前	天文学Ⅱ 自然・環境研究Ⅷ（天文学 b）	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
恒星とはどのようなもので、どのように誕生し、どのような終末を迎えるのか大要を理解する。 天文学が他の自然科学の分野と大きく異なる点の１つは、対象を直接調べることができないことである。この講義では恒星の表面から来る光という間接的な情報からどのように恒星の物理量が推定され、そこからどのように恒星の内部や進化が理解できるかを説明していく。	1　講義内容の紹介 2　星の見かけの明るさ 3　星までの距離 4　星の光度と絶対等級 5　星のスペクトルと表面温度 6　HR 図 7　星の半径と質量 8　星のエネルギー源 9　星の進化１　星の誕生から主系列星へ 10　星の進化２　主系列以後の星の進化 11　高密度星　白色矮星と中性子星 12　ブラックホール 13　超新星 14　元素の起源 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。プリントを配布する。 参考文献は講義で紹介する	試験

13 年度以降	生物学 I	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 生命科学の著しい進歩は我々の生活に様々な恩恵を与えてきました。しかしその反面、これまで考える必要のなかった新たな問題を生じさせています。クローン人間は許されるのか？疾病の治療以外で遺伝子操作は許されるのか？近い将来、我々は様々な判断を迫られるでしょう。これらを的確に判断するためには幅広い教養と生物学の知識が不可欠です。限られた講義数ですが、新聞やニュースで報道される生命科学の話題に関し、十分に理解できる知識を身につけることを目指します。 【講義の概要】 本講義では細胞レベルの生物学を概説します。さらに、近年利用されているバイオテクノロジーについても解説します。講義形式の授業ですが、授業の途中に簡単な実験なども組み込みたいと考えています。	1. 生命の誕生　－生命誕生の謎－ 2. 細胞の構造　－様々な細胞小器官－ 3. 細胞を構成する物質　－細胞の生存に必須な物質－ 4. 細胞膜の構造と働き　－細胞が細胞であるために－ 5. 細胞の分裂　－細胞が増えるしくみ－ 6. 遺伝と遺伝子　－子はなぜ親に似る？－ 7. DNA と RNA　－細胞内での役割分担－ 8. DNA の複製　－間違いのない複製のために－ 9. 転写と翻訳　－転写と翻訳とは何か？－ 10. 酵素　－生体内の化学反応を進める立役者－ 11. バイオテクノロジー（1）－遺伝情報を解読する技術－ 12. バイオテクノロジー（2）－遺伝子組換え技術－ 13. プレゼンテーション（1） 14. プレゼンテーション（2） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	期末試験の結果（70%）とレポート（20%）とプレゼンテーション（10%）で評価します。

13 年度以降	生物学Ⅱ	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 「生物学 I」と同様に、最新の生命科学に関する知識を身につけます。そして、友人たちとの議論（プレゼンテーションと質疑応答）を通して、さらに深い理解を目指します。 【講義の概要】 前半は「生物学 I」の知識を基に、細胞レベルの生物学をさらに深く理解します。細胞がどのようにエネルギー（ATP）を作るのか。作られた ATP は何に利用されるのかを学習します。後半は医学との関連項目を学習します。講義形式の授業ですが、授業の途中に簡単な実験なども組み込みたいと考えています。本講義は「生物学 I」の知識を持っていることを前提に実施します。履修していない方は注意して下さい。	1. ATP の産生（1）－細胞質での ATP 産生－ 2. ATP の産生（2）－ミトコンドリアでの ATP 産生－ 3. 刺激の受容　－眼の構造と働き－ 4. 刺激の受容　－耳、舌、皮膚の構造と働き－ 5. 神経細胞　－情報伝達のしくみ－ 6. 筋収縮　－体を動かすしくみ－ 7. 病原体から体を守るしくみ　（1）－体液性免疫－ 8. 病原体から体を守るしくみ　（2）－細胞性免疫－ 9. 寄生生物　－寄生性の多細胞生物－ 10. 寄生生物　－寄生性の単細胞生物－ 11. ウイルス　－インフルエンザ－ 12. 疾病の予防　－サプリメントは病気を予防するのか？－ 13. プレゼンテーション（1） 14. プレゼンテーション（2） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	期末試験の結果（70%）とレポート（20%）とプレゼンテーション（10%）で評価します。

13 年度以降	生理学Ⅰ	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり）」を考える学問である。我々のからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っている。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解することを目指す。 〔講義概要〕 講義内容は身体の仕組みや機能について概説する。ここでは呼吸、循環、消化・吸収、排泄、代謝といった生命現象、血液・体液、神経、内分泌、筋・骨といった機能系統について、できるだけ身近な題材と組み合わせてわかりやすく講義する。 また、各自が興味を持った「からだ」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 生理学の基礎－ホメオスタシスって？－ 3. 血液・体液－からだの中に海？－ 4. 呼吸・循環－息して生きてる－ 5. 消化・吸収－食べ物の行方－ 6. 代謝・体温－からだを温めると健康によい？－ 7. 内分泌－ホルモン、男らしさ女らしさ 8. 神経－「運動神経」がないひとはいない！－ 9. 感覚－第 6 感？－ 10. 筋・骨－からだの屋台骨－ 11. 「からだ」の情報交換会①（グループ発表） 12. 「からだ」の情報交換会②（グループ発表） 13. 「からだ」の情報交換会③（グループ発表） 14. 春学期の復習 15. 総合討論
テキスト、参考文献	**評価方法**
やさしい生理学（南江堂）　彼末一之・能勢博編 イラストで学ぶ生理学　（医学書院）田中越郎	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）。

13 年度以降	生理学Ⅱ	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもある。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいる。この講義ではヒトの身体制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指す。 〔講義概要〕 春学期の生理学Ⅰで学んだ身体の仕組みや機能の基礎を基に、秋学期の生理学Ⅱでは私たちのからだの中枢である脳機能に焦点を当てて講義する。また、睡眠、情動、言語、学習と記憶など、脳機能と関連する事象についても扱う予定である。できるだけ身近な題材と組み合わせてわかりやすく講義する。 また、各自が興味を持った「脳機能」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 神経科学の基礎 3. ニューロン・シナプス・神経伝達物質 4. 中枢神経系（大脳・小脳・脳幹・脊髄）と末梢神経系 5. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚① 6. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚② 7. 摂食調節－なぜ食べる？－ 8. 脳・脊髄による運動制御 9. 脳と睡眠－なぜ眠る？－ 10. 脳と情動－好き・嫌い－ 11. 学習と記憶 12. 「脳機能」の情報交換会① 13. 「脳機能」の情報交換会② 14. 「脳機能」の情報交換会③ 15. 総合討論
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 カラー版神経科学－脳の探求－（西村書店）加藤宏司他	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）。

13 年度以降 12 年度以前	地球環境論Ⅰ 自然・環境研究各論Ⅰ（地球環境論 a）	担当者	北﨑　幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、世界あるいは日本を「地理学」の視点からとらえていく。各地域の自然環境や文化といった諸分野について、知識・理解を深めることを目的とする。まず、世界の諸地域を概観し、地理的な見方・考え方を身につけるとともに、人口問題、資源と貿易、そして都市と農村のつながりなどの各分野について考察していく。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある意欲的な学生を希望する。	1．オリエンテーション―地理学とは 2．世界の読み方（1）地域と空間を見る眼 3．世界の読み方（2）世界地図の錯覚 4．世界の読み方（3）人と環境から見た世界 5．世界の読み方（4）世界の経済と貿易 6．世界の読み方（5）都市と農村の地理 7．世界の読み方（6）日本の地図を読む 8．日本の大都市圏（1）東京と首都圏 9．日本の大都市圏（2）複核構造の近畿圏 10．日本の大都市圏（3）多核的産業都市・中京 11．日本の大都市圏（4）大都市圏の回廊地帯 12．地球環境問題に対する視点（1） 13．地球環境問題に対する視点（2） 14．まとめ（1） 15．まとめ（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
青木英一・北村嘉行『世界を読む　改訂版』（原書房、2005年）	期末定期試験の結果（75%）に加え、平常授業における課題レポートなどの実績（25%）等も加味して、総合的に評価する。

13 年度以降 12 年度以前	地球環境論Ⅱ 自然・環境研究各論Ⅱ（地球環境論 b）	担当者	北﨑　幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、世界あるいは日本を「地理学」の視点からとらえていく。各地域の自然環境や文化といった諸分野について、知識・理解を深めることを目的とする。まず、日本の諸地域、そして世界の諸地域について、それぞれの地域的特色を考察する。そして、近年重要性が増す地球環境問題について詳しくみていく。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある意欲的な学生を希望する	1．オリエンテーション―地理学とは 2．日本の地方圏（1）日本海岸の経済的風土 3．日本の地方圏（2）東北・北海道地方 4．日本の地方圏（3）瀬戸内海・四国・九州地方 5．世界の諸地域（1）中国とアジア諸国 6．世界の諸地域（2）オセアニア 7．世界の諸地域（3）アメリカ合衆国 8．世界の諸地域（4）アフリカ・西アジア 9．世界の諸地域（5）ヨーロッパ・ロシア 10．地球環境問題（1）生態系と人間活動 11．地球環境問題（2）自然環境の破壊 12．地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13．地球環境問題（4）私たちにできること 14．まとめ（1） 15．まとめ（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
青木英一・北村嘉行『世界を読む　改訂版』（原書房、2005年）	期末定期試験の結果（75%）に加え、平常授業における課題レポートなどの実績（25%）等も加味して、総合的に評価する。

13 年度以降 12 年度以前	コンピュータと言語 多言語情報処理研究Ⅰ（コンピュータと言語）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 　本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. 情報のデジタル化 3. オペレーティングシステム 4. プログラミング言語入門 5. データ構造入門 6. アルゴリズム入門 7. ハードウェアとは 8. 情報検索と言語処理 9. 形態素解析と構文解析 10. 自然言語処理の応用 11. 質問応答システム 12. 対話システムと言語資源 13. 総合演習 1 14. 総合演習 2 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示する参考文献を使用します。	レポート、演習問題と筆記試験の結果を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

13 年度以降 12 年度以前	情報科学各論 I 多言語情報処理研究各論 I （表計算とプレゼンテーション）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

13 年度以降 12 年度以前	情報科学各論 I 多言語情報処理研究各論 I （表計算とプレゼンテーション）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

13 年度以降 12 年度以前	情報科学各論Ⅱ 多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

13 年度以降 12 年度以前	情報科学各論Ⅱ 多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

13 年度以降	データ構造とアルゴリズム論	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】データ構造とアルゴリズムは難しそうなイメージであるが，実は日常の生活と仕事の中でよく利用する身近なものである．情報爆発といわれる現代社会において，いかにデータを構造化し，必要なアルゴリズムで素早く処理する能力は不可欠である．本講義は実習を通してデータ構造とアルゴリズムに対する理解を深めることを目的とする． 【概要】データ構造とアルゴリズムに関する基本的な理論と方法について，講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する．講義内容は，文系の学生でも理解できるように，ゲームを取り入れ、体験しながら学ぶ． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 講義の概要と目標 2. リスト 3. スタックとキュー 4. 再帰 5. 計算量解析 6. 解析木 7. 二分探索木 8. ソート１ 9. ソート２ 10. 二分探索 11. 平衡木 12. ハッシュ 13. グラフ 14. 動的計画法 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。 参考サイト： http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する．

13 年度以降 12 年度以前	データベース論 多言語情報処理研究各論Ⅳ（データベース）	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】本講義は Microsoft Office Access を利用して，データベースの概念，設計方法，構築手法について学習する． 【概要】データベースの歴史から始め，データベースの概念や，設計方法や，構築手法などを解説しながら，Microsoft Office Access というソフトウェアを利用して，実際の操作を行う．さらに，実習問題を通して，データベースの概念及び設計に対する理解を深める． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 授業ガイダンス 2. データベース概論（1）：概念と歴史と種類 3. データベース概論（2）：設計方法と構築手法 4. Microsoft Office Access 入門 5. Microsoft Office Access 基本操作（1） 6. Microsoft Office Access 基本操作（2） 7. Microsoft Office Access 基本操作（3） 8. テーブルの構築と操作（1） 9. テーブルの構築と操作（2） 10. クエリ（1） 11. クエリ（2） 12. リレーションシップの構築 13. レポートの印刷 14. 総合演習 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業始めで指定する。	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する．

13年度以降	社会調査法	担当者	田端　章明

講義目的、講義概要	授業計画
「社会調査法」とは、社会学における調査手法の総称です。この講義では社会調査における代表的な手法をいくつか紹介し、実習をまじえながら社会調査に関する理解を深めていきます。 この講義の目的は2つあります。1つは、現代社会に氾濫するデータについて、どのような接し方をすればよいのかを理解し、データに振り回されないようになることです。そしてもう1つは、レポートや卒論を書く際に、間違ったデータを引用したり、いいかげんな調査をしたりしないようになることです。 なお、ここまで読んで「データや調査に関するHow toの講義か」と思った方もいるかもしれませんが、それは早合点です。社会調査法では、How toよりも、その背後にあるWhy toが大切です。Why toを理解するには、ただやり方を覚えるのではなく、「なぜこういうやり方をするのか」と考え続けることが必要です。だからこの講義では、疑問について深く長く考え続けられる人を歓迎します。	1.　講義の概要 2.　調査計画（1）調査に値する「問い」とは 3.　調査計画（2）「問い」から仮説へ 4.　調査計画（3）調査対象の決め方 5.　インタビュー調査（1）「語り手」とは誰か 6.　インタビュー調査（2）「語り」が生まれる要件 7.　インタビュー調査（3）「個性的な語り」の良し悪し 8.　インタビュー調査（4）まとめ方と「文体」 9.　アンケート調査（1）質問づくりのポイント 10.　アンケート調査（2）選択肢づくりのポイント 11.　アンケート調査（3）クリーニングとエディティング 12.　アンケート調査（4）集計の手順 13.　アンケート調査（5）グラフの基本原則 14.　その他の社会調査について 15.　講義のまとめ ※履修者数などの条件により、変更する場合があります
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使いません。その代わりとして、授業内容のレジュメを配布します。 参考文献は、授業内で適宜紹介します。	課題レポートの内容（20%×3回＝60%）、そして期末試験または期末レポートの結果（40%）を総合して評価します。

13年度以降 12年度以前	統計と調査法 多言語情報処理研究各論Ⅴ（統計と調査法）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的　基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける． **授業概要** ・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており，それを巧みに利用しながら生活している．「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが，より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる．この授業では日常的なデータを素材として，その性質を記述し，現象の本質を推測できるように，科学的な分析方法を使うことを学ぶ．基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする．授業期間の後半は，自分たちで収集したクイズ問題の解答をさまざまな角度から分析し，前半で学んだ理論の応用を試みる．	1. 統計量の種類（量的変量・質的変量）：比例変量，間隔変量，順位変量，名義変量 2. アンケートの取りかた，クイズ問題作成説明 3. 度数分布，相対度数，度数分布表 4. 量的変数のグラフ表現，質的変数のグラフ表現 5. 代表値（平均値，中央値，最頻値），値の広がり，能力テストと到達度テスト 6. 正規分布，散布度（標準偏差），歪度，尖度，標準得点，偏差値 7. クイズ問題解答集計 8. 信頼性係数，項目分析，ロジスティック回帰分析 9. 記述統計と推測統計，仮説（帰無仮説，対立仮説） 10. 相関散布図，相関係数，回帰直線，欠損値の推定，相関検定 11. 対応がない場合のt検定，分散分析 12. 対応がある場合のt検定，プリテスト・ポストテスト，時系列分析 13. クロス集計，カイ二乗検定 14. 多変量解析(1) 主成分分析・因子分析・クラスター分析 15. 多変量解析(2) 要因計画法・重回帰分析・対応分析
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 内田治『数量化理論とテキストマイニング』（日科技連, 2010）ISBN 978-4-8171-9292-9	(定期試験（80%)＋平常授業におけるまとめ（20%)) x 出席率の平方根

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（世界の宗教と文化ー一神教と多神教） 宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ（世界の宗教と文化ー一神教と多神教）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 本講義は、世界史的にこれまで大きな役割を果たしてきた地中海世界の「宗教と文化」に焦点を絞り、キリスト教という一神教が成立する過程を歴史的に考察することにより、宗教と文化を含む歴史がいかに密接に関連し、しかも人々の考え方、生き方（心性）の変化と連動しているかを探ることで、現代の私たちの自己認識や帰属意識がどこに由来するかを考えることを目的にしています。 ＜講義概要＞ 講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマのビデオや映画、DVD などの映像資料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと考えています。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問や意見が出ることが期待されています。その意味でも自由な発言ができるようなアト・ホームな雰囲気で講義を進めていくつもりです。	１　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２　メソポタミアの宗教と文化 死すべき人間と不死なる神々 ３　エジプトの宗教と文化（その１） 来世信仰とピラミッド ４　エジプトの宗教と文化（その２） 一神教革命とツタンカーメンの死 ５　パレスチナ地域の宗教と文化（その１）カナンの宗教 ６　パレスチナ地域の宗教と文化（その２）ユダヤ教 ７　ギリシアの宗教と文化（その１） オリンポスの神々と合理主義 ８　ギリシアの宗教と文化（その２） 密儀宗教（エレウシスの秘儀、オルペウス信仰） ９　ヘレニズムの宗教と文化（その１） コスモポリタニズムと内向きの心性 １０　ヘレニズムの宗教と文化（その２）諸神の習合 １１　ローマ帝国の宗教と文化（その１） キリスト教の成立とその意義 １２　ローマ帝国の宗教と文化（その２）グノーシス主義 １３　ローマ帝国の宗教と文化（その３）キリスト教確立 １４　多神教から一神教への道筋 １５　まとめ：宗教と道徳

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは使用せず、随時プリントを配布します。また、参考文献を初回の授業時に、「参考文献一覧表」として配布します。	学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、平常点を加味して総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（思想と文化） 宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ（思想と文化）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
物事を考えることが人間の存在にとってどのような意味を持つのか。そのように考えている自己とは如何なる存在であるのか。この自己の探究を通して、人間の存在の意味は何かを探る。 この作業の助けとして、ヤスパース、ハイデッガー、フロイト、ユング、ベルグソン、西田幾多郎、西谷啓治、鈴木大拙などの哲学者・思想家の考え方をおよび仏教哲学などを参考にすることもある。 だが、この授業は単に聞くだけのものではない。教師が考えていることを聴講者に投げかけるので、聴講者はそれに対してどのように考えたらよいのかの応答を求められる。そして次ぎに、各グループに分かれて、ディスカッションを主体に授業が進められるので、興味ある題と取り組むためのグループを作って、このグループによる発表とディスカッションを行って行くこともあるが、それは受講者の人数次第で変更もあり得る。なお、これらの題に関する学生と教師の問答によって探求を進めることが基本となる。 外国人（特に英語を母国語ないしは理解可能言語とする留学生など）の聴講参加がある場合には、英語によって講義およびディスカッションがなされる場合も一部分ある。	1. 概要説明と導入 2. ディスカッションのためのグループ分けと最初の問題設定「人間と思索」について 3. 「人間の存在」と「自己」との連関 4. 「自己」とは何かのグループ･ディスカッション 5. 「私」と「汝」に関する探求 I 6. 「私」と「汝」に関する探求 II 7. 「私」と「汝」に関する探求 III 8. 「人間とは何か」と「自己」の関係についての考察 I 9. 「人間とは何か」と「自己」の関係についての考察 II 10. 「自己」を現代の研究成果から考える 11. 「自己」を現象学的に探求 I 12. 「自己」を現象学的に探求 II 13. 「自己」を心理学的に探求 I 14. 「自己」を心理学的に探求 II 15. 授業の総まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
授業時に適宜指示	発表等の授業への貢献度 30%、課題レポートによる評価 70%

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化 a） 宗教･文化･歴史研究各論Ⅰ(地中海世界の宗教と文化 a)	担当者	櫻井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 古代国家では法律も無い時代があり、あっても現代のようには有効性が乏しい時代がありました。家族や地域共同体を守る身近な習慣や祭りを通して見えてくる社会は、一体どのようなものなのか。またそうした社会を維持するべく創出されたアイデンティティーはどのようなものだったのかを考えていきます。本講義では古代ギリシアとりわけアテナイを具体例にして、そこに暮らす市民やその家族たちの実体に迫ります。 ＜講義概要＞ 古代ギリシア人の女たちは市民権もなく、表面的にはその存在すら良くわからない場合も多かったのです。しかし、ポリス存続のため子どもを産むことによって、彼女らの役割が明確になり、結婚によって家とのつながりができてポリスが安泰となるわけです。現在も行われているオリンピックの元のオリンピア競技会や悲劇上演は、神にささげるために行われ、古代ギリシア市民やその家族のアイデンティティーを育むために大いに役立ったことを明らかにします。	１、　はじめに（講義の目的、概要、その他　） ２、　古代ギリシア人の信仰 ３、　デルフォイの神託 ４、　穢れと浄め、呪い ５、　エレウシスの秘儀と死生観 ６、　葬儀、埋葬、墓碑 ７、　女性と祭儀 ８、　アスクレピオス神 ９、　シュンポシオン １０、ディオニュッシア祭 １１、ギリシア悲劇 １２、ギリシア悲劇鑑賞 １３、ギリシア喜劇 １４、オリュンピア競技会 １５、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せずプリントを配布します。また授業時に参考文献を紹介します。ビデオ映像も使用して理解を深めます。	学期末のレポートと中間に行う小レポートさらに平常点点を加えて総合的に評価します。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化 b） 宗教･文化･歴史研究各論Ⅱ(地中海世界の宗教と文化 b)	担当者	櫻井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 地中海世界には数多くの遺跡や建造物が残されていますが、それらは当時の社会や集団の特性を表現しています。 古代ギリシア、ローマ世界に見られる遺跡や建造物を辿ることによって、当時の人々の世界観や人生観、そして文化理解について考えてみたいと思います。 ＜講義概要＞ 本講義では、地中海世界で見られる神殿をはじめ、道路、浴場、劇場などを生み出した文化的背景について説明します。 また、ローマ帝国帝政期ごろから、人々が信仰したキリスト教が、多くの人々に受け入れていく過程とあわせてキリスト教徒が迫害された実態も検証します。ローマ帝国の技術を使用して作られた道路や浴場、劇場などはキリスト教の布教に大いに役立ったのです。キリスト教はローマ帝国崩壊後もゲルマン諸国家に受け継がれて広がっていきます。その後ヨーロッパ諸国でも信仰されたのはなぜかについても考察を深めていきます。	１、　はじめに（講義の目的、概要、その他　） ２、　パルテノン神殿 ３、　エピダウロスの遺跡 ４、　シチリアの遺跡 ５、　ペルガモンの遺跡 ６、　オリュンポスの神々の変容 ７、　ローマ建国神話 ８、　ローマの道路と橋 ９、　ポンペイ遺跡 １０、ディオニュッソス神への信仰 １１、ローマ市民と奴隷 １２、キリスト教徒への迫害 １３、キリスト教の広がり １４、ゲルマン民族とキリスト教 １５、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せずプリントを配布します。また授業時に参考文献を紹介します。ビデオ映像を使用して理解を深めます。	学期末のレポートと中間に行う小レポートさらに平常点を加えて総合的に評価します。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術 a） 宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ（アラブ文化・芸術 a）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、混乱を招いた「アラブの春」、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。	１．　イントロダクション：アラブ人とは？ ２．　「イスラム」と「イスラーム」 ３．　ムスリムにとって「クルアーン」とは ４．　アラブ人の生活文化　１）食生活と祭 ５．　アラブ人の生活文化　２）家族・女性 ６．　アラブ音楽入門Ⅰ ７．　アラブ音楽入門Ⅱ ８．　パレスチナ問題と芸術　１）ドキュメント 「五つのカメラが壊された」鑑賞・ディスカッション ９．　パレスチナ問題と芸術　２）演劇 「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞 １０．演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション １１．パレスチナ問題と芸術　３）記録映画 １２．パレスチナ問題と芸術　４）小説 作家ガッサーン・カナファーニの世界 中編「太陽の男たち」「ハイファに帰って」 読後レポート提出・ディスカッション １３．パレスチナ問題と芸術　５）詩人 「パレスチナの声」マハムード・ダルウィーシュ １４．パレスチナ問題と芸術　６）映画 １５．イスラーム報道・アラブ報道を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
スライドを使用するか、プリントを配布します。 参考文献：『変わるエジプト、変わらないエジプト』『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）	レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術 b） 宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ（アラブ文化・芸術 b）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラブの芸術といえば，世界一有名なファンタジー，そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが，同時にアラブの文化は詩人の文化であり，また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。	１．　後期イントロダクション―アラブの日常 ２．　アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」 ３．　アラブの芸能界と歌謡曲 ４．　レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性 ５．　映画鑑賞レポート提出・ディスカッション ６．　ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 ７．　マルコ・ポーロよりすごいアラブの旅行家 ８．　イスラームというファクターを正しく理解する ９．　「アラブ革命の春」を考える １０．アラブ文化は詩の文化（１）：概観 １１．詩の文化（２）：中世ヒップホップ １２．ノーベル賞作家ナギーブ・マフフーズの世界とエジプト近代史 １３．小説「バイナルカスライン」（新訳タイトル：「張り出し窓の街」）読後レポート提出 １４．続き　（ディスカッション） １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
スライドを使用するか、プリントを配布します。 参考文献：『変わるエジプト、変わらないエジプト』『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）	レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

13 年度以降	総合科学特殊研究（科学技術と社会 b）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
【講義概要】 我々は科学・技術に囲まれて生きている。科学・技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして、我々の人生や生活を豊かにする。他方、インターネットを利用したサイバーテロや、受精卵に対する遺伝子診断のように、我々の安全を脅かしたり、生命観を揺るがしたりする問題も発生している。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故は、我々が科学・技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示している。この講義では、具体的な事例を通じて、科学・技術と社会との関わりを学ぶことによって、社会の中で科学・技術を生かすための方法を考えてゆく。 【授業の到達目標】 ・科学・技術と社会との関わりを示す代表的な事例とその意義を理解すること ・授業に関係する話題の中から、各自が興味を抱いたものを選んでターム・ペーパー（レポート）をまとめること	１．　ガイダンス、科学とは？技術とは？社会とは？ ２．　科学、技術とイノベーション ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　公害と科学技術 ５．　地球温暖化と科学技術 ６．　事故と科学・技術 ７．　科学技術と安全 ８．　科学技術とリスク ９．　科学技術と法 １０．巨大科学技術と社会 １１．研究者と社会 １２．科学技術と女性 １３．先端の科学・技術と社会 １４．専門家と市民との関係 １５．科学技術政策

テキスト、参考文献	評価方法
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（宇宙論 a） 自然・環境研究Ⅴ（宇宙論 a）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 a 」では、まず、近代科学以前の宇宙論を概観し、次に、様々な天体現象の観察による近代的宇宙観の成立と、相対性理論による現代的宇宙観の成立を見ていきます。そして、現代宇宙論で確立されたビッグバン宇宙について解説します。	1. はじめに 2. 近代科学以前の宇宙論 3. 天体の運行法則の発見と新たな宇宙像の誕生 4. ガリレイによる動力学の発見と相対性原理 5. ニュートン力学とニュートン的宇宙観 6. ニュートン的宇宙観の発展と電磁気学の成立 7. ニュートン的宇宙観への批判と特殊相対性理論の成立 8. 同時概念・時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性と新しい時間空間概念の成立 10. 等価原理と一般相対性理論の成立 11. アインシュタイン方程式と時空の歪み 12. 宇宙の時間的・空間的広がりと宇宙の一様性・等方性 13. 膨張宇宙論 14. ビッグバン宇宙論 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する予定

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（宇宙論 b） 自然・環境研究Ⅵ（宇宙論 b）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 b 」では、現代宇宙論において近年得られた知見による宇宙膨張の観測と理論、宇宙における構造の形成、宇宙における物質の形成について解説します。また、まだ確立していない最新の話題についても取り上げます。 なお、春学期開講「宇宙論 a」の内容についての知識があることを前提に講義を進めます。	1. はじめに 2. 宇宙論が対象とする宇宙 3. 膨張宇宙の観測 4. 膨張宇宙の理論 5. ビッグバン理論 6. 宇宙の階層構造 7. 宇宙の構造形成 8. 物質の階層構造 9. 宇宙の進化 10. ビッグバン理論の問題点 11. インフレーション宇宙 12. 宇宙の特異点と量子宇宙論 13. 超ひも理論と高次元宇宙 14. 膜宇宙とパラレルワールド 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する予定

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（自然観察 a） 自然・環境特殊研究Ⅰ（自然観察 a）	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 科学の基本は比較し観察することです。本講座では様々な実験と観察を通して科学的な物の見方を学びます。前半は顕微鏡を用いて生物の観察を行います。そしてスケッチを通してその差異を明確に認識する目を養います。後半は実験により、講義形式では理解しにくい様々な生命現象を理解することを目指します。 【概要】 身近な生物と材料を用いて実験を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は**必ず出席**して下さい。実験では衣服が汚れることがあります。汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※本講座を受講する学生は実習費（¥2,000）を支払う必要があります。	1. はじめに　－レポートの書き方・顕微鏡の使い方－ 2. 植物の観察　－稲の栽培と観察－ 3. 原生生物の観察　－身近な原生生物の観察－ 4. 細胞分裂の観察　－タマネギの根の細胞分裂を観察－ 5. カビの観察　－麹の培養と観察－ 6. 発生の観察　－ムラサキウニの発生を観察－ 7. 動物組織の観察（1）－メダカの色素胞を観察－ 8. 動物組織の観察（2）－魚の脳を観察－ 9. 動物組織の観察（3）－イカの神経を観察－ 10. 血球の観察　－ホヤの血球を観察－ 11. 光合成色素の分離　－ペーパークロマトグラフィー－ 12. デンプンの精製　－ジャガイモからデンプンを精製－ 13. タンパク質の性質　－牛乳からバターを作る－ 14. タンパク質の性質　－豆腐作りでタンパク質を知る－ 15. 脂質の性質　－マヨネーズを作って考える－
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	レポート（60%）と期末試験の結果（40%）で評価します。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（自然観察 b） 自然・環境特殊研究Ⅱ（自然観察 b）	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 春学期と同様に、実験と観察により講義形式では理解しにくい様々な生命現象を理解することを目指します。後半は様々な無脊椎動物の形態を観察します。最後のプレゼンテーションでは、文献調査や実験によって明らかにした内容を各自が発表します。友人たちとの質疑応答を通して知識を共有します。 【概要】 身近な生物と材料を用いて実験を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は**必ず出席**して下さい。実験では衣服が汚れることがあります。汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※本講座を受講する学生は実習費（¥2,000）を支払う必要があります。	1. はじめに　－レポートの書き方・諸注意－ 2. 節足動物の観察　－ウミホタルの観察－ 3. DNA の抽出　－レバーから DNA を抽出－ 4. DNA の確認　－抽出した DNA を見る－ 5. 動物の再生　－プラナリアの再生を観察－ 6. 細菌の働き　－稲藁を用いた納豆作り－ 7. 細菌の分布　－手に付着した細菌の培養と観察－ 8. 酵母の性質　－酵母を使った発酵の観察－ 9. 植物の観察　－気孔、根毛、果実の観察－ 10. 線形動物の観察　－食べたら痛い!? 魚に潜む寄生虫－ 11. 節足動物の観察　－クルマエビの構造と神経系の観察－ 12. 軟体動物の観察　－カキの心臓とその神経支配－ 13. 刺胞動物の観察　－ヒドラの摂食行動を観察－ 14. 棘皮動物の観察　－バフンウニの形態と発生の観察－ 15. プレゼンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	レポート（60%）と期末試験の結果（30%）とプレゼンテーション（10%）で評価します。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（情報検索演習） 多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】情報爆発といわれている現代社会において，情報検索の技術を駆使し，いかに必要な情報を素早く，的確に見つける能力は不可欠である．本講義は情報検索の仕組を解説し，実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする． 【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について，講義と実習形式で解説する． 講義内容は，文系の学生でも理解できるように，情報検索の歴史，情報検索ための情報収集，情報整理，情報抽出，情報評価の順番で説明する． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 授業ガイダンス 2. 情報検索の基本（1）：パソコンの世界 3. 情報検索の基本（2）：情報の表現 4. 情報検索の基本（3）：データベース 5. 情報検索の種類 6. 情報検索システムの構成と役割 7. 情報の収集 8. 情報の整理（1） 9. 情報の整理（2） 10. 情報の抽出（1） 11. 情報の抽出（2） 12. 情報の検索と評価 13. 情報検索システムの例：図書検索 14. 情報検索システムの例：ネット検索 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：必要に応じて資料を配布する 参考文献：原田，江草，小山，澤井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ 6，2007（樹村房）	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する．

13 年度以降	総合科学特殊研究（生理学実習）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 普段、何気なく生活している中では気づかないが、我々のからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示している。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が伝えられているが、まずはもっとも身近な私たち自身の体の中のことを知って、快適な生活について考える、工夫するきっかけを提供することが本講義の目的である。 〔講義概要〕 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、実際に自分自身のからだを使ってその機能の一部を確かめる、つまり実験・測定を行う（グループワーク）。得られたデータを分析しまとめることで理解を深める。	1. ガイダンス、自己紹介 2. 体温調節－冷え症・低体温、熱中症－ 3. 体温調節実験－寒冷血管拡張反応－ 4. 体温調節－まとめ（グループでデータの解析・討論） 5. 血圧調節－身近な健康のバロメーター－ 6. 血圧調節実験－様々な姿勢、運動－ 7. 血圧調節－まとめ（グループでデータの解析・討論） 8. ストレス反応－まわりはストレスだらけ－ 9. ストレス反応測定－アミラーゼ、精神性発汗、心拍数－ 10. ストレス反応－まとめ（グループでデータの解析・討論） 11. 反応時間－筋と神経の協調作業 12. 反応時間測定－あの名物コーナーにチャレンジ－ 13. 反応時間－まとめ（グループでデータの解析・討論） 14. 成果発表 15. 総合討論
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布する。	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）。

13年度以降	総合科学特殊研究（サイエンスライティングa）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 私たちの日々の生活が科学技術の成果の上で成り立っている以上、多くの人々が科学の成果やその影響を正しく理解し、さらにその内容を広く社会に伝えていくことが大切でしょう。 専門外の人々が科学について書くには、まずは科学の内容についての理解が必要となります。また、普段あまり馴染みのないことや初めて聞くことについて、自ら情報を収集する能力も必要となります。さらには、科学を伝える対象に応じて伝える内容を構成したり、解説の方法を工夫したりすることも必要となります。同時に、解説の正確さや論理性を踏まえたうえで、読んで面白いと感じさせる文章力も必要でしょう。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことなのです。 春学期「サイエンスライティングａ」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の内容の一部を文章にまとめるという作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。	１．はじめに ２．科学に関する講義の内容の一部をまとめる１ ３．科学に関する講義の内容の一部をまとめる２ ４．科学に関する講義の内容の一部をまとめる３ ５．科学に関する講義の内容の一部をまとめる４ ６．まとめ文の講評とディスカッション１ ７．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる１ ８．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる２ ９．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる３ １０．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる４ １１．まとめ文の講評とディスカッション２ １２．科学に関する本の内容の一部をまとめる１ １３．科学に関する本の内容の一部をまとめる２ １４．科学に関する本の内容の一部をまとめる３ １５．まとめ文の講評とディスカッション３
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する

13年度以降	総合科学特殊研究（サイエンスライティングb）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 私たちの日々の生活が科学技術の成果の上で成り立っている以上、多くの人々が科学の成果やその影響を正しく理解し、さらにその内容を広く社会に伝えていくことが大切でしょう。 専門外の人々が科学について書くには、まずは科学の内容についての理解が必要となります。また、普段あまり馴染みのないことや初めて聞くことについて、自ら情報を収集する能力も必要となります。さらには、科学を伝える対象に応じて伝える内容を構成したり、解説の方法を工夫したりすることも必要となります。同時に、解説の正確さや論理性を踏まえたうえで、読んで面白いと感じさせる文章力も必要でしょう。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことなのです。 秋学期「サイエンスライティングｂ」では、春学期「サイエンスライティングａ」での実践を前提に、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の解説文を実際に書くという作業を通して文章力をさらに高め、最終的に短い科学エッセイの創作をします。	１．はじめに ２．科学に関する講義の解説文を書く１ ３．科学に関する講義の解説文を書く２ ４．科学に関する講義の解説文を書く３ ５．解説文の講評とディスカッション１ ６．科学に関するビデオの解説文を書く１ ７．科学に関するビデオの解説文を書く２ ８．解説文の講評とディスカッション２ ９．科学に関する本の解説文を書く１ １０．科学に関する本の解説文を書く２ １１．解説文の講評とディスカッション３ １２．科学エッセイを読む １３．科学エッセイを書く１ １４．科学エッセイを書く２ １５．科学エッセイを書く３
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	各テーマにおける「解説文」と「科学エッセイ」の完成度を総合的に評価する

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（自然言語処理 a） 多言語情報処理特殊研究Ⅰ（自然言語処理 a）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然」言語といます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。 本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。	1.　言葉とコンピュータ　自然言語処理の諸方面 2.　自然言語処理の問題点　各種の曖昧性 3.　自然言語処理の予備知識 4.　形態素解析（1）形態素解析の原理と方法 5.　形態素解析（2）日本語と英語の形態素解析実験 6.　単語処理　単語の同定、単語の統計処理 7.　構文解析（1）　文脈自由文法､句構造文法 8.　構文解析（2）　構文解析の原理と実験 9.　電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 10.　コーパス、言語データベースの構造と使い方 11.　言語の統計処理技術 12.　言語処理とオントロジー 13.　総合演習 14.　授業のまとめ 15.　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（1）　最初の講義で指示します。 （2）　必要な資料を配布します。	レポート、演習問題と筆記試験の結果を併せて評価します。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（自然言語処理 b） 多言語情報処理特殊研究Ⅱ（自然言語処理 b）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。 本講義では、自然言語処理 a での知識を踏まえた上、自然言語処理基礎技術のである意味解析、文脈解析、知識の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システム、質問応答システム、情報検索システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。	1.　講義の概要、前期内容のまとめ 2.　意味解析：　意味解析の方法と実験 3.　文脈解析：　談話構造、照応問題の対処法 4.　知識の表現法 5.　文書処理（1）　言い換え、文書校正 6.　文書処理（2）　自動要約の原理 7.　機械翻訳（1）　機械翻訳の処理方式と原理 8.　機械翻訳（2）　機械翻訳システム 9.　質問応答システム 10.　情報検索における言語処理技術 11.　対話システム 12.　自然言語処理システム 13.　総合演習 14.　自然言語と人工知能 15.　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（1）　最初の講義で指示します。 （2）　必要な資料を配布します。	レポート､演習問題と筆記試験の結果を併せて評価します。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（プログラミング論 a） 多言語情報処理特殊研究Ⅲ（プログラミング論 a）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual　Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつのプログラムの設計について講義および実習を行う。	1　授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2　プログラミング言語とプログラムの仕組み 3　開発ツールとしての Visual Basic の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4　Visual Basic の基本操作とプログラムの作成 5　プログラム作成の演習 基本なプログラミングの手順を確認する 6　イベント駆動型プログラム 7　文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8　選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9　選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10　繰り返しあるプログラムの作成（1） 回数指定による繰り返し 11　繰り返しあるプログラムの作成（2） 条件指定による繰り返し 12　アルゴリズムの原理と演習 13　総合練習、課題の作成 14　総合演習と講義のまとめ 15　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の講義で指示します。	総合演習の完成度とレポートの提出を加味して評価します。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（プログラミング論 b） 多言語情報処理特殊研究Ⅳ（プログラミング論 b）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、プログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り替しプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。 ここでは、Python というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、テキストの処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。	1　プログラミングの基礎 2　言語研究とプログラミング 3　テキストデータに親しもう 4　Python に触れてみょう 5　Python で文字列処理 6　Python でファイル内容の表示 7　総合演習（1） 8　Python 検索しよう：条件分岐 9　繰り返す処理：ループ 10　単語の一覧表を作ろう 11　総合演習（2） 12　ファイル操作 13　総合演習（3） 14　講義のまとめ 15　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業で指示します。	総合演習の完成度およびレポートの提出を加味して評価します。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（マルチメディア論） 多言語情報処理特殊研究VI（マルチメディア論）	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
動画などは今やインターネットの世界では日常的なことになってきている。しかしそれは，ブログなどでただ単に指定通りに貼り付けるだけであり，その原理を理解・認識している人は少ない。その基本的原理は，最近話題のパラパラ漫画にも見受けられるが，その処理などを理解し，インターネットの世界での標準ともいえるソフトのフラッシュを用いて自分の力でコントロールできるようになることを目指す。マルチメディアという内容は動画だけにとどまらず，音声なども含まれるが，ここでは動画に的を絞る。もちろんこれは，ソフトの使いこなしだけを目指すのではない。基本的には自ら作画し，それを動かせるようにすることから始める。	1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作成③ 5. イラストの作品制作 6. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 7. シンボルの制作，保存。レイヤーの利用 8. トゥイーンアニメーション 9. シェイプトゥイーン① 10. シェイプトゥイーン② 11. 作品の制作① 12. 作品の制作② 13. 作品の制作③ 14. 作品の制作④ 15. 作品の制作予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示する。	制作した作品で評価する。参加度を重視し，欠席回数が多いと不可とする。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（コンピュータ構造論） 多言語情報処理特殊研究Ｖ（コンピュータ構造論）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。 本講義では、（1）情報に関する基本的な概念、（2）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（3）情報システムに関する基礎的な素養、（4）情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。 本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。	1.　授業のガイダンス 2.　ファイル編成とデータベース 3.　データベース管理システム（DBMS） 4.　SQL 言語とデータベース操作 5.　コンピュータ・ネットワーク 6.　インターネットの仕組み 7.　インターネットサービス 8.　セキュリティ、暗号システム、電子認証 9.　コンピュータアーキテクチャ 10.　より高度な情報検索 11.　情報システムを支える技術 12.　ソフトウェア開発手順 13.　総合演習 14.　授業のまとめ 15.　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の講義で指示します。 毎回の講義で必要な教材は配布します。	レポート、演習問題と筆記試験の結果を併せて評価します。

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（科学の方法と実験 a） 自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学 a）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
科学とはなんだろうか。小学校以来「理科」の授業で学んできた自然についてのいろいろな知識はどれだけ身についただろうか。科学とは私たちをとりまく自然世界についての体系的な知識であるが、同時にそれは、多様な要因が複合的に作用しあった結果として現実に生起する事象を、その絡み合った諸要因を丹念に解きほぐして本質を解明する学問の方法と言うことができよう。これは自然科学のみならず、あらゆる学問分野について言える。だから、身についたというのはそのような方法でものを考えることができる、ということである。そのためには紙の上での学習だけでなく、実験を交え経験を通して考察することが可能かつ必要である。「百聞は一"験"に如かず」である。 この授業では、いくつかの身近な～一見単純に見えながらパラドキシカルな～事象を、実験しながら自然の法則性を考え、理解を深めることを目標とする。具体的には以下のようなトピックスを計画している。 なるべく通年で履修してほしい。	1 はじめに　授業内容の説明 2 「はかる」①　はかるとは 3 「はかる」②　有効数字　単位 4 「はかる」③　精密・正確と誤差 5 「はかる」④　精密にはかる方法 6 「はかる」⑤　統計的確からしさ 7 重力と落下①　重いものと軽いもの 8 重力と落下②　重いものはなぜ速く落ちるのか 9 重力と落下③　投げたボールの軌跡 10 原子と分子①　あらゆる物は原子からできている 11 原子と分子②　見えない原子がどうして発見されたか 12 原子と分子③　生きものを作っている分子 13 生物の形①　花の形・果実の形 14 生物の形②　“瓜の蔓に茄子はならぬ”のはなぜか 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし　プリントを配布する	実験レポートで評価する

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（科学の方法と実験 b） 自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学 b）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
科学とはなんだろうか。小学校以来「理科」の授業で学んできた自然についてのいろいろな知識はどれだけ身についただろうか。科学とは私たちをとりまく自然世界についての体系的な知識であるが、同時にそれは、多様な要因が複合的に作用しあった結果として現実に生起する事象を、その絡み合った諸要因を丹念に解きほぐして本質を解明する学問の方法と言うことができよう。これは自然科学のみならず、あらゆる学問分野について言える。だから、身についたというのはそのような方法でものを考えることができる、ということである。そのためには紙の上での学習だけでなく、実験を交え経験を通して考察することが可能かつ必要である。「百聞は一"験"に如かず」である。 この授業では、いくつかの身近な～一見単純に見えながらパラドキシカルな～事象を、実験しながら自然の法則性を考え、理解を深めることを目標とする。具体的には以下のようなトピックスを計画している。 なるべく通年で履修してほしい。	1 光と色①　光とはなにか：反射と屈折 2 光と色②　スペクトル　物質の色 3 光と色③　分光器を作る 4 光と色④　花の色の変化 5 静水力学①　浮力（アルキメデスの原理） 6 静水力学②　密度・比重 7 静水力学③　浮沈子を作る　鉄船がなぜ浮くのか 8 静水力学④　トリチェリの実験、サイフォン 9 空気力学①　凧を作る 10 空気力学②　560 トンの飛行機がなぜ空を飛ぶのか 11 顕微鏡観察①　ミジンコの観察 12 顕微鏡観察②　ブラウン運動 13 電気と磁気①　ボルタ電池を作る 14 電気と磁気②　回転子を作る 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし、プリントを配布する	実験レポートで評価する

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

12 年度以前	多言語情報処理研究各論VI（コーパス言語学）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コーパス言語学とは、電子化された大規模な言語テキストの集成体であるコーパスに基づき、コンピュータを駆使して、実証的観点から言語の諸特性を観察・調査・記述・分析する研究実践の総称です。 コーパス言語学は、言語に対する新しい見方をもたらすアプローチとして言語学はもとより、テキスト分析、言語教育、自然言語処理などの関連分野に大きな影響を与えています。 本講義は受講者にコーパスを学ぶ意義を解説からスタートし、コーパスの紹介・作成の方法を展開し、さらにコーパス検索技術、頻度の処理、コーパスによる語彙分析を多面的に考察します。	1.　コーパスを学ぶ意義 2.　コーパスとは何か 3.　主要な英語コーパスと日本語コーパス 4.　コーパスの作成方法 5.　コーパスの作成演習 6.　正規表現によるコーパス検索（1） 7.　正規表現によるコーパス検索（2） 8.　コーパス検索演習 9.　英語語彙の分析実例 10.　日本語語彙の分析実例 11.　英語語法の分析実例 12.　日本語語法分析の実例 13.　コーパスと学習者の関わり 14.　総合演習 15.　授業のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
『ベーシックコーパス言語学』、石川慎一郎	演習の完成度と期末レポートを加味して評価します。

12 年度以前	卒業研究	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際教養学部では、全在学期間を通して学んだ集大成として、卒業研究を必修にしています。形式は、卒業論文や卒業制作などですが、各自、所属する演習の担当教員と相談してください。そこで指導をうけながら、卒業研究の進め方を決めていってください。	各担当教員による
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員による	各担当教員による。ただし、卒業論文の提出は必須である。

12 年度以前	卒業研究	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期参照	
テキスト、参考文献	**評価方法**

15年度	スポーツ・レクリエーション（学生交流支援プログラム） 国際教養学部指定クラス	担当者	松原　裕 依田　珠江 和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。 講義概要 　この授業用に指定クラスを編成し、各クラスが３人の教員の授業をローテーションで受講します。 　詳細は第１週のガイダンスで説明します。	１．ガイダンスと写真付受講票の作成 ２－５、６－１０、１１－１５週でローテーションの予定。 　松原担当は硬式テニス・フットサル・ソフトボール・アルティメットなどを人工芝グラウンドで行う予定。 　依田担当はボール・ラケット競技などをアリーナで行う予定。 　和田担当はコミュニケーションゲーム（アイスブレーキング）・イニシアティブゲーム・ペタンク・アウトドアクッキング又はレクリエーショナルスポーツなどを行う予定。 注意：1回目の授業は指定の教室に顔写真1枚と筆記用具を持参し、この授業用の指定クラスを確認して集合してください。更衣する必要はありません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の参加度、受講態度を総合して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的，講義概要	授業計画

テキスト，参考文献	評価方法

13 年度以降 12 年度以前	日本語 1 初級日本語	担当者	各担当教員

講義目的，講義概要	授業計画
〔授業目的と概要〕 日本語初級後半から中級前半の日本語を学ぶ。動詞の活用形としては，マス形，ル形，ナイ形，テ形，タ形の学習は終了しているレベルからスタートする。 本コースでは，初級前半の復習及び新たにバ形，意志形，敬語，受身・使役など，日本語能力試験の N3 レベル相当の文法・読解能力を習得することが目的となる。 理解語彙数は，約 2,000 語，漢字は，理解のみのものを含め 400 字程度を学習する。 本コース終了時には，基本的なコミュニケーション能力を身に付け，日常の生活に対応できるようになって欲しい。そのためには，予習・復習をきちんと行い，教室外でも積極的に日本語を使っていく態度が求められる。	14 単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。 月，火，水，木：3 コマ（1〜3 限） 金：2 コマ（1〜2 限） 詳しい授業予定は，オリエンテーションで配布する。

テキスト，参考文献	評価方法
日本語初級『大地 2』(練習問題集)，『中級へ行こう』(変更の可能性あり）漢字練習帳および単語練習帳(プリント)	チャプターテスト：50%，会話テスト：10%，期末テスト：20%，クラス参加への積極性：10%

13 年度以降 12 年度以前	日本語 2 中級日本語	担当者	各担当教員

講義目的，講義概要	授業計画
〔授業目的と概要〕 本コースでは日本語中級レベルに相当する 4 技能の総合的な能力を習得することが目的になる。そのため，読解，会話，作文，聴解の全てにわたって，密度の濃い授業が行われる。予習・復習をしっかり行い，積極的に授業に参加することが求められる。 このレベルでは，理解語彙数は，6,000 程度，理解／産出が求められる漢字数は，1,000 程度と急激に増える。特に読解文については，長文になり，構文も複雑になる。精読が基本で，本文を正確に理解するだけでなく，マクロレベルでの理解及び限られた時間内で要約する能力の育成を図る。一般的なコミュニケーション能力を身に付けることは当然ながら，プレゼンテーション，ディスカッション，レポート作成など大学生として必要な技能も学んでいく。	14 単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。 月，火，水，木：3 コマ（1〜3 限） 金：2 コマ（1〜2 限） 詳しい授業予定は，オリエンテーションで配布する。
テキスト，参考文献	**評価方法**
『ニューアプローチ中級日本語基礎編』，同練習帳，同聞き取り練習問題，『毎日の聞き取り』，単語練習帳，プレゼンテキスト，漢字リスト，その他(プリント)	チャプターテスト：50%，会話テスト：10%，プレゼンテーション：10%，作文：10%，クラス参加への積極性：10%

13 年度以降 12 年度以前	日本語 2 中級日本語	担当者	各担当教員

講義目的，講義概要	授業計画
〔授業目的と概要〕 本コースでは日本語中級レベルに相当する 4 技能の総合的な能力を習得することが目的になる。そのため，読解，会話，作文，聴解の全てにわたって，密度の濃い授業が行われる。予習・復習をしっかり行い，積極的に授業に参加することが求められる。 このレベルでは，理解語彙数は，6,000 程度，理解／産出が求められる漢字数は，1,000 程度と急激に増える。特に読解文については，長文になり，構文も複雑になる。精読が基本で，本文を正確に理解するだけでなく，マクロレベルでの理解及び限られた時間内で要約する能力の育成を図る。一般的なコミュニケーション能力を身に付けることは当然ながら，プレゼンテーション，ディスカッション，レポート作成など大学生として必要な技能も学んでいく。	14 単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。 月，火，水，木：3 コマ（1〜3 限） 金：2 コマ（1〜2 限） 詳しい授業予定は，オリエンテーションで配布する。
テキスト，参考文献	**評価方法**
『ニューアプローチ中級日本語基礎編』，同練習帳，同聞き取り練習問題，『毎日の聞き取り』，単語練習帳，プレゼンテキスト，漢字リスト，その他(プリント)	チャプターテスト：50%，会話テスト：10%，プレゼンテーション：10%，作文：10%，クラス参加への積極性：10%

13 年度以降 12 年度以前	日本語 3 上級日本語 I	担当者	各担当教員

講義目的，講義概要	授業計画
〔授業目的と概要〕 本コースでは日本語上級レベル（日本語能力試験 N2~N1 レベル）に相当する 4 技能，大学における学習・研究の基礎として役立つようなアカデミックな日本語能力を習得することが目的である。そのため，読解，会話，作文，聴解の全てにわたって，より高度な内容の授業となる。予習・復習をしっかり行うのは当然ながら，積極的に授業に参加するだけでなく，より自立的に学んで欲しい。 このレベルでは，理解語彙数は 10,000～12,000 語程度，理解／産出が求められる漢字数は 2,000 程度と急激に増える。読解文については，後半になると，様々な分野からの生教材を読む。構文・内容ともにより複雑になり，その内容を正確に理解，要約し，クラスで討論する能力を身に付けることが求められる。	14 単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。 月，火，水，木：3 コマ（1～3 限） 金：2 コマ（1～2 限） 詳しい授業予定は，オリエンテーションで配布する。
テキスト，参考文献	**評価方法**
『ニューアプローチ中上級日本語完成編』，同文法テキスト，『日本語上級読解』，『毎日の聞き取り』，『日本語上級話者への道』，その他(プリント) 5．プレゼンテーションテキスト	チャプターテスト：60%，会話テスト：15%，プレゼンテーション：10%，作文：10%，クラス参加への積極性：5%

13 年度以降 12 年度以前	日本語 3 上級日本語 I	担当者	各担当教員

講義目的，講義概要	授業計画
〔授業目的と概要〕 本コースでは日本語上級レベル（日本語能力試験 N2~N1 レベル）に相当する 4 技能，大学における学習・研究の基礎として役立つようなアカデミックな日本語能力を習得することが目的である。そのため，読解，会話，作文，聴解の全てにわたって，より高度な内容の授業となる。予習・復習をしっかり行うのは当然ながら，積極的に授業に参加するだけでなく，より自立的に学んで欲しい。 このレベルでは，理解語彙数は 10,000～12,000 語程度，理解／産出が求められる漢字数は 2,000 程度と急激に増える。読解文については，後半になると，様々な分野からの生教材を読む。構文・内容ともにより複雑になり，その内容を正確に理解，要約し，クラスで討論する能力を身に付けることが求められる。	14 単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。 月，火，水，木：3 コマ（1～3 限） 金：2 コマ（1～2 限） 詳しい授業予定は，オリエンテーションで配布する。
テキスト，参考文献	**評価方法**
『ニューアプローチ中上級日本語完成編』，同文法テキスト，『日本語上級読解』，『毎日の聞き取り』，『日本語上級話者への道』，その他(プリント)プレゼンテーションテキスト	チャプターテスト：60%，会話テスト：15%，プレゼンテーション：10%，作文：10%，クラス参加への積極性：5%

13 年度以降 12 年度以前	専門日本語 上級日本語Ⅱ	担当者	各担当教員

講義目的，講義概要	授業計画
〔授業目的〕 大学における専門科目の履修に必要とされる日本語力を養成することを目的とする。教材は，日本社会の現状について理解を深める内容を中心とした本学独自のプリント教材を使用する。4 技能の高い能力を獲得することが求められるので，予復習を十分にして授業に臨まれたい。 〔授業概要〕 1．プレゼンテーション：2 回の以上の発表を行う。 2．読解：実際の読解材料を種々の読解法で読む。 3．作文：授業内で，要約，レポート作成などを行う。 4．討論：読解内容について自分の意見を述べ確認する。 5．聴解：テレビニュースなどにより聴解力を養う。	単位数：10 単位 以下の曜日に，各 2 コマ，計 10 コマを 1 週間に履修する 月，火，水，木，金：1 限，3 限 内容にもよるが，1 トピックを大体 6〜8 コマで終了し，各トピック終了時に作文とテストを行う。 1．異文化コミュニケーション 2．日本文学 3．少子高齢化 4．起業 5．ポップカルチャー 6．国際社会 7．日本を知る 8．若者のライフスタイル 9．医療と健康 １０．情報社会 １１．就職・企業・人材 １２．食文化・食生活 １３．宗教・社会 １４．科学技術
テキスト，参考文献	**評価方法**
1．プリント（クラスで配布） 2．参考文献はクラスで紹介する	テスト：60%，作文：15%，プレゼンテーション：15%，クラス参加度：10%　で評価する。

13 年度以降 12 年度以前	専門日本語 上級日本語Ⅱ	担当者	各担当教員

講義目的，講義概要	授業計画
〔授業目的〕 大学における専門科目の履修に必要とされる日本語力を養成することを目的とする。教材は，日本社会の現状について理解を深める内容を中心とした本学独自のプリント教材を使用する。4 技能の高い能力を獲得することが求められるので，予復習を十分にして授業に臨まれたい。 〔授業概要〕 1．プレゼンテーション：2 回の以上の発表を行う。 2．読解：実際の読解材料を種々の読解法で読む。 3．作文：授業内で，要約，レポート作成などを行う。 4．討論：読解内容について自分の意見を述べ確認する。 5．聴解：テレビニュースなどにより聴解力を養う。	単位数：10 単位 以下の曜日に，各 2 コマ，計 10 コマを 1 週間に履修する 月，火，水，木，金：1 限，3 限 内容にもよるが，1 トピックを大体 6〜8 コマで終了し，各トピック終了時に作文とテストを行う。 1．異文化コミュニケーション 2．日本文学 3．少子高齢化 4．起業 5．ポップカルチャー 6．国際社会 7．日本を知る 8．若者のライフスタイル 9．医療と健康 １０．情報社会 １１．就職・企業・人材 １２．食文化・食生活 １３．宗教・社会 １４．科学技術
テキスト，参考文献	**評価方法**
1．プリント（クラスで配布） 2．参考文献はクラスで紹介する	テスト：60%，作文：15%，プレゼンテーション：15%，クラス参加度：10%　で評価する。

シラバス 言語文化学科

2015年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1825

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	